

第Ⅱ章 遺物解説

この図録でとりあげる木器は近畿地方の古代遺跡から出土した総数1,347点の木器である。それらは1984年3月までにすでに報告されているもの、および未報告ではあるが使用が許されたものから代表的な事例を選別したものであって、出土品のすべてを網羅しているわけではない。一方、柱や井戸枠あるいは杭・橋脚など建築・土木に関連する大型の木材ははぶくが、井戸枠に転用した曲物などは本来の用途にしたがって収録している。

木器は生活のあらゆる分野にわたって使用されており、その分類は必ずしも容易ではない。また、出土木器の場合、形態から用途を決定できるものとできないものがあり、分類を一層困難なものにしている。ここでは機能上の分類を中心にしながら、製作技法による分類を併用せざるをえず、つぎのような便宜的な分類を行っている。1 工具、2 農具、3 紡織具、4 運搬具、5 漁猟具、6 武器、7 服飾具、8 容器、9 食事具、10 籠編物、11 文房具、12 遊戯具、13 祭祀具、14 建築模型部材、15 雑具、16 部材、17 用途不明品。木器の名称については、民具などに用いられている一般的な名称を用いるが、一部には新たに命名したものもある。いくつかの木器について用途の比定を試みたが、当然のことながら誤認しているものもありうる。解説は、すでに報告書のあるものについては原則としてそれにしたがったが、用語を統一したり、要約したりしているので必ずしも報告書どおりではない。報告書のないものについては原稿を資料提供機関が用意し、それを編集した。木取りについてはこれまでの報告書ではほとんど図示されておらず、今回新たに再調査したものが多い。樹種については報告のあるものはそれにしたがいが、そうでないものは岡田一男（京都市埋文調査もの・兵庫県吉田南遺跡）・松田隆嗣（高槻市大蔵司遺跡・長岡京跡の一部）・山口誠治（大阪府亀井遺跡）・光谷拓実（その他全部）が新たに樹種同定を行った。なお、以下の記述で木器の年代をいう場合、原則として西暦であらわす。1世紀を細分していうときには、2分して8世紀前半・8世紀後半という場合と、3分して8世紀前葉・8世紀中葉・8世紀後葉という場合とがある。収録した木器の時代幅は、原則として7世紀から12世紀までとするが、鳥羽離宮跡をはじめとする若干の遺跡については13世紀以降のものもふくんでいる。

1 工 具 (PL. 1~3)

工具としては斧・木槌・掛矢・鋤・楔・墨壺・墨刺し・刀子・鉋・鑿・鋸・錐・刷毛・篋・木釘・飾金具形・叩板がある。多くは柄の類であり、それぞれの出土点数も多くない。斧など手にとって用いる工具については、右利きの使用者が用いるものとして、使用者側からみて前後

* 木取りは実測図断面に年輪方向を模式的に描いてあらわし、原則として解説ではふれていない。

** 中村雄三『道具と日本人』PHP研究所 1983年
成田寿一郎『木の匠』鹿島出版会 1984年

左右などの部分名称を用いることを原則とする。これは、後出の鋤などの農具の場合についても同じである。

A 斧 (0101~0105) おの

縦斧と横斧があるが、柄はいずれも木の幹と枝の股を利用し、枝から握りを幹から斧台をつくりだしたもの。^{*} 着装部の状況からすれば、すべて袋状鉄斧をとりつけたものである。また、斧台と握りを柄仕口で組合せたものはない。

0101 縦斧。握りは表皮を除く程度の加工にとどまり、外反する。斧台は基端の木口をほぼ直線にたちおとし、両側面を平滑に削る。着装部は基部よりも一段薄くして舌状に突出し、全体を朱色に塗った袋状曲刃鉄斧を装着する。全長 47.7 cm, 握り径 2.0 cm 前後, 斧台長 14.6 cm, 着装部幅 2.8 cm, 鉄斧長 7.0 cm, 同刃幅 4.0 cm。アカガシ亜属。兵庫県辻井廃寺井戸02出土。8世紀後半。水漬。姫路市教委保管。

0102 横斧の柄。全体を丁寧に削って加工。握りは基部をのこして折損する。斧台は板状に削る。着装部先端を欠損するが、斧台の下部で幅と厚みを減じており、鉄斧の着装部にあたるのであろう。なお、後面には二次的な刃痕と磨滅痕跡がある。残存長 8.7 cm, 握り径 1.9 cm, 斧台残存長 11.9 cm, 同幅 4.0 cm, 厚 1.8 cm。^{**} コナラ亜属。平城宮 6AAI 区 SD4951 出土。8世紀後葉。水漬。奈良文研保管。

0103 横斧の柄。現状では握りの基部で欠損。握りの基端はもとの枝の太さをのこすが、それ以下は細めに削る。斧台は板状に加工し、基部と着装部とに明瞭な区別がない。基部は両側から削り、基端を直截する。着装部は両側から斜めに削ってややとがらす。斧台の前面は両側を薄くして中央部を厚くするが、後面は平滑面をなす。着装部の先端に擦痕があり、袋状鉄斧に挿入したもののようなのだが、短冊状鉄斧を着装部後面に緊縛して使用することも可能。斧台長 16.5 cm, 同幅 3.2 cm, 同厚 1.4 cm。アカガシ亜属。平城宮 6ABY 区 SD1900 出土。8世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈良文研保管。

0104 横斧。握りは基部をのこして欠損するが、表皮を除く程度の加工。斧台は握りとの付根部分をもっとも幅広にのこし、上下方向にやや幅をせばめる。斧台の基端を直截し、基部の後面は丸味をもたせて削る。基部と着装部の間にとくに段差をもうけずに、袋状曲刃鉄斧を装着する。鉄斧は袋部が深く、その合せ目を台部後面にだす。斧頭全長 28.3 cm, 斧台基端幅 3.9 cm, 同厚 2.5 cm, 鉄斧長 13.5 cm, 同基部幅 5.7 cm, 同刃部幅 6.0 cm。広葉樹。兵庫県上原田遺跡 SE02 出土。8世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。兵庫県教委保管。

0105 横斧の柄。握りは表皮を除いて丁寧に削って加工し、握りの中心部から斧台へうつる基部にかけてわずかに内弯する。斧台の後面はやや粗い面をのこして削平するが、両側面は平滑に削る。着装部は前面を削りこんで薄い舌状に加工。全長 51.7 cm, 握り径 1.5 cm 前後, 斧台長 12.2 cm, 着装部長 3.4 cm, 同幅 2.4 cm, 同厚 1.2 cm。カシ。長岡京左京二条二坊六町 SD5101 出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

B 木 槌 (0106~0110) きづち

大半は頭と柄を組合せたもの。1例だが、木の股を利用した小型のものがある。大小さまざまな形をとる。

0106 組合せ式の木槌。頭は柱状の角材に面取をほどこし、断面は八角形。一側面の中央か

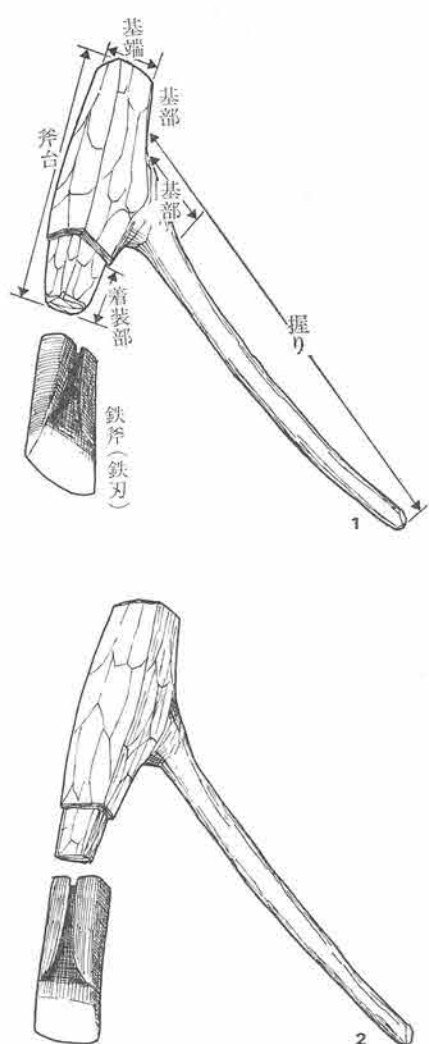


fig. 1 斧の名称 1; 縦斧 2; 横斧



fig. 2 縦斧(ヨキ) 『粉河寺縁起』

* 斧の名称については、佐原真「石斧論—横斧から縦斧へ」『考古論集—松崎寿和先生六十三歳記念論文集—』1977年 p.45~86を参照。

** 遺構を表示する記号は、SB; 建物 SD; 溝 SE; 井戸 SK; 土壇 SG; 園池 SX; その他である。

ら長方形の孔を貫通させ、柄を挿入。柄は握りを断面隅丸方形に削り、基部を断面長方形につくっている。頭の両端木口面に敲打による窪みがのこっている。全長 27.8 cm, 頭長 13.2 cm, 同径 6.1 cm。アカガシ亜属。平城京左京三条二坊十坪 SE877 出土。8 世紀後葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0107 一木作りの木槌。細い幹を頭に、分岐した小枝を柄に利用したもので、柄の下半は欠損する。頭は樹皮を取り去る程度の加工。頭長 4.1 cm, 直径 1.5 cm, 柄残存長 3.6 cm, 径 0.7 cm。ヤナギ属。平城京左京一条三坊 SD650 出土。9 世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0108 組合せ式の木槌。頭は円筒形を呈し、一側面に縦長の長方孔をあけるが、貫通しない。柄は頭に挿入する基部を断面長方形とし、握りでは角をおとし、柄端に向けてやや細くする。全長 28.4 cm, 頭長 7.9 cm, 同径 6.0 cm, 柄径 2.2×1.7 cm。樹種未同定。長岡宮 7 AN5 地区 SD3100 出土。784 年～794 年。水漬。京都府教委保管。

0109 組合せ式木槌の頭。表皮のついた円柱状を呈する。側面に柄を挿入するため方形孔をあけるが貫通していない。長 8.8 cm, 径 4.5 cm, 方形孔 1.3×1.1 cm, 同深 2.1 cm。アカガシ亜属。平城宮 6 ABO 区 SE311B 出土。9 世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0110 組合せ式木槌の頭部。現在、縦の約 3 分の 1 を欠損するが、旧状をうかがうことは可能。円筒形の側面に柄を挿入する方形の孔を貫通させる。両端木口面は平滑面をなすが、敲打痕跡はない。長 12.2 cm, 径 6.1 cm, 方形孔径 2.3 cm。シキミか。長岡京左京二条二坊六町 SD1301 出土。784 年～794 年。水漬。向日市教委保管。

C 掛 矢 (0111・0112) かけや

後述する横槌と同じ形をとるが、大型で側面に著しく敲打痕跡をとどめるものを杭などで打込む掛矢にあてた。

0111 心持丸太材の約半分を頭とし、他の半分を細く削って柄をつくる。頭部に鋭利な刃物で刻まれた細線を多くとどめる。全長 35.3 cm, 頭径 8.0×7.1 cm, 柄長 13.5 cm 同径 4.1 cm。シキミ。平城京左京一条三坊 SD650 出土。9 世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0112 心持丸太材の約半分を頭とし、他の半分細く削って断面円形の柄をつくりだす。現状では縦に割れている。柄の末端を突帯風にやや太くのこす。頭の側面には多数の刃痕があり、著しく傷つけられている。刃痕は割った面にもあり、欠損後に加工台として転用したもの。全長 33.4 cm, 頭径約 8.0 cm, 柄長 17.3 cm, 同径 3.6 cm。アカガシ亜属。平城宮 6 ABO 区 SE272B 出土。9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

D 鋺 (0113) こて

0113 壁塗用の鋺に類し、厚めの板を鋺状に加工したもの。上面の両端をのこし、中央部の両側から深く削りこんで橋形の握り柄をつくりだす。下面は長軸・短軸方向ともに曲面をなし、著しく磨滅している。民具の苗代鋺に類似品がある^{*}。長 25.8 cm, 幅 8.4 cm, 高 3.0 cm。スギ。湖西線関係遺跡 VD 区大溝出土。7 世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。

E 楔 (0114～0116) くさび

丸大の原木を割りさいたり、器物などにはめる箍などを強固にしめつけたりするときに用いる楔にあてうるもの。

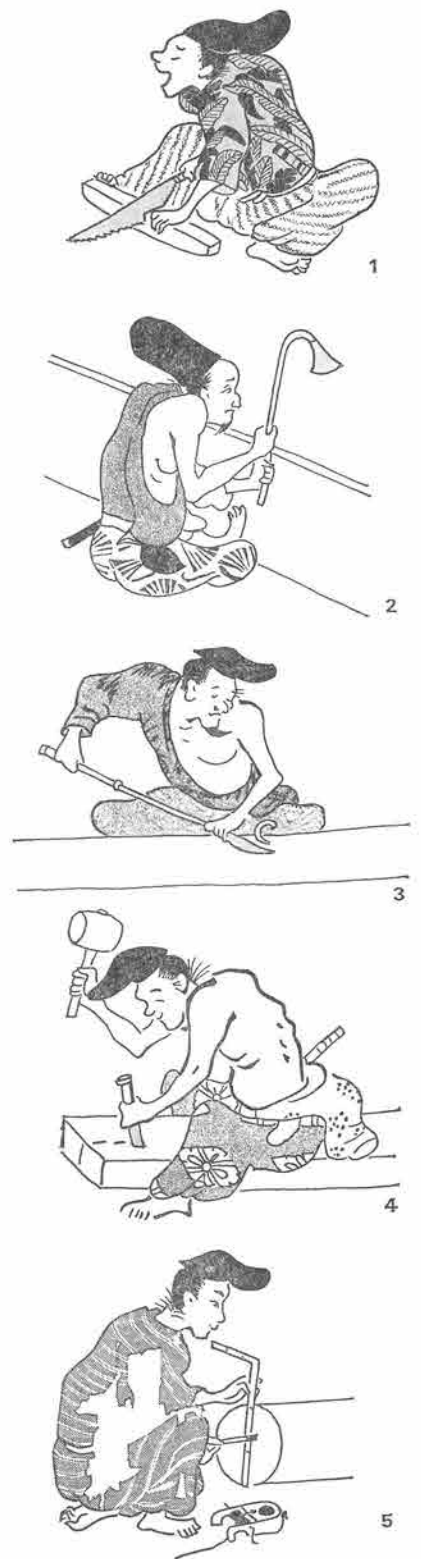


fig. 3 各種の大工道具
1: 鋸 2: 横斧(鉋) 3: 鉋 4: 鑿と木槌 5: 墨壺・墨刺し・曲尺 『春日権現験記』

* 蘭部澄・宮本常一『日本の民具』第2巻
慶友社 1965年 図版8

0114~0116 長方形の粗い割り面をとどめる木片の一端を両面から削って、斧頭状に加工する。長短大小の差はあるが、いずれも局部的な加工。刃にあたる部分や頭頂部分には顕著な使用痕跡がない。0114；長 19.9 cm，幅 5.0 cm，厚 2.0 cm。0115；長 10.6 cm，幅 3.0 cm，厚 2.3 cm。0116；長 11.5 cm，幅 4.3 cm，厚 1.3 cm。以上、ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

F 墨 壺 (0117・0118) すみつば

糸・紐などで直線をひくときに用いる墨壺。2例あるが形をことにする。正倉院の小型墨壺が裁縫用に用いられているように、必ずしも木工具に限定する必要はない。

0117 角材を削りぬいてつくる墨壺。現状では全体の約4分の1をとどめるにすぎないが、頭部を船首形に尾部を割尻形にする平面形が推測できる。頭部上面は中央部を高くし両端に向かってさがる曲面をなし、側面もまた曲面をなす。頭部上面の中央から壺孔をほりこむが、口縁部をやや直立させ、それ以下は底部の広い截頭円錐形を呈する。頭部の中心線上に前後から墨糸をとおす糸道をあけ、それぞれ壺につなぐ。なお前方の糸道には現在小枝が詰まる。頭部の両側から糸車を支える尾部を削り出すが、糸車の軸を通した軸受け孔を確認するにとどまる。軸受け孔の位置からみて糸車が径2 cm内外の小型であったことがわかる。尾部の付根部分の上面から側面にぬける小孔があるが、機能は不明。壺の内面には縦方向の鑿痕がのこり、墨が多量に付着する。全長 19.4 cm，復原幅 9.9 cm，現存高 3.6 cm，頭部長12.4 cm，壺径 3.3 ~5.1 cm。ヒノキ。平城宮6ABG区SD3715出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

0118 角材を削りぬいてつくる墨壺。尾部の一部と糸車を欠く。頭部は面取りのある方形の立方体を呈し、上面中央部から底の広い截頭円錐形の壺をほりこむ。糸道は壺の中央部をわたって水平に貫通しており、頭部前面糸口の下方に糸ずれの痕跡がある。尾部は頭部下方から蕨手状に立上がり、頭部寄りの外側面から軸受け孔をあける。軸受け孔の位置からみて径2.5 cm内外の糸車が想定できる。長 21.6 cm，幅 10.8 cm，高 9.1 cm，頭部長 13.2 cm，壺部口径 6.1 cm，同深 4.5 cm，同底径 8.0 cm。ヒノキ。兵庫県栄根遺跡河川北部出土。8世紀。P. E. G. 処理済。川西市教委保管。

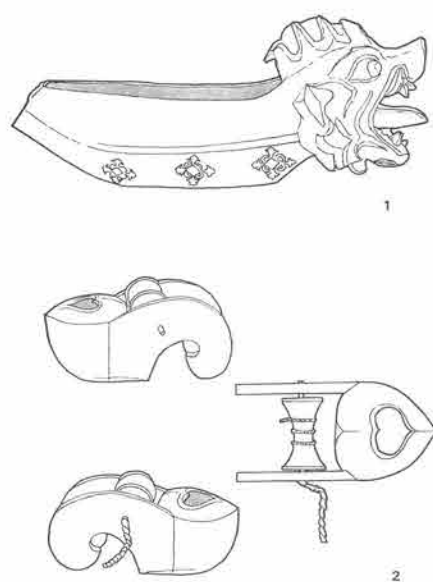


fig. 4 正倉院の墨壺

1；銀平脱龍船墨斗（正倉院事務所『正倉院の漆工』平凡社 1975年 図版376）

2；紫檀銀絵小墨斗（『正倉院残材調査報告』『書陵部紀要』29 1977年 p. 41~42）

G 墨 刺 し (0119・0120) すみさし

木片を利用した墨刺し。いずれも即成のもので、粗雑。

0119 粗割りの面をのこす小木片を墨刺しとして利用したもの。長方形の薄い木片の一端を墨付部分とし、両面から削って刃をつけ、鳥口のように刃先から切り目をいれる。刃先からの切り目は、墨がたまりやすくするためのもの。墨付部分には、現在も墨痕が付着する。なお、握りの先端は折損している。現存長9.6 cm，幅1.0，厚0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0120 粗割りの角棒の先端に両面から削って刃をつけた墨刺し。この例では墨付部分に墨痕をとどめるが、切り目はいれていない。長 19.4 cm，幅 0.9 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

H 刀 子 (0201~0218) とうす

鉄の刀身をとどめるものもあるが、多くは柄だけがのこる。柄は白木のものがすべてであ

り、漆塗りのものは出土していない。側面形によって3型式に大別できる。Ⅰ型式は柄の中央部分で刀背方向に曲折するもの、Ⅱ型式は棒状の柄の中央から柄頭寄りを刃側から斜めにそぎ落して柄頭を細くするもの、Ⅲ型式は柄元から柄頭まで直線の丸棒状に加工するものである。それぞれ精製・粗製のものがあるが、精製品は概してⅠ型式にぞくし、^{はばき} 鉤をとまなうのもこの型式である。刀子には書刀として木簡などを削るものと工作用のものとの区別があるが、遺物によって両者を識別することはできない。ただし、Ⅰ型式刀子は正倉院の伝世品に類似しており、官人が携帯する書刀にあててもさしつかえない。

0201 鉄の刀身をとどめるが柄頭が欠損している。刀身は平造りで刃部が鋭利で、かつよく使いこんでいる。茎は身とほぼ同じ長さで、上辺は身の刀背と直接につながり、刃の側を一段おとして関とする。柄の断面は楕円形を呈し、柄元木口の周囲に銅製の鉤を着装する。Ⅰ型式柄か。現存長 13.3 cm、刀身長 6.5 cm、同最大幅 0.8 cm、同厚 0.25 cm、茎長 6.2 cm、同径 0.7×0.3 cm、柄径 1.8×1.2 cm。ヒノキ。平城宮6ABQ区SD3765出土。8世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0202 精製のⅠ型式刀子柄。鉄の刀身を欠くが茎が柄中にのこる。柄元付近の断面は長方形に近く、中央部から柄頭にかけては楕円形に近い。長 16.6 cm、幅 1.9~1.5 cm、厚 1.1~1.3 cm。広葉樹。平城宮6AAH区SD3410出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0203 粗製のⅠ型式刀子柄。全体に整形が粗く、柄元の断面は楕円形を呈し、柄頭の断面は菱形。茎孔が浅く、未成品の可能性がある。長 14.5 cm、幅 1.4~1.2 cm、厚 1.0 cm、茎孔長 2.6 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0204 精製のⅠ型式刀子柄。全面を丁寧に削って整形するが、断面は長方形に近い。茎を焼込んで柄に装着し、茎孔が焼焦げ先端が外側面に露出している。長 13.6 cm、幅 2.0~1.8 cm、厚 1.2 cm、茎径(柄元)0.9×0.5 cm、同長 7.8 cm。広葉樹。平城宮6AAI区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

0205 Ⅰ型式刀子柄。刀身の一部がのこる。全体に腐蝕が進行し、細部の整形は不明。刀身は基部で欠損するが、平造りであったことがわかる。X線写真によって茎が柄の半分程度の長さであることが判明している。柄の断面は楕円形を呈し、鉤を着装したことをしめす段と鑄がのこる。柄頭部を細くして一孔をあけるのは、紐を通すためのもの。現存長 14.9 cm、柄長 13.5 cm、同径 1.6×1.3 cm、茎長 7.1 cm。広葉樹。平城京 右京八条一坊十一坪 SD920出土。8世紀後葉~9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

0206 粗製のⅠ型式刀子柄。柄元に一段の切欠きをめぐらし、鉤をつけたことがわかる。柄元付近の断面は台形で、柄頭付近では隅欠きの長方形を呈する。茎孔は幅広く、全長の半分以上におよぶ。長 13.1 cm、幅 2.2~1.9 cm、厚 1.3~1.05 cm、茎孔長 7.9 cm、同短径 0.5 cm。樹種未同定。平城宮6AAI区SD4100A出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

0207 精製のⅠ型式刀子柄。腐蝕が進み柄頭を欠損している。X線写真によって茎を確認し、柄元部分に木口から鉤をはめこんだ状況がうかがえる。柄元付近の断面は楕円形だが、中程からは卵形になる。現存長 10.8 cm、幅 1.7~1.4 cm、厚 1.1~0.9 cm。広葉樹。平城京右京八条一坊十一坪SD920出土。8世紀後葉~9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

0208 精製のⅠ型式刀子柄。柄元部分が欠損している。柄頭付近に「四文」の針書きがあり、この刀子の値段を記したようである。現存長 10.2 cm、幅 1.3 cm、茎孔径 0.5×0.2 cm。カキか。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

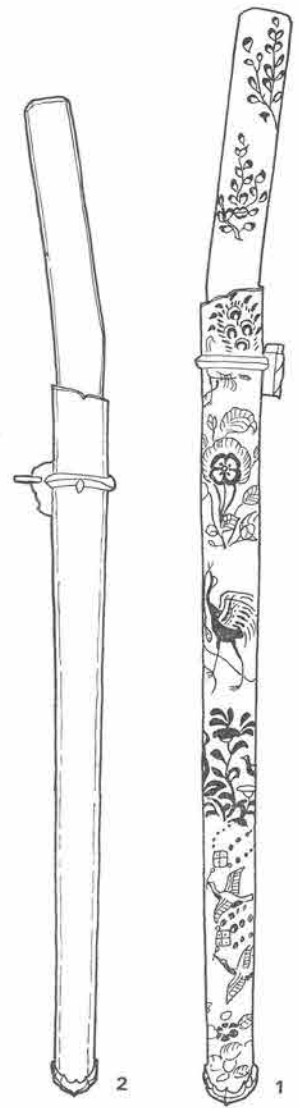


fig. 5 正倉院の刀子
1: 緑牙撥把鞘刀子 2: 金銅荘刀子 (奈良国立博物館
『昭和58年度正倉院展』
1983年 図版43・44)

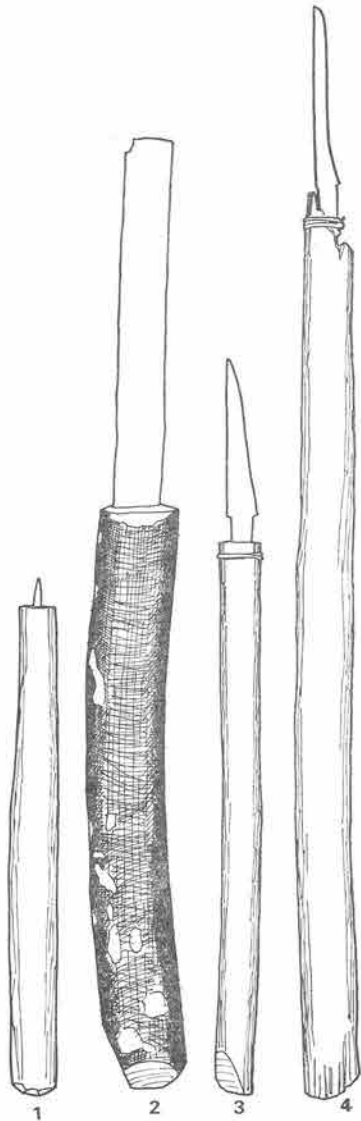


fig. 6 正倉院の工具(1)

1; 錐 2; 鋸 3・4; 刀子 (正倉院事務所『正倉院の木工』日本経済新聞社 1978年 図版177)

0209 精製のⅡ型式刀子柄。断面楕円形の棒状を呈し、中程から柄頭にかけての刃側を浅く削込み、柄頭をわずかに細くする。茎孔の断面はやや胴張りのある台形を呈し、短辺のほうは刃側になるようである。長 14.2 cm, 径 1.3×1.1 cm, 茎孔長 4.3 cm, 同径 0.5×0.25 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。奈文研保管。

0210 粗製のⅡ型式刀子柄。柄頭を欠損。茎孔を焼込んだ痕跡がある。柄の断面は隅欠きの長方形を呈し、粗く削って整形する。茎孔は柄元部分で断面三角形だが、下部では四角形。柄頭付近に紐孔をあけた痕跡がある。現存長 15.9 cm, 茎孔長 7.8 cm, 同径(柄元)0.9×0.32 cm。広葉樹。平城京右京五条四坊三坪SE20出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

0211 Ⅲ型式刀子柄。断面は円形で、柄元木口から茎孔をあける。茎孔が他に比べて浅いことから、他の工具柄の可能性もある。長 16.4 cm, 径 1.4 cm, 茎孔長 2.3 cm。広葉樹。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

0212 Ⅲ型式刀子柄。棒材の木口から茎孔をあける。茎孔は刀身の関をいれるためか、柄元部分の幅をひろげている。長 11.5 cm, 径 1.2×0.9 cm, 茎孔幅 0.4 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

0213 Ⅲ型式刀子柄。断面が楕円形の柄で柄頭の刃側をそぎおとしている。刀身の基部が残存している。全長 15.5 cm, 柄長 14.1 cm, 径 1.6×1.1 cm, 茎孔幅 1.1 cm。針葉樹。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

0214 I型式刀子柄か。平造りの鉄刀身はよく使いこんでいる。柄の断面は卵形を呈し柄頭を欠いている。現存長 15.7 cm, 刀身長 7.8 cm, 柄径 2.0×1.1 cm。カシカ。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。

0215 Ⅲ型式刀子柄の刀子か。鉄刀身はほぼ完形であるが、柄は腐蝕が著しく柄頭が二次的に切断された模様。全長 23.0 cm, 柄長 11.6 cm, 径 2.0×1.3 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784～794年。P. E. G. 処理済。向日市教委保管。

0216 樹皮のついた心持丸材を利用したI型式刀子柄。中程から柄元にかけて削込みやや細くするが、柄頭にはなお樹皮がのこる。長 11.2 cm, 径 1.8 cm, 茎孔径 0.7×0.2 cm, 同長 7.6 cm。広葉樹。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0217・0218 樹皮のついた心持丸材を利用したⅢ型式刀子柄。ともに鉄刀身をぬきとったために柄元が二次的に損傷する。0217; 長12.1 cm, 径1.71×1.2 cm, 茎孔径0.5×0.4 cm。同長 5.2 cm。広葉樹。0218; 長 13.3 cm, 径 1.9×2.1 cm, 茎孔径 0.6×0.2 cm。同長 6.7 cm。広葉樹。以上、平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

I 刀子鞘 (0219) どうすのさや

0219 内面をくりぬいた断面が弧形の板をあわせ、蔓の皮を細紐状に編みつけて固く締めあげたもの。鞘とする積極的な根拠はないが、柄としては茎孔が広すぎるので鞘に比定したまでである。長 10.1 cm, 幅 2.2 cm, 厚(復原)1 cm 内外。ヒノキ。長岡京 左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

J 鉈 柄 (0220) やりがんなのえ

0220 鉈の鉄身はしばしば発見されるが、柄をつけた状態の鉈は発見されていない。表皮をつけたままの心持丸木の一端を、対応する2面から削込み柄元をつくる。この際、一方を深く

他方を浅くして茎孔を柄軸の片方に寄せている。茎孔は焼込みで、断面は長方形。柄元の削込みに平行して刃をつけたらしい。柄頭は丸木の周囲にV字状の溝をいれて折り離したままである。表面は全体に磨耗し、剥離が著しい。茎孔と柄の形状から鉈の柄にあてた。長 18.3 cm, 径 2.4 cm, 茎孔径 0.7×0.3 cm。同長 5.5 cm。広葉樹。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

K 鑿 柄 (0221~0225) のみのえ

太目の心持丸木を柱状に切断し、一方の木口から断面が方形ないしはそれに準じる茎を焼込んで挿入した痕跡をとどめるものを鑿の柄にあてた。

0221 側面を丁寧に削って整形。いまは縦方向に割れた半分をとどめる。柄元には若干の磨減痕があるが柄頭の木口面に敲打の痕跡はない。長 10.1 cm, 径 4.1 cm, 茎孔径一辺0.6 cm。ツバキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0222 心持丸木の表皮を削った程度の粗い加工にとどまり、柄頭に蔓を巻きつけてひび割れを防止している。長14.9 cm, 径 3.2 cm, 茎孔 0.8×0.7 cm。ツバキ。平城宮 6AAG区SD3410出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

0223 柄の中程から柄元にかけて周囲を削込んで細くし、柄頭も同様に稜をおとして丸味をつける。柄頭から中程までの大い部分は樹皮を除く程度の加工にとどまる。表面は火をうけて部分的に炭化している。茎孔の断面は長方形を呈し、柄軸に対して平行せず、やや角度をつけている。長 12.3 cm, 径 4.2×3.1 cm, 茎孔径 0.6×0.3 cm。広葉樹。平城宮 6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0224 皮つきの丸材の両端をたちおとした加工にとどまる。いま縦に割れ全体の約3分の1程度をとどめ、割面に茎孔の痕跡がみとめられる。さきの報告では刀子柄にあてたが、茎孔の断面を方形にかんがえたほうがよく、また刀子柄としては太すぎるのであらためた。長 21.5 cm, 径 5.0 cm, 茎孔径 1.4 cm。アカガシ亜属。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0225 割材からつくる角棒状の柄。一方の木口から茎孔をあける。茎孔が長方形を呈していることからとりあえず鑿柄にあてた。長 18.1 cm, 径 2.7×2.0 cm, 茎孔径 1.2×0.7 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。

L 鋸 柄 (0226・0227) のこぎりのえ

扁平な木柄の一木口から扁平な茎孔をあけたのがあり、鋸の柄にあてた。^{*}

0226 割材からつくる扁平な木柄で、いま縦半分をとどめるにすぎない。断面は稜をおとした隅丸長方形を呈する。柄頭に突起をつくりだすがさほど明瞭ではない。扁平な茎を柄軸と平行に焼込みで挿入したらしく、茎孔が柄頭にまでおよんでいる。長 16.1 cm, 幅 3.9 cm, 現存厚1.2 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0227 割材からつくる扁平な木柄で、断面は楕円形を呈し、中程から柄頭にかけての一短側面を削込んで柄頭の幅を縮めている。焼込みで茎をいれたらしい三角形の茎孔をとどめている。長 17.2 cm, 径 3.3×1.7 cm, 茎孔 2.9×0.6 cm, 同長 6.1 cm。ヒノキ。平城宮6ALR区SD9649出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

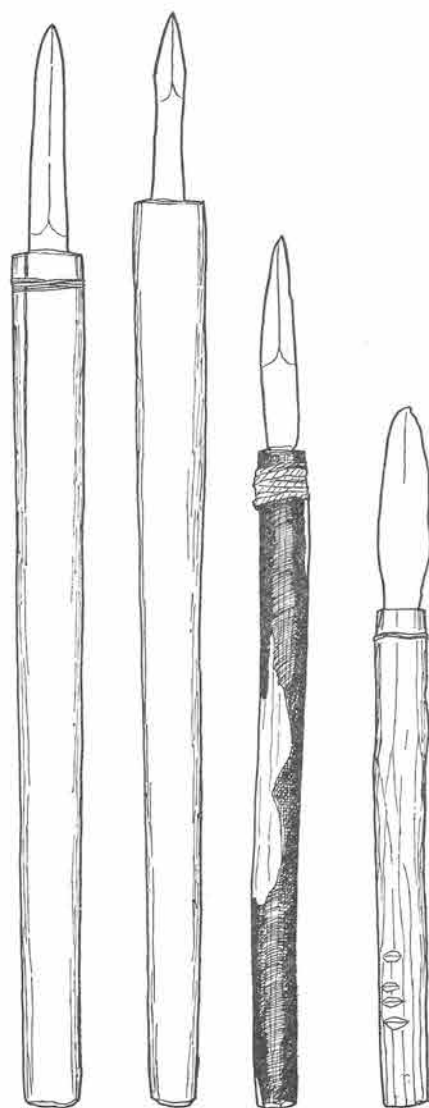


fig. 7 正倉院の工具(2)
鉈各種 (前掲『正倉院の木工』図版177)

* 吉川金次『鋸』法政大学出版局 1976年

M 錐 (0228~0234) きり

丸棒状の木柄に錐身を挿入したもので、鉄の刃先をとどめるものもある。

0228 心持丸材を利用した螺^{ねじ}子錐。鉄の錐身は断面を方形にし、柄元からみて右に3~4回転のねじれがある。柄頭は欠損。現存長 22.2 cm, 柄径 1.3 cm, 錐身長 5.2 cm, 同径 0.4 cm。トネリコ。平城宮 6ABO区SE272B 出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0229 心持丸棒の柄に四ツ目の錐身がのこる。柄頭は欠損している。現存長 20.3 cm, 柄径 1.1 cm, 錐身長 7.3 cm。トネリコ。平城宮 6ABO区SE311A 出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0230 割材の丸棒の柄に鉄の錐身がわずかにのこる。柄は柄元付近では6~7角形の断面にととのえているが、中程から上下にかけて使用によって磨耗し断面が円形に近くなっている。木柄は完形だが、鉄の錐身は断面方形の基部をとどめるにすぎない。現存長 14.1 cm, 柄径 1.1 cm, 錐身現存長(茎をふくむ) 3.9 cm, 同径 0.36×0.33 cm。カヤ。平城京右京八条一坊十一坪SD920出土。8世紀後葉~9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

0231 割材からつくる丸棒状の柄。柄元に貴金具を着装した刳込みがある。菱形の茎孔をとどめ、茎を焼込んで挿入した痕跡がある。報告では刀子柄にあてたが改める。長 12.6 cm, 径 1.7×1.2 cm, 茎孔径約 0.5 cm, 同長 10.3 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0232 割材でつくる角棒状の柄。柄元に刳込みをめぐらし、縦割れが生じたため紐などで緊縛したようである。柄元付近から柄頭にかけては稜を削って丸味をもたせる。茎孔は長方形を呈し、焼込みの痕跡がある。長 17.7 cm, 径 1.5×1.2 cm, 茎孔径 0.5×0.8 cm。同長 2.5 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0233 割材でつくる丸棒状の柄。両端の木口から断面方形の茎孔をあける。上下で錐身の形を違えたのであろうか。長 13.7 cm, 径 2.2 cm, 上方茎孔径 0.6 cm, 同長 6.4 cm, 下方茎孔径 0.5 cm, 同長 5.1 cm。ヒノキ。平城宮 6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

0234 割材でつくる丸棒状の柄。両端の木口は鋸で直截している。茎を焼込みで挿入した不整方形の茎孔をとどめる。長 29.6 cm, 径 1.2~1.0 cm, 茎孔径 0.3 cm, 同長 2.7 cm。ヒノキ。平城宮 6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

N 刷毛 (0301~0307・0336) はけ

柄の先に毛を植えつけた刷毛に想定しうるもの。扁平な板状の柄元に割目をいれて毛をはさんだ平刷毛の柄と、棒の先端に毛をたばねたらしい丸刷毛の柄とがある。漆が付着するものがあり、漆塗りに使ったことがわかるものもある。

0301 板材から握りを細くし柄元を幅広にした扁平な柄をつくり、柄元付近の両側にV字形の切欠きをいれる。柄元の端は二次的に切断されている。現存長 12.2 cm, 幅 2.2~0.7 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮 6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

0302 板材からつくる握りの細い柄。柄元には両側から上下二段の切欠きをいれ、紐などで緊縛したようだが、その押圧痕跡はない。柄元の木口面中央で長辺に平行する割目をいれ、この割目が柄元の中程までおよんでいる。現存長 15.5 cm, 幅 2.5~1.3 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮 6ALG区SD5785出土。8世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0303 板材からつくる握りの細い柄。幅広の柄元に糸でしばった状況をとどめる。柄元の木口から長辺に平行する割目をいれ、わずかに毛がのこっている。柄元に漆が付着しており、漆塗りの刷毛であることがわかる。現存長 15.7 cm, 幅 1.3~0.6 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

0304 扁平な細板の一端に割目をいれ、毛をうえる。全体に丁寧な削り整形をくわえ、握りは幅・厚さとも次第に減じ、篋状につくる。柄元の木口から毛をうえる割目をいれる。毛は脱落。柄元の両側に浅い切欠きをいれ糸を巻いて固定。糸は2本の原体を撚り合わせる。糸巻きの付近に漆が付着している。長 19.3 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.8 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0305 角棒状の小木片を加工したもの。握りの半分は断面菱形にととのえ、のこりは粗削りのままの状態。柄元に細めの舌状突起をつくり、2条の刳込みをめぐらす。突起に毛をたばねて丸刷毛にしたものか。長 11.8 cm, 幅 1.0 cm, 厚 0.7 cm。突起長 0.5 cm, 同幅 0.5 cm。樹種未同定。平城宮6AAB区SK820出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0306 角棒の一端を細く削りだしたもの。握りは粗い多面体に削り、柄頭を細くする。柄元に芯のような突起をつくりだしており、ここに毛をたばねて丸刷毛として用いたものであろう。長 21.5 cm, 径 0.9 cm, 突起長 2.5 cm。ヒノキ。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0307 板片を撥形に整形したもの。幅広の身を薄くし、櫛歯のような割目を無数にいれている。後述の篋と同じ形をとるが、刷毛の一種にあてておく。現存長 10.8 cm, 幅 3.0~0.7 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

0336 板の一端を幅広にのこして身とし、他端に細い握りをつくりだす。身の一面に方形の刳込みをいれ、ここに毛をならべて揃え、その上から別の板で蓋する。つまり、必要に応じて刷毛の長さが調節できるのである。漆が付着している。長 16.9 cm, 幅 3.1~0.7 cm, 厚 0.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAD区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

○ 篋 (0308~0313) へ ら

板片を撥形に整形し幅広の先縁に片刃状の刃をつけたもの。漆の付着するものがあり、漆塗用の篋であったことがわかる。なお、食事具の匙にあてたもののうちに、同形のものがある。

0308~0313 0308を除く5点は漆入りの壺とともに発見された一括品であり、漆塗用の篋であることは間違いない。0308~0311 は身を幅広くし、握りとの境がはっきりしているが、0312・0313は身と握りの境がはっきりしない。いずれも漆が多量に付着している。0308; 現存長 9.8 cm, 幅 2.1~0.9 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD4100A出土。8世紀中葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。0309; 長 12.1 cm, 幅 2.3~0.3 cm, 厚 0.3 cm。0310; 現存長 11.2 cm, 幅 2.1~0.9 cm, 厚 0.7 cm。0311; 現存長 21.7 cm, 幅 3.0~0.8 cm, 厚 0.4 cm。0312; 現存長 16.4 cm, 幅 2.9~1.4 cm, 厚 0.6 cm。0313; 長 24.1 cm, 幅 1.0~0.55 cm, 厚 0.7 cm。以上、ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪 SD1155 出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

P 木 釘 (0314~0326) きくぎ

割材を整形して古代の鉄釘の形につくる木製品である。必ずしも釘にあてる確証はないが、

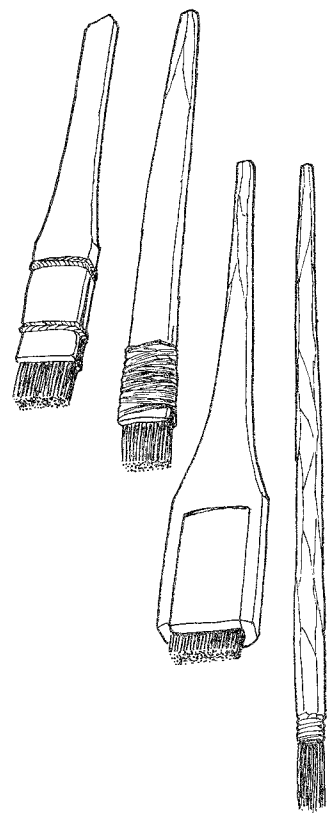


fig. 8 刷毛の復原

一応この部類にいておく。

0314~0321 難波宮橋脚 MP-1区SK10043 から発見された一括品。頭の形状によって a・b の2類にわけられている。0314~0319・0321 は頭と軸との境がゆるやかなカーブを描く a 類で、0320は頭と軸との境が段をなすb類である。a 類はいずれもヒノキを用い、全長約 16~17 cm の大型品 (a-1 類) と全長約 11~12 cm の小型品 (a-2 類) に区別されている。b 類は 1 例にとどまるがスギを用いる。0314; 現存長 16.6 cm, 頭径 1.9×1.4cm。0315; 長 15.6 cm, 頭径 1.4×1.2 cm。0316; 現存長 15.3 cm, 頭径 1.9×1.1cm。0317; 現存長 15.6 cm, 頭径 1.6×1.6 cm。0318; 現存長 14.2 cm, 頭径 1.7×1.5 cm。0319; 現存長10.7 cm, 頭径 1.4×1.5 cm。0320; 現存長 8.5 cm, 頭径 1.65×1.2 cm。0321; 現存長 9.4 cm, 頭径 1.3×1.2 cm。7 世紀中葉。水漬。大阪市文化財協会保管。

0322・0323 とともに角棒の一端をとがらせて釘形にととのえる。0322 はとくに頭をつくらないが、0323は頭部をのこして側面周囲をゆるく曲面をつけて削る。報告では鉄釘をつくるときの雛形としてあつかう。0322; 長12.5 cm, 頭径0.5 cm。0323; 長10.4 cm, 頭径0.7cm。以上、樹種未同定。平城宮6ADF区SK1979出土。8 世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0324 板片から角柱状の軸と側面が楕円形の大きな頭をつくる。さきの諸例と形がことなる。現存長 6.6 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794 年。水漬。向日市教委保管。

0325・0326 軸を丸棒状につくり、頭と軸との間に段をもうける。0325; 長 16.8 cm, 頭径 0.9×0.6 cm, スギ。京都府鳥羽離宮ND84-3-L-11SX07 出土。0326; 長 16.6 cm, 頭径 1.1×0.9 cm。スギ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43落込み出土。以上、12世紀~13 世紀。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

Q 木 針 (0327~0331) きばり

薦編みや藁仕事などに用いた木針である。丸棒状のものと扁平なものとの区別がある。

0327 丸棒状の木針。頭部に針耳をあげずに側面から切欠きをいれている。全体に反りがみられる。現存長12.8 cm, 径0.9 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0328~0331 小板片の一端をとがらして扁平に整形し頭部に針耳をあげる。針耳はいずれも刃物の先をよじってあげる。精粗の別がある。0328; 長10.9 cm, 幅1.05 cm, 厚 0.22 cm。ヒノキ。平城宮 6ALF区SD5780 出土。8 世紀。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。0329; 長 14.4 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.29 cm。樹種未同定。平城宮6AAO区SK2101出土。750 年頃。真空凍結乾燥処理済。0330; 長 13.2 cm, 幅 0.9 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820 出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。0331; 長 17.05 cm, 幅 1.3 cm, 厚0.4 cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。8 世紀前葉。水漬。以上、奈文研保管。

R 座金形・鋇形木器 (0332・0333) ざがねがた・びょうがたもつき

木釘に準じてとりあえず工具にいておく。ともに金属品を模倣したものであり、報告では金属を製作するための雛形とみるが、実用に耐えないことはない。

0332 薄い円板を削って六花形につくり、中央に円孔をあけ、一弁おきに3 個の針孔をあける。表裏とも割り面をとどめているが、周縁部は入念に面取りしている。径 4.3cm, 厚 0.2

cm。ヒノキ。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0333 縦木取りで笠形の頭部をつくりだした鋤をかたどるが、方柱形の脚部は欠損している。頭径 3.6×3.3 cm, 現存高 1.8 cm。ヒノキ。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

S 叩 板 (0334・0335) たたきいた

板状の身に棒状の柄をつくりだしたもの。用途をきめがたいが、何ものかを叩く道具として工具のなかにいれておく。

0334 楕円形の身に断面が方形を呈する柄をつくりだす。身の片面は平坦であるが、他面には中央が窪む使用痕跡がみとめられる。長 20.6 cm, 身現存幅 9.0 cm, 同厚 1.2 cm, 柄長 9 cm, 同径 1.9×1.5 cm。ヒノキ。和歌山県野田地区遺跡SD06出土。9世紀後葉～10世紀前半。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。

0335 長方形の身に断面が方形に近い柄をつくりだす。身の先端と肩には鋸で切断した痕跡がある。叩いた痕跡がみとめられず、表裏両面に刃物痕跡を無数にとどめているので、作業台か組として使った可能性もある。長 29.9 cm, 身幅 10.6 cm, 同厚 1.4 cm, 柄長 13.6 cm, 同径 3.5×2.8 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SD5780出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

2 農 具 (PL. 4～8)

農具のなかには土木用工具をふくむであろうが、両者を区分することはできない。耕具として鋤・鍬・えぶり・馬鍬・田下駄, 収穫具として鎌, 加工具として横槌・唐臼の杵・竪杵・木錘がある。ほかに箕があるが、これは籠編物(PL. 41)にいた。

A 鋤 (0401～0403・0501～0506) す き

古代の鋤の出土例は弥生・古墳時代にくらべて少ない。一木で身と柄をつくる一木鋤と別木でつくる組合せ鋤とに大別できるのは古墳時代と同じ。一木の鋤では、身の肩部を左右を突出させ、それ以下の幅を狭めて縁を刃先状に薄くし、U字形の鉄鋤先をはめる着装部をつくりだす。これに対し、組合せ鋤には鉄鋤先を着装した痕跡はない。別木でつくる柄に想定されるものが各地で発見されている。耕作過程で両者を使いわけているのであろうか。

0401 一木鋤の未成品。身は長方形につくり後面がわずかに反りあがる。身の後面の肩部から中心にかけてT字状に厚くのこして、柄につづける。柄の握りはまだ粗削りの状態。把手はまだ孔をあけず、柄端と握りとの付根を厚くのこしている。全長 130 cm, 身長 41.6 cm, 同幅 16.0 cm, 同厚 3.2 cm, 柄長 70.4 cm, 同径 3.8 cm, 把手長 26.4 cm, 同幅 12.0～8.4 cm, 同厚 8.4～4.8 cm。カシ。藤原宮6AJL区SE1105出土。694年～709年。水漬。奈文研保管。

0402 一木鋤。身の肩部を左右を突出させ、以下を一段削込んで着装部をつくる。着装部の縁は両面から斜めに削込んで刃先状にととのえ、鉄の鋤先をつけたことをしめす。身の後面は平坦だが、前面は先端に向けてやや薄く削込む。柄は身から水平にのび、握りを丸棒状とし、把手を半環状につくる。身の両面、握り、把手は使用によって著しく磨滅。全長 90.4 cm, 身長 27.7 cm, 同幅 18.2 cm, 同厚 3.1～1.2 cm, 着装部長 20.7 cm, 同最大幅 18.5 cm, 握り長 46.5 cm, 同径 3.3×3.0 cm。アカガシ亜属。平城宮6ABE区SD3765出土。8世紀前葉。P. E.

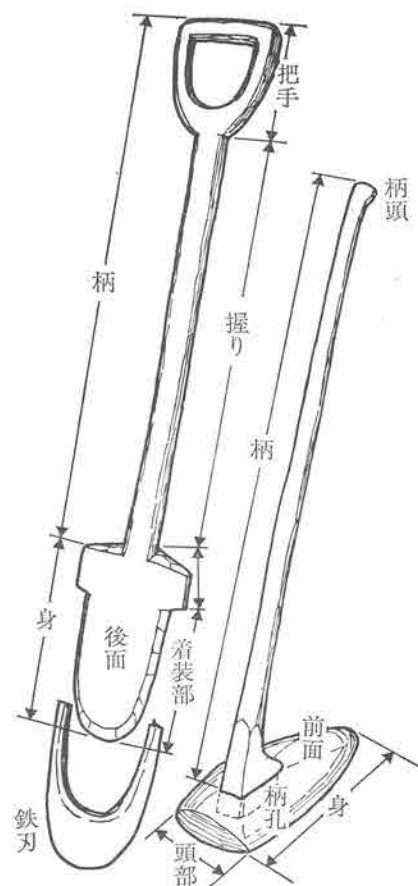


fig. 9 鋤と鍬の名称

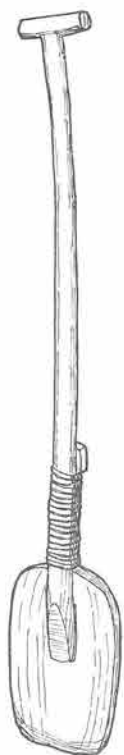


fig. 10 組合せ鋤の復原

G. 処理済。奈文研保管。

0403 一木鋤。身の後面は平坦だが、前面は中央に鑄をとす。身の下部約3分の1が着装部。肩部は鋤の柄軸に直交するが、使用者からみた左肩がやや低い。柄の握りの断面は方形に近く、把手は長方形に近い形をとり把手孔をあけていない。未成品の可能性はある。全長94.5 cm, 身長 37.5 cm, 同幅 17.7 cm, 同厚 2.9 cm, 着装部長 15.5 cm, 同幅 12.9 cm, 握り長 45.7 cm, 同径 3.2×2.3 cm。アカガシ亜属。兵庫県山垣遺跡東堀出土。8世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。

0501 一木鋤だが、柄の付根付近で二次的に切断。身の後面の肩部から中心にかけてT字状に厚くのこし、柄につづける。肩部上面は使用者からみた左肩が若干さがる。現存長33.1 cm, 身部長 24.0 cm, 同幅 19.2 cm, 同厚 3.0 cm, 着装部長 15.3 cm, 同幅 15.3 cm, 握り径 3.3×2.9 cm。カシ。難波宮下層方形土壇出土。7世紀中葉。水漬。大阪市文化財協会保管。

0502 組合せ鋤の身の破片。肩部と先の一部を欠く。身は薄くて長い舌状にかたどり、縁を薄くし、中央に縦長の長方形孔をあける。長方形孔は別木の柄を装着する柄孔。現存長 33.2 cm, 幅 14.4 cm, 厚 1.1 cm, 長方形孔 7.9×2.7 cm。カシ属。京都府大藪遺跡 ND83-4-F-11 流路出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

0503・0504 とともに組合せ鋤の身。0503 の身は下部の平面が逆三角形に近い。刃部の両側の上部からコ字形の削形をいれて幅を狭める肩部と、肩部の中心から上方にのびる柄受け棒からなる。刃部は縁を薄くし、よく磨滅している。肩部は左右に下がり、両端がわずかに突出する。両側の削形を結ぶ身の中央に長方形の柄孔を斜めにあけ、身の後面に対して30度の角度を保つ。柄受け棒は肩部の中心からのび、後面は平坦面をなし、2個所に縦長の長方形の柄穴がある。柄を固定させるためのものか。前面は両側の稜をおとし、頭に突帯を削りだす。全長 30.9 cm, 身長 16.9 cm, 同現存幅 13.6 cm, 同厚 1.6 cm, 柄孔 5.1×3.0 cm, 柄受け棒長13.7 cm, 同幅 4.1 cm, 同厚 1.15 cm。0504 は平面形が隅丸長方形の身に柄受け棒をつくる。身の後面は凹面をなし、両側縁が高く、その中央上寄りに後面に対して約30度角をもつ方形の柄孔をあける。肩部は左右に弧を描いて下降する。柄受け棒は肩部の中心から上方にのび、方柱状にかたどり、その前面の頭に突帯をつくりだす。全長 29.6 cm, 身長 17.6 cm, 同幅 14.5 cm, 同厚 1.4 cm, 柄孔 4.3×2.6 cm, 柄受け棒長 12.0 cm, 同径 2.0×1.9 cm。以上、樹種未同定。大阪府挾山遺跡SD7710出土。8世紀前半。アルコール・エーテル法処理済。泉北考古資料館保管。

0505 組合せ鋤の柄。心持丸木材。一端を折損するが、残存の端部では一面から削込んで平坦面となし、他面に突帯を削りのこす。平坦面を鋤の着柄軸にあて紐などを巻いて鋤身に固定したものとかんがえ、組合せ鋤の柄に想定した。現存長 30.5 cm, 径 2.4 cm。ヒノキ。滋賀県下寺観音堂遺跡SD02出土。7世紀後半～8世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

0506 組合せ鋤の柄。心持丸木材。一端を折損。先端の一面に突起をのこし、上方部に反りをもたす。突起のある面の上部はもとの木肌面をのこすが、それ以外の面は粗い削りで整形。0505と同じ理由から柄に想定した。現存長36.5 cm, 径3.5×3.3 cm。シデ類。和歌山県野田地区遺跡SD04出土。11世紀中葉。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。



fig. 11 鋤と鍬 【石山寺縁起】

B 鍬 (0507) くわ

鍬の出土例も少ない。大阪府上田部遺跡からは鍬の柄に想定しうるものが出土している。鋤

の形態が古墳時代のものを踏襲していることからすれば、鍬類の形態も想像可能であるが、0507の例は中世の形態をとっており、その初現の時期が何時にあるかが問題となる。

0507 割板材からつくる鍬の身。平面形を半楕円形にかたどり、中央を厚く縁を薄くする。頭部上端面は弧面をなし、使用者側からみて右側にやや傾く。中央上寄りに平面形が台形の柄孔をあけ、前面に対して70度の着柄角度をもつ。柄孔の幅は前面より後面のほうが広く、後面から柄を挿入する。長 19.1 cm、幅 13.6 cm、厚 3.6 cm、柄孔長 4.7 cm、同上辺 2.5 cm、同下辺 4.8 cm。アカガシ垂属。京都府定山遺跡DL51区出土。12世紀。水漬。京都府教委保管。

C え ぶ り (0508)

0508 水田を平らにならしたり、穀物の乾燥時に平坦にならすえぶり。身を割板材からつくる。一直線の下縁に山形の歯をつくりだし、両肩に丸味をつける。中央上寄りに横長の柄孔をあけ、前面に対して70度の着柄角度となる。歯は両面からの切込みによってつくりだし、歯先がかなり磨耗している。長 42.7 cm、幅 12.8 cm、厚 1.6 cm、柄孔 13.0×6.9 cm。アカガシ垂属。兵庫県山垣遺跡東堀出土。8世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。

D 馬 鍬 (0601~0603) まぐわ

耕起した水田の土をくだくのが馬鍬。角材の台木に歯をうえ、柄と引棒をとりつける。牛に引かせて使用するのであろうが、いまのところ引棒は発見されていない。

0601・0602 0601は台木上面と両側面を平坦に削り、下面には両端から浅い刳形をいれる。上下に貫通する方形孔 10 孔をほぼ等間隔にあけ、歯をうえる。両端から 3 孔目と 4 孔目の歯孔の間にも方形孔をあけて、柄を挿入する。両端から 1 孔目と 2 孔目の歯孔の間に側面で貫通する方形孔をあけるが、これは引棒をはめる孔。歯は基部を方柱状にし、それ以下を剣先状にとがらせ、前進方向の面に鑄をつける。台木にうえた歯には基端の木口面から楔を打込んで固定する。柄は股木を利用したもので、枝の末端部を台木に挿込み幹を把手にあてる。長 99.5 cm、高 77.0 cm、歯長(挿入部分を除く)32.5 cm、同径 3.0×2.5 cm 前後、柄長 49.5 cm、同径 3.0 cm 前後。アカガシ垂属。0602もほぼ同じ構造であるが、やや大型で柄孔が側面で貫通している点がことなっている。長 115.5 cm、台木上面までの高約 41.3 cm、台木径 8.5×8.0 cm、歯現存長 38.5 cm、同径 4.2×2.5 cm 前後。アカガシ垂属。以上、大阪府上田部遺跡水田跡出土。735 年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

0603 馬鍬の台木に 10 孔の歯孔を貫通させる。側面に柄孔と引棒の孔を貫通させるが、ともに若干傾きをもたせる。長 103.2 cm、径 10.0×7.1 cm。樹種未同定。兵庫県吉田南遺跡河川 1 出土。8 世紀後半～9 世紀。水漬。神戸市教委保管。

E 鎌 (0701~0710) か ま

棒状の柄が一般的であり、刃を着装する遺例は少ない。割材からつくり断面が楕円形を呈する。一般的には柄尻の腹面側にすべり止めの山形の突起をつくりだし、柄元の側面から幅の狭い縦長の柄孔を斜めに貫通させて刃の着装孔とする。鉄の鎌身がのこる例では、腹面から着装孔に鎌身の基部を挿入し基部の上端を一方に折曲げて柄に固定している。着装孔の上下に釘孔をあけ木釘を埋めこむのが通例だが、これは鎌身を固定するためではなく、使用時の鎌身の上下運動によって柄頭に縦割れが生じることをさけるためであろう。形態によってわけると柄の

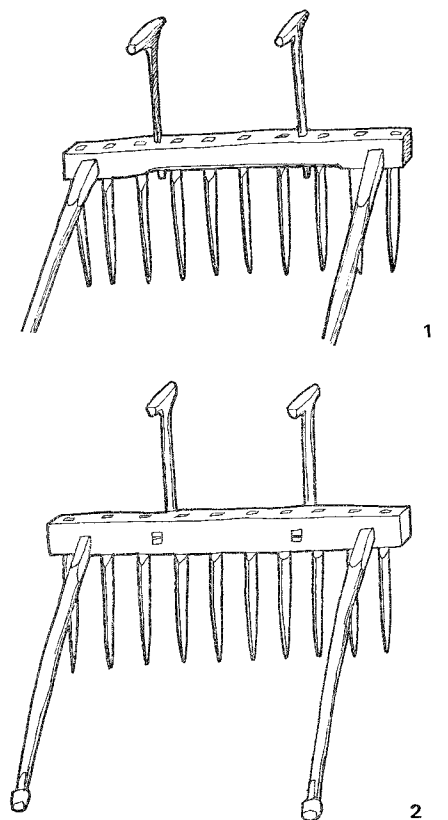


fig. 12 馬鍬の復原
1; 0601 2; 0602

握りがまっすぐなものと、刃先の側に屈曲するものがあるが、前者が古い形態。

0701 柄元部分を欠く。握りはまっすぐで、柄尻に山形の突起をつくる。全体は粗く削って整形し、稜角に面取りをほどこすが未成品の可能性がある。現存長 27.1cm。握り径 1.6 cm、アカガシ垂属。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0702 柄元に着装孔を貫通し、握りを細くし、柄尻を幅広にする。全体を細身に削って仕上げ、握りの断面は楕円形を呈する。着装孔は斜め方向にあげ、その上下に2対4個の釘孔をあける。長 33.3cm、幅 2.7 cm、厚 1.4 cm、着装孔長 3.6 cm、同幅 0.2 cm。アカガシ垂属。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0703 棒状の柄。柄元の着装孔は木口面から鋸びきであげ、釘孔はない。柄尻では腹面を深くえぐって鉤形の突起をつくりだす。削り整形は全体に粗く、断面は長方形を呈する。柄元に「×」印の刻みをいれている。頭部は二次的に切断されている可能性があり、加工が粗雑なことからすれば未成品かもしれない。現存長 27.9 cm、幅 2.6 cm、厚 1.5 cm。アカガシ垂属。平城宮6ADF区SE1627埋土出土。12世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0704 柄元部分をうしなう。柄尻に山形の突起をつくり、全面を丁寧削って、握り付近の断面は楕円形。柄の背面を若干内反り気味に削り、折損部に釘孔1孔がある。現存長 30.4 cm、握り幅 3.0 cm、厚 2.2 cm。アカガシ垂属。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0705・0706 とともに柄尻の断片。0705の加工は丁寧で卵形の断面形をとる。現存長 8.9 cm、幅 2.7 cm、厚 2.0 cm。アカガシ垂属。0706：現存長 11.8cm、径 2.7×2.2 cm。サカキ。以上、大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

0707 柄尻をかく。柄元は幅をひろげて背面側に屈曲し、腹面側を内反りに削る。着装孔の上部に2個、下部に1個の釘孔がある。現存長 26.9 cm、幅 4.6～2.4 cm、厚 1.4 cm。アカガシ垂属。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

0708 柄元の断片。心持板材からつくったもので、円頭形を呈し周縁を面取りでととのえる。着装孔をとどめ、上下に2個1対の釘孔をあけ、上の釘孔には木釘がのこる。現存長 8.3cm、幅 4.7～2.6 cm、着装孔現存長 5.0 cm、同幅 0.25 cm。コナラ垂属。平城宮6ABE区SD3765出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0709 完形の鎌。鉄の刃部は大さく弯曲した弦月形。柄は側面形で「く」の字形にかたどり、柄尻は腹面を削りのこして鉤形に突起させる。柄元に着装孔をあけ、刃の基部を挿入し、背面に出た基端を折曲げ、木の楔をさしこんで固めている。着装孔の上に2本、下に1本の鉄鋌を打込む。刃部長 14.5cm、同幅 3.6 cm、同背厚 0.3 cm、柄長 33.1 cm、同幅 2.4 cm、同厚 1.7 cm、着装孔長 4.5 cm、同幅 0.5 cm。アカガシ垂属。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0710 柄尻の断片。辺材を用いた棒状の柄で、柄尻に山形突起がある。全面を丁寧に削り、面取りを施し八角形の断面形をなす。握りの背面と使用者側からみて右側面には、主軸にたいして直交する数段の刻目がある。現存長 14.9 cm、厚 1.8 cm。カシ。奈良県布留遺跡FM20b3区出土。8世紀後葉～9世紀前葉。アルコール・エーテル法処理済。天理調査団保管。

F 鉈 柄 (0711) なたのえ

鎌柄と基本的に同じ構造をとる柄であるが、つくりが堅牢で刃の着装位置が上部によってい

る。このことから刃の着装法が鎌に似る鉞の柄にあてたまで、確証はない。

0711 柄は全体に反りをもち背面が内弯する。断面形は柄元で楕円、握りで円形を呈する。柄尻に山形の突起をつくり、その上部腹面にも円筒状の突起をつくる。手のすべりを上下でとめる工夫であろう。柄元の側辺を貫通する着装孔をもうけるが、柄軸に対して130度の角度をもち、上下に各1孔の釘孔をあけている。報告では鋸柄にあてたが改める。長29.8cm、幅2.5cm、厚1.9cm、着装孔長7.5cm、同幅0.4cm。アカガシ亜属。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

G 横 槌 (0712~0716) よこづち

円柱形の身と棒状の柄とからなる工具で、藁などを打つ横槌に想定しうるもの。身の大小や形状に差異があり、用途を必ずしも農具に限定しえないが、同形のものをあつめた。^{*}

0712 小型の横槌。柱状材の約半分を削り細めて柄にあてる。全面を丁寧に削り、薄い焼焦げが全体を覆うのは強化のためであろうか。長13.2cm、身径3.2cm、柄径1.7cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。

0713 中型の横槌。割材からつくるが、全体に腐蝕が進行しており加工痕跡など不明。長23.7cm、身径4.8cm、柄部径2.8×2.45cm。アカガシ亜属。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後半~10世紀前半。水漬。滋賀県教委保管。

0714 中型の横槌。心持丸大材からつくり、身と柄が明瞭にわかる。身の断面はおおよそ六角形につくるが、対応する2面に敲打による窪みがつき、この面で使用したことがわかる。長29.4cm、身径6.0cm、柄径3.0cm。ケヤキ。和歌山県野田地区遺跡SD07出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。

0715 大型の横槌。割材を用い、身から次第に削り細めて柄をつくり、柄尻を太く削りのこす。身の周側面は使用によって著しく窪む。長31.8cm、身径9.1cm、柄径2.5cm。アカガシ亜属。平城京左京三条二坊六坪SD1560出土。8世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0716 小型の横槌。加工していない丸太材を利用したもので、身にはなお樹皮がのこる。棒状に細める柄の柄尻は欠損。現存長16.8cm、身径4.7cm、柄径2.4cm。広葉樹。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

H 唐臼の杵 (0717・0718) からうすのきね

長手の角材のほぼ中央に軸をとおして、これを縦の軸木で支え、一端に杵をとりつけ、他端を足で踏み軸木のテコを利用して脱穀・精白する唐臼。

0717・0718 心持丸大材を用い、全長の約半分で身と柄にわける。身の周側面は樹皮を除く程度の加工にとどまり、頭部を丸くし顕著な使用痕跡がのこる。柄は方柱状にかたどる。

0718は現在のところ出土後の火災によって柄が著しく収縮している。0717; 長53.8cm、身径8.7cm、柄径4.5cm。ツバキ。0718; 長57.3cm、身部径10.3cm、現存柄径4.1cm。サカキ。以上、大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

I 豎 杵 (0719・0720) たてぎね

木臼と対になる豎杵は、丸材の中央部を細くして握りとし両端で搗く道具。出土例はいまのところ2点にとどまり、ほかに搗粉木に再利用したものがある(4329)。

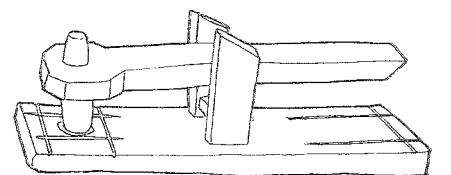


fig. 13 唐臼の明器 中国唐三彩(水野清一『唐三彩』陶磁大系35 平凡社 1977年 図版95)

* この種の木器はしばしば碇ともよばれてきたが、多種の機能があるので「横槌」という。(渡辺誠「御山千軒遺跡出土木製品の民具的研究」『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告VI』福島県教育委員会・日本国有鉄道 1983年 p. 45~50)

0719 堅杵の断片。心持丸太材でつくる。一端を削って球面状につくるが、この部分は著しく磨滅している。他端は2次的に切断している。現存長 37.9 cm, 径 8.0×7.0 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0720 堅杵の未成品。心持丸太材を用い、両端の木口面を平坦にととのえ、中央部を2方から細く削込んで握りをつくる。木口や握りには鉦ハツリちようなの痕跡がはっきりとのこり、身の一部になを樹皮をとどめているため、未成品とみとめられる。長 107.0 cm, 身径 10.0~9.5 cm, 握径 3.6 cm。ツバキ。兵庫県山垣遺跡東堀出土。8 世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。

J 木 鍾 (0801~0813) きのおもし

木材片を利用して鍾にしたもの。材の一個所に孔をあけて紐をとおすものと、材の中央を細くして紐を結ぶものとに大別できる。後者は蓆編みなどに用いられる「槌の子」^{*}の類。

0801・0802 丸太材の両端を切断し、その約3分の1を割りと、材のほぼ中程の丸木面から割面にかけて方孔を貫通させたもので、丸木面にはなお樹皮がのこっている。0801; 長 17.1 cm, 幅 6.3 cm, 厚 3.4 cm。0802; 長 15.4 cm, 幅 6.7 cm, 厚 3.0 cm。以上、アカガシ亜属。平城宮6AAP区SE7900出土。8 世紀後葉~9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0803・0804 割材の丸棒を縦に4分割した小片を用い、中央部の周囲に刳込みをほどこしたものの。両端木口面には鋸で切断した痕がのこる。0803; 長 7.5 cm, 幅 1.5 cm, 厚 1.4 cm。0804; 長 7.4 cm, 幅 1.3 cm, 厚 1.2 cm。以上、ヒノキ。平城宮6AAO区SK2101出土。750 年頃。水漬。奈文研保管。

0805~0812 0805 が割材を用いるほかは、すべて丸木材を用いる。柱状の丸材の両端に丸木面をのこし、中央に向かって両方から円錐形状に刳込む。いずれも粗雑な加工であり、いわゆる「槌の子」である。0805; 長 10.5 cm, 径 3.7~1.6 cm。ツバキ。平城京左京八条三坊九坪SD1300出土。8 世紀後半~9 世紀前葉。水漬。0806; 長 13.7 cm, 径 5.2~3.0 cm。シキミ。平城宮6AAP区SE7900出土。8 世紀後葉~9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。0807; 長 15.0 cm, 径 5.8~2.8 cm。アカガシ亜属。平城宮6AAC区SD2700出土。8 世紀。水漬。以上、奈文研保管。0808; 長 22.1 cm, 径 3.9~3.1 cm。樹種未同定。0812; 長 14.5 cm, 径 4.0 cm。アカガシ亜属。以上、滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9 世紀後葉~10 世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。0809; 長 16.7 cm, 径 5.5~2.6 cm。0810; 長 16.0 cm, 径 5.1~1.8 cm。0811; 長 17.2 cm, 径 4.9~3.0 cm。以上、ヤブツバキか。兵庫県吉田南遺跡SD11 (0809), 河川 1 (0810・0811) 出土。8 世紀後半~9 世紀。水漬。神戸市教委保管。

0813 小型の精製品で、割材を用い上記の諸例とは形がことなり偏平につくる。長 5.2 cm, 径 4.6 cm。コナラ亜属。兵庫県上原田遺跡SE03出土。8 世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。兵庫県教委保管。

K 田 下 駄 (0814~0826) たげた

深田などで農作業を行うとき、身体が泥中に沈下するのを防ぐため足にはいた履物、広義の田下駄は板型(ナンバ)、下駄型(タゲタ)、杵型(オオアシ)に大別されている。^{**}なお、後述する下駄の項であつかった1例(2314)も田下駄にぞくする可能性がある。

0814・0815 足板だけで単独に用いる下駄型。割板から下駄の歯を欠いた形をつくる。鼻緒孔3孔をあけるが、前壺が左右の一方にかたよる。0814; 長 19.1 cm, 幅 8.5 cm, 厚 1.0

* 渡辺誠 前掲書 p. 33~45
同「もじり編み用木製鍾の考古資料について」『考古学雑誌』第66巻第4号 1981年 p. 38~54

** 中村たかを『日本の民具』弘文社 1981年 p. 163~174

cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡 SD10 出土。7 世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。0815；長 20.6 cm，幅 10.9 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。滋賀県光相寺遺跡溝出土。8 世紀後半。水漬。中主町教委保管。

0816・0821～0824 足板の前後に木釘孔をあけて杵にとりつけた杵型。いずれも粗製。鼻緒孔を 3 孔あけるが前壺が，左右の一方にかたよるものと中央にあけるものがある。0816 は両端にそれぞれ 3 本の木釘をとどめる。長 30.6 cm，幅 11.0 cm，厚 1.6 cm。スギ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735 年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。0821 は上端に 1 孔，下端に 2 孔をあける。長 36.3 cm，幅 10.7 cm，厚 2.2 cm。スギ。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9 世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。0822 は，前壺の上方に 1 孔をあけるにとどまる。長 41.7 cm，幅 14.4 cm，厚 1.0 cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡 SD10 出土。7 世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。0823 の鼻緒孔と杵取付孔前後各 2 孔は方形を呈する。長 49.0 cm，幅 15.0 cm，厚 2.4 cm。モミ。水漬。0824 は前縁の両隅をおとし，後の両側に切欠きをいれる。杵の取付孔は前後に各 1 孔あける。長 51.3 cm，幅 17.6 cm，厚 2.0 cm。スギ。水漬。以上，兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9 世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。

0817～0820・0825 杵型のうち足板両端の左右から三角形の切欠きをいれ，縄などで杵の横木にしばりつけて固定したもの。0825 が 2 個一対の切欠きいれるほかは，いずれも切欠きは 1 個である。0817；長 37.5 cm，幅 12.1 cm，厚 2.1 cm。ヒノキ。滋賀県仏性寺遺跡遺物包含層出土。8 世紀～9 世紀。自然乾燥。滋賀県教委保管。0818；長 52.0 cm，幅 12.5 cm，厚 1.7 cm。スギ。0825；長 56.4 cm，幅 13.7 cm，厚 1.0 cm。ヒノキ。以上，兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9 世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。0819；長 42.1 cm，幅 11.2 cm，厚 1.2 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町 SD1301 出土。784 年～794 年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。0820；長 42.2 cm，幅 9.7 cm，厚 1.5 cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡 SD10 出土。7 世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

0826 足板をとりつける杵の縦木にあたるもの。角棒に横木をはめる杓孔をあける。現存長 27.3 cm，径約 4.2 cm。コウヤマキ。大阪府亀井遺跡 SX4001 出土。7 世紀後半。水漬。大阪文化財センター保管。

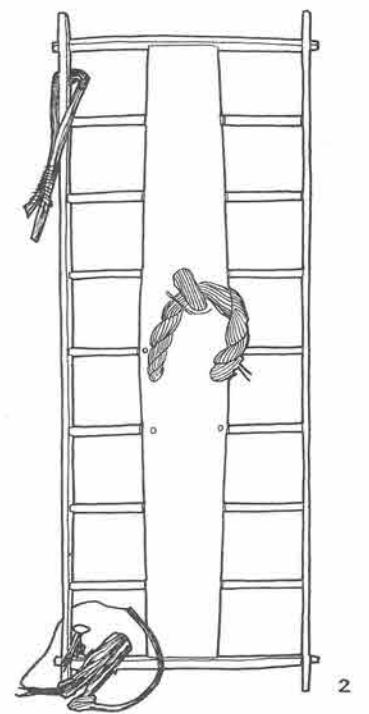
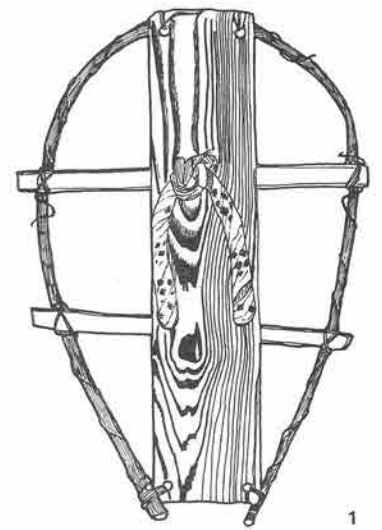


fig. 14 民具の田下駄
1；千葉県 2；岩手県（宮本常一『日本の民具』第2巻農村 慶友社 1965年 図版2・5）

3 紡織具 (PL. 9～11)

紡織具の中心は糸巻類と紡輪であって，二三の例をのぞくと織機の出土例は乏しい。

A 糸巻 (0901～0918・1001～1018) いとまき

糸巻の構造は数本の杵木とそれを固定する横木，横木の心にとおす軸棒からなる。軸棒をつけた状態で発見された例はなく，また多くの木製品のなかから軸棒に該当するものを見出していない。構造によって A・B の 2 型式に大別できる。A 型式は，杵木が 4 本からなり，それぞれの杵木の両端から内寄りの腹面に 2 個所の杓孔をあけてここに横木を結合する。2 個所の横木はそれぞれ 2 枚の板を十字形に相欠きでかみあわせ，中心に軸孔をあけ，四方の端を棒状に削る。出土品の糸巻の大多数はこの型式をとる。B 型式は 6 本の杵木からなり，それぞれの杵木の両端から内寄りの腹面に 2 個所の切欠きをいれる。つまり，杵木と六角形の 1 枚板の横木とは相欠きの仕口で結合するのである。B 型式糸巻はいまのところ 1 例しか発見されてい

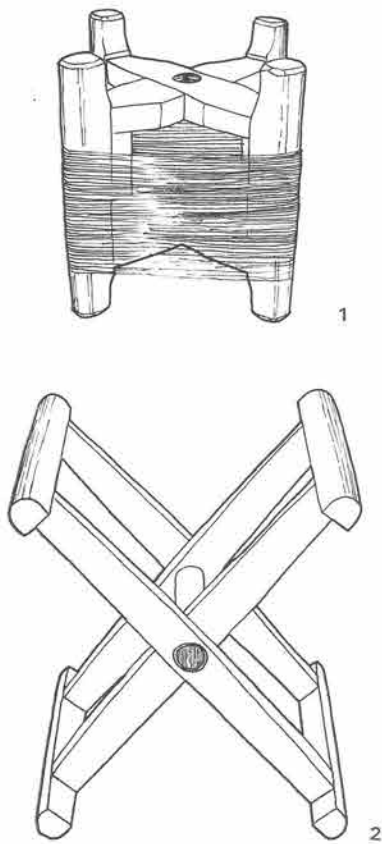


fig. 15 民具の糸巻

1; 長野県諏訪郡 2; 不明(文部省史料館『史料館所蔵民族資料図版目録』第3巻 1970年 40-6, 46-1)

い。杵木の形状はおよそ4つに大別できる。Ⅰは断面が円形に近い棒状につくるもの。Ⅱは杵木の腹面を平坦にして断面がカマボコ形を呈し、横木の結合部から両端に向かって斜めに削込むもの。ⅢはⅡの2箇所結合部間に浅い削形をいれるもの。ⅣはⅢの形態をとるが、両端の側面形を刀身形にとがらしたもの。杵木の長さによって、長さ16 cm前後の小型、長さ24~28 cm前後の中型、32 cm以上の大型に区分できるようであるが、杵木の大小は横木の長さできまる糸巻の直径にかならずしも相関していない。なお、横木を結合する柄孔は一般的には鼠刃錐で円筒形にあけるが、ときには普通の三ツ目ないしは四ツ目錐であけるものもある。大型の場合は横木も大きく、柄孔だけでなく杵木の側面から釘孔をあけて木釘を打込んで固定している。

上記の糸巻およびその部材は一般的なものだが、それらとは別の長い横木が各地から出土している。また横木の形態をとりながら、心に軸孔をあけないものもある。ここでは糸巻の部類に包括したが、用途がことなる可能性がつよい。

0901 現在、2本の杵木と一枚板の横木をとどめるBIV型式の糸巻。杵木はやや扁平な材を用い、外面に丸味をもたせて削り、背面の線が上下まっすぐにとおる。腹面から横木をかみあわせる長方形の削形を2箇所にいれる。横木は正六角形の小板で、各稜角に切欠きをいれ中心に軸孔をあける。杵木長 16.6・16.2 cm, 同幅 0.6 cm, 同厚 1.4 cm, 横木径 5.0 cm, 同厚 0.4 cm, 糸巻復原直径約 6 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB区SK820 出土。747年頃。真空凍結乾燥法処理済。奈文研保管。

0902 AⅣ型式の糸巻。2枚の横木と2本の杵木が組合さった状態で発見された。杵木の腹面中央にV字形の切欠きをいれる。小型。杵木長 15.7 cm, 同幅 1.1 cm, 同厚 1.4 cm, 横木長 9.9~9.3 cm, 同幅 2.8~2.4 cm, 同厚 0.7 cm, 糸巻復原直径 10.8 cm。樹種未同定。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀~13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

0903 AⅣ型式の糸巻。3本の杵木に2組の横木を結合した状態で出土した。杵木の結合部間の腹面に側面形が花卉形になる削形をいれ、稜角に面取りをほどこす。結合部から両端にかけては、2段の削形をいれるものと段をもうけないものとの別がある。中型糸巻の優品。杵木長 24~23.7 cm, 幅 1.2 cm, 厚 1.8 cm, 横木長 10.6~10.3 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.8 cm, 軸孔径 0.8 cm, 糸巻復原直径 11.7 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB区SK820 出土。747年頃。真空凍結乾燥法処理済。奈文研保管。

0904 AⅢ型式の糸巻。2本の杵木に上下2組の横木を結合した状態で出土した。杵木の結合部間の削形が浅い。中型にぞくする。杵木長 26.8 cm, 同幅 1.6 cm, 同厚 1.9 cm, 横木長 10.6 cm, 同幅 2.3 cm 前後, 同厚 1.3 cm, 軸孔径 0.9 cm, 糸巻復原直径 11.4 cm。ヒノキ。奈良県坂田寺跡SG100出土。7世紀中葉。水漬。奈文研保管。

0905 AⅢ型式の糸巻。4本の杵木と3枚の横木が結合状態で出土した。杵木の結合部を突出させて削る。柄孔は方形にあけ、その上下方向の各辺を2段彫りにしている。柄孔位置の一側面から木釘孔をあける。横木は腐蝕が進みかなり変形しているが、杵木との結合部の断面は長方形を呈し、木釘孔を貫通させている。大型である。杵木長 30.8 cm, 同幅 2.6 cm, 同厚 3.4 cm, 結合孔一辺 1.1 cm 前後, 横木長 14.1 cm, 同幅 4.6 cm, 同厚 1.2 cm 前後, 軸孔径 2.3 cm 前後, 糸巻復原直径 17.5 cm。樹種未同定。滋賀県服部遺跡土壌出土。9世紀後葉~10世紀。P. E. G. 処理済。守山市教委保管。

0906 AⅢ型式の糸巻。2本の杵木と破片の横木1枚がのこる。杵木の結合部柄孔は長方形で、一側面から木釘孔をあけ、横木をのこす柄孔では角木釘を打込んでいる。1柄孔には横木

の先端との間に詰めた小さな楔をとどめている。なお、横木の結合位置を決めたい刻線が
 納孔の中央両側に直交している。横木はかみあわせ部分から両端に向けて幅を狭め、先端を出
 納をつくりだしている。大型にぞくする。桧木長 32.2 cm, 同幅 2.4 cm, 同厚 3.0 cm, 結合
 納孔 2.3×1.0 cm, 横木厚 2.5 cm, 軸孔径約 2.0 cm, 糸巻復原直径 18.0 cm。スギ。平城宮
 6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

0907~0909・0912・0915~0918 AⅢ型式の桧木。背面がとがるもの、丸くするもの、
 角張るものなどがあるが、0918 をのぞくほかは中型にぞくする。0909 は結合部納孔に木
 釘を打込む。0915・0916 は同一部材であるが、納孔の1つに角孔がある。0917は納孔が背面
 を貫通している。0918 は断片であるが、長方形の納孔に切断された横木の先端と楔をとどめ
 ている。0907; 長 24.0 cm, 幅 1.1 cm, 厚 1.5 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB区SK820出土。747
 年頃。真空凍結乾燥処理済。0908; 長 22.4 cm, 幅 1.65 cm, 厚 2.6 cm。ヒノキ。平城京西隆
 寺跡SX033出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。0909; 現存長 21.1 cm, 幅 1.4 cm, 厚 1.3
 cm。ヒノキ。平城宮 6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。以上、奈文研保
 管。0912; 現存長 17.4 cm, 幅 1.7 cm, 厚 1.6 cm。ヒノキ。伝飛鳥板蓋宮 SD6612 出土。7
 世紀中葉。水漬。榎考研保管。0915; 長 24.1 cm, 幅 1.5 cm, 厚 1.2 cm。0916; 長 24.9 cm,
 幅 1.5 cm, 厚 2.2 cm。0917; 長 24.9 cm, 幅 1.3 cm, 厚 1.6 cm。以上、ヒノキ。平城宮
 6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。0918; 現存長 25.2 cm, 幅
 1.7 cm, 厚 2.4 cm。ヒノキ。奈良県白毫寺遺跡池 1 出土。8世紀後半。水漬。榎考研保管。

0910 AⅣ型式の桧木。同一部材 2 本のうちの 1 本で、2 枚の横木をもとどめる。2 個所の
 結合部間は浅い平坦面をなす。中型。長 29.1 cm, 幅 1.0 cm, 厚 1.4 cm。糸巻復原直径 11 cm。
 平城宮 6AAB区SK820出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

0911 AⅣ型式の桧木。扁平な板材からつくり、結合部が大きく突出している。長 27.0 cm,
 幅 0.8 cm, 厚 2.7 cm。ヒノキ。平城京西隆寺跡 SX037出土。8世紀にあてると 7 世紀もしくは
 古墳時代に遡る可能性ある。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0913 AⅠ型式の桧木。断面 8 角形棒の上下 2 個所に納孔をあける。納孔は方形で 1 孔には
 横木の先端がのこっている。長 28.1 cm, 径 1.3 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出
 土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

0914 AⅡ型式の桧木。背面を丸く面取りし、断面をカマボコ形にととのえ、結合部間が平
 坦面をなす。納孔は円形で貫通し、断面四角の横木先端がのこる。長 23.9 cm, 幅 1.7 cm, 厚
 1.5 cm。スギ。平城宮 6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1001~1007 糸巻の横木。中小の A 型式糸巻にともなうもの。板の中央を幅広くのこし両
 端を棒状に削りだして枝部をつくる。もっとも小さなもので長さ 8.1 cm, 大きいもので 12.0 cm
 あり、大小さまざま。相欠き仕口の かみあわせ部分の中央にあける軸孔は おおむね鼠刃錐で
 あけるのがつねであるが、1003・1004は刃物の先であけている。1001; 長 8.1 cm, 幅 2.1 cm,
 厚 0.8 cm。ヒノキ。平城宮 6ABE区SD3715 出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保
 管。1002; 現存長 8.2 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.95 cm。ヒノキ。藤原京紀寺跡SK04出土。7世紀
 後半。アルコール・エーテル法処理済。榎考研保管。1003; 長 8.8 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.7 cm。
 平城宮 6AFI区SD1525出土。8世紀前半。1004; 長 9.3 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.6 cm。平城宮 6A
 BE区SD3715出土。8世紀後半。1005; 現存長 10.2 cm, 幅 2.6 cm, 厚 0.9 cm。平城宮 6ABY
 区SD1900出土。8世紀前葉。以上、ヒノキ。P. E. G. 処理済。奈文研保管。1006; 長 10.0

cm, 幅 2.7 cm, 厚 0.8 cm。ヒノキ。藤原京紀寺跡SK04出土。7世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。橿考研保管。1007; 現存長 12.0 cm, 幅 3.4 cm, 厚 0.8 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1008~1010 糸巻の横木のように細板の中央に相欠き仕口をほどこすが, その両端に長い枝部をつくりだす。かならずしも糸巻に限定できない。1008は一端が2次的に切断されたもののようである。相欠き仕口の中央に1孔をあけ, その両端にもそれぞれ1孔ずつあけている。長 16.2 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.6 cm。樹種未同定。平安京西市跡 ND73-2-L-54 SE03B 出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。1009は相欠き仕口の中心に軸孔をあけず, 両端も角棒状を呈する。横木の未成品か。長 12.6 cm, 幅 2.05 cm, 厚 0.95 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD4951 出土。8世紀後葉。水漬。奈文研保管。1010は一端が二次的に切断されている模様。相欠き仕口に2孔をあけるがともに小さく, かつ中心をはずれているので, 軸孔になりえない。梓木へつなぐ棒状部が長く, 一般の横木にくらべて異形である。長 22.5 cm, 幅 2.6 cm, 厚 1.0 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。

1011~1015 細板でつくる横木の大型品。完形品を欠くが, いずれも相欠き仕口の中心に軸孔をあけ, 枝部は長くて扁平である。1012は枝部の端に2個の小孔をあけるが, 用途にかかわるものか否か不明。紡織具で用途をきめるならば, 糸車のツム(錘)の横木にあてることができよう。1011; 現存長 42.5 cm, 幅 3.5 cm, 厚 0.9 cm。樹種未同定。兵庫県吉田南跡遺河川1 出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。1012; 現存長 26.3 cm, 幅 3.3 cm, 厚 1.3 cm。樹種未同定。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀~13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。1013; 現存長 17.0 cm, 幅 3.1 cm, 厚 1.1 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6 出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。1014; 現存長 18.4 cm, 幅 4.6 cm, 厚 1.6 cm。モミ。奈良県布留遺跡 FM20b4区出土。8世紀後半~9世紀。アルコール・エーテル法処理済。天理教調査団保管。1015; 現存長 33.0 cm, 幅 5.2 cm, 厚 1.5 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡B区自然流路出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

1016・1017 大型の糸巻A型式の横木。1016は枝部の端を長方形にし, 側面に木釘を打込んだ痕がある。長 17.7 cm, 幅 2.8 cm, 厚 1.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700 出土。8世紀。水漬。1017は枝部の先端に柄をつくる。現存長 17.3 cm, 幅 6.3 cm, 厚 1.9 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。以上, 奈文研保管。

1018 横木の形をとるが, 相欠き仕口をほどこし4個の小孔をあけ紐で他の部材と結合したようである。両端に向かって幅を狭める。片面に面取りをほどこす。現存長 15.2 cm, 幅 4.4 cm, 厚 0.6 cm。樹種未同定。平城宮6ALS区SD4951出土。8世紀後葉。奈文研保管。

B 紡 輪 (1101~1107) つ む

円板の中心に糸巻棒をとおす紡錘車。1例(1105)をのぞいて糸巻棒をとどめるものではなく, すべて紡輪のみである。全般的にみて粗い整形で, 割板面をとどめるものが多い。

1101~1107 1102は上面に面取をほどこす精製品。1105は二次的に切断された軸棒をとどめる。1106・1107はこの種のものでは大型にぞくする。1101; 径 4.1 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。1102; 径 4.3 cm, 厚 1.3 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。以上, 奈文研保管。1103; 径 5.9 cm, 厚 1.6 cm。スギ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。水漬。高

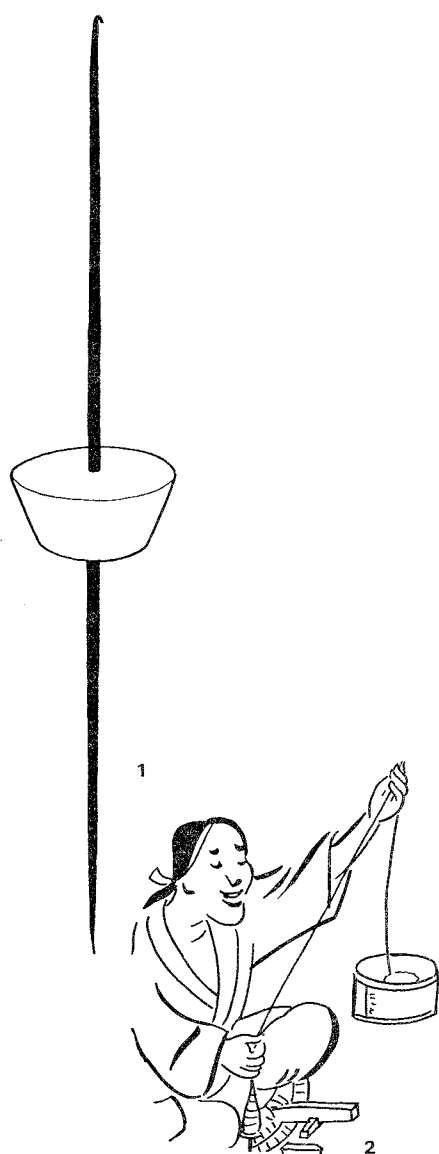


fig. 16 紡錘車

1; 民具 (前掲『日本の民具』図版133)

2; 『信貴山縁起』

機市埋文保管。1104；径6.0 cm，厚0.6 cm。1105；径6.0 cm，厚0.8 cm。以上，ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。1106；径8.2 cm，厚0.9 cm。樹種未同定。平城宮6AAF区SD3154出土。747年頃。P. E. G.処理済。1107；径9.5 cm，厚2.2 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。以上，奈文研保管。

C 織機 (1108~1112) しよっき

織機の機台とみとめられるものは、いまのところ見出していないが、付属部品が若干発見されている。部品には1108~1110のような小型のものと、1111・1112のような大型のものがあり、両者は無機台と有機台の違いをしめしているのかもしれない。

1108 角棒の両端に節をつくる。経巻具ないしは布巻具にあたるか。長34.2 cm，径1.5×1.6 cm。スギ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉~9世紀前半。水漬。奈文研保管。

1109 断面菱形の身の両端に柄状の突起をつくりだしたもの。突起は端に近づくにつれて厚みを減じ、木口面から割目をいれ、一部に紐ずれとおもわれる溝状の窪みがみとめられる。全体に丁寧な仕上げであるが、加工痕は不明瞭で擦痕などもみとめられない。経巻具ないしは布巻具であろうか。復原長約38.0 cm，身長31.3 cm，同幅3.6 cm，同厚1.8 cm。ヒノキ。大阪府亀井遺跡SX4001出土。7世紀後半。水漬。大阪文化財センター保管。

1110 丸木材を平らに削ったもので、身の両端に柄をつくりだす。身の一面には両端から内方にかけて削込み、中央部がもっとも薄い。柄部分の断面は扁平で丸味をおびる。経巻具ないしは布巻具であろう。現存長29.5 cm，身長26.2 cm，同幅3.4 cm，同厚1.6 cm。アカガシ亜属。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1111 刀杼(緯打具)である。全体を鯉節状にかたどり、表面及び刃部には、経糸の擦痕が明瞭にみとめられる(4 cmあたり39本)。片面の中央には断面楕円形に削った孔があって、なかに緯管をはめたようにしてある。削孔の両側には緯管を固定する小さな留釘の孔がある。また、削孔の長辺中央には緯を通す小孔がある。両端は緯入れ運動に適するように薄く鋭角にできている。現存長69.0 cm，幅7.7 cm，厚3.3 cm。アカガシ亜属。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。水漬。高槻市埋文保管。

1112 布巻具。割材を用い、両端に柄をつくりだし、身の両端腹面を高く突出させる。背面は丸味をおび、腹面を平坦にしている。長78.2 cm，幅6.1 cm，厚7.0 cm，突起間長41.0 cm。コウヤマキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年。水漬。高槻市埋文保管。

4 運搬具 (PL. 12)

運搬具としては、車輪・軛などがあるが、出土例が少ない。

A 車輪 (1201~1207) シャりん

1木からつくるものと組合せのものがある。

1201 丸木を輪切にしてつくった車輪。輪の部分は中心から外側へと時計回りで平坦に^{しょうな}斬ではつる。軸受け部は両面中央で円筒状に突出させ、その表面は上から下へと時計回りで斬ではつっている。軸孔は正円筒形を呈し、内面に著しい磨耗痕跡をとどめる。直径59.5~55.0 cm，輪部の厚10.0~5.2 cm，軸受け部外径18.6 cm~15.5 cm，同厚29.6 cm，軸孔径8.4 cm。マ



fig. 17 民具の一輪車 鹿児島県埴宿郡
(小野重朗『南九州の民具』慶友社
1969年 p. 230)

ツ。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。

1202 厚い板を輪状に削りだし、断面は長方形を呈する。両端は木目にそって割れ、旧状をとどめていない。外周の曲率が不均等なので、正円にならないが、推定直径は120cm程度。おそらく円周を4分割程度にわけて組合せた車輪であろう。現存長78.2cm、厚5.4cm、幅11.3cm。樹種未同定。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1203～1207 組合せ車輪の断片。1204・1205は一端に出柄をつくりだし、中央に長方形孔をあける。彎曲する外面はほぼ平坦で、内面の中央に鑄をとおり、断面は五角形となる。1203・1206・1207は一端に入柄をつくり、内外面ともに平坦である。出柄と入柄とつないで輪とし、長方形の孔に輻を挿入したものとかがえられる。1203；現存長13.7cm、幅5.4cm、厚2.7cm。1204；現存長13.8cm、幅5.3cm、厚2.3cm。1205；現存長16.0cm、幅4.9cm、厚3.05cm。1207；現存長14.7cm、現存幅4.2cm。以上、アカガシ亜属。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。1206；現存長14.0cm、幅4.1cm、厚5.9cm。アカガシ亜属。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。以上、奈文研保管。

B 軛 (1208・1209) くびき

軛としては形態をことにする2種類がある。



fig. 18 牛車 『蜀面古写経』

1208 牛車などに用いる軛。軛にむながい棒2本と柱状の連結部材がつく。軛は木の股を用い、枝を切りとった山形の幹をあてる。中央寄りの2個所に上下に貫通するむながい棒の挿入孔をあけ、両端の側面に連結部材の挿入孔をあける。むながい棒をの挿入孔は上端が狭く、下端が広い。長84.4cm、直径7cm。ヤマグワ。むながい棒は木の枝を利用したもので、樹皮をとどめる。一方の棒では端寄りに枝をのこし、他方の棒は直径の太い木本を上にし下端に紐を縛る際のすべり止めにする突帯を削りだす。長61.1cm、径2.9～2.2cm。ツバキ。連結部材はむながい棒に対して直角で挿入。四角柱状につくり、頭を四角の鋏頭状に削りのこす。身のなかほどに貫通する円孔をあけるが、轆とつなぐための装置。長26.3cm、幅3.8cm、厚1.8cm、頭径4.7×3.0cm。藤原宮6AJL区SK1380出土。694年～709年。水漬。奈文研保管。

1209 心持材をたわめて鞍骨の形につくる。外面を粗く削って断面を方形にする。中央の屈曲部と左右両端は、比較的丁寧に削る。ところどころに紐ずれの擦痕や磨耗痕がみられる。居木ないしは横木をつけた痕跡はなく、鞍ではない。復原高31.5cm、復原幅40.0cm、厚3.8cm。広葉樹。平城宮6ADC区SK6509出土。11世紀後葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5 漁 獵 具 (PL. 13)

狩猟具と武器との区別は出土品でみるかぎり曖昧であり、かつ両者ともに発見例にとぼしい。漁獵具として撻網・浮子・箝形木器・櫂に比定しうるものがある。

A 撻 網 (1301・1302) た も

1301 心持丸木をたわめて撻網の枠にしたもの。末の部分は二次的に切断されているが、木本の部分には柄に着装するため側面を削って反りをつくりだす。長84.5cm、径2.4cm内外。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

1302 二股に分枝する小枝を利用した撻網。柄部と輪状の網枠からなる。全体に樹皮をとっ

た程度の簡単なつくり。柄は枝の屈曲をなにとどめ、上面に刻目をいれるのはすべり止めか。杵は2方向に分枝する小枝をたわめ、先端をくくり合せたもののようである。柄長35.8cm, 径1.5cm前後。マツ属。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

B 浮子 (1303・1304) うき

1303・1304 いずれも両端をとがらせた紡錘形を呈し、釣用の浮子にあてられている。1303の一端は現代の釣浮子のようにやや細身。長12.0cm。ヒノキ。1304は加工が粗く、おそらく半製品。長10.0cm。樹種未同定。以上、滋賀県湖西線関係遺跡VD区pit51・VD区大溝出土。7世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。



fig. 19 中世の漁夫
『彦火々出見尊絵巻』

C 簞形木器 (1305) やすがたもっき

1305 割材からつくる棒の先端をとがらしたもので、かりに簞のように魚を刺突する道具にあてて。長66.7cm, 径1.6~1.0cm。ヒノキ。兵庫県上原田遺跡SE03出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。兵庫県教委保管。

D 櫂 (1306) か い

1306 櫂に想定しうるもので、柄と水かきとからなる。水かきの先縁を片面から削って薄くする。他面は水かきの基部と先端部を除いて細部の整形をくわえていない。現存長72.0cm, 幅12.0cm, 厚2.6cm。樹種未同定。滋賀県湖西線関係遺跡VD区大溝出土。7世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。

6 武器 (PL. 13・14)

狩猟具ないしは武器としては、丸木弓・鳴鏑・刀などがあり、鳴鏑の1部や楯は儀仗用のものであり実戦用ではない。

A 丸木弓 (1307~1310) まるきゆみ

丸木弓の断片。いずれも一端に^{ゆはず}弭をとどめるところから丸木弓にあてて。丸木の灌木を用い、先端を両側から削込んで柄状の弭をつくりだす。弭付近のほかは、樹皮をとりさる程度の整形にとどまる。1307; 現存長18.2cm, 径0.9cm, カヤか。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。1308; 現存長30.8cm, 径1.9cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。以上、P. E. G. 処理済。1309; 現存長32.3cm, 径2.0~1.8cm。広葉樹。平城宮6ABO区SE311B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。1310; 現存長46.7cm, 径3.6~2.8cm。スギか。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。P. E. G. 処理済。滋賀県教委保管。

B 鳴鏑 (1311・1312・1317) なりかぶら

発射時に快音を発する鳴鏑の断片。

1311 心持材を削りぬいて8面体のイチジク形にかたどる八目鏑。内部を中空にして上下に

鏃の茎をとす孔をあける。8面のそれぞれの上寄りに円孔をあけ、基部に溝をめぐらす。長4.5 cm, 径2.55 cm, 厚0.5 cm。広葉樹。平城宮6AAF区SD3297出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

1312 イチジク形の球体にかたどる二目鑢。内部を中空にして鏃の茎孔を上下とす。円孔は側面のなかほどに相対して2個あける。上縁部を段状にして突出させ、この辺りから上面にかけて黒漆塗りをとどめている。現存長3.7 cm。径2.65 cm。ヒイラギ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年～709年。水漬。奈文研保管。

1317 心持丸木から、7面体の算盤珠状にかたどる。内部を削りぬく。下面から鼠歯錐によって円筒孔をあけ、その中程を丸形に削りぬき7面の中央稜線からあけた円孔と連続させる。茎孔が貫通していないので、儀仗用の鳴鑢とみられる。長4.7 cm, 径3.4 cm。広葉樹。平城宮6AAD区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

C 鞘尻金具形(1313) さやじりかなぐがた

1313 鞘尻金具に似た木製品。現状では縦半分を欠損している。縁を花卉形にかたちどり、2段の法をつける。内面には半楕円形の割込みをいれる。漆の付着はなく白木であり、半成品の可能性もある。長3.4 cm, 復原幅2.7 cm, 厚0.8 cm。サカキ。平城京右京九条一坊四坪SD950出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

D 刀(1314～1316) かたな

本格的な大刀の出土例はなく、刀身をとどめるものも包丁かもしれない。

1314 刀の柄頭の断片で二次的に切断されている。方頭を呈し、貴金具を模倣した突帯をつくりだし、その柄頭側に円孔を貫通させ紐孔とする。白木ではあるが木口面の陵角に磨滅痕跡があり、実用品とおもわれる。刀身の着装は把の背面から溝をほり、ここに茎をおとしこんだのであろうか。現存長5.6 cm, 幅3.0 cm, 厚1.85 cm。ツブラジイ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

1315 鉄の刀身をとどめる小刀。平造り刃身に断面卵形の柄をつける。柄は1木の割材で、柄元に鐙をはめ、中央に1本の目釘をうつ。柄頭はずかに刀背方向に反りあがり、紐孔をあけている。本来は柄全体に黒漆をかけたものらしく、部分的に、漆塗面をとどめる。X線検査によると目釘2孔が茎にあいており、1孔が使われていないことがわかる。現存長30.8 cm, 刃幅2.7 cm, 同厚0.4 cm, 柄長12.8 cm, 同径3.3×2.4 cm。ケヤキ。平城京右京八条一坊十一坪SD920出土。8世紀後葉～9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

1316 二枚合せの鞘に想定しうるもの。一方の端の内寄りに6個の小孔をあける。内面は粗い削りぬきにとどまり、細かな調整を行っていない。外面は縦方向に丁寧^{*}に削り、中央に墨痕がある。小刀の鞘か。長28.5 cm, 幅3.2 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

E 楯(1401) たて

1401 平城宮の井戸枠に転用されていた15枚の楯うちの一枚。長方形をした一枚板^{*}からなり、ヒノキの板目板を用いる。15枚は長さも幅もほぼ同じ大きさでそろえる規格品である。頂部を山形につくりだし、表側は中央部を厚く、両側をやや薄くして鑢をつける。鑢をはさんで中央

* 坪井清足「隼人の楯」『日本民族と南方文化』平凡社 1968年 p. 297～306

部に把手を固定するための2孔一対の結合孔を上下に四孔をあけており、山形頭部の木口面には小孔が多数ある。この小孔は木口から背面に斜めに錐で穿孔している。裏面は平坦面に仕上げ、上・下両端に寄った二個所に棧をはめこむための横位の溝をほりこむ。溝内には両端と中央部に棧をとりつけるための一対ないしは4孔1組の結合孔を数個所にあけ、なかには木釘が折れてのこるものがある。楯の両面は鉋で丁寧に削って仕上げている。完形品の楯をふくめてすべてのものが木目に沿って割れており、使用中に破損したため、割れ目の両側の随所に紐で結縛するための補修孔がつけられ、紐がのこるものもある。表面には墨線で逆S字文と鋸歯文を描き、全面を白土・墨・ベンガラの彩色で埋める。楯の上端と下端に黒色の鋸歯文5個を配し、その内側に赤色の鋸歯文を平行さす。逆S字文は楯の主文であり、上下の鋸歯文の間に大きく配している。黒帯で上方の巻込みが小さく、下方の巻込みを大きく両端が楯の両側に接するほどに描く。つぎに上方の黒帯の外側に平行して赤帯を描くが、下方では赤帯が黒帯の内側で平行することになる。最後に上下の鋸歯文と逆S字文の間にのこる空間部分に白色を塗ることによって逆S字文の巻込みが黒・赤・白の三色文としての効果をあげることになる。上端内方の鋸歯文のあり方は個体ごとに多少のちがいはあるが、原則的には同じとみられる。本例では裏面に「凡人」「山ノ長」「此者近水海□」の刻書と「山」の墨書がある。『延喜式』隼人式によって隼人が儀仗用に使ったことがわかる。長152.2 cm、幅48.0 cm、厚 2.6 cm。ヒノキ。平城宮6ADH区SE1230出土。8世紀前半。自然乾燥。奈文研保管。

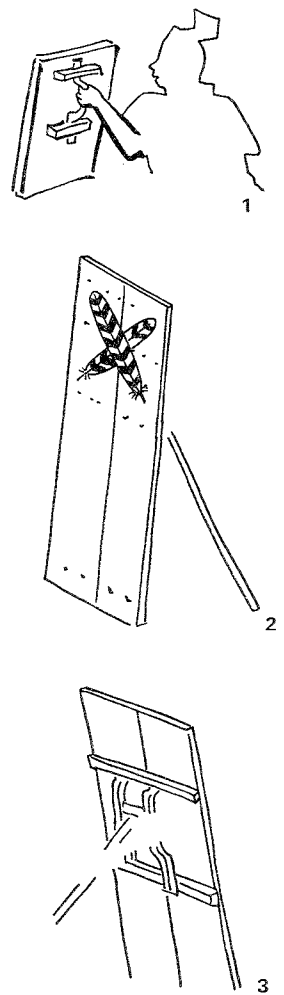


fig. 20 楯

1;『法然上人絵伝』

2・3;『春日権現験記』

7 服飾具 (PL. 15~23)

服飾具とみとめられるものには、檜扇・櫛・留針・草鞋・木履・下駄などがある。

A 檜 扇 (1501~1506・1601~1605・1701~1709) ひおうぎ

糸柱ヒノキの薄板を綴合せて扇にしたもの。分解した破片の出土例は比較的多いが、全形をうかがえるものは少ない。保存良好なものからすると、一般には中央から左右に向けて長さを減じる11枚ほどの骨を要と綴紐^{とじひも}によって綴合せており、全開時には60度内外に開く。これをかりにA型式とよぶが、要の孔が1孔のもの(I式)と2孔のもの(II式)とに区分することができる。また、要の孔は1孔だが、綴目をいれずに骨の末の両側にV字形切込みをいれて綴合せたものがあり、これをIII式とする。ここでは骨の下方の両側に切込みをいれて装飾するものから、装飾をくわえずにただ本の幅を細くするものへの順序でならべた。なお、側の切込み、綴目、要孔などは骨を重ねた状態でいれたようである。いまのところ1例しかしられていないが、全開すると円形になるものがあり、これをB型式とよんでおく。いわゆる檜扇の形をとるが、骨が厚くて別の用途を想定しなければならないもの、扇子の骨にあたるものもこの項にふくめる。なお、樹種を記さないものはすべてヒノキ。

1501 A I型式の檜扇。骨が11枚で完形。図示の左から5・6枚目の中央骨2枚がもっとも長く、その左右の骨は次第に長さを減じ、広げたときの形は先縁が半楕円を描く。骨の下端は半円形にそろえ、要の孔を1孔あける。要付近の両側縁にV字形と弧形の切込みを交互にいれて飾る。中央骨での半分から上寄りの位置で、綴合せの切目2個をいれる。これは骨ごとの長さに関係なく下端が同一の長さを保つため全体では一直線にそろえる。厚 0.1 cm 弱、本幅 2.0 cm 内外、末幅 3.0 cm 内外、最大長 32.3 cm、最小長 22.6 cm。平城宮6AAB区SK820出土。

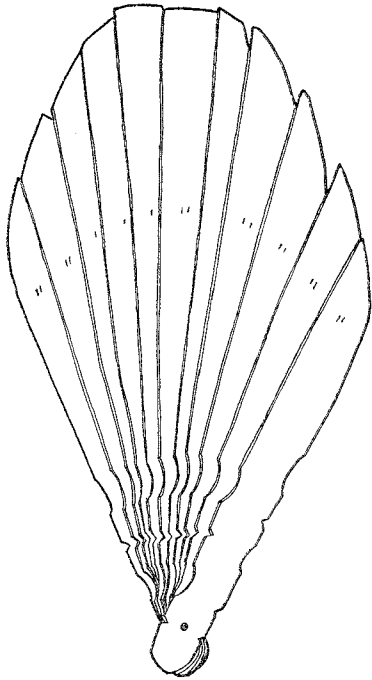


fig. 21 檜扇の復原(1) 1501

747 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1502 A I 型式檜扇の 2 片のうち 1 枚。一方の側に花頭形の切込みをいれる。現存長 14.7 cm, 幅 3.4~1.8 cm, 厚 0.13 cm。平城宮 6ABE 区 SD5505 出土。8 世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1503 A I 型式檜扇。4 片をとどめる。全形をうかがえるのは、末が方頭形を呈する中央骨である。両側縁に V 字形・弧形・花頭形の切込みをいれる。長 32.5 cm, 幅 2.7~1.8 cm, 厚 0.11 cm。平城宮 6AAC 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1504 A II 型式檜扇。4 枚をとどめる。本を卵形にかたどり、その上部の側縁に V 字形の切込みをいれる。要孔は 2 孔、綴目は刃物の先による切目ではなく、錐のようなものであけたらしく円形。全形をうかがいうるのは刀身形の端骨である。現存長 23.2 cm, 復原幅 3.5~2.7 cm, 厚 0.1 cm 内外。平城宮 6AAA 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1505 A I 型式檜扇の 1 枚。末を圭頭状にかたどり、一側縁に V 字形の切込み 2 個をいれ、本の幅を狭める。側骨。長 26.3 cm, 幅 3.3~1.5 cm, 厚 0.13 cm。平城宮 6AAA 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1506 A I 型式檜扇の 6 枚。全形がわかるのは、末を方頭形につくる中央骨。下方の 1 側縁に 1 個の弧形切込みをいれ、他側縁に 6 個の V 字形切込みをいれる。復原長 34.5 cm, 幅 3.2~2.6 cm, 厚 0.1 cm 内外。平城宮 6AAA 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1601 A I 型式檜扇の側骨 4 枚。末を刀身形にかたどり、本は両値縁を削って幅を縮める。長 30.4~24.8 cm, 幅 3.0~1.8 cm, 厚 0.13 cm 内外。平城宮 6ABR 区 SB7802 出土。753 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1602 A II 型式檜扇の 7 枚。小型品である。本の両側縁を削込んで幅を縮める。山形の末をとどめるものがあり、中央骨らしい。要の 2 孔の間に 0.3 cm 幅で変色しない部分があり、糸で 2 孔をとじた痕跡とおもわれる。長 20.6~19.0 cm, 幅 2.7~1.5 cm, 厚 0.1 cm 内外。平城宮 6AAB 区 SK820 出土。747 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

1603 A III 型式檜扇, 8 枚をとどめる。全形がうかがえる 2 枚では末の両側に V 字形切込みをいれ、綴目孔を欠く。側の切込みに紐をからませて骨を綴合せたのであろう。中程から本にかけては両側から削って幅を狭める。要孔に木釘状のものをのこすものがある。長 34.1 cm, 幅 3.7~1.8 cm, 厚 0.1~0.15 cm 強。平城宮 6AAC 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1604 A I 型式檜扇, 中央骨の 1 枚。綴目の有無不明。本の幅を狭めている。長 32.7 cm, 幅 3.2 cm, 厚 0.1 cm 強。平城宮 6AAC 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1605 B 型式檜扇。2 枚の親骨と 23 枚の子骨がのこる。親骨は厚手の細板状を呈し、本の両隅を切落し要孔をあけ、その上寄りに錐であけた一対の綴目がある。骨の中程から末にかけてやや幅を狭めて、方頭形にかたどる。子骨は短冊形を呈し、すべて同形同大で、ほぼ中央に一対の綴目をいれる。末の幅を本よりも若干広くし、本の両隅を切落している。この檜扇の構造は、2 枚の親骨で子骨をはさみ、要孔と綴目で綴合せたもののようである。全開すると骨は円形にひらき、親骨の末を柄にする団扇状の形をとる。復原によれば 31 枚の小骨が必要。親骨長 27.4 cm, 幅 2.6 cm, 厚 0.3 cm 内外。子骨長 16.9 cm, 幅 3.0~2.4 cm, 厚 0.1 cm 弱。平城宮 6AAA 区 SD2700 出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

1701 A I 型式檜扇の 5 枚。本の幅を若干幅を縮め、本の両隅を切落す。全長をとどめる 3 枚では、綴目を見出すことができない。綴目なしで綴合せたのであろう。長 24.6 cm, 幅 2.6

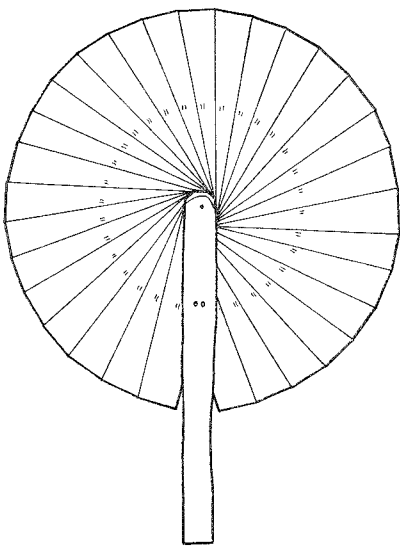


fig. 22 檜扇の復原(2) 1605

～1.9 cm, 厚 0.1 cm 内外。平城京左京五条二坊十四坪SE03出土。8世紀後葉。真空凍結乾燥処理済。奈良市埋文保管。

1702 AⅡ型式の檜扇。骨 11枚すべてそろいが、下半分をとどめるにすぎない。本は円頭状につくり、両側から削って幅を狭くする。現存長 14.4 cm, 幅 1.7～1.2 cm, 平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

1703 AⅢ型式の檜扇。骨は 11枚で完形品とみてよい。末の形は中央骨から左右に向け次第に大きく隅をおとす。本は両隅を切落す。綴目をあけていない。長 27.3～21.7 cm, 幅 2.6～2.0 cm 内外, 厚 0.1 cm 強。滋賀県十里町遺跡土壇出土。8世紀後葉～9世紀前葉。アルコール・エーテル法処理済。長浜市教委保管。

1704～1707 とともに本の部分の断片。1707はやや厚手で扇子の親骨か。1704; 長 13.1 cm, 現存幅 0.9 cm, 厚 0.1 cm 強。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。1705; 現存長 6.8 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.2 cm。スギ。奈良県白毫寺遺跡池1出土。8世紀後半。水漬。榎考研保管。1706; 現存長 9.7 cm, 幅 1.4 cm, 厚 0.2 cm。1707; 長 14.9 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.4 cm。以上, 平安京左京四条一坊五・六町ND64-3-J-15 SE01出土。12世紀。水漬。京都市埋文研保管。

1708 檜扇形の木製品。一般の檜扇とは用途をことにするものとおもわれるが、形態が檜扇に類似しているので、ここにかかげた。4枚の板目の薄板を檜扇のように連続して用いる。薄板を粗く削って仕上げ、部分的には製材時の割り面をとどめる。薄板の下端は直截し、下部に要孔を錐であける。薄板の中央より上寄りに綴孔をうがち、上端は山形にかたどり、下部の一侧縁に刳形をいれる。

薄板の表裏には墨書がある。下部の刳形のある側縁を右向きになるようにして各板を配列すると、各板の綴孔の上方に墨書の「＝」が横にならぶ。また、綴孔の下部におのおの意味不明の文字を墨書する。うち一枚はその字にかさねて一字を増している。要孔の周囲を「○」でかこむ。反対側の面には一枚のほかは墨書がない。墨書する一枚は、上から「賛」を扁, 「吉」を旁とした字を4字, 「伎」字を4字, 「団」字を2字, 合計10字を縦書きに、下部の孔の周囲を「○」でかこむ。このような墨書の状況から判断すると、下部の孔を「○」印でかこむ面が、数枚の薄板を重ねたときの上・下面となり、一種の親骨的役割を果しているらしい。それに準じて各薄板を広げると, 「＝」および意味不明の墨書が一面に揃う。以上のことから、この具が紐で連続し檜扇のように開閉する具であることが推される。文字は意味をなさず、粗製で実用に耐えないことからすれば、祭祀具の一種であろうか。長21.0 cm, 幅 1.8 cm 前後, 厚 0.3 cm 前後。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

1709 扇子の骨4枚のこる。要がのこり、本来の6枚骨のうち両側の親骨がうしなわれたことになる。下部の両側面に切込みがある。長 33.6 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.4 cm。スギ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43 SD04出土。12世紀～13世紀。水漬。京都市埋文研保管。

B 櫛 (1801～1817) く し

ツゲないしはイスノキの板片の一侧縁から細い歯を挽きだし、表面を平滑に研ぎあげた横櫛が一般的で、各地での出土例も少なくない。多くは断片であり完形のもの少ない。7世紀～10世紀ごろの横櫛は長方形のものA型式と半円形のものB型式に大別でき、A型式は肩部が角張るAⅠ型式と、肩部に丸味をもたすAⅡ型式にわけることができる。B型式の発見例は少な



fig. 23 檜扇・団扇・扇子・木履・草履 『年中行事絵巻』

第Ⅱ章 遺物解説

く完形品をみないが、概して精製品であり、脊の断面が柳葉形を呈している。7世紀にはAⅡ型式の横櫛はまだ出現しておらず、歯も概して粗く、3cmあたり21～24枚を挽きだす。8世紀以降になると、歯が細くなり、平城宮6ABO区SE311A・SE311B・SE282から出土した良好な資料34点では、3cmあたり平均歯数は32枚であり、もっとも細かいもので38枚になっている。^{*}歯の挽きだし位置をきめる切通し線は、背の上縁に平行して曲線を描くものと上縁に係なく直線にひくものがある。以上のほかに、上下に歯を挽きだした縦長の櫛があるが、発見例が少ないので、型式をたてていない。

1801～1806 AⅠ型式の横櫛。1801；幅12.2cm，高5.45cm，厚1.2cm。イスノキ。藤原宮6AJG区SE1105出土。694年～709年。水漬。奈文研保管。1802；幅11.5cm，高3.9cm，厚0.65cm。1803；幅10.9cm，高4.0cm，厚0.7cm。以上，イスノキ。真空凍結乾燥処理済。平城宮6ABO区SE311B出土。9世紀前葉。奈文研保管。1804；幅11.1cm，高4.0cm，厚0.7cm。樹種未同定。平安京西寺跡ND74-3-E34 SE01出土。9世紀前半。水漬。1805；幅9.1cm，高2.9cm，厚0.7cm。樹種未同定。平安京西市跡ND74-1-I-51 SE03出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。以上，京都市埋文研保管。1806；幅2.4cm，高1.9cm，厚0.4cm。イスノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

1807～1814 AⅡ型式の横櫛。1807；幅12.2cm，高3.6cm。樹種未同定。平城京左京三条四坊七坪SE1801出土。8世紀後半。水漬。1808；幅11.8cm，高3.4cm，厚0.7cm。1809；幅11.9cm，高4.3cm，厚0.8cm。以上，イスノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。以上，奈文研保管。1810；幅15.7cm，高4.2cm。樹種未同定。平安京西市跡ND74-1-I-51 SE03出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。1811；現存幅8.6cm，高3.9cm，1812；現存幅9.3cm，高4.8cm，厚0.8～0.6cm。以上，樹種未同定。長岡宮7AN3A区SD8701出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。1813；幅8.9cm，高3.5cm，厚0.55cm。1814；幅5.5cm，高2.4cm，厚0.4cm。以上，イスノキ。平城宮6ABO区SE311A出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

1815・1816 B型式の横櫛。1815；現存幅3.0cm，高3.43cm，厚0.46cm。1816；現存幅3.5cm，高4.5cm，厚0.7cm。樹種未同定。以上，平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

1817 縦櫛。縦長の板材の木口の両端から歯を挽きだし，中央の両側辺を弧状に挟って握り部分とした両用の櫛である。うち一方を太く長く，他方をうすく短くつくる。歯の切通し線は両方とも直径9.4cmの正円弧に刻んでおり，歯の先端は両端とも剣先状にとがる。短い歯の方は先端を一直線にそろえており，一部欠失するが幅6.8cmに復原でき，3cm幅につき18本の歯を挽きだしている。歯の長さは中央で2.2cm，両端で1.4cmである。長い方の歯は左右とも両端を欠き，現状では10本の歯がのこるが，本来は13本あったものと推測される。中央7本は先端をそろえ，両端各3本は順次長さを減じたようである。歯の密度は3cmにつき6本で，鋸で挽きだしたのち削って稜をおとしている。細い歯の切通し線から1.8cm握り寄りの中央に直径0.5cmの円孔をあけている。長20.4cm，握り部幅3.8cm，厚1.1cm。モック。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

C 留 針 (1901～1937) とめばり

* 『平城宮発掘調査報告Ⅳ』p. 34

一端もしくは両端をとがらした細長い棒状の具。被りものを髻にとめる木針とかんがえられ

るものもふくむが、すべてが服飾に関するものとはいえない。形状からつぎの3型式にわかれる。A型式：頭部を鋏頭状につくるもの。B型式：頭部を細板状につくるもの、C型式：頭部に加工をくわえないもので、身を扁平につくるCⅠ型式と丸棒状につくるCⅡ型式にわかれる。D型式：両端ともにとがらすもの(Tab. 1)。

1901~1911 A型式の留針。1901~1906は整った鋏頭をつくる。1908~1911は半成品か、ともに身が太くて身の削りが粗雑。1907・1910・1911は鋏頭の部分が身部の径よりも小さい。

1936・1937 B型式。1936は全長の約5分の2を細い板状の頭部とし、身部は断面楕円形の細棒につくる。頭部には3条の刻線をめぐらし、刻線の下部に両面ともに、被りものをつけ弓状のものを手にする横向き男子の立像を墨描きし、細棒の付根に墨で2線めぐらす。一面には2線の下に1字を書くがよめない。1937は頭部の周縁から刻込んで人頭の側面形をあらわしているようである。

1924~1935 CⅠ型式。1924の先が鋭くとがる以外は、身部の下半を薄い篋状につくる。1925は丁寧な加工で頭部を棒状にする。さきの報告では鋏形にあてたが改める。1926は頭部の両側から切込みをいれる。

1912・1918~1923 CⅡ型式。1912は精製品で頭部に漆塗りの痕跡をとどめ、やや大きいので留針でないかもしれない。1918~1923はともに粗製で身の先端にのみを調整する。

1913~1917 D型式。1913は一端を欠くが先細りになるのでこの型式にいれる。一端を鋭くとがらし、上部に2段の刻線をめぐらした精製品。1914~1917は中央部を丸棒状にのこし、両端に向かって次第に細くする。

C 草 鞋 (1938~1943) わらじ

藁細工の履物。近年出土例を増している。はき古したものを棄てたため、概して大きくのびきっている。また紐などの付属物の見分けがつけがたく、原形をとどめるものはまれである。図示したのは比較的良好なもの。ヒモ(紐)・カエシ・チ(乳)などを完全にとどめていないため、草鞋にあてる積極的な根拠がとぼしい。草履のスゲ尾や足半(あしなか)の芯縄を利用した鼻緒痕跡がみられないことから草鞋にあてた。

1938~1943 1938・1943には芯縄をのばしたヒモがみられないが、台の尾端に踵を受けるカエシの基部らしきものがあり、左右にチらしきものがみとめられる。1940では経の芯縄を台の尾端で二個のワナを交叉させているようである。1938；長 27.4 cm，幅 8.7 cm。平城宮6A CU区SD1250出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。1939；現存長 22.7 cm，幅 8.3 cm。アルコール・エーテル法処理済。1940；長 25.7 cm，幅 9.0 cm。破損。1941；現存長 22.5 cm，幅 9.0 cm。破損。1942；現存長 23.1 cm，幅 9.6 cm。破損。以上、長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。向日市教委保管。1943；現存長 16.0 cm，現存幅 8.3 cm。奈良県山田寺跡SD531裏込め出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

D 木 履 (2001~2009) きぐつ

木心をさけた板目材を削りぬいてつくり、被甲から踵にかけてをおおう短履で爪先は反りあがる。発見例はいずれもはき古したもので、踵裏がいちぢるしく磨耗している。歯のつくものA型式とつかないものB型式に大別できる。大中小の区別がある。漆をかけたり、内に布をあてた痕跡をとどめるものはない。足の左右の区別があったか否かは不明。^{*}

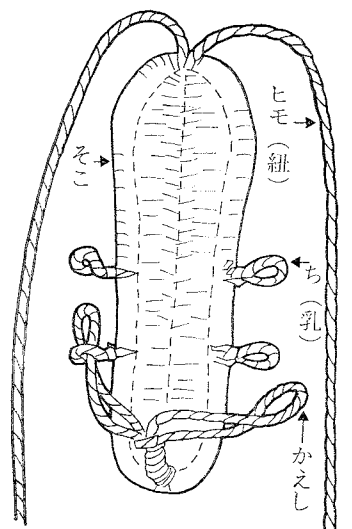


fig. 24 草鞋の名称(宮本馨太郎『かぶりもの・きもの・はきもの』民俗民芸叢書24 1968年 p. 200)

* 山中章「木沓」『向日市埋蔵文化財調査報告集』第7集 1981年 p. 132~133

番号	型式	寸 法			樹 種	出 土 遺 跡	時 期	処 理	保管場所
		長	幅	厚					
1901	A	13.1 ^{cm}	0.5 ^{cm}		ヒノキ	平城京左京八条三坊九坪SD1300	8世紀後半～9世紀前葉	真空凍結乾燥	奈 文 研
1902	A	12.5	0.6		ヒノキ	平城宮6AAI区SD4951	8世紀後葉	〃	〃
1903	A	11.3	0.35		ヒノキ	平城宮6ALF区SD5780	8世紀	〃	〃
1904	A	7.4	0.5		ヒノキ	平城宮6AAC区	8世紀	〃	〃
1905	A	(5.2)	0.7		ヒノキ	平城宮6ALG区SD5788	8世紀中葉	〃	〃
1906	A	(9.0)	0.5		ヒノキ	平城京左京八条三坊十坪SD1155	8世紀中葉	〃	〃
1907	A	(2.7)	0.7	0.6 ^{cm}	サカキか	長岡京左京二条二坊六町SD1301	784年～794年	水 漬	向日市教委
1908	A	(9.4)	0.7		モミ	平安京ND73-2-L-54 SE03B	9世紀後半	〃	京都市埋文研
1909	A	(7.4)	0.9		ヒノキ	兵庫県八反長遺跡旧流路	9世紀前葉	〃	兵庫県教委
1910	A	(15.45)	1.2		ヒノキ	平城宮6AAG区SD4951	8世紀後葉	〃	奈 文 研
1911	A	(13.3)	1.1		ヒノキ	平城京右京九条一坊四坪SD950	8世紀中葉	P. E. G.	〃
1912	CⅡ	14.4	0.9		ヒノキ	平城宮6ALF区SG5800B	8世紀後葉～9世紀前半	水 漬	〃
1913	D	(10.0)	(0.35)		ヒノキ	平城宮6AAI区SD4100A	8世紀中葉	真空凍結乾燥	〃
1914	D	13.4	0.75		ヒノキ	平城宮6AAB区SK820	747年頃	〃	〃
1915	D	20.7	0.5		樹種未同定	平安京左京四条一坊五・六町SD01	12世紀～13世紀	水 漬	京都市埋文
1916	D	15.7	0.6		〃	滋賀県湖西線関係遺跡	〃	〃	滋賀県教委
1917	D	15.3	0.6		〃	〃	〃	〃	〃
1918	CⅡ	14.7	0.5		〃	〃	〃	〃	〃
1919	CⅡ	11.8	0.6		〃	〃	〃	〃	〃
1920	CⅡ	11.3	0.6		〃	〃	〃	〃	〃
1921	CⅡ	10.7	0.5		〃	〃	〃	〃	〃
1922	CⅡ	15.5	0.6	0.3	〃	平安京左京四条一坊五・六町SD01	〃	〃	京都市埋文
1923	CⅡ	10.9	0.7		〃	平城宮6AAI区SD3410	8世紀後半		奈 文 研
1924	CⅠ	11.6	0.9	0.6	ヒノキ	平城宮6ABF区SD3715	8世紀後半	水 漬	〃
1925	CⅠ	15.1	0.8	0.2	ヒノキ	平城宮6ABE区SK3730	8世紀前葉	P. E. G.	〃
1926	CⅠ	18.1	1.2	0.5	ヒノキ	平城京左京一条三坊SD650	9世紀前半	〃	〃
1927	CⅠ	19.4	1.1	0.8	ヒノキ	平城宮6AAB区SK820	747年頃	真空凍結乾燥	〃
1928	CⅠ	16.2	1.1	0.5	ヒノキ	平城宮6ABE区SD3715	8世紀後半	P. E. G.	〃
1929	CⅠ	15.9	1.5	0.9	ヒノキ	長岡京左京二条二坊六町SD1301	784年～794年	水 漬	向日市教委
1930	CⅠ	15.3	1.1	0.5	ヒノキ	平城宮6ABF区SD3715	8世紀後半	〃	奈 文 研
1931	CⅠ	14.8	1.0	0.8	ヒノキ	平城宮6ALG区SD5785	8世紀前半	P. E. G.	〃
1932	CⅠ	14.7	1.05	0.5	ヒノキ	平城宮6ACC区SD3825	8世紀後半	水 漬	〃
1933	CⅠ	12.3	1.1	0.5	ヒノキ	藤原宮6AJF区SD105	694年～709年		〃
1934	CⅠ	13.8	1.1	0.5	ヒノキ	平城宮6ACC区SD3825	8世紀後半	水 漬	〃
1935	CⅠ	12.5	1.1	0.5	ヒノキ	長岡京左京二条二坊六町SD1301	784年～794年	〃	向日市教委
1936	B	16.9	1.4	0.3	ヒノキ	平城宮6AAB区SK820	747年頃	真空凍結乾燥	奈 文 研
1937	B	(12.4)	2.3	0.8	ヒノキ	平城宮6ALS区SD4951	8世紀後葉	〃	〃

()内は現存寸法

Tab. 2 留針寸法一覧

2001 A型式の小型木履。爪先の木口を平坦面にし、被甲の先縁と内縁にそって刻線で縁取る。裏の爪先寄りに前歯がのこる。踵がすり減る。長21.5 cm、幅8.7 cm、高5.6 cm。ヒノキ。平城京左京二条五坊北郊遺跡井戸出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。榎考研保管。

2002 A型式の中型木履。部分的に欠損するが全形がうかがわれ、土圧で少し扁平になっている。裏の前後2個所に歯をつくるが、後歯ののこりは悪い。被甲の先縁と内縁に刻線の縁取りをいれ、中央で両者を2本の刻線でつなぐ。両側面の中程に対応する1孔をあけた痕跡があり、紐を通して使ったことを示唆する。長27.45 cm、幅11.7 cm、高4.6 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年頃。水漬。向日市教委保管。

2003 B型式の中型木履。底部の断片。爪先木口面を平坦につくったようである。仕上げは丁寧だが、埋没中の土圧により全体にややゆがむ。長 27.5 cm, 幅 10.5 cm, 現存高4.9 cm。樹種未同定。京都府大藪遺跡ND83-4-F-11流路出土。9世紀。破損消失。

2004 B型式の中型木履。底部の断片で、被甲と踵の側壁をわずかにとどめる。爪先の木口は平坦面をなす。長 27.1 cm, 幅 10.2 cm, 高 6.0 cm。ケヤキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

2005 B型式の中型木履。踵の裏がぬけるが、他はほとんどのこっている。爪先木口を平坦にし、被甲の先縁と内縁にそって刻線をほどこし、中央に2本の刻線をいれてつなぐ。被甲の外面に刃物でつけた傷がのこる。長 25.9 cm, 幅 11.0 cm, 高 6.3 cm。樹種未同定。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2006 B型式の大型木履。踵裏を欠くがほぼ完形。爪先を丸く仕上げる。被甲部の内縁と中央に1本と2本の刻線をいれる。復原長 32.0 cm, 幅 12.6 cm, 高 7.1 cm。樹種未同定。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2007 A型式の中型木履。側壁の一部を欠くが完形で、細身につくる。爪先木口を平坦にし被甲の内縁と中央に刻線をいれる。他にくらべて踵の壁が厚い。長 28.3 cm, 幅 6.9 cm, 高 5.6 cm。樹種未同定。滋賀県矢倉口遺跡SE02出土。8世紀中葉。水漬。滋賀県教委保管。

2008 B型式の中型木履。底部断片。内面に左親指の磨耗痕跡がある。現存長 26.2 cm, 現存幅 10.0 cm, 現存高 1.2 cm。樹種未同定。滋賀県野畑遺跡 SE03 出土。9世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2009 B型式の木履片。爪先の底がのこる。現存長 11.5 cm, 現存幅 8.7 cm, 現存高 5.0 cm。スギ。滋賀県伊井永田遺跡遺物包含層出土。8世紀中葉。水漬。今津町教委保管。

E 下駄 (2102～2116・2201～2218・2301～2314) げた

下駄は台と歯とを一木からつくる連歯下駄である。台と歯を別材にして柄で組合せる差歯下駄は中世にならないとあらわれない。下駄は鼻緒孔の位置によってつぎのA～Cに区分することができる。A；前壺を左右のいずれかの一方によせてあげ、前・後壺とも歯の外側にあげたもの、B；前壺を左右いずれかにかたよせ、後壺を後歯の前にあげたもの、C；前壺を台の中央にあげ、後壺を歯の内側にあげたものにわかれる。つぎに歯のつくり方からするとつぎのように区分できる。I；台の両側から少し内寄りから歯をつくり、前・後歯ともに側面からみて外開きにつくりだすもの。II；台と同じ幅で、縦断面が台形ないしは方形の歯をつくもの。III；歯の下辺幅を台の幅よりも広くするもの。IV；歯の下辺幅を広くするとともに、歯の四隅の角をおとして平面形を隅丸方形にするもので、この場合には台裏の周縁に面取りをほどこす。V；前後の歯を台の両端によせたもので、この場合には前壺が前歯の後にあくことになる。歯は鑿でほりだしたり鋸で挽いてつくる。さらに、下駄の平面形によって、a；長方形ないしは隅丸長方形、b；長さに対して幅がせまく前端と後端が半円形を呈するもの、c；小判形、d；前後の端を弧形にするが、前幅よりも後幅をせまくするもの。e；前後の端を直線にするが、前後の歯から両端にかけて次第に幅を狭めるものに分類できる。以下ではA Ia 型式などによぶことにする。

図版の配列は平面形によっているが、これは時代の前後を必ずしもしめしていない。だが、鼻緒孔の配置と歯のつくり方は時代の変遷を反映する。鼻緒孔は刃物や錐であけたものが多い



fig. 25 下駄をはく婦人 『扇面古写経』

が、いわゆる焼火箸つまり先を熱した鉄棒であけたものもある。台の上面には使用に際しての足裏による磨滅痕がよくのこっている。平城京左京一条三坊SD650では計測可能な下駄が40点あり、長さによって5類にわけた。そこでは長さ18~24 cmのものが全体の65%をしめており、9世紀前半代の一般的な大きさとみとめられている^{*}。

2101 B Ia 型式。板目材を用い、木裏を台の上面にあてる。鼻緒孔は鑿のようなものであける。前壺は前歯をさけて斜めにあけるが、台の中心をはずして左右に各1孔あけている。おそらく使用途中で、左右の足のいずれかに変更したためにもう1孔をあけたもののようである。長23.5 cm、幅12.2 cm、高3.8 cm。樹種未同定。滋賀県光相寺遺跡溝出土。8世紀後半。水漬。中主町教委保管。

2102・2103 B Va 型式。一足揃って発見された珍しい例。板目材の木表を台の上面にあて、下面の両端に歯をほりだし、露地下駄の形をとる。台の上面には左右の足跡がくっきりとのこり、後歯を消失するほどに使いこんでいる。長20.7 cm内外、幅9.8 cm内外、厚3.2 cm内外。ヒノキ。長岡京右京三条三坊五町旧流路出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。長岡京市教委保管。

2104 B IVa 型式。板目材の木裏を台の上面にあてる。前歯を欠くが、後歯には鑿で下幅を広くほりだした痕跡がよくのこる。台の上面には左足跡、焼焦、刃物痕などがのこっている。長21.4 cm、幅9.7 cm、高4.8 cm。ヒノキ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後半~10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2105 B IIa 型式。柾目材からつくる。歯は鑿でほりだし、前後の歯の中間と後歯の後側が厚くほりのこす。長22.3 cm、幅10.7 cm、厚3.5 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

2106 C IVa 型式。板目材の木表を台の上面にあてる。歯は鑿でほりだす。長18.1 cm、幅9.5 cm、厚4.4 cm。スギ。平城宮6AAI区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

2107 A I b 型式。柾目材でつくる。両端とも円形だが、上からみて先の右隅を少し削込んでいる。鼻緒孔は鑿で長方形にあける。歯は鑿で側面からみて外開きにほりだす。長26.2 cm、幅10.3 cm、高3.9 cm。ヒノキ。大阪府亀井遺跡SX4001出土。7世紀後半。アルコール・キシレン樹脂処理済。大阪文化財センター保管。

2108 B IIb 型式。柾目材からつくる。歯は鑿でほりだし、歯は台幅のわずかに内寄りからはじまり、歯の向かいあった内側面はとくに斜めにほりこむ。長25.0 cm、幅11.7 cm、高4.6 cm。ヒノキ。奈良県川原寺下層暗渠。7世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2109 B IIb 型式。板目材の木表を上面にしてつくる。磨耗が著しい。長22.8 cm、幅9.7 cm、高2.0 cm。ヒノキ。奈良県白毫寺遺跡SD02出土。8世紀後半。水漬。樫考研保管。

2110 C IIIb 型式。板目材の木表を上面にしてつくる。歯は鑿でほりだす。長21.8 cm、幅7.8 cm、高3.1 cm。クリ。奈良県白毫寺遺跡池1出土。8世紀後半。水漬。樫考研保管。

2111 C IIb 型式。板目材の木裏を上面にしてつくる。磨耗が著しく後歯が完全にすりへっている。長18.8 cm、幅8.3 cm、高1.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

2112 C IIb 型式。板目材の木表を上面にしてつくる。歯と歯の間を厚くほりのこし、前壺が歯に切込んでいる。長18.4 cm、幅7.6 cm、高2.4 cm。樹種未同定。兵庫県出合遺跡井戸出土。8世紀。P. E. G. 処理済。瀬戸内考古学研究所保管。

* 『平城宮発掘調査報告VI』p. 92

2113 B IIc 型式。板目材の木表を上面にする。歯と歯の間を厚くほりのこす。長 20.6 cm, 幅 11.5 cm, 高 3.7 cm。ヒノキ。飛鳥京跡SX8201出土。8 世紀後半。水漬。樫考研保管。

2114 C IIb 型式。柾目材を用いてつくる。歯と歯の間が薄い。長 21.5 cm, 幅 10.1 cm, 高 3.0 cm。樹種未同定。長岡京右京七条一坊十三町恵解山古墳周濠出土。8 世紀後葉～9 世紀前葉。水漬。長岡京市教委保管。

2115 C IIc 型式。柾目材からつくる。歯を台に対して若干斜めにほりだす。鼻緒孔は方形。台の中央部が厚く両端が薄い。台上に左足痕と刃物痕がつく。長 22.0 cm, 幅 11.8 cm, 高 3.6 cm。ヒノキ。和歌山県野田地区遺跡 SD05 出土。10 世紀後半～11 世紀前半。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。

2116 C IIc 型式。板目材。後歯に鼻緒の繊維がのこる。長 21.5 cm, 幅 10.8 cm, 高 5.0 cm。樹種未同定。京都府下畑遺跡SE01出土。12 世紀～13 世紀。水漬。京都府埋文保管。

2201 C IVb 型式。板目材の木表を上面にしてつくる。歯は鑿でほりだし、下辺の左右が外方に張出す。台の下面に面取りをほどこしている。長 22.0 cm, 幅 7.5 cm, 高 3.4 cm。クリ。平城宮6AAO区SE272B出土。9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2202 C IIb 型式。板目材の木表を上面にしてつくる。鼻緒孔は方形。長 19.4 cm, 幅 8.2 cm, 高 2.0 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9 世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

2203 B III d 型式。板目材の木表を上面にしてつくる。台の周側面は粗削りの状態。歯は鑿でほりだす。長 16.8 cm, 幅 7.5 cm, 高 2.7 cm。マツ亜属。平城京左京一条三坊SD650出土。9 世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2204～2206 C IVb 型式。いずれも幅のせまい台である。両端に丸味をもたせ下辺の広い歯をつくりだし、台の中央を厚くし、周縁部を薄くする。2204は板目材の木裏を上面とする。長 17.9 cm, 幅 7.6 cm, 高 3.7 cm。樹種未同定。2205 は板目材の木表を上面とし、台の上面から 2 本の鉄釘を打込んで前歯を補修する。長 16.7 cm, 幅 7.9 cm, 高 4.1 cm。樹種未同定。2206は板目材の木裏を上面とする。現状で歯が台の内側にのこるが、本来は下辺が台幅よりも広がったとかんがえ IV 式にに入れる。長 19.0 cm, 幅 7.4 cm, 高 3.2 cm。ケヤキ。以上、平安京西市跡 ND73-2-L-54 SE03B出土。9 世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

2207 C IIb 型式。小型の下駄。板目材の木表を上面にする。台の中央部を厚くし。周縁部を薄くする。長 13.0 cm, 幅 5.6 cm, 高 1.9 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9 世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

2208 B IIb 型式。小型の下駄。板目材の木裏を上面にする。台が厚く、前歯をやや斜めにほりだしている。長 12.0 cm, 幅 5.7 cm, 高 2.9 cm。スギ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9 世紀後葉～10 世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2209 C II d 型式。小型の下駄。歯は鋸で挽きだす。台下面の前後を斜めに削る。長 12.8 cm, 幅 7.0 cm, 高 2.8 cm。スギ。長岡京左京四条二坊九町SD1502出土。9 世紀前葉。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

2210 B II d 型式。板目材の木裏を上面にする。台の前縁を隅切風にし後縁を半円形にかたどる。台の上面に右足の痕跡がはっきりとのこる。長 27.2 cm, 幅 11.4 cm, 高 2.8 cm。スギ。兵庫県吉田南遺跡SD11。8 世紀後半～9 世紀。水漬。神戸市教委保管。

2211・2212 B II d 型式。2211 は板目材の木表を上面にする。台の前後縁ともに半円形に

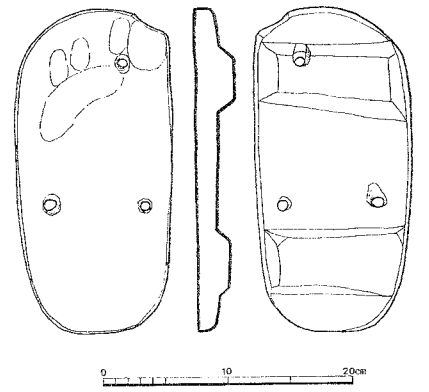


fig. 26 A II a 型式の下駄
兵庫県山垣遺跡東堀出土 8 世紀前葉

かたどり、台の上面に右足の痕をとどめる。長 26.4 cm, 幅 12.7 cm, 高 2.6 cm。ヒノキ。
2212 は板目材の木表を上面にする。台の前縁を隅切風にし後縁を半円形にかたどる。長 27.4 cm, 幅 12.5 cm, 高 5.1 cm。樹種未同定。以上、京都府中久世遺跡ND83-4-A-42流路出土。
7世紀前半。水漬。京都市埋文研保管。

2213～2215 CⅢd 型式。2213 は板目材の木裏を上面にする。鼻緒孔は壺錐であけたらしい。長 21.8 cm, 幅 10.6 cm, 高 3.0 cm。スギ。2214 は板目材の木裏を上面にする。歯の保存がよく原形に近い高さをとどめる。長 21.2 cm, 幅 13.5 cm, 高 5.7 cm。サクラ亜属。2215 は板目材の木表を上面にする。長 22.5 cm, 幅 10.5 cm, 高 6.1 cm。クリ。以上、平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2216 BⅢd 型式。板目材の木表を上面にする。歯を前後とも長軸に直交せず斜めにほりだし、後壺の2孔も斜めになる。長 23.6 cm, 幅 10.4 cm, 高 5.4 cm。センダン。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

2217 BⅢd 型式。柁目材でつくる。台の両端は鋸で切断し隅を斜めに削りおとす。歯も鋸で挽きだすが長軸に直交せず斜めになる。後壺も歯にしたがって斜めに配する。長 19.7 cm, 幅 9.4 cm, 高 3.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD3410出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

2218 CⅢd 型式。前歯の補修のため上面から鉄釘2本を打込んでいる。長 22.4 cm, 幅 10.3 cm, 高 5.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

2301～2303 CⅢd 型式。2301 は板目材の木表を上面にする。歯は鋸で挽きだす。わずかに歯の四隅を削りおとす。長 24.4 cm, 幅 10.0 cm, 高 3.4 cm。スギ。2302 は板目材で木表を上面にする。台の後端がとがり気味。歯は鑿でほりだしわずかに外傾する。鼻緒孔は方形。長 22.5 cm, 幅 9.6 cm, 高 4.8 cm。ヒノキ。2303は板目材で木表を上面にする。長 22.2 cm, 幅8.9 cm, 高2.3 cm。ヒノキ。以上、平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2304 CⅡd 型式。板目材の木表を上面にする。長 18.3 cm, 現存幅 6.6 cm, 高 3.1 cm。ヒノキ。奈良県橿原遺跡井戸9出土。7世紀～8世紀。自然乾燥。橿考研保管。

2305・2306 CⅢd 型式。ともに板目材の木裏を上にする。2305; 長 17.3 cm, 幅 8.2 cm, 高 3.3 cm。樹種未同定。2306; 現存長 16.5 cm, 幅 8.1 cm, 高 4.0 cm。ケヤキ。以上、平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

2307 BⅢd 型式。板目材の木表を上面にする。歯を鑿でほりだした痕跡をよくとどめる。長 17.7 cm, 幅 10.7 cm, 高 5.3 cm。スギか。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2308 CⅢd 型式。柁目材の木を用いる。長 19.5 cm, 現存幅 8.7 cm, 高 2.2 cm。ヒノキ。和歌山県野田地区遺跡SD07出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。

2309 CⅢd 型式。板目材の木裏を上面にする。長 20.5 cm, 幅 10.3 cm, 厚 3.2 cm。ヒノキか。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

2310 BⅡe 型式。板目材の木裏を上面にする。台の前後両端をほぼ直線にし、中央部分から両端に向かって幅をせまくする。後歯を後端寄りにつくり、後壺が前歯と後歯の中間に位置する。前壺が前歯に切込んでいる。長 30.0 cm, 幅 13.5 cm, 高 2.8 cm。スギ。滋賀県光相寺遺跡溝出土。8世紀後半。水漬。中主町教委保管。

2311 CⅡe 型式。柾目材でつくる。歯は鑿でほりだす。2310 と同じ形をとり、しかも大型なので一般の下駄とは用途をことにするのであろうか。長 26.0 cm, 幅 10.6 cm, 高 5.8 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

2312 CⅢd 型式。板目材の木裏を上面にする。歯は鑿でほりだし、鼻緒孔は先を熱した鉄棒であけたらしいが、前壺が小さい。長 17.9 cm, 幅 8.4 cm, 高 1.6 cm。ヒノキ。京都府古殿遺跡遺物包含層。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

2313 CⅢb 型式。板目材。前壺が小さい。長 21.9 cm, 幅 9.8 cm, 高 4.4 cm。樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43 SD04出土。12世紀～13世紀。水漬。京都市埋文研保管。

2314 歯をつくらず、一般の下駄とは形がことなる。下駄型の田下駄である可能性が強い。小判形の平面形をとる台は縦に2分しており、これを結合するための孔を3個所に穿つ。裏面にはこの結合孔を含んだ長方形のえぐりが認められ、結合紐が磨擦によって切れることをふせいでいる。これが本来の加工なのか、それとも補修なのか明らかにしがたい。前壺を右にかたよせており、左足用であることがわかる。長 30.5 cm, 幅 15.6 cm, 厚 2.3 cm。樹種未同定。滋賀県湖西線関係遺跡 VD 区大溝出土。7世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。

8 容 器 (PL. 24~40)

容器の主流をなすのは、食器・調理具であろうが、その形態だけで用途を限定するのが困難なものがある。ここでは製作技法の違いによって挽物・刳物・曲物に区分した。一方、容器類の付属品、あるいは付属部材に想定しうる把手・杵・蓋・栓などもここにふくめる。

A 挽 物 (2401~2449・2501~2514・2601~2608・2701~2709・2801・2802) ひきもの

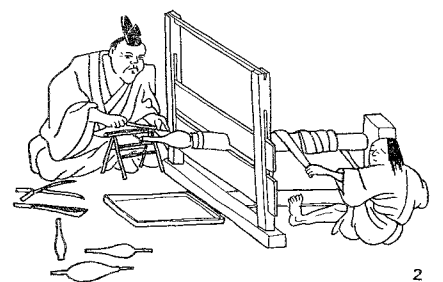
木材を刳っておよその形をととのえ、轆轤によって整形した容器。材の横断面、すなわち木口を器の口縁部にあてる縦木取りと、材の縦断面を口縁部をあてる横木取りとがあるが、いずれも木心をさけるのが普通である。轆轤仕上げの状態で加工を終了するものを白木作りといい、轆轤仕上げののちに漆をかけたものが漆器である。白木作りは概して製作が粗く、裏面に轆轤の爪痕をとどめたものがある。漆器には木地に直接漆をかけるものと、木地に布を着せてから漆をかけたものがあるが後者は少数である。奈良・平安時代の漆器の大半は内外ともに黒漆をかけるが、時期が下るにしたがって朱漆塗りが増加する傾向がある^{*}。食器類の形態はおおむね土器や陶器と一致しており、奈良・平安時代の土器の呼称に準じることとする。

2401 広く開く口縁部に低い高台をつけた杯Bで、須恵器の杯の形をとる。厚い底部と余り外傾しない口縁部とからなり、底部外縁に断面三角形の低い高台をつくる。内面と高台部に轆轤目がみられ、とくに底部内面の凹凸の轆轤目は顕著。器の内外に生漆と下地粉を混合した下地塗りをほどこし、そのうえから黒漆をかける。横木取り、柾目。口径 13.8 cm, 高 4.2 cm。ケヤキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2402 杯B。灰釉陶器の杯に類似する。全体に薄手のつくり。薄い底部と外傾し端部が外反する口縁部とからなり、底部外縁に斜めに立上がる高台をつくる。下地塗りはなく、素地に直接黒漆をかける。高台内面に鉄錆が付着している。黒漆を塗ったのちの乾燥中についたものらしい。横木取り、柾目。復原口径 13.2 cm, 高 2.8 cm。モクレン科。平城京左京一条三坊



1



2

fig. 27 中世の木地師

1;『七十一番職人歌合絵巻』

2;『東北院職人歌合絵巻』三熊思考本

* 小林行雄『古代の技術』塙選書 1962年 p. 111~176

橋本鉄男『ろくろ』法政大学出版局 1979年

『漆製品出土遺跡地名表Ⅰ』『埋蔵文化財ニュース49』奈文研 1984年

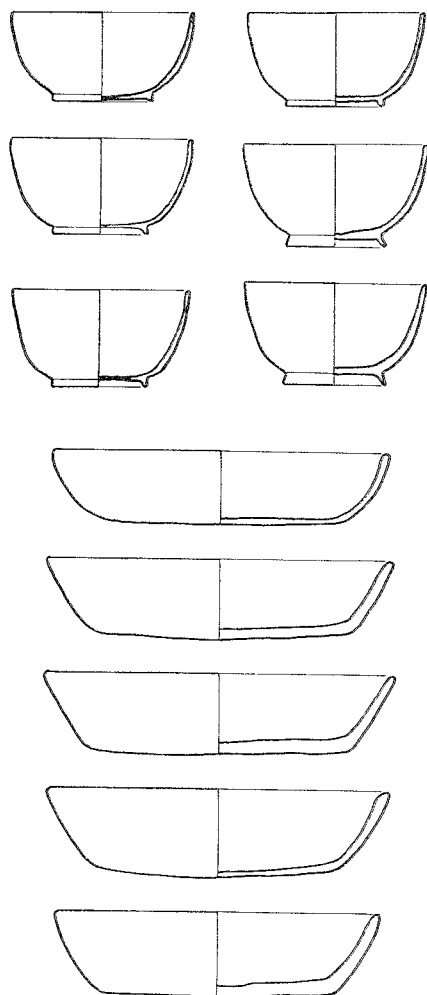


fig. 28 正倉院の漆食器
(前掲『正倉院の漆工』実測図3・6 1:4)

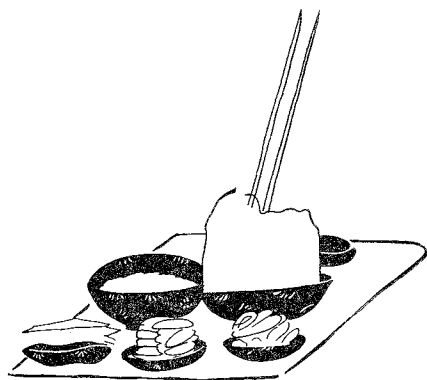


fig. 29 食膳 『病草子』

SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2403 皿B。平坦な底部と外反する口縁部とからなり、底部外縁に高台をつくる。薄手の器で、器壁の厚さは1.12mmにすぎない。口縁端部は大きく外反し、底部外縁に直立する高い高台をつくる。全体に布着せし、その上に黒漆をかける。内面に顕著な使用痕跡がのこり、磨りガラス状の曇りを呈する。横木取り、柃目。口径21.6cm、高3.6cm。ケヤキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2404 口縁端部が小さく外反する。底部外縁は削りぬいていない。底部外面以外は下地塗りをを行い、全体に黒漆をかける。底部外面の一部に朱漆が付着している。横木取り、板目。口径15.0cm、高2.9cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2405 皿B。灰釉陶器の形をとる。高台は疑高台で外面が凹面をなす。素地の上に下地塗りをを行い、全体に黒漆をかける。外面中央に黒漆で「辛」の字をかく。横木取り。口径20.0cm、高3.2cm。樹種未同定。平安京右京西市跡ND73-2-L-54 SD12出土。9世紀中葉。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

2406 皿A。平坦で広い底部と短い口縁部とからなる。全体に黒漆をかけるが、底部内面では漆塗のうえから轆轤目がよくわかる。横木取り。口径20.0cm、高2.5cm。カツラ。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

2407・2408 皿A。木心のうえに布着せし、内外ともに黒漆をかける。2407の底部外面には、使用による磨滅痕跡がある。横木取り。口径18.6cm、高2.7cm。広葉樹。平城宮6AAI区SD3410出土。8世紀後半。水漬。2408は横木取り、柃目。口径17.0cm、復原高2.5cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3050出土。8世紀後半。水漬。以上、奈文研保管。

2409・2410 皿A。木心のうえに外面全体と口縁内面のなかほどまで麻らしい布着せを行ったのち全体に黒漆をかける。2409は底部内面に刃物による損傷がある。横木取り、板目。口径18.5cm、高1.9cm。樹種未同定。P. E. G. 処理済。2410は横木取り、板目。口径19.2cm、高1.8cm。ケヤキ。水漬。以上、平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。奈文研保管。

2411 皿A。素地に直接、厚く黒漆をかける。柃目板を横木取りにとる。口径12.4cm、高1.8cm。ケヤキ。平安京右京三条三坊十町木棺墓出土。10世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

2412 小型の皿A。口径9.1cm、高1.4cm。樹種未同定。滋賀県湖西線関係遺跡IV D区出土。12世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。

2413 小型の皿。内面と口縁部外面を轆轤挽きし、低い台をつくりだす。底部外面に鑿ハツリの痕跡がある。内外ともに黒漆をかける。口縁部対称位置の内外にわたって、朱漆を筆先によって点描している。口径9.6cm、高1.3cm。樹種未同定。京都府下畑遺跡SE01出土。12世紀～13世紀。水漬。京都府埋文保管。

2414 椀A。内弯する口縁部と偏平な底部とからなる。素地に下地塗りをしたのち全体に黒漆をかける。横木取り、柃目。口径11.9cm、高5.0cm。広葉樹。平城宮6AAF区SK3137出土。770年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2415 椀A。白木の挽物椀で、底部の状況は不明。縦木取り。口径10.2cm、復原高4.5cm。カヤ。長岡宮7AN5地区SD3100出土。784年～794年。水漬。京都府教委保管。

2416・2417 椀B。低い高台がつき、口縁部はわずかに内弯している。2416は内外ともに朱漆をかけ、底部外面に黒漆をかける。内面に塗りむらが目立つ。横木取り、板目。口径13.2

cm, 高 3.4 cm。ケヤキ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-L-12 SD07出土。14世紀～15世紀。P. E. G. 処理済。2417は内面と口縁部外面に朱漆をかけ、底部外面に黒漆をかける。横木取り、柃目。口径 11.2 cm, 高 2.9 cm。サクラ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-41 SD11B出土。14世紀～15世紀。以上。水漬。京都市埋文研保管。

2418 高台付きの小椀。内外ともに黒漆塗り。外面の一部に朱漆の上絵らしきものがある。轆轤目がよくのこる。横木取り。口径 8.8 cm, 高 2.7 cm。樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-44 第3トレンチ濠第9層出土。12世紀～13世紀。水漬。京都市埋文研保管。

2419 高台付きの小椀か。底部が小さく、口縁部が外反する。全体に布着せしたのちに上塗りを行う。内朱、外黒。外面の一部に朱漆が付着している。横木取り、柃目。口径 8.6 cm。ケヤキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2420 佐波理形の椀。口縁部を少しく外反させ、器壁外面の中位に節状の稜線をめぐらす。底部の外縁に断面が三角形に近い高台をつくりだす。素地に下地塗りをほどこしたのち全体に黒漆をかける。木心をさけた縦木取り。口径 13.8 cm, 高台 7.0 cm。樹種同定不能。長岡京左京二条二坊六町SD5102出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

2421 蓋付きの椀か。印籠挟りにした口縁をもつ。内外面に下地として麦漆を塗り、布着せののちに墨をいれた黒漆を塗っている。縦木取り。口径、高さともに不明。ホオノキ。平城宮6ABO区SE311B出土。9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

2422 高台付きの椀か。口縁部を外反させ、内面に朱漆、外面に黒漆をかける。縦木取り。口径 15.0 cm。平安京右京西市跡ND73-2-L-54 A区第5層出土。9世紀中葉。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

2423 高台付きの大椀。高い高台をつける。下地塗りをほどこさず、内朱外黒の漆をかける。外面の下縁下部に横方向で朱文字2字をいれるが、判読不能。横木取り。復原口径 17.5 cm。復原高 6.7 cm。ケヤキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2424 高台付きの椀。口縁部がわずかに外反し、底部外縁に断面台形の高台をつくる。全体に黒漆をかけ、内面と体部外面に朱漆をかけるが口縁端部のみを黒く塗りのこしている。底部内面中央に朱漆で「△」印をかく。横木取り、柃目。口径 13.7 cm, 高 4.3 cm。ケヤキ。京都府鳥羽離宮跡ND84-L-12 SD07出土。14世紀～15世紀。水漬。京都市埋文研保管。

2425 高台付きの椀。口縁部は垂直気味に立上り、端はとがり気味におわる。高台は擬高台で、外縁に凹線をほり中央部を少し窪ませる。底部外面には漆をかけず、それ以外に黒漆をかける。底部外面中央に「十二」の線刻字がある。横木取り。口径 15.5 cm, 高 5.8 cm。トチノキ。京都府古殿遺跡Dトレンチ SD01 出土。12世紀～13世紀。水漬。京都府教委保管。

2426 高台付きの椀。口縁部は斜めに立上り、外開きの高台をつくりだす。内朱外黒の漆塗りで、器壁外面の相対する2個所に朱漆による文様痕跡をとどめる。木心をさけた横木取り。口径 13.6 cm, 高 6.5 cm。樹種未同定。滋賀県野畑遺跡SE01出土。8世紀後葉～9世紀前葉。P. E. G. 処理済。滋賀県教委保管。

2427～2430 高台付きの椀。口縁部はわずかに内弯し、底部に円盤状の擬高台をつくりだす。底部外面の外縁に凹線をいれ中央を窪めるものもあるが、ともに白木の状態。底部外面を除く部分に黒漆をかけ、口縁部の相対する2方の内外ともに朱漆の点描をほどこしている。いずれも横木取り。2427；口径 14.1 cm, 高 5.1 cm。2428；口径 15.0 cm, 高 4.8 cm。2429；口径 16.0 cm, 高 5.5 cm。2430；口径 15.1 cm, 高 4.7 cm。以上、樹種未同定。京都府下畑

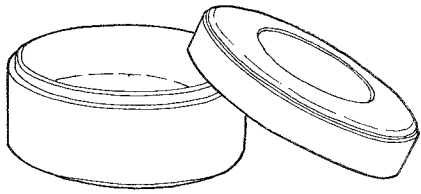


fig. 30 正倉院の合子（前掲『正倉院の木工』図版71）

遺跡SE01出土。12世紀～13世紀。水漬。京都府埋文保管。

2431・2432 高台付きの椀。口縁部は斜めに立上り端部でかすかに外反し、底部に中窪みの擬高台をつくる。下地加工をほどこさずに、底部外面を除く他の部分に黒漆をかける。2431；口径 15.7 cm，高 5.0 cm。トチノキ。2432；口径 16.1 cm，高 6.0 cm。ケヤキ。以上、

京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43 SD04出土。12世紀～13世紀。水漬。京都市埋文研保管。

2433 合子の身。直立する器壁に上底風の底をつくる。器壁外面には5条の凸帯を挽きだし、口縁端部に印籠挟りをほどこす。全体に黒漆をかけている。径 9.1 cm，高 2.3 cm。横木取り。樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-H-52 SD01B出土。14世紀～15世紀。水漬。京都市埋文研保管。

2434 小型の薬壺。扁球形の体部に直立する短い口縁と低い高台をつけた小型の壺。X線写真の調査によって、口縁部と体部を別々に挽き、接合したことがわかる。肩部は水平面をなし、幅が狭く、胴部との境に稜がつく。内外全面に黒漆をかける。素地や下地加工については不明だが、木胎に布着せしたものではなさそうである。外観では傷やひび割れがみえないが、X線写真で口縁にひび割れがあり、素地の製作時に生じたものとおもわれる。心去り材の縦木取りか。径7.0 cm，高 3.75 cm。樹種同定不能。平城京左京八条三坊九坪 SE1230 出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

2435 小型の薬壺。扁平な体部に直立する口縁と大きく外方に広がる高台とをつくる。漆をかけない白木作りであり、轆轤目をよくとどめている。横木取り。径 5.9 cm，高 2.7 cm。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

2436 托付壺。托の上に扁平な小壺をのせた状態を1木から挽く。壺の口縁部は内弯し、底部に裾広がりの高台風突帯をめぐらす。托は口縁部がわずかに斜めに立上がり、中窪みの擬高台をつくりだす。全体に黒漆をかけるが、壺の内面に漆がこびりつく。心去り材を縦木取りしたもの^{*}のようである。これを鉄鉢（底の尖った鉢）をのせる托にあてるかんがえもある。径8.5 cm，高 4.8 cm。樹種同定不能。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

2437 蓋。木心が腐蝕するが、内外の漆面がよく保存された状況で出土した。縁部内面の内寄りに反り^{かえ}をつけ、頂部に宝珠つまみをつくる。木心のうえに布着せし全体に黒漆をかける。横木取り。径 16.5 cm，復原高 2.0 cm。樹種同定不能。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済，漆補修。奈文研保管。

2438 蓋。縁部内面の内寄りに反りをつけ、頂部に宝珠つまみをつくる。内外とも木心のうえから直接黒漆をかける。横木取り。径18.0 cm，復原高3.7 cm。広葉樹。平城宮 6AAI区SD 3410出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

2439 蓋。縁部内面の内寄りに反りをつけ、頂部に宝珠つまみをつくる。いま反りの部分を欠損。内外ともに木心のうえに直接黒漆をかける。横木取り。使用中に二つに破れたらしく布と漆で補修している。径18.6cm，復原高2.6 cm。ケヤキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B 出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

2440 蓋。笠形の頂部に輪状のつまみをつけ、縁端部内面の内寄りに低い反りをつくる。頂部と縁部との境に稜線をほどこす。内外ともに下地加工を行わず、直接黒漆をかける。縦木取り。径 14.4 cm，高 2.0 cm。トチノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

* 植崎彰一氏の教示

2441 蓋。外面の頂部を一段高い円板状につくり、縁部がゆるやかに下る。縁部の内面には直立する輪状の反りをめぐらす。反りの内側は平坦面をなす。木目をつぶす程度に薄く下地を塗り、鉄でくろめた漆をかけている。縦木取り。径 13.6 cm, 高 2.2 cm。ヒノキ。平城宮 6A BO区SE311B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

2442 蓋。頂部から縁部までほぼ水平にし、頂部を円板状に一段高くし、中央につまみをつくるのであろう。縁部の内面に直立する反りをつくる。全体に下地塗りをを行うが、頂部外面で厚く、反りの部分では薄い。全体に黒漆をかける。つまみは欠損。縦木取り。径5.7 cm, 現存高 1.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2443 蓋。平坦な頂部と直立する縁部からなる。縁端部内面に段をつくり、合せ口とする。頂部から縁部への移行部はまるく削る。木心に直接黒漆の上塗りをを行うが、とくに縁端部が厚い。粗い轆轤目が漆膜をとおして観察できる。頂部の中央は2次的に削りぬかれているが、本来は宝珠つまみがつくのであろう。横木取り、板目。径 20.9 cm, 現存高 3.1 cm。クスノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2444 蓋。平坦な頂部に直立する縁部をつくる。漆をぬらない白木の挽物。心持材の縦木取り。径 9.4 cm, 高 1.3 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2445 蓋。直立する縁部と曲面を描く頂部とからなり、その境に稜線がはいる。腐蝕が著しいため判然としないが、轆轤挽きの白木製品であろう。横木取り。板目。径 13 cm 内外, 高 3 cm 内外。ヒノキ。平城宮6ABE区SA3777出土。753年頃。水漬。奈文研保管。

2446 蓋。直立する高い縁部と平坦な頂部とからなる。全体に黒漆をかける。横木取り。径 10.0 cm, 高 5.0 cm。トチノキ。長岡宮7AN5地区SD3100出土。784年～794年。水漬。京都府教委保管。

2447 蓋。笠形の頂部に高い縁部をつくる。いわゆる印籠蓋。頂部に宝珠形つまみがつくのであろう。下地加工はないが、黒漆の上塗りは内外ともに厚い。縦木取り。径 11.9 cm, 現存高 8.5 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2448 高杯。脚部と杯部の一部をとどめる。脚部の裾端は斜めに立上がり、外面の内寄りに段がつく。内面は凹面をなす。脚部と杯部の曲折部に凹線をめぐらす。全体に黒漆をかける。縦木取り。脚部径 7.5 cm, 現存高 5.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SK3137出土。770年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2449 高杯。白木の挽物。杯部の口縁が斜めに立上り、底部との境に段がつく。脚部は裾端を欠き、内削りをいれていない。未完成品の可能性が大きい。横木取り、板目。復原口径18.2 cm, 高9.1 cm。トチノキ。平城京左京八条三坊九坪SD1300出土。8世紀後葉～9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

2501 壺。高台をつけた底部と体部の下半分をとどめる。鉢形になる可能性もある。木地の腐蝕が著しい。底部は厚く、轆轤目が顕著。下地加工はほどこさず、内外に黒漆を直接かける。内面の漆塗りは外面にくらべて粗い。縦木取り。現存径 22.7 cm, 現存高 8.7 cm。広葉樹。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

2502 壺。平底にやや外開きの体部をつけ、相立する口縁に蓋受け部をつくる。白木作り。縦木取り。樹種未同定。径 12.3 cm, 高 5.9 cm。長岡京左京四条三坊三町ND93-4-A-54 SD 451出土。784年～794年。水漬。京都市埋文研保管。

2503 壺。広口短頸の小壺。短く外にふんばった高台がつく。須恵器に同じ形態のものがある。白木作り。心持材を縦木取り。径 12.1 cm, 高 9.1 cm。マツ属(二葉松類)。平城宮6AAF区SD3297出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

2504 鉢。平底の円筒形につくる。体部外面は轆轤挽き。底部外面は鉾ハツリ。内面は削りぬきで整形。体部中位に1円孔をあける。白木作り。心去り材を縦木取り。口径 15.1 cm, 高 12.0 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SK3137出土。770年頃。水漬。奈文研保管。

2505 鉢。平底に体部が直立する浅い鉢。底は厚く側壁は薄く丁寧な調整である。白木作り。縦木取りか。径 21.0 cm, 高 7.5 cm。トチノキ。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2506 蓋。平坦な頂部にやや外開きの縁部をつくり、それぞれに2条1対の細刻線をめぐらす。頂部は欠損するが、つまみがついた可能性がある。また、縁部の細刻線の間に1円孔をあけている。白木作り。縦木取り。径 10.0 cm, 現存高 6.1 cm。サクラ亜属。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2507～2512 高台付きの皿。平坦な底部に低い口縁部がつく。明瞭に高台をつくりだすものと、底部外面を轆轤挽きしない擬高台とがある。特殊な 2511 をのぞく皿類は後述の高台のない皿をふくめて、直径によりA・B・C・Dの4類に区別でき、高台のつくものはA類(径 29 cm 内外)にはいる。いずれも白木作りで横木取り。2507は直立する高台をつけ、内面に刃物痕がつく。復原口径 27.3 cm, 高 2.1 cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊十五坪SE967出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。2508は内外ともに轆轤目がよくのこる。径 27.8 cm, 高 2.8 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。2509は外にふんばった低い高台がつく。復原径 29.2 cm, 復原高 2.7 cm。ケヤキ。奈良県坂田寺跡SG100出土。7世紀中葉。水漬。奈文研保管。2510は口縁部を内面からわずかに外開きにつくり、内面中央に低い円圈を挽きだす。この円圈の直径は皿の半径と等しい。底部外面には縁にそって低い高台をつくる。椀などの受け皿である。径 22.8 cm, 高 1.6 cm。トチノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。2511は埋没時に変形しているが、もとは円形とみられる。内削りを行わない擬高台がつく。轆轤挽きは内面から高台底部の縁にまでおよび、底部外面の大半は鉾ハツリであり、中央に轆轤の爪痕がのこる。高 2.0 cm。トチノキ。平城宮6AAF区SK3137出土。770年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。2512は低い高台がつき、底部外面中央に「+」の焼印をおしている。径 29.7 cm, 高 2.1 cm。トチノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

2513 木皿か。浅い皿形をとるが通常のものとなる。低い口縁部はわずかに外反し、底部外面の中央に円形の刳込みをいれる。轆轤整形は内外におよぶが刳込み部分は削りの加工にとどまる。皿にするよりも組合せ式高杯の杯部にあてたほうがよいかもしれない。白木作り。横木取り。口径 19.4 cm, 高 1.75 cm。樹種未同定。平城宮6AAF区SD3154出土。747年頃。水漬。奈文研保管。

2514 高台のつかない皿B類(径 24 cm 内外)。この種の器では器の内面から口縁部外面にかけて轆轤挽きし、底部外面は鉾ハツリなど粗い加工にとどまる。このことから、底部外面には轆轤の爪痕をのこす例が多い。轆轤の爪痕は長さ 1 cm 内外で中央と上下左右に計5個ある。一方、底部の内外面に刃痕を無数にとどめるものも少なくない。また、基本的には横木取りで

ある。復原径 5.7 cm, 高 3.0 cm。ケヤキ。平城宮6ALF区SD5200出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2601~2603 高台のつかない皿B類。2601 は復原径 24.1 cm, 高 2.0 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。2602 は口縁部外面に記号風の墨書がある。径 23.4 cm, 高 1.9 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SD3297出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。2603 は径 23.4 cm, 高 2.3 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1501出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

2604~2608・2701 高台のつかない皿C類(径 21 cm 内外)。2604 は径 21.8 cm, 高 1.5 cm。ヒノキ。平城京西隆寺跡 SX035 出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。2605 は全体に薄い黒漆か柿渋をかけたようである。径 21.7 cm, 高 1.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。2606 は径 21.7 cm, 高 1.4 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。水漬。高槻市教委保管。2607 は径 21.7 cm, 高 1.6 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。2608 は径 21.6 cm, 高 1.4 cm。ヒノキか。長岡京右京三条三坊今里車塚古墳周濠出土。8世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。2701 は底部外面に「ト」に円圈をめぐらした意味不明の焼印をおす。径 21.1 cm, 高 1.4 cm。ケヤキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2702~2709・2801・2802 高台のつかない皿D類(径 18 cm 内外)。2702 は径 18.9 cm, 高 2.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SD3113出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。2703 は径 19.0 cm, 高 1.2 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉~9世紀前半。水漬。奈文研保管。2704 は径 18.8 cm, 高 1.0 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。2705 は径 18.6 cm, 高 1.0 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。2706 は径 18.4 cm, 高 1.4 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。2707 は径 17.8 cm, 高 1.2 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。2708 は径 17.8 cm, 高 1.2 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。2709 は径 18.4 cm, 高 1.4 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。2801 は径 17.2 cm, 高 1.2 cm。ヒノキ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉~10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。2802 は径 16.4 cm, 高 1.8 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

B 剝 物 (2803~2807・2901~2909・3001~3010) くりもの

材を剝りぬいてつくる容器。原則としては轆轤の回転が利用できない角形や楕円形の器であるが、円形の器もある。漆をかけるものはまれで、大多数は漆をかけない白木作り。横木取りの鉢などでは木裏面を口縁部にあててを原則にしているようである。

2803~2807 皿。内外を粗い削りでととのえる。内外に刃痕をとどめる例が多い。轆轤にかける前の製品であろうか。2803 は径 20.3 cm, 高 1.5 cm。2804 は底部外面に「三」の焼印らしきものがある。径 20.5 cm, 高 1.2 cm。2805 は径 20.5 cm, 高 1.0 cm。2806 は径 23.0



fig. 31 木鉢で洗濯 【扇面古写経】

cm, 高 1.5 cm。以上, ヒノキ。滋賀県伊井永田遺跡遺物包含層出土。8 世紀中葉。自然乾燥。今津町教委保管。2807 は底部外面に墨で習書している。径 25.5 cm, 高 1.5 cm。スギ。平城宮6ABE区SD3715出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2901 鉢。平面形が円形に近い平底の浅鉢である。内面は底から口縁まで横方向に削って一段に仕上げ, 外面は立上り部から 2 段に削りあげる。やや厚目の口縁部は上面と外側面を平坦に調整するほかは, 内外ともに粗削り面をとどめる。板目材から横木取り。径 22.3 cm, 高 4.6 cm。樹種未同定。平城宮6ABY区SD1900出土。8 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2902 角鉢。方形の楯形に削りぬいたもの。木口方向の一辺に把手の立上り部がのこる。器壁は厚く, 底部内面に刃痕がついている。横木取り。径 15.8 cm, 高 8.6 cm。ヒノキ。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7 世紀前葉。P. E. G. 処理済。滋賀県教委保管。

2903 片口鉢。器壁の一部をわずかに外傾させ, 口縁部を一段低くして注口をつくる。注口の対称位置の口縁部に 1 孔をあける。現状では木栓でふさいでいるが, 元来は柄をつけるためのものであろうか。内面に小さく焼焦げた痕跡がある。横木取り。径 15.0 cm, 高 7.4 cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊十五坪SE967出土。8 世紀後半。水漬。奈文研保管。

2904 角鉢。断面が台形を呈する浅い鉢である。口縁部外面はやや垂直に立上ったのち, 傾斜して底部へ移行する。内面は斜めに削込み, 底は平坦面をなす。口縁部木口方向の一隅に突起をつくり, 上面からあけた孔に樺皮がのこる。本来は対角線上の隅にも対応する突起があり, 樺皮巻きの把手をつけたのであろう。全体に粗い加工で, 内面に刃痕がのこる。横木取り。長 19.0 cm, 高 4.4 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SB7802出土。753 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2905 盤。平面形が円形で, 平底に近い丸底がつく。内面が平坦な底にやや外開きの口縁が立上る。端部は丸くおさまリ, 突帯状に口縁をめぐる。口縁部外面の底部との境に 1 本の突帯をめぐらす。ただし, 小破片からの推測のため復原は絶対的でない。横木取り。復原径 29.4 cm, 復原高 5.6 cm。ケヤキか。兵庫県上原田遺跡SE02出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。兵庫県教委保管。

2906 楕円形槽。平面形は楕円形を呈し, 内外とも平坦な底部から口縁部が斜めに立上る。短辺の両端に幅の狭い把手をつくりだす。横木取り。長 64.0 cm, 高 11.9 cm。ケンボナシ。平城京左京九条三坊十坪SD1300。8 世紀後半～9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

2907・2908 円形鉢。ほぼ同じ形をとる平面形が円形の鉢。ともに内面に多数の刃痕があり調理用の器であることがわかる。2907は口縁の上部が厚く, 破目を修理した補修孔がある。径 36.7 cm。2908 は口縁部を短く外に折り, 厚い底部につながる。器の内外ともに明瞭な加工痕跡がみとめられる。横木取り。径 36.5 cm, 高 15.6 cm。以上, クスノキ。兵庫県吉田南遺跡出土河川 1 (2907)・SD11 (2908)。8 世紀後半～9 世紀。水漬。神戸市教委保管。

2909 袋形容器。断面がほぼ楕円形になる心持材を縦木取りし一端粗く削ってまるくし, 他端はやや斜めに切断し, その部分から内部を粗くえぐりとした容器状のもの。長軸にそって向かいあう位置の口縁に各 1 孔をあける。用途不明。径 6.0 cm, 高 4.8 cm。エゴノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3001 長方形盤。腐蝕が進行してのこりがよくない。平面形は長方形で, 長側面にくらべて短側面の傾斜がゆるやかであると推定される。両側面の上端は, 幅の狭い面をつくる。横木取り。復原長 32.7 cm, 復原幅 23.5 cm, 高 5.5 cm。ヒノキ。難波宮橋脚MP-2区SK10048出土。

7世紀前半。水漬。大阪市文化財協会保管。

3002 長方形盤。板材の内外とも平坦な底部から口縁部が斜めに立上る。口縁端部は長辺が薄く短辺が厚い。内外ともに鉾ハツリによる加工痕をよくとどめている。横木取り。長 45.0 cm, 幅30.1 cm, 高7.4 cm。スギ。滋賀県伊井永田遺跡遺物包含層出土。8世紀中葉。水漬。今津町教委保管。

3003 長方形槽。心去りの割材を削りぬいた^{ふね}槽。両端木口は鉾で粗く削り、平滑にととのえる。下面の四稜は面取りするが、両端の木口の下部は内方にむけて斜めに削り、下面は船底形を呈する。平面形が平行四辺形の削りぬきを上面からいれる。内壁の四面は法をとり、とくに木口面の法には長い鑿の刃痕をとどめる。器壁の4隅には鑿で4孔をあける。3孔は外側面から内面の3隅に貫通、1孔は上面の一端から外側面に貫通する。縄などで吊すためのものか。横木取り。長 62.8 cm, 幅21.1cm, 高 10.0 cm。ヒノキか。平城宮6AAO区SK2102出土。729年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3004 長方形槽。槽の断片。平坦な底部から口縁部が斜めに立上る。木口面の口縁が厚い。横木取り。高 9.2 cm。スギ。滋賀県 下寺観音堂遺跡SD06出土。7世紀後半～8世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

3005 円形浅鉢。平面形が円形で口縁と底との境がはっきりしない「ホウラク」のような浅い器である。口縁端部が厚く、側面が直立している。内面には鑿ハツリ、鉾ハツリの加工痕をとどめる。底の中心に方形の孔があいており、高杯の杯部になる可能性がある。横木取り。径 52.4 cm, 高 6.0 cm。スギ。滋賀県光相寺遺跡溝出土。8世紀後半。水漬。中主町教委保管。

3006 円形鉢か。平底に口縁の立上り部をのこす器の断片。外面は腐蝕しているが、内面に黒漆塗りの痕跡をとどめる。横木取り。現存高3.4cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3007 楕円形鉢。平底から口縁部が斜めに立上る楕円形の器。内面の刳込みには曲面をもたせ、口縁端部を厚くする。端部の上面は平坦で外縁に面取りをほどこす。外面には鉾ハツリの痕がよくのこる。横木取り。現存長 53.6cm, 現存幅 35.9 cm, 高 10.6 cm。ヒノキ。奈良県布留遺跡出土。8世紀後半～9世紀。アルコール・エーテル法処理済。天理教調査団保管。

3008 円形鉢。平底から低い口縁部が斜めに立上る円形の器である。口縁部は厚く、左右一対の円柱状把手を木口方向に突起させている。横木取り。復原長65.0 cm, 幅 49.5 cm, 高8.1 cm。ケヤキ。兵庫県吉田南遺跡SD11出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。

3009・3010 大型刳物の断片。3009は横木取りの白木作り。厚 2.0 cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。3010は内外に黒漆をかける。厚 1.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SD3410出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

C 円形曲物 (3101～3116・3201～3218・3301～3311・3401～3414)

えんけいまげもの

曲物とは薄板を円筒形に曲げて、両端の重合せ部分を樺皮紐で綴合せて側板とし、これに蓋板ないしは底板を接合した容器の総称。円形・楕円形・長方形など平面形をことにするものがある。側板は重合せ部分で綴合せるが、その方法は木目と直交する縦方向に数段の切目をあけ、ここに樺皮紐をとおして綴合せる。高さや直径の違いによって各種の綴じ方があるが、ここではつぎのような表記をとることにした。まづ側板の外面にあらわれる樺皮綴じを1列綴じ

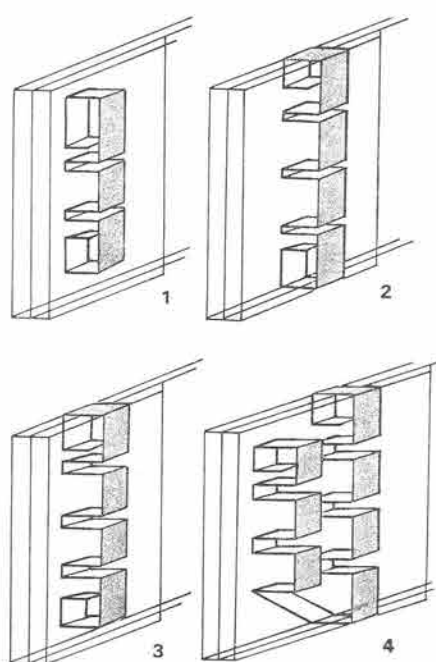


fig. 32 曲物の綴方模式図

1; 1列内3段綴じ 2; 1列外4段綴じ
3; 1列上外下内4段綴じ 4; 2列前外4
段後内3段綴じ

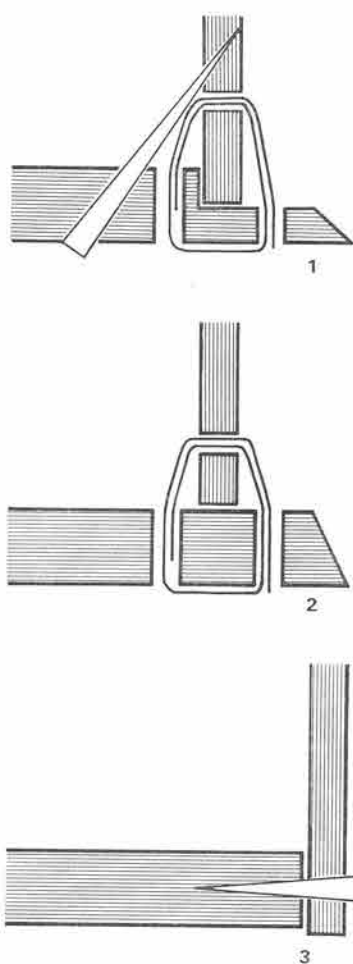


fig. 33 曲物の結合模式図

1; 樺皮結合曲物A
2; 樺皮結合曲物B
3; 釘結合曲物

と2列綴じとに区分する。1列にしる2列にしるそれぞれの列が何段の樺皮綴じで構成されているかによって、2段とか3段とよびわけ。つぎに樺皮綴じの綴じはじめと綴じ終りが、側板の上下縁外側なのか、それとも上下縁の内側かによって、前者を外綴じとよび、後者を内綴じとよびわけ。また上下縁のいずれか一方が外綴じで一方が内綴じの場合は例えば上外下内綴じとよぶことにする。このようにして以下では、1列内3段綴じ、1列外4段綴じ、1列上外下内3段綴じなどとよびわけ。2列の場合には側板外面の端に近いほうを前列とし、遠いほうを後列として例えば前上外下内3段後内2段綴じとよぶことにする。

出土例の多い円形曲物は、製作技法からつぎの2種類に大別できる。1は円板のうえにひとまわり小さい側板をあてて、円板に2孔1対、側板に1孔の結合孔をあけ、樺紐で結合したもので、樺皮結合曲物とよぶ。樺皮結合曲物では、円板内面の周縁を一段低くつくり、ここに側板をたてて樺皮紐あるいは樺皮紐と木釘で結合するもの(樺皮結合曲物A)と、低い段をつくらさずに樺皮紐のみで結合するもの(樺皮結合曲物B)があり、技法的には前者が古い。2は円板を側板の内側にはめこみ、側板の上から木釘を打込んで結合したもので、釘結合曲物とよぶことにする。古代には主として前者が蓋、後者が身に用いられたようである。釘結合曲物の場合、側板を円筒形に曲げるため、内面にケビキをいれるのがつねである。ケビキは側板の上下縁に対して縦平行線にいれるもの、斜平行線のもの、この両者を組合せて斜格子にいれるものに大別できる。円形曲物は直径によって、分類することが可能であるとともに、側板の高さによって分類することが可能である。用途を限定しうるものは少ないが、柄を装着した柄杓が用途のわかるものである。材料は一般的にヒノキ板を用いており、樹種をとくに明示しないものはすべてヒノキである。以下の曲物もすべて同じ。

3101~3105 蓋板の周縁に低い段をめぐらして、側板を結合した樺皮結合曲物A。3101は周縁に鋭角の低い段をめぐらし、2個所に樺皮結合の痕跡をとどめる蓋板片。結合孔に樺紐と木釘がのこる。復原径18.8cm、厚1.0cm。奈良県和田廃寺遺物包含層出土。7世紀。水漬。奈文研保管。3102は蓋板の縁ぞいに浅い溝をほりこんで側板を結合する。側板の綴合せは2個所で行い、2列前下外上内1段後上外下内1段綴じと1列下外上内1段綴じである。蓋板の結合孔は円周を均分する4個所にあり、樺皮紐と木釘で結合する。木釘は蓋板上面の内側結合孔から側板まで斜めに打込んで、樺皮紐のゆるみをとめている。径19.2cm、高3.0cm。藤原宮6AJA区SD170出土。694年~709年。水漬。榎考研保管。3103は蓋板周縁に直角の低い段をめぐらす。側板の綴合せは1個所で、2列前外1段後上外下内1段綴じである。蓋板の結合孔は円周を均分する4個所にあり、樺皮紐と木釘で結合。径19.1cm、高3.7cm。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3104は蓋板の破片、周縁に鋭角の低い段がある。厚0.7cm。藤原京左京七条一坊二坪SE2270出土。694年~709年。水漬。奈文研保管。3105は蓋板周縁に直角の低い段めぐらす。側板の綴合せは2個所で行い、2列前外4段後上外下内1段綴じと1列下外上内3段綴じである。蓋板の結合孔は3個所にあり、樺皮紐と木釘を用いる。1対の結合孔は蓋上面から低い段をはずした内寄りにあけるが、外側の孔は低い段に向かって斜めにあけている。木釘は内側の孔の上面から打込み樺皮紐のたるみをとめている。径19.9cm、高4.9cm。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

3106~3116 蓋板の周縁に低い段をめぐらさない樺皮結合曲物B。3106は側板を欠く。蓋板の円周を4等分して結合孔を配置する。使用途中に割れたらしく、中央部の2個所に補修孔

がある。径 19.6 cm, 厚 0.6 cm。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3107, 側板の綴合せは2個所で行い, 2列前下外上内1段後内1段綴じと1列内1段綴じである。結合孔は円周に対して4個所不均等にあける。径 19.9 cm, 高 2.4 cm。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。3108, 側板ののこりがわるく綴合せ個所不明。蓋板内面に側板位置を決める針書き刻線がめぐる。結合孔は4個所均等に配されている。径 19.7 cm, 高 2.7 cm。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。奈文研保管。3109, 側板の綴合せは1個所2列しかのこらず, 2列前下外上内1段後内1段綴じである。蓋板内面に針書き刻線がまわり, それにそって結合孔が5個所に均等に配置されている。径 20.5 cm, 高 2.9 cm。平城宮6AAG区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。3110, 側板の綴合せは2個所, 2列前内2段後内1段綴じと2列前上外下内1段後内1段綴じである。結合孔は4個所で不均等に配する。径 19.4 cm, 高 6.0 cm。長岡京左京二条二坊六町 SD 1502出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。3111, 側板の綴合せは1個所, 1列外3段綴じである。蓋板内面に刻線がめぐり, それにしたがってほぼ均等に4個所の結合孔がある。径 16.9 cm, 高 5.4 cm。平城京左京一条三坊 SD650 出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3112, 側板を欠く蓋板の破片。3個所に結合孔があり樺皮をとどめる。径 17.5 cm, 厚 0.6 cm。和歌山県野田地区遺跡SD07出土。9世紀前葉。アルコール・エーテル法処理済。和歌山県教委保管。3113, 蓋板の破片で, 2個所に結合孔をとどめる。内面に刃痕が無数につくが, これは破損後につけられたようである。径 39.8 cm, 厚 1.0 cm。アルコール・エーテル法処理済。3114, 蓋板の破片で, 1個所に結合孔をとどめる。復原径 18.4 cm, 厚 0.4 cm。水漬。以上, 平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。京都市埋文研保管。3115, 側板を欠く。蓋板の中心に1孔をあけ, 外縁を薄くし, 5個所の結合孔を均等に配する。径 14.5 cm, 厚 0.6 cm。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3116, 蓋板の破片。保存が悪く不確実だが, 楕円形になる可能性がある。2個所に結合孔をとどめる。復原径 16.4 cm, 厚 0.4 cm。平城宮6AAO区SK2101出土。750年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3201~3205 釘結合曲物のうち高さ 2.5 cm 内外のものである。木皿風に用いたのであろう。3201, 側板の綴合せは1個所で, 1列外2段綴じである。結合木針は3個所で不均等に配する。径 11.4 cm, 高 2.1 cm。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3202, 側板の綴合せは2個所, 2列前外2段後内1段綴じと1列内2段綴じである。径 15.0 cm, 高 2.0 cm。平城宮6ADI区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。3203, 側板の綴合せ2個所, 2列前外2段後上外下内2段綴じと1列下外上内2段綴じ。結合孔は6個所, ほぼ均等に配する。底部外面に針書き刻線が多い。径 17.3 cm, 高 2.4 cm。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3204, 側板の綴合せ1個所, 1列上外下内2段綴じである。結合孔は5個所, ほぼ均等に配する。径 17.5 cm, 高 2.6 cm。平城宮6AAC区SD3035出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。3205, 側板の綴合せ1個所, 1列外3段綴じである。結合孔は5個所, ほぼ均等に配する。径 18.6 cm, 高 2.2 cm。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

3206 側板だけがのこる。綴合せ1個所, 1列外2段綴じである。木釘孔が14個所, およそ上下2段にあけており, 底板を補修した可能性がある。径 22.2 cm, 高 3.4 cm。平城京右京五条四坊三坪SE20出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。



fig. 34 携帯用曲物 『餓鬼草子』



fig. 35 曲物の飯桶
1・2:『春日権現験記』
3:『一遍上人絵伝』

3207 側板の下部にもう1重の^{たが}箍をはめた釘結合曲物。箍の綴合せ不明。側板の綴合せ1個所、1列上外下内2段綴じである。結合孔は箍のうえからあけ、4個所。径10.4cm、高3.8cm。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

3208~3210 箍つき釘結合曲物のうち、高さ5.5cm内外のもので、箍をはめるものがある。3208, 箍の綴合せは2個所だが、1列外2段綴じと2列前内1段後内1段綴じを1本の樺皮でつないで綴じる。側板は内面に斜平行線のケビキをいれて曲げる。綴合せは2個所で、2列前外4段後内1段綴じと2列前内1段後内1段綴じであり、端の綴紐にそって綴目の位置をきめた刻線がある。箍に角孔をあけ2個所で底板を結合するが、側板からの木釘数は不明。径18.6cm、高5.8cm。京都府大藪遺跡ND83-4-F-11流路出土。9世紀前半。水漬。京都市埋文研保管。3209, 箍の綴合せは1個所で、2列前内1段後下外上内2段綴じである。側板の綴合せは1個所で、2列前外4段後内1段綴じ。また綴紐とは別に側板に樺皮を1段とおしている。径14.5cm、高5.5cm。平城宮6ABB区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。3210, 箍の綴合せは1個所、1列内1段綴じ。側板の綴合せは1個所、2列前上外下内3段後下外上内3段綴じである。結合孔は7個所で、ほぼ均等にめぐる。底板の内外面に無数の刃痕がつく。内面全体に柿渋様の黒塗りをほどこす。径20.7cm、高5.3cm。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3211~3213・3215・3216 釘結合曲物で高さ6.0cm内外のもの。箍のつくものとつかないものがある。3211, 側板の綴合せは2個所、2列前外4段後内1段綴じと1列内2段綴じであり、内面に斜格子のケビキをいれる。結合孔は4個所で、底板の中央に1対の結合孔をあけ樺皮をとどめる。中央の結合孔をはさんで、それぞれ1対の木釘孔(1孔には内から木釘がのこる)がある。杓子柄か蓋の把手をつけたのであろうか。径13.5cm、高5.9cm。奈良県布留遺跡FM20b2区出土。8世紀後葉~9世紀前葉。アルコール・エーテル法処理済。天理教調査団保管。3212, 側板の綴合せは1個所、2列前上外下内3段後内1段で、重複部分の内面のみに斜格子のケビキをいれる。外面の綴合せ部に端の位置をきめた刻線がある。結合釘穴は6個所、不均等に配する。径16.6cm、高5.9cm。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3213, 側板の綴合せは1個所、1列外4段綴じであり、内面に縦平行線のケビキをいれる。結合釘孔は5個所、ほぼ均等にめぐる。径18.0cm、高6.3cm。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。3215, 内面に漆が付着しており、漆塗り用の曲物。側板の綴合せは1個所、1列外3段綴じであり、重複部分の内面のみに斜平行線のケビキをいれる。結合釘孔は5個所、ほぼ均等にめぐる。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。径17.8cm、高6.4cm。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。3216, 箍がつく。箍の綴合せは2個所で行い、1列外2段綴じと1列内1段綴じの樺皮紐とを連続している。側板の綴合せは2個所、1列下外上内2段綴じと1列内2段綴じである。結合釘穴は4個所で、ほぼ均等にめぐる。底の内面に刃痕がつく。径21.4cm、高6.4cm。兵庫県上原田遺跡SE02出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。兵庫県教委保管。

3214・3217・3218・3301 釘結合曲物の高さ7cm内外のもの。3214, 側板の綴合せは1個所、1列外3段綴じであり、重複部の内面に斜平行線のケビキをいれる。結合釘孔は5個所、ほぼ均等に配する。内面に厚く漆が付着している。径17.1cm、高6.8cm。平城京左京一条三坊十五坪SE495出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3217, 側板の綴合せは1個所、2列前上外下内3段後内1段綴じで、重複部分の内側に縦平行線のケビキを行う。結

合釘孔は6個所、ほぼ均等に配する。内面は柿渋を塗ったような黒色を呈する。径17.5 cm, 高 7.0 cm。平城宮6ADD区SB5955出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3218, 側板の綴合せは1個所, 2列前外7段後内2段綴じであり, 内面の全面に縦平行線のケビキをほどこす。結合孔は7個所, 不均等に配している。底板の内外面に刃痕がつく。径 22.0 cm, 高 7.2 cm。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。3301, 底板を欠く。側板の綴合せは1個所, 1列外3段綴じであり, 内面に斜格子のケビキをいれている。結合釘孔は7個所, 不均等に配する。径 12.3 cm, 高 0.8 cm。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。

3302～3305 釘結合曲物で高さ10.0cm内外のもの。3302, 底板を欠いているが箍をとどめる。箍の綴合せは2個所, 1列外2段綴じと1列内1段綴じとを1本の樺皮で連続して綴じている。側板の綴合せは2個所, 2列前上外下内5段後内4段綴じと1列上外下内4段綴じで, 内面に斜格子のケビキをいれる。側板からの結合釘孔は2個所とおもわれる。箍からの結合釘孔は6個所, ほぼ均等にめぐる。内面全体に黒い柿渋状の塗装を行う。径 14.7 cm, 高 10.0 cm。平城京右京五条四坊三坪 SE20 埋土出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。3303, 側板の綴合せは1個所, 1列外7段綴じである。内面に縦平行線のケビキをほどこす。底板との結合釘孔は4個所, 不均等に配する。口縁部にも釘孔がある。径 17.4 cm, 高 10.5 cm。滋賀県針江北遺跡SK10出土。9世紀後半～10世紀前半。水漬。滋賀県教委保管。3304, 底板を欠くが, 口縁部に箍をはめている。箍の綴合せは2個所, 2列前内3段後内1綴じと1列内2段綴じで, とくに側板との結合は行っていない。側板の綴合せは1個所, 1列外5段綴じで, 内面に斜格子のケビキをほどこす。結合釘孔は6個所, ほぼ均等にめぐる。使用時に側板にひび破れが生じたらしく, ひび割れにそう6個所で, 上下ともに数個の切目を矢印状にいれて補修を行うが, 補修の樺皮紐などはのこっていない。径 22.2 cm, 高9.5 cm。平城宮6ADF区SE1596出土。11世紀～12世紀。水漬。奈文研保管。3305, 補修をうけた曲物。側板を2重にめぐらす, 外周の側板は内周の側板と箍との間に挿込み, 内周の側板とはとくに綴合せていない。内周側板の綴合せは1個所, 1列下外上内3段綴じで, 内面に斜格子のケビキをほどこす。箍の綴合せ不明。底板との結合孔は, 補修以前のもの, 内側板を結合するもの, 箍を結合するものの3種あり, 最終的な箍からの結合釘孔は不均等に13個所めぐっている。径 24.3 cm, 高 10.6 cm。平城宮6AAC区SE2600出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

3306・3308～3311・3401・3402 釘結合曲物で高さ13～15 cm 前後のもの。箍をはめるものとはめないものがある。3306, 側板の綴合せは1個所, 2列前外7段後内1段。箍の綴合せは2個所, 1列内1段綴じと1列上外1段綴じである。底板との結合孔は9個所, いずれも箍から打込んだ木釘でとめる。内面全体に黒漆をかける。径 24.4 cm, 高 13.1 cm。平城宮6ADC区SE6166出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3308, 側板の綴合せは1個所, 2列前上外下内4段後内1段綴じで, 内面に斜格子のケビキをいれる。箍の綴合せ1個所, 2列前外2段後内1段綴じ。底板との結合が箍から不均等に打込む16本の木釘で行う。径 29.5 cm, 高 14.3 cm。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3309, 側板を2重に綴合せたもの。内周の側板の綴合せは1個所, 2列前外5段後内3段綴じで, 内面に縦平行線のケビキをいれる。外周の側板は上下2枚にわかれている。破損しているが, 上下外側板とも2列前外3段後内2段綴じで綴合せたようである。底板との結合は外周下段の側板から12本の木釘を不均等に打込んで行う。径 19.8 cm, 高 13.9 cm。



fig. 36 糸紡ぎ・野菜摘み・野菜売り

1;『春日権現験記』

2;『信貴山絵巻』

3;『直幹申文絵詞』

平安京西市跡 ND73-1-I-51 SE03出土。9世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。3310, 箍をはめる。箍の綴合せは1個所, 前外3段中内1段後内1段綴じ。側板の綴合せは1個所, 1列上外下内9段綴じだが, これとは別に1列内2段綴じがある。後者は樺皮の幅が広く外面でゆとりをもたせて綴合せているので1種の把手だろう。側板の内面には縦平行線のケビキをいれ, 部分的に斜平行線のケビキをくわえる。底板と結合する木釘は6個所, ほぼ等間隔に配する。径 15.8 cm, 高 13.8 cm。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3311, 側板の綴合せは1個所, 2列前外7段後内5段綴じで, 内面に斜格子のケビキをいれる。底板と結合する木釘は4個所, 不均等に配する。径 15.9 cm, 高 14.8 cm。平城宮6ALR区SD3236出土。775年頃。水漬。奈文研保管。3401, 側板の上下に箍をはめる。箍は上下とも幅広で, ともに綴合せ2個所, 1列外3段綴じと1列内1段綴じである。側板の綴合せは1個所, 2列前内3段後下外上内4段綴じで, 内面に縦平行線のケビキをいれている。底板を結合する木釘は6個所, ほぼ均等に配する。径 21.0 cm, 高 15.9 cm。平安京西市跡ND74-1-I-51 SE03出土。9世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。3402, 側板の上下に箍をはめる。上箍はとくに樺皮で綴合せず, 4個所から木釘を打込んで側板に固定。下箍は1列外3段綴じである。側板の綴合せは1個所, 2列前上外下内4段後内3段綴じである。下の箍の下部に上下2段の木釘孔27があり, 箍から底板を釘どめしたのが, 当初のものと補修時のものとがのこったもののようである。内面全体に柿渋が付着しているようである。径 20.4 cm, 高 14.0 cm。平城宮6ADD区SE7110出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3307・3403~3414 釘結合曲物で径 25 cm, 高 20.0 cm 以上のもので, 原則として箍をはめている。多くは井戸の俗に目玉とよばれる下枠あるいは井戸枠に転用されたもので, 底板をぬいている。3307, 側板の綴合せは1個所, 1列上外下内9段綴じのようであり, 綴合せ位置をきめた刻線がある。側板内面に斜格子のケビキをいれ, 黒漆を薄くかけている。底板は欠損し, 木釘数不明。径 25.0 cm, 高 20.0 cm。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3403, 側板の綴合せは1個所, 2列前内4段後内2段綴じで, 内面に斜格子のケビキをいれる。底板を欠くが側板の下縁に11個所の木釘孔がある。径 36.0 cm, 高 20.0 cm。滋賀県針江北遺跡SE01出土。9世紀後葉~10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。3404, 下縁に箍がつくが, 底板は井戸枠に転用したために除去されている。箍は1列内2段綴じ。側板の綴合せは1個所で, 2列前外7段後内2段綴じであり, 内面に縦平行線のケビキをいれる。径 42.8 cm, 高 20.7 cm。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。3405, 上下縁に箍をはめる。井戸枠に転用したため, 底板を除いている。側板の綴合せは1個所で, 2列前上4段後下4段綴じであり, 内面に縦平行線と斜格子のケビキをいれる。上箍は4個所で側板に木釘どめにし, 下箍は19個所で木釘を打込んで底板と結合する。径 37.0 cm, 高 20.8 cm。大阪府郡家今城遺跡SE06出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。3406, 上下縁に箍をはめる。上箍は1列外2段綴じであり, 4個所から木釘を打込んで側板に結合する。下箍は内1段綴じで, 5個所から木釘を打込んで底板に結合している。側板の綴合せは1個所で, 2列前上外下内5段後内6段綴じであり, 内面に縦平行線のケビキをいれる。内径 29.6 cm, 高 23.3 cm。平城京左京三条二坊十五坪SE967出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。3407, 上下縁に箍をはめる。上下の箍はともに1列外3段綴じで綴合せ, 上箍に7個所, 下箍に10個所の木釘孔がある。側板の綴合せは1個所, 2列前上外下内5段後内3段綴じで, 内面に縦平行線と斜平行線のケビキをいれる。井戸に転用したので底板を



fig. 37 水桶
1・2;『春日権現験記』
3;『信貴山縁起』

ぬいている。径 37.6 cm, 高 23.8 cm。藤原宮6AJK区SE3442出土。8世紀。水漬。奈文研保管。3408, 上下縁に箍をはめた押圧痕跡をとどめる。側板の綴合せは1個所, 1列内7段綴じに推測できる。上縁に7個, 下縁に4個の釘孔がある。井戸の下枠に転用。径 36.8 cm, 高 26.3 cm。平城宮6ABB区SE551出土。9世紀か。水漬。奈文研保管。3409, 下縁に箍をはめた押圧痕跡がある。側板の綴合せは1個所, 2列前内3段以上後内3段以上の綴じであり, 内面に縦平行線と斜平行線のケビキをいれる。下縁に木釘孔があるが, 井戸に用いたため底板をぬいている。径 41.8 cm, 高 28.6 cm。長岡京左京四条二坊九町SE2714出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。3410, 一方の縁を欠いており, 図で下縁にするのが上縁になる可能性がある。側板の綴合せは1列外12段綴じであり, 内面に縦平行線のケビキをいれる。径 39.5 cm, 現存高 37.5 cm。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。3411, 上部を欠損し側板の綴合せ方法は不明。側板の内面に縦平行線と斜格子のケビキをいれる。下縁に箍がのこり, その綴合せが2列外3段綴じと1列内1段綴じであったことがうかがわれる。また, 箍から打込んだ木釘孔が存在する。径 57.5 cm, 現存高 13.8 cm。長岡京左京四条二坊九町SE2708出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。3412, 上下に箍をはめる。箍の綴合せは, とともに2個所にあり, 2列前外2段後内1段綴じと1列内2段綴じである。側板の綴合せは1個所, 1列外8段綴じで, 内面に縦平行線と斜平行線のケビキをいれる。下の箍に底板を結合した木釘がのこる。径 43.4 cm, 高 30.0 cm。奈良県纏向遺跡井戸14出土。11世紀後半。水漬。榎考研保管。3413, 上下縁に箍をはめる。上下の箍はともに2個所で綴合せ, 1列外3段綴じと1列内1段綴じである。側板の綴合せは1個所, 2列前上外下内7段後内6段綴じで, 内面に縦平行線と斜平行線のケビキをいれる。上箍に8個所, 下箍に12個所の木釘孔があり, 下縁に底板がはめられていたことがわかるとともに, 側板内面に底板の押圧痕跡をとどめる。径 47.5 cm, 高 37.2 cm。平城京左京五条一坊四坪SE1081出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。3414, 4段の箍で強化し, 側板と箍の間に3個所に板の添木を挿入している。箍の綴合せはいずれも2個所で, 2列前内3段後内1段綴じと1列内2段綴じである。側板の綴合せは1個所, 1列内8段綴じで, 内面に縦平行線と斜平行線のケビキをいれる。最下段の箍に24個所にわたる木釘孔があり, 底板をはめたことがわかる。井戸枠に転用。径 47.3 cm, 高 37.0 cm。奈良県纏向遺跡井戸3出土。11世紀後半。水漬。榎考研保管。

D 曲物柄杓 (3501~3509) まげもののひしゃく

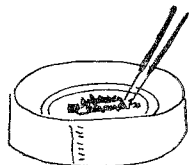
円形曲物を身にして棒状の柄をとりつけたもの。身はいずれも釘結合の曲物。発見例は比較的少ないが, 大小さまざまな形態をとる。

3501・3507 同一個体の身と柄。身の側板の綴合せは2個所, 1列外8段綴じと1列内3段綴じであり, 内面に縦平行線のケビキをいれる。側板重合せ部分の上寄りに方孔をあけ柄孔にするが, 柄の先端を挿入する孔は貫通していない。身の下縁に箍をつける。箍の綴合せは2個所, 1列内2段綴じと1列内1段綴じで, 外面で両者をつなぐ。底板との結合は, 箍の外面から4個所に打込んだ木釘によって行う。柄はヒノキの割材からつくる扁平な細棒で基部の先端をとがらせ, 側板内側の位置に孔をあけ木釘を打込んで身に固定する。身径 14.6 cm, 同高 13.1 cm, 柄長 65.8 cm, 同幅 2.0 cm, 同厚 1.2 cm。平城宮6ABO区SE311B出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

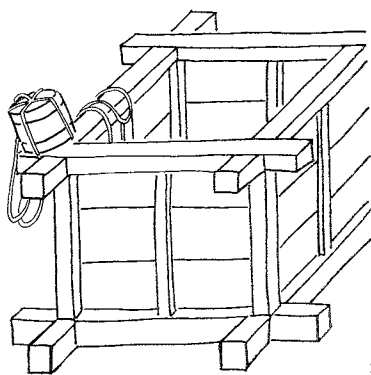
3502 曲物の身のみをとどめる。側板の綴合せは1個所, 1列外6段綴じで, 内面に縦平行



1



2



3

fig 38 酒売り・火桶・釣瓶

1;『長谷雄草紙』

2・3;『春日権現験記』

線のケビキをいれる。側板の対応位置に長方形の柄孔をあけるが、上寄りの孔が大きく中位の孔が小さい。底板との結合は6個所から打込んだ木釘によって行う。径15.5 cm, 高11.6 cm。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3503 身のみをとどめる。側板の綴合せは1個所、2列前上外下内5段後内3段綴じで、対応位置に長方形円形の柄孔をあけるが、一方は大きくて上寄りにあり、他の一方は小さく中位にある。側板外面の中位に朱塗の線が半周している。底板との結合は4個所から木釘を打込んで行う。径15.6 cm, 高14.5 cm, 平城京左京三条二坊十坪SE877出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3504 曲物の身のみをとどめる。側板の綴合せは1個所、2列前上外下内4段後下外上内4段綴じで、内面に斜格子のケビキをいれる。底板を欠損しているため、側板との結合方法は不明。側板の口縁部に箍をはめる。箍の綴合せは1個所、2列前外2段後内1段綴じであり、3個所から木釘を打込んで側板に固定。柄孔はともに方形を呈するが、口縁の箍からあけたほうが大きく、側板の中位にあけた孔が小さい。径23.0 cm, 高12.5 cm。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。

3505 曲物の身のみをとどめる。側板の綴合せは1個所、2列前上外下内4段後内3段綴じで、内面に縦平行線のケビキをいれる。柄孔は長方形と円形で、前者は大きく上寄りにあけ後者は小さく中位からわずかに下にあけている。側板との結合は4個所から打込んだ木釘によって行う。なお内面全体に柿渋を塗っている。径14.6 cm, 高12.9 cm。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

3506 身の側板と箍の破片から復原したもの。側板の綴合せは1個所、1列上外下内2段綴じであり、内面に縦平行線のケビキをいれる。箍の綴合せおよび底板との結合法不明。箍の中位と上寄りに円形の柄孔があり、それによって底寄りのほぼ水平に位置に柄を着装したことがわかる。復原径12.6 cm, 高6.1 cm。平城京右京五条四坊三坪SE20出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

3508 柄の断片。割材を偏平な細棒に加工したもの。柄の先端をとがらし、身の側板内側にあたる部分に釘孔をあけており、径12 cm内外の身につけられていたことがわかる。現存長29.2 cm, 幅2.0 cm, 厚1.2 cm。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

3509 柄の断片。割材を丸棒状に加工したもの。曲物の身にはめる部分を細く削り、先端をさらに細める。着装部分の先端と基部に身の側板にとりつけた痕跡をとどめる。現存長35.0 cm, 握部径1.0 cm。平城京左京三条四坊七坪SK1796出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

E 楕円形曲物 (3601~3609) だえんけいまげもの

樺皮紐結合曲物の1種で、楕円形の板に低い側板を結合したもので、一般に折敷^{おしき}とよばれるもの。板を底にして各種の品物をのせたものであり、蓋になる可能性は少ない。円形曲物の場合と同じく、底板の周縁に低い板をめぐらして側板を結合する樺皮紐結合曲物Aと段をつけない樺皮紐結合曲物Bとに大別でき、前者のほうが古い技法である。

3601 楕円形曲物の側板である。綴合せは1個所、2列前内1段後内1段綴じである。四隅の屈曲部内面に斜平行線のケビキをいれ、下縁に底板を結合した紐孔が8個所、ほぼ均等に配

されている。上縁を欠くが樺皮綴じから高さが推測できる。井戸の下枠に転用されていた。長径 69.4 cm, 短径 37.2 cm, 復原高 8.6 cm。平城京左京五条二坊十四坪SE02出土。8世紀中葉。凍結乾燥処理済。奈良市埋文保管。

3602 樺皮紐結合曲物B。一部を欠損するが全形をうかがうことは可能。側板の綴合せは1個所, 2列前内1段後内1段綴じである。側板と底板との結合樺皮はすべてのこり, 6個所で結合する。長径 22.6 cm, 復原短径 14.0 cm, 高 3.3 cm。兵庫県吉田南遺跡SD11出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。

3603・3604 ともに樺皮紐結合曲物Bの底板片。結合孔があり樺皮紐をとどめているものもある。3603; 結合位置をきめた刻線がある。現存長 24.4 cm, 現存幅 3.2 cm。平城京右京九条一坊四坪SD950出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。3604; 現存長 31.1 cm, 現存幅 3.0 cm。平城宮6ABX区SD1900出土。8世紀前葉。以上, 奈文研保管。

3605~3609 ともに樺皮紐結合曲物Aの底板片。いずれも大型品で, 修理したことをしめす結合孔をとどめるものがある。3605は二次的に転用され, 一部に切込みをいれたり, 紐孔や補修孔に目塞ぎの埋木を行う。現存長 44.5 cm, 現存幅 19.4 cm, 厚 1.4 cm。平城宮 6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3606は結合孔に樺皮紐をとどめる。現存長55.4 cm, 現存幅 5.9 cm, 厚 1.1 cm。藤原宮6AJE区SD105出土。694年~709年。水漬。橿考研保管。3607; 現存長 57.3 cm, 現存幅 10.4 cm, 厚1.1 cm。和歌山県野田地区遺跡SD07出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。3608・3609は同一個体の破片らしいが接合できない。表面に無数の刃痕をとどめる。長 67.4 cm, 幅 20.4 cm 以上, 厚 1.1 cm。滋賀県伊井永田遺跡遺物包含層。8世紀中葉。水漬・自然乾燥。今津町教委保管。

F 長方形曲物 (3601~3612・3710~3709) ちょうほうけいまげもの

長方形の底板に低い側板を結合したもの。つくり方は基本的には楕円形曲物とかわらず, 樺皮結合曲物A・Bの別がある。いわゆる折敷・折櫃とよばれるもの。

3610 完形の樺皮紐結合曲物Bである。側板の綴合せ1個所, 2列前上外下内2段後内1段綴じである。内面四隅に深い斜格子のケビキをいれる。各辺の中央および四隅の計8個所に結合孔をあけ, 底板の一对の孔とを樺皮紐で結合。底板は2枚の板を矧合せる。長 35.1 cm, 幅 28.6 cm, 高 10.4 cm。平城宮6AAB区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

3611 樺皮紐結合曲物Aの底板片。結合孔と樺皮紐をとどめる。現存長 36.0 cm, 現存幅 9.1 cm, 厚 0.9 cm。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

3612 樺皮紐結合曲物Bの底板片。結合孔と樺皮紐をとどめ, 矧合せの結合孔が2個所にある。長 36.4 cm, 現存幅 18.5 cm, 厚 0.7 cm。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9世紀。水漬。兵庫県教委保管。

3701・3702 側板のほぼ完形品。樺皮紐による綴合せは, 側板端の上下縁にV字形の切欠きをいれるにとどまり, 綴目をあけていない。内面の四隅に縦平行線のケビキをいれるが, 底板との結合孔を欠いている。底板を落とし込んだものか, 底板を結合する以前の未成品なのか不明。3702は側板を2重にし, 綴合せ部分では3重になる。3701; 長45.0 cm, 幅32.2 cm, 高4.2 cm。奈良県坂田寺跡SG100出土。7世紀中葉。水漬。奈文研保管。3702; 長 42.2 cm, 幅29.2 cm。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。

3703~3705 樺皮紐結合曲物Bの底板片。樺皮紐をとどめる結合孔がある。3703は側板と



fig. 39 長方形曲物
1;『春日権現験記』 2;『病草子』 3;『鳥獣戯画』 4・6;『粉河寺縁起』 5;『扇面古写経』

の結合は長辺で3個所、短辺で1個所のようなものである。現存長34.5cm、幅32.2cm、厚0.4cm。3704は側板との結合は各辺とも2個所、計8個所で行ったようである。長35.6cm、現存幅23.5cm、厚0.6cm。以上、平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。3705は2片にわかれる同一個体のようなのだが、接合できない。現存長30.0cm、現存幅26.3cm。奈良県和田廃寺跡SX100出土。13世紀。水漬。以上、奈文研保管。

3706 樺皮紐結合曲物Aの底板片。一対の側板結合孔の内側孔に外面から木釘を打込んでいる。礎板に転用されており、接合できないが、各辺2個所で結合したようである。復原長36.5cm、復原幅32.5cm、厚1.0cm。平城宮6AAG区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

3707 樺皮紐結合曲物Bの完形品。側板の綴合せは1個所、2列前上下内1段後内1段綴じ、内面の四隅に縦平行のケビキをいれる。底板は方形で、各辺2個所計8個所で樺皮紐結合を行っている。一辺長32.2cm、高3.3cm。平城宮6ABO区SE311B出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3708・3709 樺皮紐結合曲物Bの底板片。結合孔と樺皮紐がのこる。3708；長58.4cm、現存幅11.3cm、厚0.7cm。和歌山県野田地区遺跡SD06出土。9世紀後半～10世紀前半。アルコール・エーテル法処理済。和歌山県教委保管。3709；長52.4cm、現存幅11.3cm。平城京左京一条三坊SD650出土。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

G 把手・杵 (3801～3816) とって・わく

容器類の把手や杵に想定できるものがある。それらはすべて組合せ状態で発見されたものでなく、あくまでも推測の域にとどまる。

3801～3811 把手に想定しうるもの。細板の両端を出柄風に細めたもの、木釘孔や柄孔をあけたもの、中央部に挟りをいれたものなど、様々の形をとる。両端を手桶の支柱のような杵材に挿入したもののようなものである。いずれも粗製品。3801；長15.2cm、幅1.7cm、厚0.8cm。ヒノキ。3802；長16.2cm、幅1.8cm、厚0.8cm。ヒノキ。以上、藤原京右京七条一坊二坪SE2270出土。694年～709年。水漬。3803；長25.0cm、幅2.05cm、厚1.2cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SK3139出土。770年頃。P. E. G. 処理済。3804；長27.9cm、幅3.3cm、厚1.3cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。3805；長28.0cm、幅3.9cm、厚1.4cm。ヒノキ。平城宮6AAO区SK2101出土。750年頃。水漬。3806；長27.0cm、幅3.0cm、厚0.8cm。ヒノキか。平城宮6AAF区SK3139出土。770年頃。P. E. G. 処理済。3807；長29.0cm、幅3.3cm、厚1.0cm。ヒノキ。平城宮6AAO区SK2101出土。750年頃。水漬。3808；長23.6cm、幅4.3cm、厚0.9cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。3809；長28.0cm、幅3.4cm、厚2.3cm。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。以上、奈文研保管。3810；長35.5cm、現存幅3.5cm、厚1.1cm。樹種未同定。水漬。3811；長30.3cm、幅4.8cm、厚1.5cm。スギ。アルコール・エーテル法処理済。以上、長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。向日市教委保管。

3812・3813 具体的な根拠はないが、同形の部材を十字に組合せたものを2組つくり曲物の底と蓋におき、4方を紐などで固定する一種の杵木ではあるまいか。3812；長31.2cm、幅2.9cm、厚1.6cm。ヒノキ。平城宮6AAO区SE311B出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。3813；長52.0cm、幅8.0cm、厚1.3cm。ヒノキ。平城京6ABQ区SE9210出土。10世紀。P.

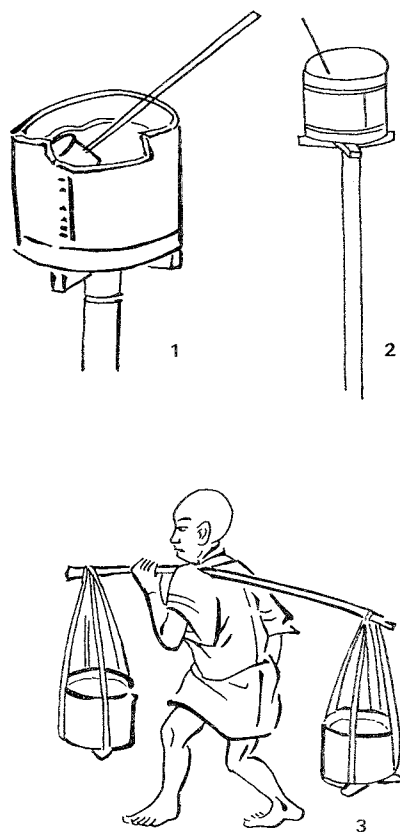


fig. 40 水桶の台
1；『病草子』
2・3；『法然上人絵伝』

E. G. 処理済。以上、奈文研保管。

3814 蔓巻の把手。甕形土師器にこの種の把手をつけたものがある。5～9本の蔓を心にしたうえからコイル状に巻いたもの。両端の構造不明。現状幅 33.5 cm, 高 16.0 cm, 径 2.0×1.4 cm。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。

3815 曲物容器の枠に想定するもの。2枚の長方形の材からなる。それぞれの両端に方孔をあけ、その内側上面に弧状の溝をほりこむ。この材を2枚中央で相欠きをいれて組合せ、中心に六角形の孔をあける。2枚の組合せの入隅部分にはあたかも紐でしばったために生じたような押圧痕跡があり、両端の方孔部分の上下面にも横方向に押圧痕跡がある。おそらく両端の溝のなかに箍をつけた曲物容器の側板をはめこみ、方孔に縦の杵木をはめこんで木栓でとめたものであろう。1本の長 28.3 cm, 幅 3.2 cm, 厚 1.7 cm。スギ。平城宮6ABO区SE311A出土。

8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

3816 3815と同様のもの。材の両端を出柄状につくり、相欠の中央に孔をあけていない点となる。同時に角材の両端に柄孔をあけたものが出土しており、これと組合さる可能性がよい(6824)。現存長 25.2 cm, 幅 2.7 cm, 厚 1.7 cm。アカガシ亜属。三重県下郡遺跡井戸出土。9世紀前半。上野市教委保管。

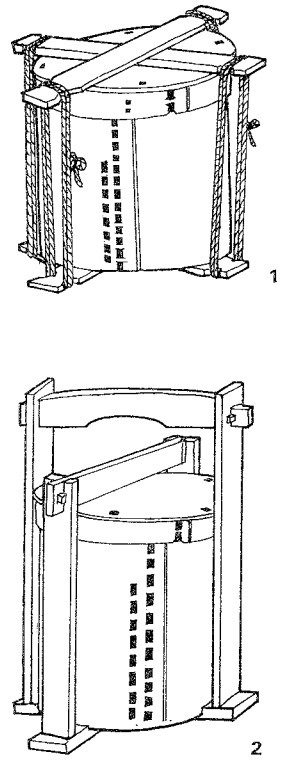


fig. 41 把手と枠の復原

H 蓋 板 (3901~3920・4001~4019・4025・4026・4032) ふたいた

土器類などの容器の蓋としてに用いたものに想定する。形態や大小はさまざまであり、概して粗製品である。

3901~3906 平面隅丸方形にかたどるもの。加工は周縁をととのえる程度にとどまり、表裏の区別はない。3901; 長 19.4 cm, 幅 19.0 cm, 厚 1.1 cm。スギ。3902; 長 18.3 cm, 幅 14.5 cm, 厚 1.5 cm。スギ。以上、平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。凍結乾燥処理済。3903; 長 18.6 cm, 幅 14.2 cm, 厚 1.3 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。3904; 長 18.0 cm, 幅 14.3 cm, 厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。以上、奈文研保管。3905; 長 15.2 cm, 現存幅 6.9 cm, 厚 0.5 cm。スギ。和歌山県野田地区遺跡SD04出土。11世紀中葉。アルコール・エーテル法処理済。和歌山県教委保管。3906; 長 15.7 cm, 現存幅 5.6 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

3907~3920 円板状のもの。3912は唐草文風の文様を墨で描き、3918にも表裏に墨描き文様がある。3910・3913は曲物の底板を転用したもの。3914は片面を甲高にととのえて、表裏の区別をつけたようである。3907; 径 20.5 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。P. E. G. 処理済。3908; 径 17.7 cm, 厚 0.9 cm。スギ。真空凍結乾燥処理済。以上、平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。奈文研保管。3909; 径 17.6 cm, 厚 0.5 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。3910; 径 15.8 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3911; 径 16.2 cm, 厚 0.8 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。3912; 現存径 15.6 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3050出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。3913; 径 13.5 cm, 厚 0.7 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。3914; 径 11.1 cm, 厚 1.0 cm。樹種未同定。藤原宮6AJE区SD105出土。694年~709年。水漬。榎考研保管。

3915；径10.9 cm，厚 1.6 cm。クスノキ。平城京右京九条一坊四坪SD950出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。3916；径 9.4 cm，厚 0.5 cm。樹種未同定。3917；径 9.0 cm，厚0.7 cm。ヒノキ。以上，長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。3918；現存径 7.0 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。藤原宮6AJK区SD260出土。694年～709年。水漬。奈文研保管。3919；径 6.4 cm，厚 0.4 cm。樹種未同定。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。3920；径 6.4 cm，厚 1.3 cm。スギ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

4001～4004 円板の中央にやや大きめの円孔をあけたもの。4004が竹管を樺皮で固定していることからうかがわれるように，棒状のつまみを縛りつけたらしい紐孔をとどめる。4001～4003は轆轤挽きの皿を蓋に転用したもの。中央に孔をあけることから蒸器のサナに比定することも可能である。4001；現存径 17.4 cm，厚 0.6 cm。樹種未同定。京都府大蔵遺跡流路出土。8世紀後葉～9世紀。P. E. G. 処理済。山城資料館保管。4002；径 18.6 cm，厚 1.0 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4003；現存径 21.6 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。4004；径 15.8 cm，厚 0.8 cm。ヒノキ。奈良県白毫寺遺跡池1出土。8世紀後半。水漬。橿考研保管。

4005～4007 円板に1対ないしは2対の紐孔をあけたもの。紐ないしは棒材を固定して把手をつけたのであろうか。4005；径 15.5 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。4006；径 12.8 cm，厚 0.6 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。4007；径 5.5 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

4008～4017 円板の中心に孔をあけたもの。上面にを甲高にしたり(4009)，縁を薄く削込んだもの(4008・4010)があり，ときには上面に放射状の針書き刻線いれるもの(4011～4013)がある。円形曲物の底板を転用するものが多い。これも，樺皮紐などを孔にとおしてつまみにしたのであろう。一方，蒸器のサナにあてる説もある。4008；径 12.2 cm，厚 0.9 cm。樹種未同定。長岡宮7AN5地区SD3100出土。784年～794年。水漬。京都府教委保管。4009；現存径 16.9 cm，厚 1.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。4010；径 15.1 cm，厚 1.0 cm。アカガシ亜属。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。4011；裏面に墨書の文字があるがよめず。径 16.5 cm，厚 0.95 cm。樹種未同定。平城宮6AAI区SD3410出土。8世紀後半。水漬。4012；現存径 15.2 cm，厚 1.1 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。4013；現存径16.8 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54A区第5層出土。9世紀中葉。水漬。京都市埋文研保管。4014；径 16.4 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。4015；径 14.4 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊九坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。水漬。以上，奈文研保管。4016；径 9.9 cm，厚 0.9 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54B区SK15出土。9世紀前半。水漬。京都市埋文研保管。4017；径 9.5 cm，厚 1.2 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

4018 轆轤挽きの蓋で，つまみを欠損したものにあてる。小型高杯の台脚にあてことも可

能。上面に轆轤目がよくのこり、内面に轆轤の爪痕をとどめる。径 5.4 cm, 現存高 1.6 cm。

ヒノキ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。奈文研保管。

4019 楕円形で上面を甲高につくる蓋。下半部は径をせまくして、容器の本体にはめこむようにつくる。長径 7.6 cm, 短径 6.6 cm, 高 2.02 cm。スギ。平城宮6ALF区SD5780出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

4032 楕円形の板片。一応、置蓋にあてる。長径 5.2 cm, 短径 3.5 cm, 厚 0.9 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

4025・4026 柱状ないしは円板の内面に刳込みをいれたもの。4025は柱状材の一木口から轆轤挽きで円筒形の刳込みをいれ他の木口面に轆轤の爪をとどめる。4026は断面V字形の圈状の刳込みをいれる。ともに、一種のかぶせ蓋に想定しておく。4025; 径8.7 cm, 高6.0 cm。ヒノキ。平安京西寺跡ND74-3-E-34 SE01出土。9世紀前半。水漬。京都市埋文研保管。4026; 径17.8 cm, 厚 1.2 cm。スギ。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

I 栓 (4020～4024・4027～4031) セ ン

壺や瓶の栓にあてうるもの。轆轤で挽くものもある。

4020～4022 棒材の一端ないしは半分を細くする。瓶などの栓にあてる。4020; 長10.7 cm, 上部径 3.2 cm, 下部径 2.1 cm。スギ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。4021; 現存長 12.9 cm, 上部径 2.3 cm, 下部径 1.3 cm。ヒノキか。平城宮6AAE区SD3410出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。4022; 現存長 7.2 cm, 上部径 1.9 cm, 下部径1.2 cm。広葉樹。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。以上、奈文研保管。

4023・4024 轆轤挽きで断面が台形の円板をかたどる。栓の一種に想定しておく。4023; 径6.4 cm, 厚 3.1 cm。4024; 径 6.3 cm, 厚 2.5 cm。以上、マツ属。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。向日市教委保管。

4027～4031 割材を円柱状に加工し、一端の木口面を轆轤挽きし、中心に乳頭状の突起をつくる。栓の一種に想定している。しかし、轆轤挽きが下部におよんでいないことから、轆轤挽きで生じた屑の可能性もある。4027; 高 4.2 cm, 径 4.0 cm。サカキ。4028; 高 4.2 cm, 径 4.0 cm。サクラ科。以上、平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。4030; 高 8.8 cm, 径 3.9 cm。樹種未同定。平城宮6AAG区SD3410出土。8世紀後半。4031; 高 9.0 cm, 径 4.0 cm, サカキ。平城宮6AAO区SK870出土。8世紀後半。以上、P. E. G. 処理済。奈文研保管。4029; 高5.6 cm, 径 6.4 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。P. E. G. 処理済。向日市教委保管。

9 籠 編 物 (PL. 41)

竹などで編みあげた籠編物の出土例は決して少なくない。多くの場合は断片であり原形を知りうるものは多くない。一般に脆弱であることから、保管中に変形することもしばしばである。このほかに蓆・円座などの編物も出土しているが実測に耐えうるものは少ない。

4101 角皿形の籠。竹の表皮をとりさった竹条2本（各幅 0.4 cm）で編む。底部は2本寄せの四つ目編で方形にととのえ、四辺に割竹を配して竹条を巻きつけて固定し、一種の高台をな

* 小林行雄『古代の技術』p. 159～186
日本工芸技術協会『竹編組 デザイン資料』1967年

す。口縁部は底からの竹条で箆目編みし、6段を編む。縁の仕上げは明らかでないが、2本の竹条をあてがいそれを心にして底からの竹条を折曲げ、そのうえから2本の紐状のものを交差させて固定したもののようなものである。復原径 25.6 cm, 復原高 3.4 cm。藤原宮6AJE区SD105出土。694年～709年。水漬。橿考研保管。

4102 長方形の皿形の籠。底は幅 0.4 cmの带状にととのえたヤナギを用い、2本潜りの網代編みで長方形につくる。底の四辺にヤナギの小枝をあて竹条でとめる。口縁部は底からのびるヤナギの数を減し六ツ編みで4段に編みあげる。縁はヤナギ3本に底からのヤナギをからませて編む。底部径 42×13cm以上。藤原宮6AJE区SD105出土。694年～709年。水漬。橿考研保管。

4103 長楕円形の箆。竹条で底から口縁にかけて、2本潜り2本送りで箆目編みにする。ふちは矢筈巻きでととのえている。長径約 31 cm, 高 6 cm。藤原宮6AJE区SD105出土。694年～709年。水漬。橿考研保管。

4104 長方形の籠。幅 0.5 cmの表皮をとりさった竹条を用いる。底は2本寄せで、2本潜り2本送り二間網代に編み、底の四隅をわずかに突出さす。口縁部は竹条で編み3本潜り2本送りの網代編みである。縁は竹条を内に曲げ、樹皮を2段に巻きつけて固定。長 33.2 cm, 幅16.4cm, 高 5.2 cm。平城宮6ACU区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

4105～4107 六つ目編みの籠。4105は幅 0.4 cmの竹条を用いて小型の円筒形に編む。口縁は竹条を束ねて固定しているようである。径 10.0 cm, 高 25.0 cm。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。4106は幅 0.5 cmの竹条を二本寄せで編む。縁は竹条を束ねそのうえから樹皮を巻きつけて固定する。現存径 35.0 cm, 現存高 21 cm。平城宮 6AAF区SK3137出土。770年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4107は幅 0.7 cm程度の竹条で円筒形に編む。現状では円形の底部がのこる。底径約 21 cm。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。

4108 箕。幅 4～5 mmの竹条を緯にして幅 1.5～2 mm内外の竹条を「ござ目」で編む。縁の枠と「ござ目」編みとの結合法は、U字形にたわめた上下2本の枠木の間にござ目編みをはさみ込み、そのうえから樹皮を巻いて固定したものである。幅 83 cm, 長約 65.4 cm。滋賀県穴太遺跡遺物包含層出土。7世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

10 食 事 具 (P.L. 42・43)

食物の調理や食事をとるときに使う道具。刳物の匙およびそれに類するもののほかに、板片を削ってつくる粗い加工の匙形・杓子形木器もふくめた。また、板を小割りにしてつくった箸や搦粉木、俎にあてうるものもある。多くは形態がのちのものと類似することから、食事具にあてたまでで食事具以外の用途も当然考慮しなければならない。

A 刳 物 匙 (4201～4209) くりもののさじ

身の上面が受皿ふうになるものをあつめた。4201は瓢ひさどの杓、4206は汁杓子であるが、便宜上ここにいれる。柄と身からなり、柄を斜め上方に向けるものと水平につくるものがある。また、身の上面基部のみが曲面をなすものと、上面全体が曲面をなすものがある。4210以下の木器とことなり、基本的には広葉樹材を用いている。

4201 瓢の1方の側を大きく切りとって器の口縁部とし、さらに、萼部に孔をあけて木柄を

挿入して杓としたもの。杓部長径 12.8 cm, 高 9.0 cm, 口縁部長径 9.5 cm。ヒョウタン。平城宮6ABO区SE311B出土。9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

4202 身の半分をとどめるにすぎず, 柄は折損。身の平面形は長楕円形を呈し, 基端に柄の付根がわずかにのこる。一般の汁杓子とことなり, 柄に移行する頸部付近を襟状に高くするほかは, 身の中央部を厚くし周縁に向かって次第に薄くし, 外縁の鋭利な鋤先のようにつくる。削りによる整形後, トクサのようなもので磨研したようである。身部長 18.5 cm, 厚 1.1 cm。ツバキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

4203 身は長楕円形を呈し浅い弧面をなす。身の縁から水平に柄をつくりだすが, 二次的に切断されている。現存長 11.0 cm, 現存幅 2.2 cm。ヒノキ。平城宮6AAH区SD4951出土。8世紀後葉。奈文研保管。

4204 黒漆塗り匙。木葉形の身に 40度ほどの角度をもった共作りの柄がつく。柄の端は折損し, 身の先端も欠ける。大きさ, 形状ともに正倉院の佐波理匙によく似ている。現存長 8.9 cm, 幅 4.4 cm, 厚 0.66 cm。樹種未同定。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

4205 黒漆塗りの匙。柄は上半を欠き, 基部の折曲部をとどめる。柄と身の境ははっきりせず, 漸次身に移行する。身は卵形を呈し, 上面を弧面に削りぬく。整形が粗く削り痕跡を顕著にとどめるが, 全面に黒漆をかけている。現存長 17.0 cm, 幅 6.5 cm。ミズキ。京都府古殿遺跡DトレンチSD01出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

4206 樹皮つきの心持材でつくる縦木取りの汁杓子。柄は折損。身の平面形は楕円形。外面下半は刃幅の広い刃物で粗く面取りする。内面は幅の狭い丸鑿で丁寧に削る。柄の断面は方形。未完成品か。身部長 9.6 cm, 同幅約 6.0 cm, 同高 4.9 cm。イスノキ。平城京右京二条二坊十六坪SE540出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

4207 卵形の長円形を呈し上面を浅く窪めた身に柄をつくる。粗い整形。長 16.0 cm, 身部幅 3.2 cm。ヒノキ。藤原宮 6AJE 区 SD105 出土。694年～709 年。水漬。榎考研保管。

4208 細長い身の粗製匙。身の上面を浅く窪めるが, 先縁が欠損する。長 24.0 cm, 身部幅 2.7 cm, 同厚 1.4 cm。スギ。平城宮6ABR区 SK3784出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

4209 隅丸長方形に近い身に細い柄がつく。身の上面は丸鑿で削るが, 縁は立上らない。出土後, 火災のため著しく原形を損じたが写真から復原。復原長約 33.0 cm, 身幅 7.2 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

B 匙形木器 (4210～4229・4234～4244) さじがたもっき

小さな細板を削ってつくる匙形の木器。いずれも粗製品で顕著な使用痕がなく, 長期にわたって使用したものではなさそう。身の形態から 3 型式に区分できる。A 型式は身の先縁を一直線にするもの, B 型式は先縁を半円形にするもの, C 型式は身の先縁が半円形を呈するが身の幅が狭く長細いものである。

4210～4216 B 型式の匙形木器。先縁は半円形, 身の側縁から頸部に移る折曲点は稜角をなし撥形の頸部をつくる。頸部は次第に幅を狭めて真直ぐな柄に移行する。4210・4211 は精製品の部類にぞくし, 表面は平滑にし, 裏面はわずかに甲高にして先縁を薄くする。4210; 長 15.8 cm, 身幅 2.6 cm。4211; 長 15.7 cm, 身幅 3.6 cm。以上, ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。4212; 現存長 9.6 cm, 身幅 2.4 cm。

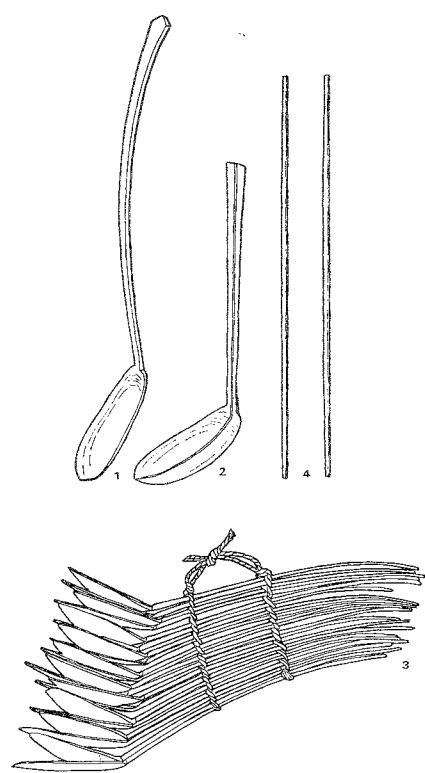


fig. 42 正倉院の食事具
1; 金銅匙 2; 佐波理匙 4; 金銅箸 (正倉院事務所『正倉院の金工』日本経済新聞社 1976年 図版97～99)

スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。4213；現存長 8.7 cm，身幅 2.5 cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD105出土。694年～709年。水漬。橿考研保管。4214；現存長 19.1 cm，身幅 3.5 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。奈文研保管。4215；長 18.6 cm，身幅 4.1 cm。アスナロか。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。4216；現存長 21.0 cm，身幅 4.2 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

4217～4229 A型式の匙形木器。細い板の一端を身とし，頸部から次第に幅を狭めて柄をつくり，仕上げは粗い。身の先縁は片刃の鑿状につくり，なかには切断が不十分で削りのこすものがある。身の両側縁はとくに整形せず割り面をのこすものが多い。身の両面とも平坦で表裏の区別がない。身に使用時の顕著な磨滅痕跡をとどめるものもあるが，身の先縁に刃物で切り目をいれたのち手で折りとった形跡のこすものがあり，一時的な使用に供されたもののようである。4222には漆が付着しており，漆塗りの筥として使われたことがわかる。4217；長22.2 cm，身幅 1.9 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。4218；長 9.0 cm，身幅 1.1 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。4219；長 14.4 cm，身幅 2.6 cm。コウヤマキ。平城宮6AAH区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。4220；長 11.6 cm，身幅 1.9 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。4221；現存長 6.9 cm，身幅 1.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。4222；現存長 11.8 cm，身幅 1.6 cm。樹種未同定。平城宮6ABR区SD3765付近出土。8世紀前葉。水漬。以上，奈文研保管。4223；長 14.7 cm，身幅 3.8 cm。ヒノキ。4224；現存長 11.7 cm，身幅 2.5 cm。ヒノキか。水漬。4225；長 18.1 cm，現存身幅 2.3 cm。スギ。アルコール・エーテル法処理済。以上，長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。向日市教委保管。4226；長 19.8 cm，身幅 2.6 cm。スギ。平城宮6ALF区SA9063出土。8世紀。P. E. G. 処理済。4227；現存長 20.2 cm，身幅 3.2 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。真空凍結乾燥処理済。4228；現存長 9.6 cm，身幅 2.0 cm。ヒノキ。藤原宮6AJB区SD170出土。694年～709年。水漬。以上，奈文研保管。4229；長 25.9 cm，身幅 5.0 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

4234～4244 C型式の匙形木器。身は扁平に削り先縁を柳葉形にとがらし，両側縁を薄くする。身と柄の境は不明瞭で，頸部の幅を次第に狭めて柄とする。4234；現存長 17.2 cm，身幅 3.8 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。4235；現存長 17.8 cm，身幅 3.6 cm。スギ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。4236；長 31.5 cm，身幅 3.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。4237；長 31.0 cm，身幅 4.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。4238；現存長 35.6 cm，身幅 3.1 cm。スギ。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。4239；現存長 32.7 cm，身幅 2.2 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。4240；長 32.9 cm，身幅 2.4 cm。スギ。4241；長 30.5 cm，身幅 2.0 cm。針葉樹。以上，京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。4242；長 22.3 cm，身幅 2.2 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出

土。694年～709年。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4243；現存長 23.3 cm，身幅 1.2 cm。スギ。4244；現存長 20.0 cm，身幅 1.2 cm。スギ。以上，京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

C 杓子形木器 (4230～4233・4301～4319) シャクしがたもつき

いわゆる「めししゃくし」に類似する形をとる。身の先縁を一直線につくるA型式と，先縁を半円形につくるB型式に大別しうる。A型式は大きさによって細分できる可能性があり，B型式は身が狭くて柄の長いもの(4301・4302)など明らかに攪拌用とおもわれるものを区別しなければならないが，いまのところ細分しない。

4230～4233・4301～4306・4309～4314 B型式の杓子形木器。身の周縁を薄くする。柄の長短，身が長くて幅狭のもの，身が短くて幅広のものなどに区分できるようであるが，ここでは細分しない。4230；長 24.0 cm，身幅 8.8 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。4231；長 23.4 cm，身幅 4.25 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。以上，奈文研保管。4232；長 26.3 cm，身幅 4.4 cm。ヒノキ。和歌山県野田地区遺跡SD04出土。11世紀中葉。アルコール・エーテル法処理済。和歌山県教委保管。4233；現存長 33.0 cm，身幅 5.2 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。4301；長 97.9 cm，身幅 5.0 cm。スギ。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。4302；長 43.3 cm，身幅 3.8 cm。スギ。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。4303；長 34.0 cm，身幅 4.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。8世紀後半。水漬。4304；長 29.2 cm，身幅 5.3 cm。スギ。平城宮6ACC区SD3825出土。8世紀後半。水漬。4305；長 29.7 cm，身幅 4.7 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SK219出土。762年頃。自然乾燥。4306；長 35.6 cm，身幅 6.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。8世紀後半。水漬。以上，奈文研保管。4309；長 35.4 cm，身幅 9.0 cm。スギ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。4310；長 27.3 cm，身幅 7.9 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4311；長 25.0 cm，身幅 6.5 cm。スギ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。4312；長 27.7 cm，身幅 6.25 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。4313；長 26.8 cm，身幅 8.3 cm。樹種未同定。京都府下畑遺跡SE01出土。12世紀～13世紀。水漬。京都府埋文保管。4314；長 21.6 cm，身幅 6.9 cm。スギ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

4307・4308・4315～4319 A型式の杓子形木器。一般には身幅が狭いが，4318・4319のような大型の器には身幅の広いものあり，用途もことなるとおもわれる。いずれも粗い加工である。4307；長 31.6 cm，身幅 5.8 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4308；現存長 17.5 cm，身幅 4.8 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。4315；現存長 48.7 cm，身幅 11.9 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SE1350出土。8世紀後葉。P. E. G. 処理済。4316；現存長 58.5 cm，現存身幅 14.5 cm。スギ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。4317；長 69.2 cm，身幅 14.9 cm。ヒノキ。平城宮

6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。4318；長 51.0 cm，身幅 25.2 cm。ヒノキ。4319；現存長 32.5 cm，現存身幅 17.4 cm。ヒノキ。以上，平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。

D 異形杓子 (4320) いけいしゃくし

4320 板材を杓子形にかたどったものだが，全体に厚さが均等で，先端に大きなU字形の刳込みをいれ二股につくる。フォーク状の形をとり，必ずしも食事具に限定できないがとりあえずここにおく。現存長 31.4 cm，現存身幅 8.3 cm。スギ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

E 箸 (4321~4326) はし

4321~4326 ヒノキないしはスギの木片を小割りにしたのち，棒状に整形したもの。細い丸棒に削るものであるが，削りはきわめて粗雑で本と末の区別はない。平城宮6AAB区SK820出土の完形品302本を計測したところによると，いずれも直径 0.5 cm内外で，最大の長さ24cmから最小の長さ 14 cm までのばらつきがある。うち長さ 22~17 cm の箸が全体の 80% を占める。なかでも，長さ 20~21 cm のものが最も多くこれが標準的な長さであったことがわかる。^{*} 使用の痕跡は明瞭でなく，製作の粗雑さを考慮すると，現代の割箸のように一時的に使用されすてられたもののようである。一方，箸の属性として「神の呪を達成する」という祭器としての役割りがあるという見方が提起されている。^{**} 4321；長 24.0 cm，径 0.6 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。4322；長19.0 cm，径0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。4323；長 21.3 cm，径 0.6 cm。樹種未同定。4324；長 21.5 cm，径 0.5 cm。樹種未同定。以上，平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。4325；長 21.1 cm，径 0.4 cm。樹種未同定。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。4326；長 25.0 cm，径 0.7 cm。樹種未同定。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀~13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

F 搗粉木 (4327~4329) すりこぎ

4327~4329 丸棒材の一木口面が凸レンズ状に搗りへっているものをあてた。4329は堅杵を転用した大型品だが，先端に紐で吊すための孔をあけ，全体に刃物痕が多くあるのでここにいれる。4327；現存長 21.6 cm，径 3.5 cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。水漬。4328；長 29.5 cm，径 2.7 cm。スギ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉~10世紀前葉。水漬。以上，滋賀県教委保管。4329；長 48.7 cm，径 8.1 cm。樹種未同定。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半。水漬。神戸市教委保管。

G 俎 (4330) まないた

厚い長方形の板に刃物痕のついたもの。長 24.6 cm，幅 17.0 cm，厚 3.2 cm。広葉樹。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。なお，専用の俎とは別に曲物の蓋板，底板，あるいは木皿などの表面に刃物痕をとどめるものも多く，それらが俎として常用あるいは転用されていたことがわかる。



fig. 43 搗粉木 『病草子』

* 『平城宮発掘調査報告Ⅶ』p. 120

** 益田勝美『古事記』古典を読む10 岩波書店 1984年 p. 13

11 文房具 (PL. 44)

文房具のうち、木製のものとして、算木・物指・版木・筆管・木印が確かめられる。ほかに、木簡・付札や題籤の類があるが、それらについては集録していない。

A 算 木 (4401~4404) さんぎ

角柱状の小木片の四面に木理を横断する刻線をそれぞれ1・2・3・4本、あるいは1・2・3・6本入れた計算用具。内山昭の研究によってわが国における改良型算木にあてられている。つまり、中国伝来の和算用算木ならば5本の算木を使うのであるが、改良型の場合(1~4本刻み)では刻みをいれない第2の算木を5としてもちいることによって1~9の数をあらわすことができるという^{*}。

4401 両木口を方錐形の原状にした寸詰まりの方柱の四面に、1本、2本、2本以上の刻線をいれる。1面が完全に欠損し、他の1面の半分が欠損しているが、大きさからみて1・2・3・4の刻線を刻んでいたのであろう。長2.05cm。径1.30cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD105出土。694年~709年。水漬。榎考研保管。

4402 面取りした角棒の両木口を方錐形にかたどり、四面に1・2・3・4本の刻線を刻む。長6.3cm、幅1.1cm、厚1.0cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SK3139出土。770年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

4403 角棒の両木口を方錐形にかたどり、四面に1・2・3・6本の刻線を刻む。長5.3cm、幅0.95cm、厚0.85cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

4404 小さな板切を利用。四面に1・2・3・4本の刻線を刻む。3個所に貫通する孔を錐であけているが、算木に加工する以前のものか。長3.85cm、幅0.7cm、厚0.46cm。ヒノキ。平城宮6ALG区SD5788出土。8世紀中葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

B 物 指 (4405~4411) ものさし

長さを計る用具。扁平な細板に刻線ないしは墨線で目盛りをうったもの。1分刻みの精巧なもの、5分刻みのもの、1寸刻みのものがある。時期によって尺の伸縮があろう。また、常用のものと一時の使用のため仮りにつくったものとの間には、当然精粗の差がある^{**}。

4405 扁平で細長い板に目盛りを刻む。表裏と1側面に黒漆塗りがのこっており、他の部材を転用したものとおもわれる。1側面と両端を欠損するが、目盛り間隔のわかる3個所では、2.85・2.87・2.88cmとなり、1寸刻みの尺であることがわかる。現存長14.7cm、現存幅2.3cm、厚1.2cm。ヒノキ。奈良県和田廃寺遺物包含層出土。7世紀。水漬。奈文研保管。

4406 細長い板の上面をやや甲高にして、両側に分刻みの目盛りをいれる。両側縁にそれぞれ2本の刻線を平行していれ、内側の線に5分目盛り刻線の頭をそろえ、外側の線に1分目盛り刻線の頭をそろえる。そして、寸刻みの刻線が両側縁を横断する。一端から5寸目の2本の5分目盛り線の間にコンパスで針描きした円を2個いれ、1尺目のところでは1分目盛り線と5分目盛り線との1個の円をいれている。1尺5分のところで折れているが、もとはもう少し長かったようである。表裏とも削り痕跡はなく磨研によって仕上げ、細い目盛りには墨をいれ

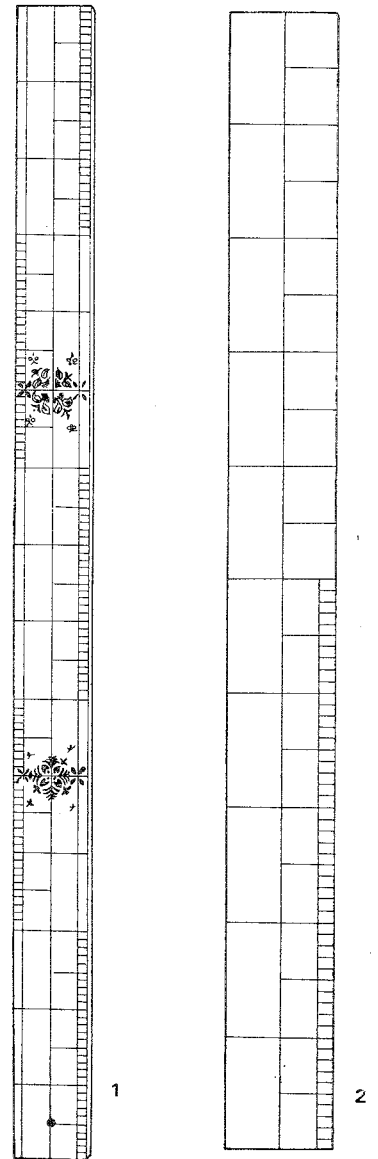


fig. 44 正倉院の物指
1: 木尺 2: 斑犀尺

* 内山昭『計算機歴史物語』岩波新書
1983年 p. 151~154

** 奈良時代の尺については、榎本杜人
『奈良時代の尺度について』『朝鮮の考古
学』同朋舎 1980年 p. 360~371を参照。

ている。測定可能な個所で目盛りをはかると、寸では 2.941 cm ～ 2.9688 cm のばらつきがあり(平均 2.95187 cm)、5 分では 1.4291～1.5027 cm のばらつきがある。長 30.9 cm、厚 0.4 cm。ウツギ。平城宮6ACU区SD1250出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

4407 長さ1尺の物指とすれば、ちょうど真中で折れている。1寸ごとの目盛りが刻まれているが、太い方の刻線の側での実長は2.8・3.2・2.9 cmをはかり、一定しない。5寸をあらわす目盛りには「米」印を刻んでいる。裏面にも細い目盛りがあるが、表面の目盛りとはわずかにずれている。現存長 15.6 cm、幅 2.0 cm、厚0.8 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9 世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

4408 細板の一面に5分刻で刻線の目盛りをいれた1尺の物指。寸目盛りは全幅を横断するが、5分目盛り幅の約3分の1である。寸目盛りは3.1と3.0 cmとがあるが、3.1 cm のほうが多い。長 31.0 cm、幅 2.0 cm、厚 0.9 cm。樹種未同定。京都府仁和寺南院跡ND63-1-H-14 池出土。11世紀～12世紀。水漬。京都市埋文研保管。

4409 板目材を削って整形し、片面に刻線を入れた物指。一端をうしない全体に腐蝕が著しい。目盛りを示す刻線は幅・深さとも 0.5 mm 程度で、現在7本のこる。刻線の間隔は平均 2.94 cm となり、1寸刻みで7寸のこっていることになる。現存長 22.4 cm、幅 2.6 cm、厚 0.8 cm。広葉樹。平城京左京一条三坊SD650。9 世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

4410 細長い薄板に目盛りをいれる。現状では2片になり、つながらないが、元来は同一物であった可能性がつよい。目盛りは墨線で描き、太さは一定しない。1片は寸刻みであり、もう1片は寸目盛りの間に5分目盛りを描くところがある。寸の長さは 2.95～3.1 cm のばらつきがある。目盛りとかさなって墨書がある。現存長 17.4 cm・14.8 cm、幅 2.3 cm・2.6 cm、厚 0.4 cm。樹種未同定。平城宮6AAF区SD3297出土。8 世紀後半。水漬。奈文研保管。

4411 折敷の側板を利用した物指。現在木理方向で3片に割れ接合しないが、同一品とみられる。両端に隅をまげるケビキをとどめる。一面には文字を他面には目盛りを墨書きする。目盛りは木理に直交する太さ 0.1 cm 前後の墨罫。その間隔は 4.65～4.3 cm のばらつきがあり、10目盛りととどめる。1寸5分目盛りのようである。現存長51.5 cm、幅 6 cm 以上、厚 0.5 前後。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747 年頃。水漬。奈文研保管。

C 版 木 (4412) はんぎ

4412 長方形の厚手の板に騎馬像をシルエット風にほりこんだもの。板の片面上部に被りものの紐をなびかせた人物が疾走する馬にのる像をほりだすが、輪廓にのみとどまり細部はほりあげていない。また、像の周辺部だけをほり窪める。1側面の中程と他側面の下寄りに断面V字形の溝をほりこみ、同位置の裏面に円形の窪みをあける。馬の後足が削りとられているので、製作途中で失敗したものであろうか。これを版木にあてる理由は、彫刻面が平坦であり、左右の溝を摺り位置をきめる目安にかんがえることによる。長 11.8 cm、幅 6.2 cm、厚 2.65 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

D 筆 管 (4413) ひっかん

4413 一端に節をとどめる竹管。節のない端に筆毛をはめたらしく、内縁に刃物で削りを加えて内径を広げている。筆毛はのこっていない。建物の戸口に埋られた須恵器壺に墨挺1丁・和同開珎4枚・絹布とともにおさまられていた。文献史料からして胞衣^{えな}をいれたものとかんが

えられている。長 14.9 cm, 径 1.2 cm。マダケ。平城京右京五条四坊三坪SX030出土。750年頃。真空凍結乾燥処理済。奈良市教委保管。

E 木 印 (4414・4415) もくいん

4414 下部を断面 8 角形の柱状とし上部を円錐形にかたどる。柱状の木口の印面に「木」字を円で囲った陰刻をほどこす。つまみとなる円錐形の頂部付近の側面に小さな円孔を貫通させている。朱肉ないしは墨の付着はない。高 7.9 cm, 印面長径 3.2 cm, 同短径 2.7 cm。ヒノキ。平城京6AAA区SD2700出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

4415 銅印に似た扇形の鈕をつくりだす。印面は方形を呈し、周縁と文字を陽刻する。印面の下半分を欠失するが、「里」字に判読できる。高 5.3 cm, 印面長辺 3.8 cm, 同短辺 3.3 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9 世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

12 遊 戯 具 (PL. 45)

遊戯具には琴柱と独楽・木とんぼ^{*}がある。琴の本体は琴柱の大きさや正倉院の伝世品からみて、かなりの大型品の琴にぞくしたようである。7 世紀以降の琴は共鳴板をそなえた構造と板造りのものとがあった。前者は正倉院の伝世品や福岡県沖の島遺跡の金銅製雛形、および出土品琴柱の形からみていくつかの区別があったようである。後者の例として、兵庫県山垣遺跡からは板造りの琴と思われるものが出土し、奈良県稗田遺跡からは雛形の琴に比定しうる遺物が出土している^{**}。

A 琴 柱 (4501~4519) ことじ

琴柱は大きく 2 型式にわかれる。A 型式は、等脚台形の両斜辺を途中から垂直に断ち落した六角形を基本形とし、上底に弦受けの溝をつけ、下底中央を三角形に切欠いて双脚につくる。B 型式は等脚台形を基本形にし、上底には A 型式と同様に弦受けの溝をつけ、下底中央に三角形や半円形の切欠きをいれて双脚とする。

时期的には A 型式が古く、5 世紀代に遡る。7 世紀前半の奈良県坂田寺跡出土例は 8 世紀代の A 型式琴柱の原型となるもので、下底に三角形の切欠きをいれるものと台形の切欠きをいれるものがある。8 世紀以降の A 型式琴柱では、下底に三角形の切欠きをいれるものが主体となり、同時に上底の幅が狭くなる。なかには上底が弦受け溝の幅分だけのものもある。一方、両斜辺の立上り部を弧形にかたどるものもある。B 型式琴柱は 8 世紀に出現する。下底部を半円形に切欠いたのち、その中央にさらに三角形の切欠きをいれた例がある。この種の切欠きの形は正倉院に現存する新羅琴の琴柱に類似している。8 世紀以降では、2 型式を通じて切欠きが大きくなり、4505 や 4507 のように、わずかではあるが、下底の両端を結ぶ線が弧を描いていることは、琴本体の上面が円弧を描いていたことをうかがわせる。一方、弦受け部分を次第に薄くするもののほか、橋形のものなど上記の 2 型式にぞくさない異形のものもある。大多数は横木取りだが、4519 は縦木取りである。

4501~4505・4511 B 型式の琴柱。4503・4504は三角形の切込みが深く、繊細なつくりである。4505・4511は斜辺が丸味おび、円弧とそれに三角形を組合せた切欠きをいれる。4501・4502は下底方向にかけて薄くしている。4501; 幅 4.3 cm, 高 1.9 cm, 厚 0.4~0.4 cm。ヒノ

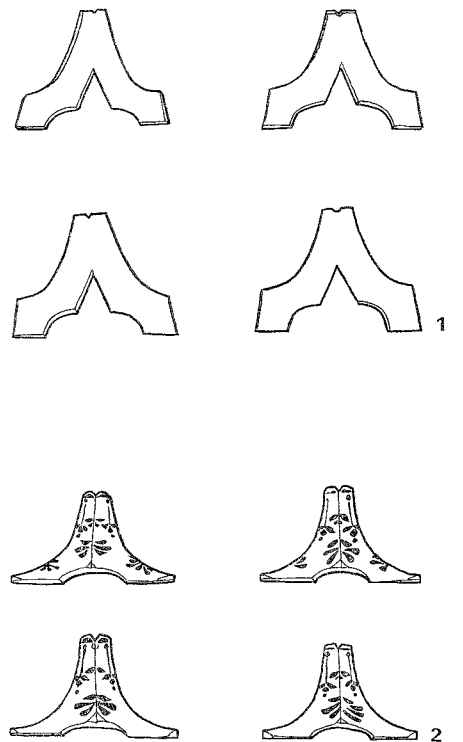


fig. 45 正倉院の琴柱
1; 金泥絵新羅琴 2; 金箔押新羅琴 (前掲『正倉院の木工』図版147・148)

* 松村恵司「平城宮出土の木とんぼ」『考古学ジャーナル』237号 1984年

** 奈良県教育委員会「稗田遺跡発掘調査概報」『奈良県遺跡調査概報 1976年度』1977年 図版5-3

キ。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。4502；幅 3.9 cm，高 2.8 cm，厚 0.45 cm。ヒノキ。平城宮6AAH区SD3410出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。4503；幅 3.4 cm，高 1.9 cm，厚 0.41 cm。4504；現存幅 2.6 cm，高 2.3 cm。以上，ヒノキ。平城宮6AAI区SD4100A出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。4505；幅 3.5 cm，高 2.7 cm，厚 0.7 cm。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。以上，奈文研保管。4511；幅 6.3 cm，高 3.6 cm，厚 1.5 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

4506～4510・4515・4516・4519 A型式の琴柱。両側辺が直立もしくはそれに近いもの(4507・4509・4513・4515・4516・4519)と内傾するもの(4506・4512・4514)がある。4508は側辺が円弧形となる。4516・4519のように9世紀の例では幅に対して高さが高くなる傾向にある。4506；幅 4.3 cm，高 2.4 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。真空凍結乾燥処理済。4507；幅5.8 cm，高 3.8 cm，厚 1.5cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD4100A出土。8世紀中葉。水漬。4508；幅4.9 cm，高 3.0 cm，厚 1.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。P. E. G. 処理済。4509；幅 4.9 cm，高 3.3 cm，厚 0.7cm。ヒノキ。平城宮6ALG区SD5785出土。8世紀前半。P. E. G.処理済。4510；現存幅6.4 cm，現存高 2.7 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。4512；幅 3.5 cm，高 1.6 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。奈良県坂田寺跡SG100出土。7世紀中葉。水漬。以上，奈文研保管。4513；幅 4.4 cm，高 2.3 cm，厚 0.35 cm。4514；幅 3.3 cm，高 1.8 cm，厚 0.5 cm。以上，ヒノキ。藤原京紀寺跡SK004出土。7世紀後葉。アルコール・エーテル法処理済。榎考研保管。4515；幅 5.1 cm，高 2.0 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。奈良県坂田寺跡SG100出土。7世紀中葉。水漬。奈文研保管。4516；幅 3.3 cm，高 2.6 cm，厚 1.0 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町 SD1301 出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。4519；幅 2.7 cm，高 3.2cm，厚 0.6 cm。樹種未同定。平安京左京四条四坊一町ND64-3-F-44 土壌出土。9世紀。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

4517・4518 異形の琴柱。弦受けの溝をつけていないので，琴柱以外のものである可能性もある。4517は両脚に長方形の孔をあけている。4517；幅 5.9 cm，高 1.4 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。4518；幅 7.1 cm，高 1.1 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

B 独 楽 (4520～4527) こ ま

棒に布裂などをつけた鞭で打ってまわす鞭独楽である。樹皮を剥いだ広葉樹心持材の一端木口を平坦にし，他端を弾丸状に削りあげ，先端を乳頭状に突出させる。

4520～4527 軸棒をつけないのが一般的であるが，4524 は先端に鉄心を打込んでいる。また，4524・4525 は上面に撗鉢状の削形をいれる。4527の上面には墨を塗っている。4520；径 3.5 cm，現存高 4.4 cm。アカガシ亜属。平城京左京三条四坊七坪SK1796出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4521；径 3.0 cm，高 5.0 cm。ヒイラギ。平城京左京五条二坊十四坪SE03出土。8世紀後葉。真空凍結乾燥処理済。奈良市埋文保管。4522；径 4.5 cm，現存高 5.0 cm。アカガシ亜属。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。4523；径4.1 cm。現存高6.6cm。アカガシ亜属。平城宮6ABQ区SE9210出土。10世紀。水漬。4524；径 3.2 cm，

高 4.6 cm。針葉樹。平城宮6ACU区SG10240出土。8世紀後半。水漬。以上、奈文研保管。
4525；径 4.4 cm，高 4.9 cm。樹種未同定。平安京西寺跡ND74-3-E-34 SE01出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。4526；径 3.5 cm，高 5.9 cm。ツバキ。藤原宮6AJE区SD145出土。694年～709年。水漬。4527；径 3.6 cm，高 4.8 cm。アカガシ属。藤原宮6AJK区SE1205出土。694年～709年。水漬。以上、奈文研保管。

13 祭祀具 (P.L. 46～62)

祭祀具の出土量は比較的多い。しかし、出土地が普遍的でなく、以下にのべるように種類によって出現の年代が前後するので、全般的な把握は容易でない。木製の祭祀具の基本形態は、実際の器物や禽獣を抽象化したものであり、一般に^{かたしろ}形代とよばれているものである。概して1回限りの使用ののち、遺棄されたもの。^{いぐし}齋串・^{ひとがた}人形・馬形・鳥形・刀形・刀子形・鎌形・下駄形・船形・陽物形などに分類される。多くは板を切りぬいてつくる平面的な形態をとるが、人形の1部や舟形・陽物形には立体的に表現するものがある。^{*}このほか、奈良県稗田・若槻遺跡からは8世紀の絵馬が出土しているのが注目される。木器の祭祀具に類するものは、土・石・金属製品にもあり、祭祀具としてはこれら全体に立脚して考慮しなければならない。

木製祭祀具は、刀(剣)形・鳥形・舟形・陽物形・^{でく}木偶などのように、弥生・古墳時代以来の伝統にもとづくものと、人形・馬形および齋串のように7世紀に新たに出現するものとにわけることができる。後者のうち、人形は中国の道教的思想にもとづく新たな祭祀具で、奈良・平安時代の木製祭祀具の中心的存在である。

人形は、罪穢や悪気を移し、流れに投げすてる祓いとその一般的な使用法であった。奈良時代における祓いの代表は、6月と12月の晦日に宮中で行われた大祓である。730年頃の大祓の跡をとどめる平城宮壬生門跡、あるいは長岡京・京都府中久世遺跡などの発掘によって、祓いの人形は、つくりや表現が同巧のものを2枚・3枚と組みにして使用したことがあきらかになった。8世紀後葉から、全長が1mを超す等身大のもの、その半分程度のもの、小型のものと、大・中・小と大きさをことにする人形を数枚組合せて使うことがはじまる。10世紀末の円融天皇の天禄3年(970)12月の河臨御禊では、七瀬ごとに等身人形1枚と5寸の木・錫・鉄人形各1枚を組合せて用いている。

馬形は水神への祈願に流れに投じたとする見方が一般的だが、水野正好の説では行疫神の乗物である。^{**}山形県俵田遺跡では、壺に入れた人形の周囲から木製馬形や齋串が出土し、使用状態の一端をしめす。^{***}『延喜式』大祓祝詞などによると、一触一吻した人形を^{よくに}四国の占部が^{はええど}祓所に^{はらえ}解除することがみえている。俵田遺跡の状況は、この祓所にあたり、馬形は罪穢を負った人形を他界へはこぶために人形の傍らに立てられたのであろう。滋賀県尾上遺跡では、馬形に「黒毛祓」と墨書したものが出土している。

齋串は結界をあらわし、外部の悪気を遮断するとともに、人形の負った罪穢を外に漏らさぬ役割を果たしたのであろう。このことから明らかなように、馬形や齋串も複数で用いられ、齋串は人形と同様に大・中・小と組合せることもあった。

鳥形は、尾の部分に小孔をあけ、あるいは側辺を裂いて細棒上に挿し立てたものがあり、さきの平城宮壬生門跡の発掘でも207点の人形にともなっていることから馬形と同じ運搬の機能をもったのではないかとおもわれる。日本神話の中では、鳥は魂を他界へ運ぶ役割を担ってい

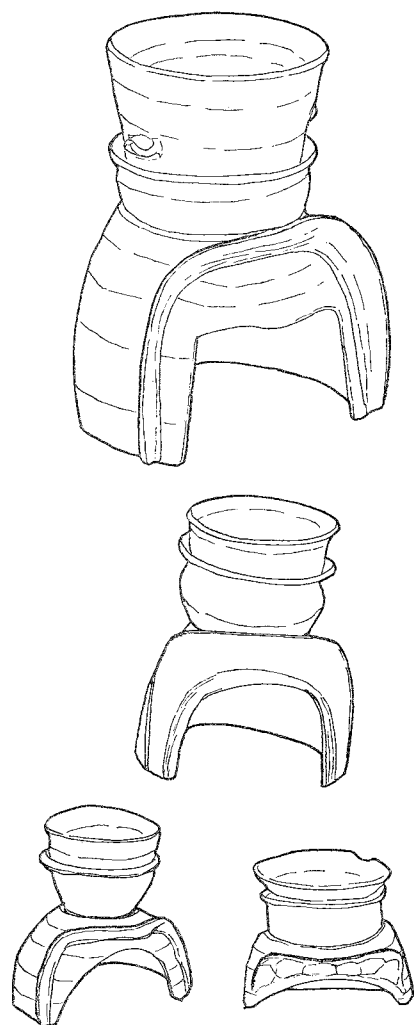


fig. 46 各種の祭祀具(1)
土製の甕形(平城京左京八条一坊十一坪SD920出土)

* 金子裕之「古代の木製模造品」『研究論集VI』奈文研学報38 1980年 p. 1～28

** 水野正好「祭祀と儀礼」『古代史発掘』10 講談社 1974年 p. 136～147

*** 山形県教育委員会『俵田遺跡第2次発掘調査報告書』山形県文化財調査報告書77集 1984年

4612・4617・4619・4620・4622～4625・4627・4628 CⅢ型式の斎串のうち、両側の切込みがそれぞれ1回のもの。4619のように両側縁の上端から切込む場合、4627のように若干下から切込む場合、4627のように若干下から切込む場合がある。4620は頂部から割目をいれている。4612；長 19.4 cm，現存幅 3.1 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮6ADH区SE1247出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。4613；長 14.8 cm，幅 2.4 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6ACU区SD1250出土。8世紀。水漬。以上，奈文研保管。4614；長 17.0 cm，幅 1.7 cm，厚 0.2 cm。4615；長 16.9 cm，幅 1.7 cm，厚 0.2 cm。以上，ヒノキ。藤原宮6AJM区SD260出土。10世紀。水漬。奈文研保管。4616；長 18.6 cm，幅 2.1 cm，厚 0.1 cm。4617；長 16.6 cm，幅 2.5 cm，厚 0.25 cm。以上，樹種未同定。長岡京左京四条三坊六町SE80出土。784年～794年。水漬。京都市埋文研保管。4619；長 27.0 cm，幅 3.6 cm，厚 0.2 cm。樹種未同定。平城宮6ADC区SE6166出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4620；長 15.4 cm，幅 1.8 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。4622；長 20.3 cm，幅 2.5 cm，厚 0.25 cm。ヒノキ。平城宮6ACP区SE5320出土。8世紀後葉～9世紀前葉。水漬。4623；長 19.0 cm，幅 2.5 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊十坪SE877出土。8世紀後葉。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。4624；長 19.4 cm，幅 1.9 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。長岡京左京三条二坊四・五町SD0210出土。8世紀後半(784年以前)。水漬。京都府教委保管。4625；長 18.3 cm，幅 2.5 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。4627；長 35.0 cm，幅 2.2 cm，厚 0.4 cm。樹種未同定。滋賀県仏性寺遺跡遺物包含層出土。8世紀～9世紀。水漬。滋賀県埋文保管。4628；長 30.9 cm，幅 3.2 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮6ADC区SE6166出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

4618・4621・4626 BⅢ型式の斎串。4621はかろうじて圭頭をたもつ。4618は下端を鋭くとがらす。4618；長 11.7 cm，幅 2.3 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。滋賀県伊井永田遺跡遺物包含層出土。8世紀中葉。水漬。今津町教委保管。4621；長 16.5 cm，幅 2.4 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。京都府中臣遺跡ND85-2-F-33 SE01出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。4626；長 21.5 cm，幅 2.1 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半(694年以前)。水漬。奈文研保管。

4701～4723 CⅢ型式の斎串のうち、両側からの切込みが2回以上のもの。4714・4722は上端木口から割目をいれている。4701；現存長 14.3 cm，幅 1.7 cm，厚 0.15 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。4702；長 15.0 cm，幅 2.2 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平安京左京四条一坊五・六町ND64-3-J-15 SE07A出土。9世紀前半。水漬。京都市埋文研保管。4703；長 15.8 cm，幅 2.1 cm，厚 0.35 cm。ヒノキ。兵庫県上原田遺跡SE02出土。8世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。兵庫県教委保管。4704；長 16.5 cm，幅 1.6 cm，厚 0.2 cm。樹種未同定。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。4705；長 20.7 cm，幅 1.95 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。4706；長 19.0 cm，幅 2.7 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6ADH区SE1247出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。4707；長 19.1 cm，幅 2.6 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊十五坪SE967出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。4708；長 20.2 cm，幅 2.5 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城京左京三条四坊七坪SE1801出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。4709；

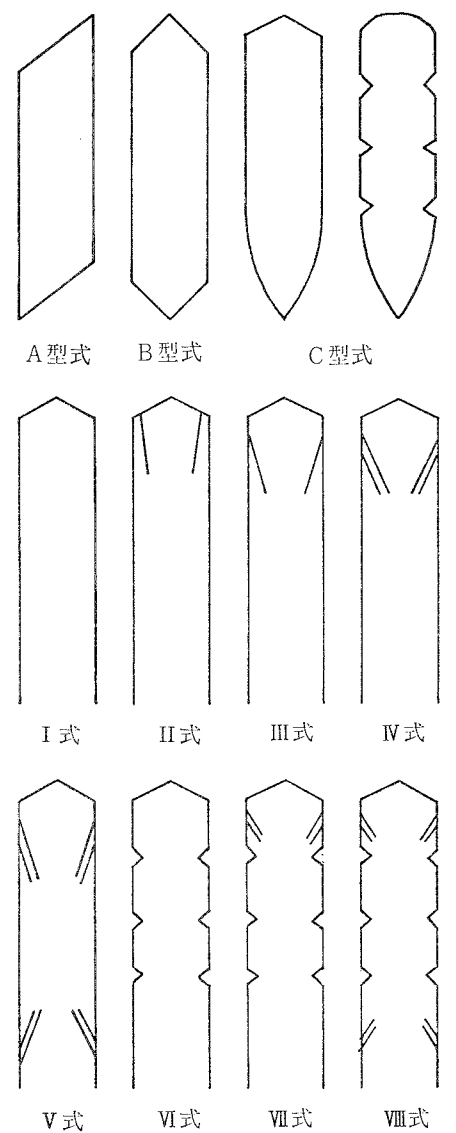


fig. 48 斎串の型式分類

長20.3 cm, 幅1.7 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。4710; 長 20.4 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.1 cm。樹種未同定。長岡京左京三条二坊四・五町SD0210出土。8世紀後半(784年以前)。水漬。京都府教委保管。4711; 長23.5 cm, 幅2.3 cm, 厚0.5 cm。ヒノキ。三重県下郡遺跡井戸出土。9世紀前半。アルコール・エーテル法処理済。上野市教委保管。4712; 長 31.6 cm, 幅 2.9 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ADC区SE6166出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。4713; 長 27.2 cm, 幅1.9 cm, 厚 0.35 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。4714; 長 21.4 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.55 cm。樹種未同定。兵庫県出合遺跡井戸出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。瀬戸内考古学研究所保管。4715; 長 22.0 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SE311A出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。4716; 長 19.8 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.25 cm。ヒノキ。京都府中臣遺跡ND85-2-F-33 SE01出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。4717; 長 18.0 cm, 幅 2.0 cm, 厚0.1 cm。ヒノキ。滋賀県野畑遺跡SE003出土。9世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。4718; 長 17.7 cm, 幅 2.8 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平安京左京四条一坊五・六町ND64-34-J-15 SE07A出土。9世紀前半。水漬。京都市埋文研保管。4719; 長 17.3 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。4720; 長 17.5 cm, 幅 0.2 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。以上、滋賀県鴨遺跡西地区井戸出土。9世紀後葉~10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。4721; 長 16.3 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平安京左京四条一坊五・六町ND64-34-J-15 SE07A出土。9世紀前半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。4722; 長 15.4 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SE272B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。4723; 長 61.3 cm, 幅 2.8 cm, 厚 0.3 cm。樹種未同定。兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。日高町教委保管。

4724・4725 C IV型式の斎串。4724; 現存長 14.7 cm, 幅 2.3 cm, 厚 0.35 cm。ヒノキ。藤原宮6AJB区SD170出土。694年~709年。水漬。奈文研保管。4725; 長21.1 cm, 幅2.5 cm, 厚 0.3 cm。樹種未同定。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

4726~4728 B IV型式の斎串。4726 は上端木口に 割目をいれる。4726; 長 16.4 cm, 幅 2.0 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮6ACP区SE5320出土。8世紀後葉~9世紀前葉。水漬。4727; 長 20.4 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半(694年以前)。水漬。4728; 現存長 12.6 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.4 cm。スギ。平城京左京三条四坊七坪SX15出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。以上、奈文研保管。

4729~4732 C V型式の斎串のうち、上下の切込みが1対のもの。4729; 長 18.5 cm, 幅 2.6 cm, 厚 0.15 cm。ヒノキ。平城宮6ACP区SE5320出土。8世紀後葉~9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。4730; 長 24.8 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.1 cm。ヒノキ。4731; 長 25.1 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.1 cm。ヒノキ。以上、藤原京右京七条一坊二坪 SE2270 出土。694 年~709 年。水漬。4732; 長 24.5 cm, 幅 2.7 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半(694年以前)。水漬。以上、奈文研保管。

4733~4735 C V型式の斎串のうち、上下の切込みが2対のもの。4733; 現存長 16.8 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4734; 現存長 23.3 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平安京左京四条一

坊五・六町ND64-34-J-15 SE07A出土。9世紀前半。水漬。4735；現存長33.1cm, 厚0.2cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。以上、京都市埋文研保管。

4801・4802 D型式の斎串。一端を円頭形にし、他端を剣先形にとがらし、両側に深い三角形の切欠きをいれる。4801；長22.6cm, 幅3.7cm, 厚0.5cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。4802；長20.8cm, 幅3.0cm, 厚0.25cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊十五坪SE967出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。以上、奈文研保管。

4803～4806 CⅥ型式の斎串。4803；現存長17.9cm, 幅2.2cm, 厚0.3cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。4804；長28.9cm, 幅2.7cm, 厚0.15cm。樹種未同定。平城京左京五条二坊十四坪SE03出土。8世紀後葉。水漬。奈良市埋文保管。4805；現存長26.2cm, 幅2.0cm, 厚0.18cm。4806；現存長31.1cm, 幅1.7cm, 厚0.15cm。以上、ヒノキ。長岡京左京四条三坊六町SE80出土。784年～794年。水漬。京都市埋文研保管。

4807～4811 D型式の斎串。4807～4809は、一端を方頭形にかたどり、他端を剣先状にとがらせ、両側に粗い間隔をおいて小さな三角形の切欠きをいれる。4810は4811と同一個体の可能性もある。一端を円頭形にかたどり、両側に5個を1単位とする小さな切欠きを密にいれるが、左右対称にはならない。4807；現存長31.2cm, 現存幅2.6cm, 厚0.2cm。4808；現存長25.8cm, 幅1.7cm, 厚0.25cm。4809；現存長21.2cm, 幅1.8cm, 厚0.3cm。以上、ヒノキ。京都府中臣遺跡ND85-2-F-33 SE01出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。4810；現存長17.1cm, 幅2.7cm, 厚0.5cm。4811；現存長22.0cm, 幅2.1cm, 厚0.5cm。以上、樹種未同定。兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。日高町教委保管。

4812 CⅤⅢ式の斎串。長29.6cm, 幅2.0cm, 厚0.1cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。同型式のものが平城京右京八条一坊SD920から出土しており、出現が8世紀後葉に遡る可能性がある。

4813・4814 CⅦ型式の斎串。4813は圭頭の頂部から割目をいれる。長33.2cm, 幅2.0cm, 厚0.7cm。樹種未同定。平城京右京北辺三坊一坪SE237出土。9世紀。水漬。奈文研保管。4814；長60.6cm, 幅2.8cm, 厚0.3cm。ヒノキ。兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。日高町教委保管。

4815～4817 同一個体の楕円形曲物の底板を転用したものらしい。両側に三角形の切欠きをいれているので、D型式の斎串にあてはまる。4815；現存長37.1cm, 幅5.1cm, 厚0.8cm。4816；長40.7cm, 幅6.3cm, 厚0.8cm。4817；現存長26.2cm, 幅5.3cm, 厚0.9cm。以上、ヒノキ。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9世紀。水漬。兵庫県教委保管。

4818・4819 圭頭の木片の両側に不規則な切欠きをいれたもので、D型式斎串にいれておく。4818；長18.7cm, 幅1.5cm, 厚0.2cm。樹種未同定。滋賀県湖西線関係遺跡VD区大溝出土。7世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。4819；現存長24.4cm, 幅2.8cm, 厚0.2cm。樹種未同定。兵庫県吉田南遺跡SD11出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。

4820・4821 両側から切欠きをいれる。B型にぞくしⅦ式の原形らしい。表裏とも丁寧に削る。4820；現存長26.2cm, 幅2.1cm, 厚0.3cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半(694年以前)。水漬。4821；長27.5cm, 幅1.8cm, 厚0.3cm。ヒノキ。平城宮6

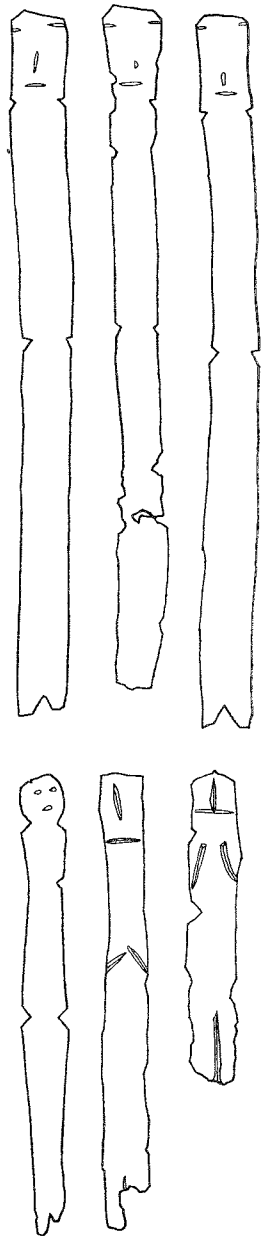


fig. 49 銅・鉄板の人形
(平城宮出土)

ACU区SD1250出土。8世紀前半。水漬。以上、奈文研保管。

4822 C型式の斎串，一端を円形にかたどり，他端をとがらす。全体を平滑にととのえる。現存長 11.4 cm，幅 2.2 cm，厚 0.3 cm。樹種未同定。長岡京左京三条二坊SD0254出土。784年～794年。水漬。京都府教委保管。

4823 D型式の斎串，短冊型木片の両側に三角形の切欠きを密にいれる。斎串でないかもしれない。長 19.5 cm，幅 1.8 cm，厚 0.3 cm。樹種未同定。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。

4824 D型式。一端から割目をいれ，他端をとがらせ，一稜角から削りかけをいれる。長25.1 cm，幅 0.9 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ADC区SE6166出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

B 正面全身人形 (4901～4930・5001～5007・5101～5123・5201～5210・5301～5311) しよんめんぜんしんひとがた

人形は短冊状の板を切りぬいてつくる扁平な人形と，棒状の材を用いて立体的に表現する立体人形に大別できる。立体人形は木偶ともよばれるもので，出土例が少なく個体差も大きい。それに対して，扁平な人形には斉一性があり，時代的な変遷をたどるようである。扁平な人形は人の正面全体を表現する正面全身人形，側面の全体をあらわした側面全身人形，顔面もしくは頭部のみをあらわす顔人形^{*}とに区分することができる。

正面全身人形は出土数からみるとかなり一般的な遺物であり，時代と地域によって型式差がみとめられるが，まだ決定的な編年は確立していない。ここではとりあえず，形態と製作技法によってA～C型式にまずわけろ。A型式は円頭・圭頭・梯形頭などの頭部と肩部とを画するV字形の切欠きをいれ，両側面から切込みをいれて両腕をあらわし，下端の木口から深い切欠きをいれて両足をあらわしたものである。B型式は手の表現を欠くもので，腰部の両側に三角形の切欠きをいれて胸と脚を区別するものと，切欠きをいれないものがある。C型式はA・Bの2型式にぞくさないもので，頸の切欠きのないものや細板状のものである。時期的にはA型式からB型式へと変化する。頸部に入れるV字形の切欠きの形は二つにわかれる。Iは2辺の長さが等しい切欠きで，頬がふくらみ撫で肩の表現となる。IIは一辺が長く一辺が短い切欠きで，頬がやせ怒り肩の表現となる。時期的には前者が古い。足を表現する切欠きには，a；V字形切込みと，b；コ字形切込みをいれて折り取るものがあり，前者の出現が早い。

この種の人形の特色は，丁寧に削って平滑にした表面に墨もしくは刻線^{あごひげ}で目鼻口を表現することにある。顔の描写には写實的に被りものや鬚まで描写するもの，目鼻口の存在のみをしめす粗い描写のもの，目鼻口を全く描かないものがある。一方，胴部に祈禱者の姓名や，祈禱する疾病を記すものがあるが，少ない。また，目や心臓の位置に釘を打ったものもある。用途としては病気の祓いや呪咀が想定され，単体で用いられる場合と，2枚以上の複数で用いた場合がかんがえられる。大きさは7・8世紀では15～18 cm程度のものが主である。8世紀末から9世紀の時期になると大型化し，1 mを越す超大型品も出現し，斎串の大型化と対応している。なお，材料の樹種を明記しないものはすべてヒノキである。

4901～4910・4917 A Ia型式の正面全身人形のうち，頭を丸くあらわすもの。4901は丸く描いた左眼を塗りつぶし，胸に墨痕をいれる。4903は両眼を刃先でえぐってあらわす。4906は胸に呪符のような符号をかく。4909は刻線で目鼻口を描く。4907「右目病作」^{やまいおこる}「今日」「今」

* 金子裕之「歴史時代の人形」『神道考古学講座3巻』雄山閣出版 1981年 p. 200～217

笠井敏光「平安時代の木製人形について」『京都考古』20号 1976年 p. 209～213

水野正好「等身の人形代」『京都考古』21号 1976年 p. 217～226

の文字を背面にかき、眼病の治癒を祈願したことをしめす。4901；長 14.3 cm，幅 2.1 cm，厚 2.5 cm。樹種未同定。藤原宮6AJE区SD105出土。694年～709年。水漬。榎考研保管。4902；長 15.3 cm，幅 2.3 cm，厚 0.5 cm。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半(694年以前)。4903；長 16.1 cm，幅 3.1 cm，厚 0.4 cm。藤原宮6AJH区SD501出土。694年～709年。水漬。4904；長 10.1 cm，幅 2.7 cm，厚 0.25 cm。平城宮6ALS区SD4951出土。8世紀後葉。真空凍結乾燥処理済。4905；長 14.7 cm，幅 2.5 cm，厚 0.3 cm。平城宮6ABE区SD3765出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。4906；現存長 9.7 cm，幅 2.5 cm，厚 0.3 cm。スギ。平城宮6ALS区SD5050出土。8世紀中葉。真空凍結乾燥処理済。4907；長 11.0 cm，幅 2.8 cm，厚 0.2 cm。平城宮6AAD区SD2700出土。8世紀。水漬。4908；長 18.2 cm，幅 2.9 cm，厚 0.4 cm。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。4909；長 18.4 cm，幅 3.2 cm，厚 0.25 cm。スギ。滋賀県服部遺跡SD05出土。8世紀後葉。アルコール・エーテル法処理済。守山市教委保管。4910；長 9.1 cm，幅 2.0 cm，厚 0.2 cm。平城宮6AAY区SD1250出土。730年頃。水漬。奈文研保管。4917；長 31.2 cm，幅 4.8 cm，厚 0.4 cm。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

4911・4914 A I b 型式の人形で、頭部を台形にかたどるもの。4911 は表の胸部に符号様の文字を墨書きしており、そのうち「女 依 死 甘」がよめ、背面面の肩部に墨痕があり腰部に「重病受死」と墨書している。長 15.2 cm，幅 2.2 cm，厚 0.2 cm。平城宮6AAY区SD1250出土。730年頃。水漬。奈文研保管。4914 は顔面の墨描きがない。長 18.8 cm，幅 2.5 cm，厚 0.5 cm。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

4912・4913 A II 型の人形で、呪咀に用いたもの。4912 は円頭につくり、胸部以下を欠くが、胸に鉄釘を打込む。現存長 16.3 cm，現存幅 3.3 cm，厚 0.55 cm。平城宮6ACU区SG10240出土。8世紀後半。水漬。4913 はA II a 型式、胸部の表裏に同じ文字を墨書し、表の文字は「坂部秋□〔近か〕」とよめる。両眼と胸に木釘を打つ。長 15.2 cm，幅 2.3 cm，厚 0.4 cm。平城宮6ABO区SE311A出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。

4915・4918・4919・4924・4925・4927・4928 A I a 型式の人形で、頭頂部を山形にとがらす。4918・4919と同じものが別に数点出土しており、複数の人形をもちいて祭祀したことをうかがわせる。4925は顔面に錐の刺突痕跡をとどめる。4915；長 18.7 cm，幅 3.2 cm，厚 0.3 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。4918；長 21.6 cm，幅 2.4 cm，厚 0.2 cm。平城宮6AAC区SE2600出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。4919；長 22.1 cm，幅 2.4 cm，厚 0.4 cm。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。4924；現存長 18.2 cm，幅 3.5 cm，厚 0.5 cm。長岡京左京三条二坊四・五町SD0210出土。8世紀後半(784年以前)。水漬。京都府教委保管。4925；長 13.7 cm，幅 3.1 cm，厚 0.3 cm。平城宮6ALS区SD4951出土。8世紀後葉。真空凍結乾燥処理済。4927；長 15.1 cm，幅 2.5 cm，厚 0.2 cm。藤原宮6AJB区SD170出土。694年～709年。水漬。以上、奈文研保管。4928；現存長 14.1 cm，幅 2.1 cm，厚 0.2 cm。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

4916・4926 B I 形式の人形のうち、頭を山形にするもの。4916は腰部に切欠きをいれる。4926 はB I a 型式。4916；現存長 15.3 cm，幅 2.0 cm，厚 0.5 cm。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。4926；長 11.0 cm，幅 1.9 cm，藤原宮6AJM区SD260出土。10世紀。水漬。以上、奈文研保管。

4920～4923 AⅠb 型式の人形で、頭を山形にするもの。4920；長 18.7 cm，幅 2.9 cm，厚 0.4 cm。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。4921；現存長 18.2 cm，幅 2.1 cm。京都府中久世遺跡ND83-4-A-45 SD01出土。9 世紀。水漬。京都市埋文研保管。4922；長 16.8 cm，幅 2.7 cm，厚 0.3 cm。4923；長 15.6 cm，幅 2.8 cm，厚 0.3 cm。以上，平城宮6AAC区SD2700出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

4929 AⅠ 型式の人形で、頭を山形にするものか。現存長 9.0 cm，厚 0.4 cm。平城宮6ABG 区SD3715出土。8 世紀後半。水漬。奈文研保管。

4930 C 型式の人形。頭を山形にし、腕の切込みをいれるが、頸の切欠きをいれていない。顔面には刻線で眼鼻口をいれる。現存長 6.8 cm，幅 1.5 cm，厚 0.3 cm。藤原宮6AJM区SD 260出土。10 世紀。水漬。奈文研保管。

5001・5003 大型のAⅠb 型式の人形で、ともに円頭にかたどる。5001 は目・鼻・髻^{ほほひげ}とともに、胸部に縦曲線を墨描きする。長 78.3 cm，幅 4.6 cm，厚 0.5 cm。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。5003；長 122.2 cm，幅 11.0 cm，厚 0.8 cm。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8 世紀後半～9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5002・5004～5007 大型のBⅠ 型式人形で、ともに円頭にかたどる。5004・5007 は BⅠa 型式であり、5002・5006 をBⅠb 型式に復原した。5002 は腕位置から腰にかけての側縁に弧形の切欠きをいれる。顔の墨描は写实的である。現存長 126.2 cm，幅 15.8 cm，厚 0.6 cm。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8 世紀後半～9 世紀前葉。水漬。奈文研保管。5004 は頭を欠くが円頭であろう。腰の両側にV字形の切欠きをいれ、爪先をかたどっている。長59.1 cm，幅 5.5 cm，厚 0.4 cm。5005は縦に破れているが、頸部と胸部に釘を打った痕がのこる。現存長 54.6 cm，幅4.7 cm，厚1.0 cm。スギ。以上，滋賀県下鈎遺跡大溝出土。9 世紀～12世紀。自然乾燥。栗東町教委保管。5006は顔面に髪・目・鼻・口を墨で描き、腰部に切欠きをいれる。現存長 62.9 cm，幅 7.7 cm，厚 0.7 cm。京都府定山遺跡DL51区出土。12 世紀。水漬。京都府教委保管。5007は顔面に墨描きがない。腰の両側に切欠きをいれ、脚部では腿・膨ら腿・爪先まで表現している。長 85.8 cm，幅 9.7 cm，厚 0.7 cm。和歌山県野田地区遺跡SD06出土。9 世紀後葉～10世紀前半。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。

5101・5102 AⅡa型式の人形。頭頂部を台形にかたどり、目・鼻・口・鬚を墨描きする。5101；長 12.1 cm，幅 1.8 cm，厚 0.1 cm。平城宮6AAC区SD2700出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。5102；長 16.4 cm，幅 1.9 cm，厚 0.1 cm。長岡京左京三条二坊SD0251出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

5103・5104・5117・5118 AⅡb 型式の人形。5103・5104 が頭頂を台形にし、5117・5118は頭頂を山形につくるが、その大きさと墨描きで被りもの・眼・鼻・髻^{くちひげ}・鬚をあらわした顔の表情は同じである。ともに京都府久世遺跡で発見された一括品で、一度の祭祀に複数の人形を用いたことの例。5103；現存長 14.4 cm，幅 2.2 cm，厚 0.3 cm。5104；現存長 11.6 cm，幅 2.0 cm，厚 0.2 cm。5117；現存長 18.8 cm，幅 2.5 cm，厚 0.3 cm。5118；長 19.0 cm，幅 1.0 cm，厚 0.2 cm。以上，京都府中久世遺跡ND83-4-S-45 SD01出土。9 世紀。水漬。京都市埋文保管。

5105・5111・5119 BⅡ型式の人形。5105 はBⅡa 型式で、頭頂を直線にし、腰に切欠きをいれず、顔面に墨描きを行っていない。長 11.9 cm，幅 2.4 cm，厚 0.3 cm。スギ。平安

京左京四条一坊五・六町 ND64-3-J-15 第Ⅰトレンチ3層出土。10世紀。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。5111はBⅡb型式で、頭頂を山形にし、粗く眼・鼻・口を墨描きするが、腰の切欠きをいれてない。長15.6cm、幅2.7cm。スギ。長岡京左京三条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。5119はBⅡa型式で、頭頂を三角形とし、腰の両側に切欠きをいれる。墨描きによる顔面の表現はない。長13.0cm、幅2.2cm、厚0.2cm。和歌山県野田地区遺跡SD07出土。9世紀前葉。アルコール・エーテル法処理済。和歌山県教委保管。

5106 AⅡ型式人形の頭部破片か。眉・眼・鼻・口・鬚を墨描きする。現存長6.7cm、現存幅2.0cm、厚0.2cm。平城京左京八条三坊九坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5107～5110 AⅡb型式の人形で、頭頂を山形にかたどり、腕は2回の切込みで表現する。5107～5109は眉・眼・耳・鼻・口・髭・鬚の墨描きが共通し、胸に乳房らしい二つの丸を描く点も同じである。5107；長22.7cm、幅3.1cm、厚0.2cm。5108；長22.0cm、幅3.2cm、厚0.3cm。スギ。5109；現存長19.7cm、幅3.6cm、厚0.3cm。5110；長18.5cm、幅2.4cm、厚0.2cm。以上、長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

5112 AⅡa型式の人形。頭頂を山形にかたどり、粗く顔面を墨描きする。長10.0cm、幅1.5cm、厚0.1cm。長岡京左京三条二坊SD0251出土。784年～794年。水漬。京都府教委保管。

5113 AⅠb型式の人形。頭頂を山形にかたどる。被りもののほかに上衣と脛を墨線であらわしている。長15.5cm、幅1.9cm、厚0.2cm。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

5114 AⅠb型式の人形。頭頂を山形にかたどり、眉・眼・鼻・口を墨描きする。長19.3cm、幅1.8cm、厚0.3cm。京都府中久世遺跡ND83-4-A-45 SD01出土。9世紀。水漬。京都市埋文研保管。

5115・5116 AⅡb型式の人形で、頭頂を山形にかたどり、眉・眼・鼻・口を墨描きする。5115；長22.3cm、幅2.9cm、厚0.3cm。5116；長21.9cm、幅3.0cm、厚0.4cm。以上、京都府中久世遺跡ND83-4-A-45 SD01出土。9世紀。水漬。京都市埋文研保管。

5120～5123 大型のAⅡb型式の人形。頭頂は低い台形にかたどり、腕の切込みは数回行い胴部を長くする。胴・鼻・口は刻線であらわすが、全体の形状とあいまって、4枚とも共通している。一時につくられたものであろう。5120；現存長29.6cm、幅5.0cm、厚0.6cm。樹種未同定。5121；現存35.5cm、幅4.0cm、厚0.3cm。5122；現存長50.3cm、幅4.6cm、厚0.6cm。5123；現存長60.6cm、幅4.6cm、厚0.6cm。以上、兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。日高町教委保管。

5201・5202 大型のAⅡa型式の人形。頭頂を丸くかたどる。眉・眼・鼻・口を墨線で描く。5201は左肩と腹に墨痕がある。5202は顎以下に墨痕があり、乳房と臍を丸であらわしているようである。5201；長33.4cm、幅3.5cm、厚0.4cm。平城宮6AAF区SD3297出土。8世紀後半。5202；長46.7cm、現存幅4.0cm、厚0.8cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

5203・5207 大型のAⅡb型式の人形。頭をゆるい円弧であらわし、脚の先を切先状にとがらす。5203は被りもの・眉・鼻・口を刻線であらわすが、5207は顔面の表現を行っていない

い。5203；長 29.6 cm，幅 3.6 cm，厚 0.5 cm。5207；長 29.1 cm，幅 3.4 cm，厚 0.7 cm。以上，スギ。京都府定山遺跡DL51区出土。12 世紀。水漬。丹後資料館保管。

5204～5206 AⅡ型式の人形。ともに円頭にかたどる。5204 はAⅡb 型式。現存長 15.7 cm，幅 2.8 cm，厚 0.3 cm。和歌山県野田地区遺跡SD06出土。9 世紀後葉～10 世紀前半。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。5205 は髪・眉・目・鼻・口・鬚を墨描きする。現存長13.8 cm，幅 2.3 cm，厚 0.2 cm。大阪府大蔵司遺跡A区溝 6 出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。5206は頸が長く杓子のような頭をかたどり，眉・眼・口を刻線であらわす。頸と胸部に墨痕がある。現存長 29.3 cm，幅 4.5 cm，厚 0.8 cm。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

5208～5210 大型のBⅡa 型式の人形。頭頂を弧状にかたどる。5210 は頭頂に墨を塗り足を切りぬいて表現している。5208；長 104.0 cm，幅 9.8 cm，厚 0.5 cm。和歌山県野田地区遺跡SD06出土。9 世紀後葉～10 世紀前半。P. E. G. 処理済。和歌山県教委保管。5209；長112.7 cm，幅 11.8 cm，厚 0.5 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。P. E. G. 処理済。9 世紀前半。5210；復原長 153.2 cm，現存幅 5.6 cm，厚 0.4 cm。藤原宮6AJM区SD260出土。10 世紀。水漬。以上，奈文研保管。

5301 AⅡa 型式の大型人形。頭頂を山形にとがらし，脚の先端を切先状にとがらす。眉・眼・鼻・髭・鬚を墨描きする。右胸に太陽形，胸部に肋骨状の墨線をいれている。長 84.0 cm，幅 7.4 cm，厚 0.9 cm。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

5302 AⅡb 型式の大型人形。頭部を髷のように切りぬき，腕の切込みが深く，脚が短い。眼・鼻・口・鬚を墨描きし，腰部にも墨痕がある。長 55.4 cm，幅 6.7 cm，厚 1.2 cm。スギ。長岡京左京三条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

5303 AⅠa 型式の人形。頭部を切りぬいて被りものと両耳をあらわす。被りもの・耳・眉・眼・鼻・鬚を墨描きし，墨線で胴と腕とをわけ，臍と陰部を描く。両脚にまたがって「複」らしい文字をかく。長 15.7 cm，幅 2.7 cm，厚 0.3 cm。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5304 BⅠa 型式の人形。頭部を円くあらわし脚部に腿・脛・足を表現する。墨で帽子・眉・眼・口・耳・顎を描き，胸で両手をあわし胸から腕にかけて体毛のような墨点をいれる。長 17.7 cm，幅 3.0 cm，厚 0.4 cm。平城宮6AAY区SD1250出土。730年頃。水漬。奈文研保管。

5305・5306 AⅡb 型式の人形。頭部を切りぬいて被りものをあらわす。腕の切込みは 2 回。被りもの・眉・眼・鼻・口・耳を墨描きし，胸の乳房位置に円を描く。5306は胴部にも墨線を描いている。5305；長 22.1 cm，幅 3.4 cm，厚 0.3 cm。5306；現存長 16.3 cm，幅 3.3 cm，厚 0.4 cm。以上，長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

5307・5308 AⅡb 型式の人形。頭頂をとがらし，頸が長い。顔面に刻線で眼・鼻・口をあらわし，2 回以上の切込みをいれて腕をあらわす。5307は脚部を内に曲げ，腿・脛・足を区別する。長 46.7 cm，幅4.2cm，厚0.7cm。スギ。5308；長 40.8 cm，幅 4.1 cm，厚 0.4 cm。樹種未同定。以上，兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9 世紀前葉。P. E. G. 処理済。日高町教委保管。

5309 AⅡ型式の人形。頭部に被りものをあらわし，両腕を深い切込みであらわす。現存長

34.0 cm, 幅6.0 cm, 厚 0.5 cm。長岡京左京四条三坊三町ND93-4-A-54 SD451出土。784年～794年。水漬。京都市埋文研保管。

5310・5311 C型式の人形。薄い細板を用い、頭部に墨を塗り、眉・眼・鼻・鬚を墨描きし、その下部に「公」のくずしらしい墨書がある。5310；長 13.5 cm, 幅 0.9 cm, 厚 0.1 cm。カヤ。5311；長 13.5 cm, 幅 0.7 cm, 厚 0.1 cm。カヤ。以上、平安京左京四条一坊五・六町ND64-3-J-15 SE01出土。12世紀。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

C 側面全身人形 (5401～5411) そくめんぜんしんひとがた

板片を胴・腕・脚などを別々に切りぬき、それを組合せてつくる組合せ人形と側面全身を細板から切りぬいたものとがある。樹種を明記しないものはすべてヒノキである。

5401 偏平な板を削り、頭に被りもの、顔に眉と鼻を切りぬいた組合せ人形。上体をわずかに反らせ腰以下は2本の脚を簡潔に表現。左右の肩に当る位置に木釘が各2個所ある。腕をとりつけたのであろう。腹部には穿孔があり、細棒(木釘か)の一部がのこる。人形を動かす装置の一部であらうか。長 50.5 cm, 幅 5.8 cm, 厚 0.7 cm。平城京左京九条三坊九坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5402・5403 細板から胴・腕・脚を別々につくる組合せ人形。頭と胴(5402)とは一枚板から切りぬく。頭部では被りもの・鼻・顎・首筋を切りぬき、眉・眼・口・髭・鬚・耳・髪を墨描きであらわす。胸部と胴下部にそれぞれ1孔をあける。長 9.2 cm, 幅 2.0 cm, 厚 0.3 cm。腕(5402)は肘の曲りを表現する細板で、両端に穿孔がある。腕の一端は胴にとりつけ、他端を糸などで吊すのであらうか。長 5.7 cm, 幅 0.7 cm, 厚 0.3 cm。脚(5403)は脛を屈曲させ、足を切りぬき。基部に穿孔がある。両脚とものこっている。長 8.2 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.4 cm。平城宮6AAI区SD3410出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5404 組合せ人形の脚。板片を削り腿から足先まであらわす。脚は直線的につくり、中央やや下よりに弧状の切欠きをいれて膝をあらわし、足先を斜めに削りだす。上端に円孔がある。これは胴につなぐためのもの。長 12.2 cm, 幅 0.9 cm, 厚 0.7 cm。スギ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5405 側面全身を一枚の細板から切りぬく人形。頭部は後頭部の側縁を削って先端をとがらせる。この部分には墨痕が表裏に薄くのこり、被りものをあらわす。顔は台形に突出する。背部にはゆるやかなV字形に挟り、下端をとがらせている。長 15.9 cm, 幅 2.1 cm, 厚 0.5 cm。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5406～5408 側面全身を一枚の細板から切りぬいた人形。頭部に鼻口をあらわし、切欠きをいれて顎と肩をあらわす。両脚は前向で、下端から逆V字形の切欠きをいれてあらわす。5406；長 41.6 cm, 幅 3.6 cm, 厚 0.8 cm。長岡京左京三条二坊四・五町SD0210流路出土。スギ。10世紀か。P. E. G. 処理済。山城資料館保管。5407；長 17.7 cm, 幅 2.6 cm, 厚 0.5 cm。スギ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43落込み出土。5408；長 22.2 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.5 cm。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43 SX07出土。以上、13世紀。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

5409 薄板から左向きの横顔を切りぬいたもので、後頭部をまるく、前頭部に切込みをいれて被りものをあらわす。上面に墨で冠りもの・眉・目・耳などを描くが、額以下の部分は現在欠失。下面に「養」の墨書があり、木簡を転用したもの。現存長 6.4 cm, 現存幅 2.5 cm,

厚 0.3 cm。平城宮6AAB区SK820出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5410・5411 必ずしも側面全身人形ときめがたいが、とりあえずここに入れておく。5410 は後頭部を接合する顔の側面形をあらわしたものであろうか。長 8.4 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.5 cm。5411 は薄板の一足面を切欠いて目・鼻・口を表現し、他側面の上端を丸くして頭をあらわし、墨で目や髭をあらわした横顔の人形とみておく。長 9.9 cm, 幅 2.8 cm, 厚 0.4 cm。スギ。以上、長岡京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

D 顔 形 (5412～5417) かおがた

上記の人形以外で、顔面を表現するものをまとめる。個体差が著しく、用途も当然ことなるのであろう。樹種を明記していないものはすべてヒノキである。

5412 仮面形。木彫の仮面の形をとるが、眼孔がなく、実用にたえない。仮面にしても、額につけたものだろう。内側に空洞がある倒卵形の板を削って、人面をほりだす。額にそって1条の溝をめぐらせ、頭頂にV字状に切欠くのは、頭巾をかぶる表現か。額の溝の中央にかけて弧状にほりこんで鬚をあらわす。この彫込は眉の表現をもかねるらしく、目の上のほりは大きい。目は上・下の臉を表現し、瞳を小さくえぐる。耳は弧線であらわす。右耳から右頬にかけてゆがむのは原材自体のゆがみ。鼻下の上半は低くし、下半を高め、その中央に人中をほる。唇は弓なりのほりと真直ぐな短いほりで表現。削り細めた顎の下端近くに横位の溝をほる。以下は鬚としてあらわすか、装着用の溝にあてたのであろう。長 16.6 cm, 幅 8.6 cm, 厚 1.7 cm。平城宮6AAA区SD2700出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

5413 墨画人面板。墨で巧みに男性の笑顔を描く。眉は太く弧をえがき、目もしなやかに弓なりに細める。鼻は太く、小鼻小さく、鼻孔をつらねる弧線は下に大きく突出する。鼻梁には、笑いを生じた縦皺2線をいれる。髭は細く丹念に20本ほど引く。笑って開いた口から下の歯数本がのぞく。髯は頼りない線を5本ひくのみ。裏面には、縦線と斜め弧線1本とを交互に描いて散髪をしめし、下半に「神護景雲」(767年～770年)の墨書がある。舞楽面に類似のものがあり、本例も舞楽に関するものであろうか。長 11.8 cm, 幅 11.4 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6ACU区SD1250出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

5414 横向きの頭を切りぬいたもの。後方に立つ烏帽子・鼻・顎・後髪を切りぬき、長目の下端に出柄をつくる。板面に烏帽子の下縁をあらわす2本の刻線をいれ、中央の顎にあたる部分に2孔をあけ目釘をうっている。おそらく、他の部材と組合せて使うのであろう。長 27.7 cm, 幅 8.6 cm, 厚 0.4 cm。スギ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-43 SD04出土。12 世紀。水漬。京都市埋文研保管。

5415・5416 とともに破片で大型の正面全身人形の断片の可能性もあるが、通常のもの形態をことにしており、とりあえずここにおく。5415は丸頭をあらわす。墨点で髪をあらわし、眉・目・鼻・髭・口・顎・耳を墨描きしている。現存長 16.7 cm, 現存幅 5.8 cm, 厚 0.25 cm。5416は墨で頭髪。美豆良・眉・目・口・顎を描く。頭頂部に3本の突起があり、表裏に3線を描く。現存長 12.7 cm, 幅 4.5 cm, 厚 0.4 cm。以上、平城京左京一条三坊SD650出土。9 世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5417 人面板。円板に目・口を削りぬき、鼻はまわりをほりこんで浮彫りにする。顎に弧形の削込みをいれ、顔面の周像に2孔の釘孔がのこる。部分的に漆痕跡があり、もとは全面に漆

をかけていたこともかんがえられる。長 6.5 cm, 現存幅 3.7 cm, 厚 0.4 cm。樹種未同定。平安京左京八条三坊九町No. 74淡灰色シルト層出土。11世紀。水漬。京都市埋文研保管。

E 立体人形 (5501~5516) りったいひとがた

多くは棒状の材の一端に人の頭部を粗く彫刻したもので、衣服まで表現するものはきわめて少ない。また自然木の枝に人頭をつくるものもある。板状の人形に対して出土例が少なく、個体差も大きいのでここでは細分していない。樹種を明記していないものはすべてヒノキである。

5501 割材に人の頭を粗く彫る。被りものと頸部をあらわすが、それ以外は粗削りのまま。高 13.3 cm, 径 1.9×1.6 cm。藤原宮6AJB区SD2300。694年~709年。水漬。奈文研保管。

5502 断面半円形の割材に、頭と胴をほる。上衣の前合せを刻線であらわし、左肩以下に横位の刻線をいれる。高 15.8 cm, 径 1.9×1.2 cm。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。8世紀前葉。水漬。奈文研保管。

5503 自然木の枝を利用したもの。枝の本を頭部にあてて下ぶくれの丸い頭をほりだす。両眼は大きく下り目にほり、瞼と目玉を区別する。鼻は比較的小さくて低く、口は横に長い刻線であらわす。頸をほりだし、胸前に2本の短小な腕を出す。後頭部に墨をぬっている。頸と腕以下は樹皮を除くにとどまり、それ以上の加工をくわえない。高 26.2 cm, 径 4.8×3.9 cm。マツ属(二葉松類)。平城宮6AAC区SE2600出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5504 角材の一端寄りに断面台形の溝をめぐらし、人の頭をあらわし、頭部木口の稜角を削りおとす。胴下部の四角に浅い挟りをいれて腰をあらわす。溝や柄の仕口がのこっており、転用材を用いて人形にしたことがわかる。全体の加工はきわめて粗雑。現存高34.9 cm, 径 4.5×3.9 cm。モミ。平城宮6ACU区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

5505 断面カマボコ形の割材を加工したもの。一端を丸くかたどりその下部の両側から切込みを入れて頸をあらわす。平滑面の上寄りに横位の溝をいれている。また下端の両側からV字形の切込みをいれている。高 15.2 cm, 幅 2.1 cm, 厚 0.8 cm。モミ。平城宮6AAY区SD1250出土。730年頃。水漬。奈文研保管。

5506 心持ちの小枝を縦割にしたもの。一端をとがらし「く」字形に削りのこし被りものをあらわす。それ以下を平滑面とし、突出部の下で目のような2個の刻みをならべ、中程の両側から切込みをいれて手をあらわす。現存高 12.0 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.6 cm。シイ。平城宮6AAY区SD1250出土。730年頃。水漬。奈文研保管。

5507 柱状の小木片を加工したもの。刻目をいれて頭部と胴部とを区分し、正面の頸を少しとがらせ胴部の下半を細くする。前頭部から後頭部にかけて墨をぬって禿ふうの頭髪をあらわし、顔面には眉・目・鼻・口を墨描きする。胴部には手足を表現せず、正面に記号風の二字を墨で縦書する。下部に貫通する孔をあけている。長 6.3 cm, 径 1.1×0.9 cm。樹種未同定。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5508 扁平な割材の一端を頭とし、切欠きをめぐらして頸をあらわす。顔面は隅丸長方形に似て、低い鼻と目・口を刻み、下端の側面に切欠きをいれる。左目と鼻の一部に墨痕がある。高 15.0 cm, 幅 1.9 cm, 厚 1.4 cm。兵庫県吉田南遺跡SD11出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。

5509 扁平な割材の一端を丸い頭にかたどり、目・鼻・口を刻す。肩部から両腕がのび、胸前で合掌するらしい刻線があるが不明瞭。現存高 15.3 cm, 幅 1.8 cm, 厚 1.0 cm。平安京西寺

跡ND74-3-E-34 SE01出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

5510 割材の一端に球形の頭部をつくる。目・鼻・口をほり、髪は墨でえがく。体部の表現は粗く、胸に「秋野方」の墨書がある。高14.5cm、径3.0cm。平安京左京四条一坊五・六町ND64-3-J-15 SE07A出土。9世紀前半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

5511 扁平な割材を加工したもの。一端に烏帽子をつけた頭部をかたどり、目・鼻をほる。首をやや細くし、体部はほぼ長方形を呈する。高 12.2 cm、幅 1.7 cm、厚 1.0 cm。ヒノキ。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-L-12 SD10出土。13世紀。水漬。京都市埋文研保管。

5512 頭部の断片。断面が菱形の四角を面取りした形を呈する棒材の一端にあたる。被りものの・目・口を刻線であらわす。現存高 4.0 cm、径 1.1 cm。藤原宮6AJE区SD105出土か。694年～709年。水漬。橿考研保管。

5513 断面菱形の小木片を用い、その上半部に人の頭をあらわす。被りものの・目・鼻・口を稜角に刻んだ溝によって表現する。高 4.3 cm、径1.2×0.9 cm。平城宮6AAF区SK3264出土。755年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5514 小木片を用いて、卵形の頭部とその下に頸をほりだしたもの。目鼻口などの表現はない。高 3.2 cm、径 1.3×0.7 cm。平城宮6AAI区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

5515 木片に被りものの・眉・鼻・耳を刀子様の刃物でほる。高 7.4 cm、径2.7 cm。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。P. E. G. 処理済。向日市教委保管。

5516 小木片に、人の頭部をほる。被りものをほりだし、目鼻を墨線で描き口を刻線であらわす。頸以下を丸棒状に削りだしている。長 9.5 cm、幅 1.0 cm、径 1.0 cm。京都府尊勝寺推定地ND65-3-A-15溝出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

F 刀 形 (5601～5617) かたながた

刀をかたどった形代で細板を粗く削ってつくる。いずれの場合も鞘からぬいた抜身の状態で表現しており、刃物の厭勝を意図するようである。刀とつぎの刀子とは形態で酷似し、区別が困難であるが、ここでは小型のもので^{かます}鯨切先をなさないものを刀子にあて刀と区別した。刀は必ずしも実際の刀を忠実に模倣したものでなく、大きさや形態はかなりデフォルムされている。出土例が少ないこともあわせて、ここではA型式；柄と刀身を表現するものと、B型式；柄を表現せず、刀身と茎のみをかたどるものとに区別するにとどめる。

5601・5602 A型式の刀形。細板を切りぬいて長方形の鐔と柄頭をあらわし、その間に屈曲する柄間をつくる。刀身のつくりは粗く刃や刃先は表現しない。5601；現存長 64.6 cm、幅 3.2 cm、厚 0.4 cm。5602；現存長 28.1 cm、幅 3.3 cm、厚 0.5 cm。以上、ヒノキ。平城宮6AAI区SD4100A出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

5603 A型式の刀形。刀身と柄をはっきりと区別し、柄元の幅を広くし柄間の内側に弧形の刳込みをいれ、頭椎風の柄頭をつくる。刀身では刃をのぞく鎬から刀背にかけて墨でぬり、柄には紐巻きの状態を墨線で描く。現存長 20.0 cm、幅 2.2 cm、厚 1.1 cm。ヒノキ。藤原京右京八条一坊SD104出土。7世紀後半。水漬。奈文研保管。

5604 A型式の刀形。刀身と柄の境が不明確。刀身は一面の片側を薄く削って刃をつける。柄間は幅を狭め、柄頭を円頭形にあらわす。現存長 36.3 cm、幅 3.0 cm、厚 0.5 cm。スギ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5605 A型式の刀形。刀身と柄の境を少しひろげて鐔をあらわし、柄間を細めて円頭形風の

柄頭をつくる。鐔と刀身の2個所に円孔があくが、板を刀形に加工する以前のもの。長 53.2 cm, 幅 2.4 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ACU区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

5606 A型式の刀形。先端を斜めに削りおとして鯨切先にするが、刃をつけていない。柄と刀身との間の両側を台形に削りのこして鐔をあらわす。柄は両側縁を若干内弯気味に削り、柄頭は撥形に近い。長 36.4 cm, 厚 0.6 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

5607 A型式の刀形。短くて幅広の刀身に、鐔つきの柄をあらわす。柄間はわずかに屈曲し、柄頭を円頭形にかたどる。蕨手刀のようにもみえる。長 17.3 cm, 幅 2.0 cm, 厚 0.25 cm。ヒノキ。平城宮6AAY区SD1250出土。730年頃。水漬。奈文研保管。

5608 A型式の刀形。刀身を薄く削って墨を塗り柄と区別する。柄は真直ぐのび柄頭を丸くするにとどまる。鐔はない。現存長 17.7 cm, 幅 4.1 cm, 厚 0.4 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5609 A型式の刀形。刀身は柄より細身につくり柄との境に段をつける。鐔の表現を欠いている。身は鎚造りで切先に刃をつけ、鎚地に墨を塗る。柄は少しく尻上りにかたどる。柄元に貴金具らしい墨描きの太線をいれ、柄間に紐巻きをあらわす斜線をひき、その柄頭付近に鳩目か目釘孔らしい円を描く。柄頭には全面に墨を塗り、金具をあらわしている。長 29.8 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.45 cm。ヒノキ。平城京左京九条三坊十坪SD1300出土。8世紀後葉～9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

5610 A型式の刀形。刀身は柄よりも細身につくる。刀身は鎚造りで切先に刃をつける。柄は真直ぐに通し、稜角に面取りをほどこし柄端に丸味をもたせる程度の加工にとどまる。長 24.4 cm, 幅 2.7 cm, 厚 0.8 cm。モミ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

5611 A型式の刀形。5610 とほぼ同じつくりだが、刀身と柄の境に段をつくる点がことなる。現存長 15.5 cm, 幅 2.3 cm, 厚 1.6 cm。ヒノキ。兵庫県吉田南遺跡SD11出土。8世紀後半～9世紀。水漬。神戸市教委保管。

5612 細板の半分を刀身とし、のこりを柄にあてる。加工は柄の一側面を削って鯨切先と細身の刀身をかたどるにとどまる。長 15.7 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.8 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5613～5615 B型式の刀形。切先の刀身下端の中央に細長い茎をつくりだす。両面もしくは片面に鎚をとおして、刃をつけている。5613; 長 28.8 cm, 幅 2.4 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6ACU区SD1250出土。8世紀。水漬。5614; 長 24.8 cm, 幅 2.1 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。5615; 長 17.1 cm, 幅 1.4 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半(694年以前)。水漬。以上、奈文研保管。

5616・5617 現代の包丁の形に似て、これまでの刀形とは形をことにしている、別の型式になる可能性もあるが、とりあえずB型式の刀形としておく。ともに刀身の背をわずかに弧形にかたどり、切先をとがらす。刀背と茎の片側とをそろえる、関が曲線をえがく。5616; 現存長 25.0 cm, 幅 4.2 cm, 厚 0.7 cm。水漬。5617; 長 30.9 cm, 幅 2.3 cm, 厚 0.7 cm。P. E. G. 処理済。以上、スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。向日市教委保管。

G 刀子形 (5618~5621・5711~5721) とうすがた

刀子形は、その形態によって大きく三つに区分することができる。A型式は細板の片側を削って刀身と柄をあらわすもので、刃をつけるものとつけないものがある。全体に粗雑なつくりで、割裂き面などの粗面をとどめるものが多い。もっとも一般的な型式。B型式は刀身と柄との間に段をつけ、身と柄を明瞭に区別するもの。C型式は柄をつけない刀身のみをかたどるもので、柄のかわりに茎をあらわす。

5618~5621 A型式の刀子形。全体の約半分を刀身にあて、鎚をとおし、刃をつくりだす。
5618；長 24.0 cm，幅 1.4 cm，厚 0.7 cm。スギ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。
5619；長 22.5 cm，幅 1.9 cm，厚 0.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAO区SK2101出土。750年頃。水漬。
5620；長 19.7 cm，幅 1.3 cm，厚 0.3 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。
5621；長 18.8 cm，幅 1.6 cm，厚 0.6 cm。スギ。奈良県白毫寺遺跡池1出土。8世紀後半。水漬。榎考研保管。

5711・5716~5721 A型式の刀子形。5711；長 15.0 cm，幅 1.5 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年~709年。P. E. G. 処理済。5716；長 18.3 cm，幅 1.3 cm，厚 0.7 cm。樹種未同定。平城宮6ALS区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。5717；長 15.4 cm，幅 1.6 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。5718；長 16.1 cm，幅 1.5 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年~709年。P. E. G. 処理済。5719；長 15.3 cm，幅 1.2 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。5720；長 14.4 cm，幅 1.7 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。以上、奈文研保管。5721；長 17.0 cm，幅 1.6 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

5712・5713 C型式の刀子形。5712は刃を薄くし、実用の鉄刀子をかなり忠実に模している。5713は刀身が短く、茎が長いので鑿のような別の刃物を表現した可能性もある。5712；長14.2 cm，幅 1.7 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。5713；長 9.9 cm，幅 1.9 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。平城宮6ACP区SD5280出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。

5714・5715 B型式の刀子形。5714は刀身を一段薄くし、真直ぐ通る柄をかたどる。5715は柄の内側が弧状を呈する角形の古いタイプの柄を表現している。5714；長 14.7 cm，幅 1.7 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。5715；現存長 14.9 cm，幅 1.7 cm，厚 0.7 cm。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀~13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

H 剣形 (5701~5710) けんがた

剣形に比定するものは、刀形や刀子形ほど定型化していない。ここでは、細板の両側に刃をつけ、切先を山形にとがらすもの、古墳時代の石製模造品の剣のように剣身を抽象的にかたどるものなどをあつめた。

5701 上半を剣身状の諸刃とし、下半には刃をつけていない。現存長 39.7 cm，幅 2.5 cm，厚 1.0 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文

5702 剣身をあらわしたものの断片で、剣先を欠く。剣身中央に鑄をとおり、関部を削込み、柱状の茎をつくりだす。現存長24.0 cm, 幅 3.9 cm, 厚 1.1 cm。ヒノキ。奈良県布留遺跡 FM20c3区出土。8世紀～9世紀前半。アルコール・エーテル法処理済。天理教調査団保管。

5703・5706・5708 木片を木葉形にかたどったもので、剣身を抽象化したものとみえておく。5708の基部には小孔をあける。5703; 長 9.9 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.2 cm。樹種未同定。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。5706; 長 12.4 cm, 幅 2.7 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6ALS区SD5100出土。8世紀前半。水漬。以上、奈文研保管。5708; 長 12.2 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.25 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

5704・5707 着柄の剣を象徴的にかたどったものとみる。剣身を幅広の木葉形にかたどり、5704では柄を三角形に類似する形にあらわし、5707では柄元・柄間・柄頭をあらわす柄をつくりだしている。5704; 長 6.1 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.25 cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD145出土。694年～709年。水漬。榎考研保管。5707; 長 9.9 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5705・5709・5710 細板の先端を剣先状にとがらせたもの。5705; 長16.4 cm, 幅2.4 cm, 厚 0.3 cm。樹種未同定。兵庫県出合遺跡井戸出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。瀬戸内考古学研究所保管。5709; 長 18.7 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。5710; 長22.0 cm, 幅1.7 cm, 厚1.0 cm。ヒノキ。京都府仁和寺南院跡ND63-1-H-14池出土。11世紀。水漬。京都市埋文研保管。

I 鏃 形 (5722～5743) やじりがた

5722～5743 実用の鉄鏃を比較的忠実に模している。三角形式柳葉形の身に茎をつくりだすものが多く、なかには^{のかずき}篋被を付したものとおもわれるものもある(5734・5735)。一方、少数ではあるが、矢柄をふくむ矢の全形をかたどるものがある(5741～5743)。5722; 長 14.0 cm, 幅 2.1 cm, 厚 0.3 cm。樹種未同定。滋賀県湖西線関係遺跡ⅡH区出土。7世紀後半。水漬。滋賀県教委保管。5723; 現存長 8.4 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6AFJ区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。5724; 長 16.3 cm, 幅 1.4 cm, 厚 0.3 cm。5725; 現存長 9.6 cm, 幅 1.4 cm, 厚 2.25 cm。以上、ヒノキ。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。5726; 長 10.2 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。5727; 現存長 8.3 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6ACC区SD3825出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。5728; 現存長 4.8 cm, 幅 3.5 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。5729; 現存長 7.3 cm, 幅 3.3 cm, 厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SD3297出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。5730; 長 8.7 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SD5780出土。8世紀。真空凍結乾燥処理済。5731; 現存長 8.6 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.5 cm。スギ。平城宮6ABE区整地層出土。710年頃。P. E. G. 処理済。以上、奈文研保管。5732; 長 6.0 cm, 幅 2.6 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。5733; 現存長 12.0 cm, 現存幅 1.4 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。5734; 長 12.4 cm, 幅 2.1 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。真空凍結乾燥処理済。5735; 現存長 7.0 cm, 幅 2.3 cm, 厚 0.4 cm。ヒ

ノキ。平城宮6AAA区SD10550出土。8世紀。水漬。5736；長6.9 cm，幅1.0 cm，厚0.3 cm。
ヒノキ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。5737；現存長9.3 cm，幅0.6 cm，厚0.3 cm。樹種未同定。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。水漬。5738；長11.5 cm，幅0.6 cm，厚0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ADF区SK1979出土。8世紀。P. E. G. 処理済。5739；現存長11.0 cm，径2.0 cm。広葉樹。平城宮6AAG区SD3410出土。8世紀。水漬。以上，奈文研保管。5740；現存長14.0 cm，径1.2 cm。針葉樹。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。5741；現存長16.7 cm，径1.1 cm。ヒノキ。平城京西隆寺跡出土。8世紀。P. E. G. 処理済。5742；長36.5 cm，径1.5 cm。樹種未同定。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。5743；現存長11.6 cm，幅1.9 cm，厚0.5 cm。ヒノキか。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。以上，奈文研保管。

J 鉈 形 (5801) やりがんながた

5801 細板の先端をとがらし，一面から刃をつけたもの。若干内反りになっており，鉄製の鉈をかたどったものであろう。ただし，基部の木口から割目をいれており，木針である可能性もすてがたい。現存長19.4 cm，幅1.8 cm，厚0.5 cm。モミ。平城宮6AAI区SD4100A出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

K 鎌 形 (5802・5803) かまがた

柄をかたどったものと，鉄刃をかたどったものがある。

5802 鎌形の柄。細板から全体をく字形に近い形にととのえる。柄尻は山形に削りのこす。柄元は先端をとがらし，木口面から刃を挿入する縦の割目をいれている。現状では，刃はなく目釘孔も略されているが，本来は木の刃を挿入して用いたものであろう。長11.8 cm，幅1.3 cm，厚1.1 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

5803 鎌の刃形。細板を鎌の刃にかたどったもので，やや内弯する刃をつくりだし，先端を鋭くとがらす。刀背にも若干の面取りがある。基部が変色していないので，使用時には柄に装着されていた可能性がある。なお，報告では筥にあてている。長17.7 cm，幅2.1 cm，厚0.5 cm。樹種未同定。長岡宮7AN5区SD3100出土。784年～794年。水漬。山城郷土資料館保管。

L 鉈 形 (5804) なたがた

5804 円筒状の柄に曲刃の刃先をつけた形をあらわす。いまのところ，鉈をかたどったものとしておく。長14.9 cm，径2.5 cm。アカガシ亜属。兵庫県上原田遺跡SE03出土。8世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。兵庫県教委保管。

M 下駄 形 (5805) げたがた

5805 楕円形に近い板に鼻緒孔のような配置で孔をあけたもの。下駄をかたどったものにあてて。板材の両端を直線にし，両側縁を外反りに小判形にととのえる。一方の木口縁中央に1孔，両側縁中央に各1対の孔を錐であける。長12.9 cm，幅6.3 cm，厚1.0 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

N 鋤 形 (5806~5808) すきがた

5806~5808 一本鋤をかたどったもの。先のとがった鋤身に柄をつくり、柄の先端に把手を表現するものもある。5806；長 10.7 cm，幅 1.8 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。5807；長 18.5 cm，幅 3.6 cm，厚 0.45 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。5808；長 22.2 cm，幅 2.5 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD105出土。694年~709年。水漬。檀考研保管。

O 舟 形 (5809~5816) ふねがた

舟形は角材や半截の丸木に船槽を刳りぬいてつくる。丸木舟形と丸木舟に甲板を設けた準構造船形とがある。後者はいまのところ近畿地方で発見されていない。丸木舟形には船首と船尾をとがらせたものと、船首と船尾を四角や隅丸方形に作る例がある。ここでは、とりあえず前者をA型式、後者をB型式とする。

5809~5811 B型式の舟形。5809 は全体を長細くあらわし、舟底の両端近くに小孔とこれに挿入した細棒の痕跡がある。舟形を用いるとき両端を細棒で支えたのであろう。5811 は舟槽が深い。5809；長 31.5 cm，幅 1.5 cm，厚 1.1 cm。ヒノキ。平城宮6AAY区SD1250出土。8世紀。水漬。5810；長 15.6 cm，幅 1.9 cm，厚 1.3 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年~709年。水漬。以上、奈文研保管。5811；長 13.5 cm，幅 2.3 cm，厚 2.8 cm。樹種未同定。平安京左京四条一坊五・六町ND64-3-J-15 SK03出土。9世紀。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

5812~5815 A型式の舟形。5812 は船先を方形にかたどるが、舟槽は尖頭形にほりこむ。5813・5815 は船先で底部が一段高くなり、5814 には棧をおとした溝を舷側の両側にあけている。5812；現存長 9.1 cm，幅 2.0 cm，厚 0.9 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。5813；長 17.4 cm，幅 3.2 cm，厚 1.7 cm。5814；現存長 10.0 cm，幅 2.0 cm，厚 0.8 cm。以上、樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-44 SX10出土。12世紀~13世紀。水漬。京都市埋文研保管。5815；現存長 7.1 cm，現存幅 3.2 cm。ヒノキ。難波宮橋脚MP-2区SK10043出土。7世紀前半。水漬。大阪市文協保管。

5816 B型式の舟形。舟形としては大型にぞくする。舷側の3個所に相対する溝を切欠いているので、棧をわたしたことがわかる。また舟首と舟尾の片側に穿孔するが意味不明。舟底のほぼ中央および一端に柄穴をあけており、帆柱を立てた可能性がある。この舟形は平城宮東院の園池から出土したものであり、実際に水に浮かべたものとおもわれる。長 55.8 cm，幅 11.3 cm，厚 5.5 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉~9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

P 馬 形 (5901~5918) うまがた

馬形は裸馬をあらわしたA型式と、鞍をかたどるB型式に大別できる。ともに、きわめて抽象化しており、耳をかたどるものはまれで、四足は表現の対象外である。板の周辺を切りぬいて形をととのえるのは一般的だが、なかには墨で目や体毛をあらわすものもある。

A型式馬形のうち、細板の上辺に1個所、下辺に2個所の切込みをいれ、胴と頭もしくは尾をしめしたらしいものや、背をあらわす切欠きと頭と頸の境をあらわす切欠きをいれるものなど、きわめて簡略な表現をとるものをAⅠ型式とする。上辺と下辺の切込みあるいは墨描きによって、頭・胴・尾の違いが識別できるものをAⅡ型式とする。B型式は、上辺にいれる二個の切欠きによって鞍の存在を示すものをBⅠ型式とする。一方、鞍の前後輪を突出させ、その間を凹めたより写実的なものをBⅡ型式とする。

5901～5908 BⅡ型式の馬形。5903・5907には刃物の先で目をほりこんでいる。5903・5904・5907は下辺を弧状に削り、他は一直線に削る。5906は耳、5908は尾を表現する。5901；長29.0cm、幅4.7cm、厚0.4cm。スギ。5902；現存長14.7cm、幅2.9cm、厚0.6cm。スギ。5903；長25.6cm、幅5.7cm、厚0.5cm。ヒノキ。5904；長16.6cm、幅3.5cm、厚0.7cm。ヒノキ。5905；長23.4cm、現存幅3.9cm、厚0.4cm。ヒノキ。5906；長17.3cm、幅3.6cm、厚0.5cm。スギ。5907；長17.6cm、幅3.6cm、厚0.5cm。ヒノキ。5908；長18.8cm、幅2.9cm、厚0.5cm。ヒノキ。以上、兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9世紀前葉。P.E.G. 処理済。日高町教委保管。

5909・5914 BⅠ型式の馬形。5909は頭部を短く、尾を長くあらわし、上面に刃物痕がついている。5914は尾をあらわしていないが、表裏に目や体毛を墨描きしている。5909；長12.2cm、幅2.6cm、厚0.25cm。ヒノキ。藤原宮6AJB区SD170出土。694年～709年。水漬。5914；長14.2cm、幅2.9cm、厚0.3cm。樹種未同定。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

5912・5915・5917・5918 AⅠ型式の馬形。5912・5915は左右対称形につくり、頭と尾を区別しがたい。5917・5918は下辺の切欠きによって頭と頸とを区別している。5912；長16.3cm、幅2.7cm、厚0.7cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半（694年以前）。水漬。奈文研保管。5915；長16.3cm、幅3.7cm、厚0.5cm。樹種未同定。京都府大藪遺跡ND83-4-F-11流路出土。9世紀前半。P.E.G. 処理済。京都市埋文研保管。5917；長8.2cm、幅1.4cm、厚0.15cm。5918；長13.8cm、幅2.5cm、厚0.5cm。以上、ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

5910・5911・5913・5916 AⅡ型式の馬形。5910・5911・5913は背を窪め、5910・5913は切欠きで頭・胴・尾をあらわす。5911は墨描きで目や立髪・手綱らしきものをあらわす。5910；長16.9cm、幅2.3cm、厚0.55cm。ヒノキ。平城京右京八条一坊十一坪SD920出土。8世紀後葉～9世紀前葉。水漬。5911；長13.5cm、幅2.3cm、厚0.12cm。ヒノキ。平城宮6AAY区SD1250出土。8世紀。水漬。5913；現存長10.8cm、幅1.8cm、厚0.4cm。ヒノキ。平城宮6AAD区SD2700出土。8世紀。水漬。以上、奈文研保管。5916；現存長19.0cm、幅3.7cm、厚0.4cm。樹種未同定。京都府大藪遺跡ND83-4-F-10 SD01出土。8世紀後半～9世紀。水漬。京都市埋文研保管。

Q 牛 形 (5919) うしがた

5919 4足の獣形をかたどる。鼻が突出し、刻線で口をあらわす。胴は太くそれに短い足をあらわす。鼻先に孔をあけ木片をとおし、足部にも円孔をあけている。同時に小板片を「く」字形に加工し、両端に孔をあけ木片を挿したものが出土している。鼻先と胴部に墨痕がある。鼻の木片を鼻輪とし、足の孔に軸をとおし車輪をつけ、く字形の木片を軛として肩にのせる

と、牛車が想定できる。玩具かもしれない。牛形；長 13.7 cm，幅 5.3 cm，厚 1.3 cm。軛；長 7.7 cm，幅 1.0 cm，厚 0.4 cm。樹種未同定。京都府仁和寺南院跡ND63-1-H-14池出土。12世紀。水漬。京都市埋文研保管。

R 鳥 形 (6001~6021) とりがた

鳥の形に板を切りぬいたもの。鳥の全形をあらわしたものをA型式とよび、鳥の部分だけをあらわしたものをB型式とよぶことにする。

A型式鳥形のうち比較的写実的に切りぬき、ときには墨描きなどで目や羽をあらわすものをAⅠ型式鳥形とするが、それには鷹や水鳥に比定しうるものもある。鳥形がきわめて粗雑に表現され、AⅠ型式の存在からして鳥形であろうと推測できるものをAⅡ型式鳥形とする。A型式の鳥形はおおむね側面形で表現されており、体部にヒゴなどを挿入した痕跡をとどめるものや、尾羽根にあたる端部側面に割目をいれ、何物かに挿した痕をしめすものもある。B型式鳥形は、組立式の鳥形の部品とみられる。いまのところ頭・脚・翼に相当するものがある。

6001 AⅠ型式鳥形。翼から尾羽根にかけての破片で頭部から胸部にかけてを欠損している。周縁を翼をたたみ尾羽根を下にさげた状態にかたどり、一枚一枚の羽を墨線によってあらわしている。墨描きは片面だけである。現存長 16.8 cm，現存幅 4.0 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。藤原宮6AJB区SD2300出土。694年~709年。水漬。奈文研保管。

6002 B型式鳥形。鳥の頭をかたどる。両面に嘴・目・羽毛を墨描きする。猛禽の類であろう。長方形の頸以下に墨痕を欠くので、この部分を別材でつくった胴体に挿しこむのであろう。長 5.5 cm，現存幅 1.4 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6003 AⅠ型式鳥形。嘴の短い小鳥らしい鳥の側面を切りぬく。目・嘴・翼を墨描きであらわす。長 6.7 cm，幅 3.4 cm，厚 0.6 cm。ヒノキか。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

6004 AⅠ型式鳥形。嘴と頸の短い鳥の側面形をかたどり、目や羽根の一部を墨描きであらわす。長 7.8 cm，幅 2.3 cm，厚 0.5 cm。樹種未同定。兵庫県出合遺跡井戸出土。8 世紀後半。真空凍結乾燥処理済。瀬戸内考古学研究所保管。

6005 AⅠ型式鳥形。卵形の体部から、長い頸と嘴をつくりだした水鳥の形。尻に木釘様のものを打込んだ痕跡がある。長 10.0 cm，幅 2.4 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAY区SD1250出土。8 世紀。水漬。奈文研保管。

6006 AⅠ型式鳥形。木葉形の体部から、長い頸と嘴をつくりだした水鳥の形。長 13.8 cm，幅 4.7 cm，厚 0.65 cm。樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-44 SX10出土。12 世紀~13世紀。水漬。京都市埋文研保管。

6007~6014 AⅡ型式鳥形。6008・6009 は長方形の板に頭部のみを切りぬく。6010・6012~6014は胸部あたりにヒゴを挿入した痕跡をとどめる。6007；長 12.8 cm，幅 3.2 cm，厚 0.7 cm。スギ。平城宮6AAI区SD4951出土。8 世紀後葉。水漬。奈文研保管。6008；長 8.8 cm，幅 3.2 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756 年頃。水漬。6009；長 12.3 cm，幅 2.1 cm，厚 0.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。6010；長 9.0 cm，幅 3.1 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD5564出土。757年頃。P. E. G.処理済。6011；現存長 9.0 cm，幅 3.1 cm。ヒノキ。平城宮6ACC区SD3825

出土。8世紀後半。水漬。6012；現存長 14.2 cm，幅 3.5 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。以上，奈文研保管。6013；現存長 15.7 cm，現存幅3.2 cm，厚 0.7 cm。平安京西寺ND74-3-E-34 SE01出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。6014；長 21.3 cm，幅 3.1 cm，厚 1.2 cm。スギ。京都府定山遺跡DL51区出土。12世紀。水漬。丹後資料館保管。

6015～6018 AⅡ式鳥形。細長い板材から頸の長い水鳥をかたどる。6015 には体部に貫通するヒゴ孔をあけている。6015；現存長 35.2 cm，幅 2.3 cm，厚 0.4 cm。スギ。兵庫県姫谷遺跡旧河川出土。9世紀前葉。P. E. G. 処理済。日高町教委保管。6016；長 26.7 cm，幅 1.6 cm，厚 0.4 cm。スギ。平城宮6ABE区SD8161出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。6017；現存長 20.8 cm，幅 2.0 cm，厚 0.4 cm。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。奈文研保管。6018；長 25.3 cm，幅 2.0 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡B区自然流路出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6019 B型式鳥形。鳥の頭をかたどる。頭部に曲がった嘴と小さな突起を削りだし，目を刃物で切りぬいた猛禽の形をあらわす。顎と頸部の基部に切欠きをいれており，基部の切欠き部分までを胴部に挿入したのではあるまいか。長 11.5 cm，幅 3.0 cm，厚 0.9 cm。スギ。平城宮6ALR区SD3236出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

6020 B型式鳥形。鳥の脚をかたどる。上端を長方形に削りのこし，以下を丸棒状に削って脚をつくる。中央に2本の突線をめぐらし関節をあらわす。爪は大きく外反する。前爪は2度内彎し，蹴爪は大きい，ともに先端をとがらす。上方の突起は体部につなぐためのものである。長 15.3 cm，幅 2.3 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6021 B型式鳥形。鳥の翼を広げた形をとる。板に曲面をもたせ，内外を丁寧に削る。付根は厚く平坦面をなし，釘孔がある。長 15.7 cm，幅6.4 cm，厚 1.5 cm。ヒノキ。平城京法華寺旧境内SD03出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

S 陽物形 (6101～6113) ようぶつがた

男性の生殖器をかたどったもの。樹皮をとり去った心持丸木の棒ないしは割材の棒の一端を龟头形に加工する。基端に溝をめぐらし，紐などを巻きつけたことをうかがわせるものもあるが，基部に加工をくわえないものもある。出土例では，心持丸木のものと割材のものとが相半ばするが，前者のほうが概して写実的である。

6101～6108・6113 心持丸木のもの。6101；長 15.3 cm，径 2.9 cm。サカキ。6102；長 14.2 cm，径 2.5 cm。ツバキか。以上，滋賀県湖西線遺跡出土ⅡH・VA区。9世紀～13世紀。水漬。滋賀県教委保管。6103；長18.3 cm，径3.0 cm。アカガシ亜属。平城宮6AAO区SE311B出土。9世紀前葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。6104；長 12.3 cm，径 3.0 cm。6105；長 12.6 cm，径 2.3 cm。以上，樹種未同定。京都府中久世遺跡ND83-4-S-45 SD01出土。9世紀。水漬。京都市埋文研保管。6106；長 14.0 cm，径 2.7 cm。ツバキか。滋賀県湖西線遺跡IVD区出土。9世紀～13世紀。水漬。滋賀県教委保管。6107；長 8.8 cm，径3.1cm。ツバキ。平城京左京三条二坊十五坪SE967出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。6108；現存長 9.4 cm，径 1.1 cm。ヤナギ属。奈良県白毫寺遺跡池1出土。8世紀後半。水漬。榎考研保管。6113；現存長 19.4 cm，径 5.5 cm。樹種未同定。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12

世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

6109～6112 割材からつくるもので、必ずしも断面が円形にならず、一般に粗雑なつくりである。6109；長 12.0 cm，径 1.4×1.1 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。6110；長 18.0 cm，径 3.5×2.8 cm。6111；長 14.5 cm，径 3.6×2.7 cm。6112；長 12.9 cm，径 3.5×2.8 cm。以上，樹種未同定。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

T 仏具他 (6201～6214) ぶつぐ

6201 百万塔未成品。心をはずした割材からつくる。横軸轆轤によって塔身に三重の屋蓋を挽きだすが、全体に腐蝕し加工痕跡がはっきりしない。三重目の頂部には陀羅尼経をいれ、相輪をはめこむ孔はまだ割りぬかれておらず、轆轤の削り痕がのこる。基壇底面に轆轤爪痕跡があり、その中心部は粗加工にとどまる。陀羅尼経の収納孔をあける前に、屋蓋に欠損を生じ廃棄したのであろう。なお平城宮6AAD区SD2700 から屋蓋片が出土している。高 14.4 cm，径 10.6 cm。ヒノキ。平城宮6ACC区SD3825出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6202 火焰宝珠。板を火焰宝珠形に加工したもの。下辺に三枚の蓮弁をあらわし、そのうえに球形の宝珠、その周囲に立上る火焰を刻む。蓮弁と宝珠とは墨の輪郭であらわし、火焰部分は赤色の顔料を塗る。中央蓮弁の下に小さな柄をつくり、宝珠中央部分に1対の小孔をあけ、何物かをとりにつけた模様。現存長 14.0 cm，幅 11.0 cm，厚 0.5 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6203 物忌札。短冊形の薄板の頭部を圭頭状につくり、表面を丁寧に削って上寄りに「物忌」と墨書する。現存長 14.1 cm，幅 3.4 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。水漬。奈文研保管。

6211 物忌札。細板の一端を圭頭にかたどり、他端に向って細める。上部の表裏に「固物忌」の墨書がある。長 17.1 cm，幅 0.3 cm，厚 0.3 cm。樹種未同定。平安京左京六条一坊八町ND74-1-B-55 SE03出土。11世紀後葉。水漬。京都市埋文研保管。

6204 飛雲形。板を飛雲の形に切りぬく。二つの雲が派出する様をかたどる、先の雲は折損している。雲は連弧の渦巻状頭部から長い尾をひき、片面にその輪郭を墨で描く。厨子などの付属品か。現存長 27.0 cm，幅 7.0 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6AAY区SD1250出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6205・6206・6213・6214 車輪形。円板の中心に軸受孔をあけ、輪と輻は粗い墨描きで表現する。輻は8本以上で、軸受孔から放射状にのびる。仏具の輪宝か、それとも6206はさきにのべた牛形(5919)と共伴しているので牛車の車輪になる可能性もある。6205；径 8.0 cm，厚 0.7 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。6206；径 8.5 cm，厚 0.4 cm。京都府仁和寺南院跡ND63-1-H-14池出土。11世紀～12世紀。6213；径 6.6 cm，厚 0.5 cm。6214；径 11.4 cm，厚 7.0 cm。以上，樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-53 SD01出土。12世紀後葉。水漬。京都市埋文研保管。

6212 絵馬か。板に楽人2人を黒と朱で描く。ともに被りものをつけ、赤色を混える上衣を着る。向って左側の人物は笛を、右側の人物は笙を奏する。報告では板戸の絵画とするが、横位の板に描くので、絵馬の可能性もある。現存長 21.2 cm，現存幅 6.3 cm，厚 0.8 cm。樹種未同定。京都府鳥羽離宮跡ND84-3-G-53 SD01出土。12世紀後葉。水漬。京都市埋文研保管。

* 成田寿一郎「百万塔製作技術の実験的研究Ⅰ・Ⅱ」『民具マンスリー』13巻10号 p. 1～14，同14巻2号 p. 1～13 1981年
工楽善通・金子裕之「百萬塔の調査から」『伊弉留我』1号 小学館 1983年 p. 16～23

** 難波俊成「物忌札」『日本仏教民俗基礎史料集成』第4巻（元興寺極楽坊Ⅳ）中央公論美術出版 1977年 p. 32～42
奥野義雄「物忌札とその世界」『どるめん』No. 18 1978年 p. 25～42

6207～6210 木彫像。板材から立像を粗くほりあげたもの。6207は台座に立つ仏像で、右腕を欠いている。頭に鬘をのせ、眉と目を刻むが、それ以外の細部は表現されていない。高10.0cm，径2.9cm×2.0cm。樹種未同定。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。滋賀県教委保管。6208は台座のうえで、頭に冠をのせ法衣をつけ、両手を胸前で組む男子像。高9.2cm，径3.2×1.0cm。樹種未同定。6209は台座のうえで、ふっくらした髪をゆい、ゆったりとした衣服をつけ、両手を胸前で組む女子像。高9.8cm，径3.2×1.5cm。ヒノキ。以上、京都府鳥羽離宮跡ND84-3-L-12 SD11B出土。6210は、長髪をたらし、長袖の上衣を着け袴をはき、腰をしめた女子像。高12.2cm，径4.9×3.2cm。ヒノキ。京都府鳥羽離宮ND84-3-L-12 SD07出土。以上、14世紀～15世紀。水漬。京都市埋文研保管。

14 建築模型部材（P.L. 63）

建築模型の部材の組物が、ごくまれに発見されることがある。^{*}6301・6302・6305～6311は平城宮6ABR区SB7802出土の一括品であり、実物を10分の1に縮小した模型部材である。部材はいずれも節がなく木目のこまかい柾目のヒノキ材を用いる。753年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6308 杵肘木。柱上の大斗にのる肘木で、これと直交する肘木との仕口をもつ。仕口は相欠き。一方の木口内方に繋ぎがのびまた他方にも同じような繋ぎがあって、折損した跡が認められる。この繋ぎでは肘木と肘木とを連結するもので、たぶん同高に入る一方向の肘木は一本からの造り出しであろう。この肘木の場合は両端に繋ぎが入るので、隅部分ではなく中柱位置のものとなる。現存長23.3cm，肘木部分の長14.7cm，高3.0cm，幅2.5cm，上端に3個の巻斗をとめる丸太柄穴がほられ、両端の丸太柄穴心々は12.6cm，太柄穴径1～1.2cmである。繋ぎは高1.3cm，幅1.2cmで、壁板をうけるとともに組物を固定するものとかがえられ外部へは出ない。繋ぎの長さからみてこの間の柱間寸法は23.3cm以上である。

6309 通肘木。現存長30.5cm，肘木部分の長さは相欠き仕口外面から11.7cm，高3.1cm，幅2.3cm。一方を肘木につくり、他方は長くのび、側通りの一段目通肘木と認められ、柱上の三斗でうける。相欠き仕口から内方は仕口底で割れているが、残存する仕口は、45度方向の隅行肘木のための浅い切欠き仕口と、直交する肘木のためのやや深い仕口とがあり、隅行肘木および他面の通肘木とこの肘木が組合って一番下木となることがわかる。仕口底に小木釘痕があり、方斗を通して下の杵肘木へとめている。先端に巻斗をうける丸太柄穴があり、柱心からの出は12.0cmとなる。中間の一手先目の位置には巻斗の太柄穴はなく、心から内方17.5cmの間には仕口がないらしい。

6310・6311 尾垂木受け通肘木。2丁あり、隅力肘木の仕口の方向は左右逆勝手である。先端は斜めに削って尾垂木をうけ、丸太柄孔を垂直にほる。1丁には太柄がのこる。木口の勾配は1丁が10分の5.2，1丁は10分の6でやや差があり、相欠き仕口外角から先端上端角までの出も8.0と8.4cmとなる。1丁は仕口の途中で折損するが、他方は下端の仕口底の部分が仕口心から内方に約18.0cm残存する。この部材はいずれも下段通肘木のうえに通る横架材の隅の部分で、他の奈良時代および平安時代初中期の三手先ではこの部材内方を肘木につくるのにたいし、これは通肘木となっている。

6301 尾垂木上斗。長4.1cm，幅4.0cm，現存高（敷面高）2.3cm，斗縁高1.5cmで、上

* 『小建築の世界』飛鳥資料館図録第12冊
1984年

角の耳を欠損し、中央に丸太柄孔が抜き通る。下端は後に圧縮されて変形しているが、木目の状況から見てははじめから隅行方向に斜めに削られていたものとおもわれる。そうすれば、隅尾垂木のような隅行の斜め材の上におかれたことがかんがえられる。この斗は他の斗と同方向に鬼斗風に用いられているので、建物本体と45度の方向に出る隅尾垂木とは平行にならず、斗尻角が尾垂木からはみだすことになり、一般の斗と同手法である。本来は尾垂木上端に渡脛の仕口をつくり、斗尻の両脇は水平に納めるはずであるが、雛形なので仕事を略したのであろう。太い丸太柄を立てているので滑りだすおそれはない。巻斗もこれと同寸法とかんがえられる。

6302 尾垂木上斗。斗(6301)より1まわり大きく長4.6cm、幅4.5cmで、中央に丸太柄孔が抜き通り、上端の一角にのみ耳がのこるが、この方斗がうけた材は角材でなく円形断面の材とみられるので、丸桁の隅の組手をうけたものとかんがえられる。斗縁はごく1部しかのこらず、下端を欠取り、さらに耳の反対側の半分は下端を斜めにそいでいる。本来、三手先の隅では隅尾垂木上の三斗には方斗はおかず、二重尾垂木をいれて直接丸桁の組手をうけているが、この雛形では二重尾垂木上に斗縁のほとんどつかない方斗をかいもののように入れていたらしい。この斗も下の斗と同方向に鬼斗のように用いられている。

6307 入側束。現状では肘木・通肘木よりもやや細い野材で、下端は水平に上端は斜めに削っていずれも長い丸柄をつくる。上端勾配は尾垂木受け通肘木の木口勾配とあい、力肘木の柱筋内方に立って、直接尾垂木下端をうけたものと認められる。現存長13.5cm、径2.4×3.2cm。

6306 天井組子断片。小さな断片で、一端近くに相欠き仕口底らしい痕跡がわずかにのこる。小片のためもとの用途は確定できないが、軒天井の組入天井組子とみてもよからう。現存長6.8cm、幅1.4cm。

6305 両端に丸柄孔らしい痕跡をのこす盤状の部材は、現存長14.5cm、幅3.6cmの野材で、両端は折損。厚みは現存最大1.7cmであるが、1方で薄くなり、後に割られた可能性が大きい。これは幅広い面を柂目とし、両端の丸柄孔は変形欠損しているが、心々12cm程である。台輪・柱盤のような用途もかんがえられるが、野材であり、内部の束受け土居であったかもしれない。

6303 巻斗。一辺4.9cm、高3.4cm。ヒノキ。藤原京右京七条一坊二坪SE2270出土。694年～709年。水漬。奈文研保管。

6304 大斗。一辺が三角形に突出し、それに対応する辺が三角形に窪む。下面に太柄穴をあける。八角円堂あるいは八角塔の模型の部材であろう。長4.1cm、幅4.8、高3.7cm。スギ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。奈文研保管。

15 雑 具 (PL. 64)

これまでの分類にふくまれない器物で、あきらかに使用目的が類推できるものを雑具としてまとめる。種類は多岐にわたるが、出土例はごく少ない。

A 火 鑽 板 (6401～6406) ひきりいた

6401～6406 細い角棒の側面に、間隔をおいて切欠きをいれ、火鑽杵を回転させた火鑽臼^{*}を上面にとどめる。多くの火鑽臼の断面は半球形を呈する。6402は板の両側で発火させ、6403は未使用の切欠きをとどめる。6406は木の枝の樹皮を除く程度に全体をととのえ、1側面に

* 高嶋幸男・岩城正夫『古代日本の発火技術』群羊社 1981年
高嶋幸男『火の道具』柏書房 1985年

切欠きをいれる。火鑢臼がなく、まだ使用していない。6401；長 17.3 cm，幅 2.9 cm，厚 1.6 cm。樹種未同定。平城宮6ALS区SD5100出土。8世紀中葉。水漬。6402；現存長 8.2cm，幅 3.6 cm，厚 1.4cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SK7453出土。8世紀中葉。真空凍結乾燥処理済。6403；現存長 28.1 cm，幅 2.5 cm，厚 1.2 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。6404；現存長 19.1 cm，幅 2.1 cm，厚 1.0 cm。スギ。平城宮6AAO区SK2101出土。750 年頃。水漬。以上，奈文研保管。6405；長 27.6 cm，幅 2.1 cm，厚 1.1 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。6406；長 21.3 cm，幅 3.9 cm，厚 3.6 cm。樹種未同定。兵庫県上原田遺跡SE02出土。8世紀後半。P.E.G. 処理済。兵庫県教委保管。

B 自在鉤 (6407) じざいかぎ

6407 二股になった小枝の一方を短くし，先端をとがらせ鉤形をつくる。その他は樹皮を除く程度に削る。鉤部の上面が磨滅している。長 26.8 cm，径 1.7 cm。マツ属(二葉松類)。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。8世紀前葉。水漬。奈文研保管。

C 釣瓶 (6408) つるべ

6408 縦木取りにして，内部を削りぬいたもの，木心は外していない。内部は粗い刃のあたりをのこすが，表面は横位の回転を利用した削りで調整。底部は，粗い削りによってやや上げ底風にととのえる。口縁部の平面形はやや隅丸方形に近い形。口縁端部から 4.5 cm と 20.5 cmの位置に，鉄製の箍をはめるため2条の浅い溝をほりこむ。上の溝幅 2.5cm，下の溝幅 2.0 cm。その溝の一部に鉄製の箍がのこる。箍は，頭が四角い鉄釘で釣瓶に固定。上の溝の中央に吊金具を釣瓶に固定した一対の穿孔がある。孔の径は内側が大きく 1.6 cm，外側は小さく 1.0 cm。釣瓶を固定するために円形の座金具を使用したらしく，孔の周辺を浅く円形にほり込む。口径 28.0 cm，高 24.0 cm。マツ属(二葉松類)。平城京左京五条二坊十四坪SE03出土。8世紀後葉。P.E.G. 処理済。奈良市教委保管。

D 草箒 (6409・6410) くさほうき

ホウキグサを束ねただけのものと，木の柄をとりつけたものがある。

6409 木柄の箒。柄は割材でつくる丸棒で，一端をとがらしホウキグサの箒先をまといつけ，蔓でしばって固定。箒先は大方滅失しているが，柄に箒先基端があたる部分に木理に直交する刃痕があり，箒先の着装後に上端を切りそろえたことがわかる。現存長約 36.0 cm，柄径 1.8 cm，箒先着装部径約 3.2 cm。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。水漬。奈文研保管。

6410 木柄を着装せずホウキグサを束ねたもの。本の部分の2個所で蔓巻きして柄にしている。現存長約 39.0 cm，柄幅 5.5 cm，柄厚 1.5 cm。平城宮6AAB区SK820出土。747 年頃。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

E 鑰 (6411) かぎ

6411 先端が少し内曲りのL字形鉄棒を，円筒形の柄に挿込んだもの。鉄棒部の長 30.8 cm，同径0.6 cm，柄長 12.0 cm，同径 2.9cm。ヒノキか。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。P.E.G. 処理済。向日市教委保管。

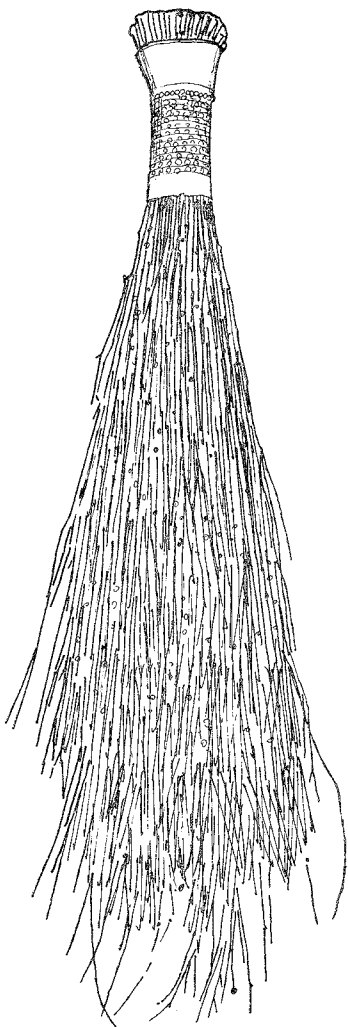


fig. 50 正倉院の子目利箒
(正倉院事務所『正倉院のガラス』日本
経済新聞社 1965年 図版60)

F 器 台 (6412・6413) きだい

6412・6413 2枚の台形の板を十字に組合せて器物の台にしたもの。台形の板の長辺が他辺よりも磨耗し、埋没時に円孔を対角線状につなぐ小枝をとおして、板が寄るのをとめていた。板の下縁近くにある長方形の小孔は支柱と結合するためのものであろう。このほか板の割れを止めるためか、小孔をあけて木釘でとめた補修箇所がある。6412; 長 45.6 cm, 厚 2.1 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735 年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

G 燈 台 (6414~6416) とうだい

受皿と台座に比定できるものがあるが、いまのところ軸は発見されていない。

6414 燈台の受皿。轆轤挽きでつくる。短く外反する厚手の縁をつくり、外高の縁部から底部に移行するあたりに一本の凹線をめぐらす。底部内面に刳込みがあり、中心部で貫通する円孔をあける。縁部には器の内外を貫通する7個の孔がある。本来は棒を差込んだらしく、2孔にその残片がある。内面は全体に焼け焦げており、とくに刳込み部分がひどく焦げている。中心の円孔に軸を通したものとおもわれる。小円孔が3方に偏していることから、風除けの紙を貼る軸棒があったことが想定できる。径 19.8 cm, 高 3.9 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6415 燈台の台座。緩い甲盛りをもつ円盤である。頂部に平坦面をもうけ、現状では2個所に「M」をくずしたような形状の浅い刳込みがある。平坦面と周縁の間に2本の突線をめぐらせるが、突線の上部は磨滅しているところが多い。中央に軸孔をあけ、これを中心に内行する四花文を突帯であらわす。裏面は周縁を高台風にのこし、内側に浅い刳込みをいれる。黒漆とその上にかけた金粉が部分的にのこっており、本来は全体を金平塵地とし、突線突帯で区画するくぼみに螺鈿を施したのであろう。径 29.5 cm, 高 5.0 cm。ヒノキ。京都府鳥羽離宮跡白河天皇成菩提院陵出土。12世紀。P. E. G. 処理済。宮内庁書陵部陵墓課保管。

6416 燈台の台座。轆轤挽きでつくった断面が台形を呈する円盤。2本の稜をめぐらして斜面を横位に三分割している。上面中央に円筒形の刳込みをほどこす。外底と上面からの刳込み部分をのぞいて薄い黒漆をかけている。径 28.0 cm, 高 7.2 cm。ケヤキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。

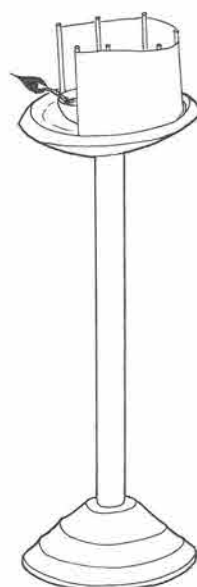
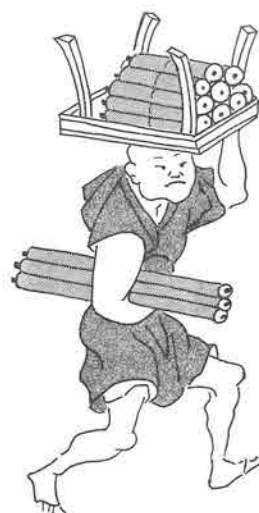
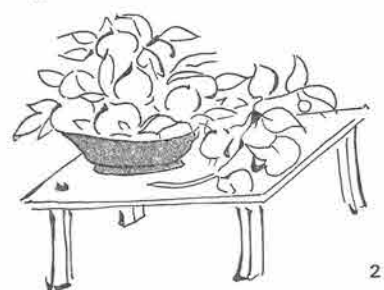


fig. 51 燈台の復原

fig. 52 机三種
1・3;『石山寺縁起』
2;『鳥獣戯画』

16 部 材 (P. L. 65~68)

部材を組合せてつくる板物の類、用途の判明するものと、用途をきめられないが他の部材と組合さって製品を構成するものがある。

A 支 脚 (6501~6515) しきゃく

机などの天板を支える脚部に比定しうるもの。

6501・6502 同形・同巧のつくりで、小板片を支脚形に加工したもの。上半分は本体の部へのとりつけ部分で、上端を山形にそぎ両側をまっすぐとおす。下半分は両側から挟りをいれ勾形の支脚状につくる。長 5.9 cm, 幅 2.1 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

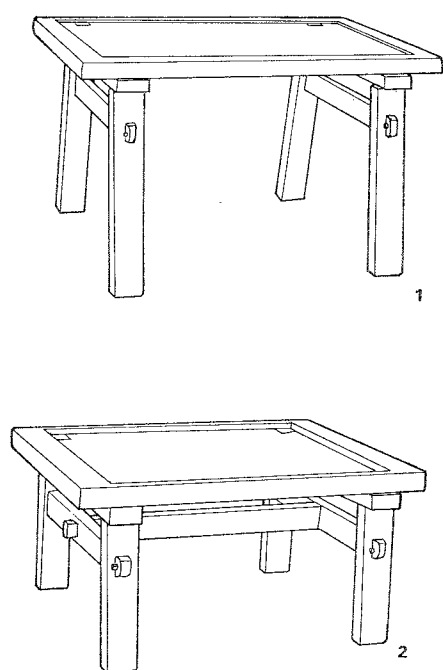


fig. 53 正倉院の榻足几
(前掲『正倉院の木工』図版5・6)

6503~6505 机などの脚。6503・6505 は上部を太くし、下部を細める。上部の木口には出柄をつくりだす。6503は下部を一段細くするにとどまるが、6505は下部に相欠き状の仕口をほどこす。6504 は上部が細く下部を太くする脚で、下部の縦断面形を馬蹄形につくる。6503；長20.4 cm，幅 6.0 cm，厚 3.8 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。6504；現存長 21.2 cm，幅 2.9 cm，厚 5.6 cm。アカガシ亜属。兵庫県上原田遺跡SE02出土。8世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。兵庫県教委保管。6505；現存長 23.5 cm，幅 5.1 cm，厚 4.4 cm。アカガシ亜属。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6506~6513 机などの支脚。角材の一木口に出柄をつくる。おそらく四本1組みで一脚になるのであろうが、6507・6510・6511 は柄の下に1個の柄孔をあける。支えの杵木をはめるのであろう。6507・6508・6513 は柄の頂部や基部が斜面を呈しており、外開きの脚である。6507・6509・6513 は柄の頂部から楔を打込んでおり、天板をのせたのち楔で脚を固定したことがうかがわれる。6506；長 31.7 cm，幅 4.8 cm，厚 3.2 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。6507；長 19.1 cm，幅 2.8 cm，厚 1.0 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。6508；現存長 49.5 cm，幅 4.0 cm，厚 4.3 cm。ヒノキか。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。6509；長 18.5 cm，幅 3.8 cm，厚 2.4 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。6510；長 18.8 cm，幅 4.5 cm，厚 1.9 cm。6511；長 19.2 cm，幅 5.1 cm，厚 1.7 cm。以上、スギ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。6512；長 28.9 cm，幅 4.1 cm，厚 2.2 cm。ヒノキ。平城宮6AAO区SK2101出土。750年頃。P. E. G. 処理済。6513；長 25.3 cm，幅 4.9 cm，厚 1.9 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。

6514・6515 多足机の台座。6514 は脚の角柱を挿込む柄孔を多数あける。残存する一端から3本目の柄孔、およびその間の8本をおいた残欠部の柄孔も貫通しており、全部で14本の角柱を左右から3本めの角柱を貫通させていることになる。また、裏をのぞく全面に黒漆をかける。現存長 14.0 cm，幅 1.8 cm，高 2.0 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SD12出土。9世紀中葉。P. E. G. 処理済。京都市埋文研保管。6515 は脚の4個の柄孔をあけるが、両端の孔が貫通し、そのうちの1孔に角柱の残片がある。長 26.0 cm，幅 3.1 cm，高2.9 cm。樹種未同定。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。

B 天 板 (6516~6518) てんいた

机や案の天板。

6516・6518 多足机の天板。板裏の短辺端寄りに断面台形の脚座をつくり出し、脚をさしこむ方形の柄孔をあける。6518は端の1孔を貫通させ2孔を1組して柄孔をあけるが、6516には貫通孔がなくほぼ均等に柄孔を配する。6516；現存長64.0 cm，現存幅48.0 cm，厚 2.0 cm。ヒノキ。平城京西市跡SE395出土。8世紀前半。水漬。奈文研保管。6518；現存長 16.0 cm，現存幅 24.5 cm，厚 3.7 cm。スギ。兵庫県吉田南遺跡河川1出土。8世紀後半~9世紀。水漬。神戸市教委保管。

6517 案の天板。長方形厚板の内面を削りぬき、四辺の縁を高くする。四隅に脚をとりつけ

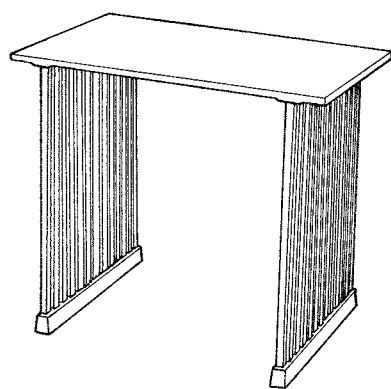


fig. 54 正倉院の二十六机
(前掲『正倉院の木工』図版8)

た柄孔をあける。全体に腐蝕が進行しており、詳細は不明。長 49.5 cm, 幅 26.0 cm, 高 5.2 cm。樹種未同定。平城宮6ALF区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

C 脚 座 (6601~6604) きゃくざ

机などの天板と脚の間にはめる脚座。偏平な角材の両端に柄孔をあけたもの。

6601~6604 6604 は柄孔をやや斜めに開け、外開の脚をつけたようである。他の3点は1側縁に弧形の浅い削形をいれる。6601; 長 44.1 cm, 幅 6.3 cm, 厚 1.6 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。6602; 長 40.3 cm, 幅 6.3 cm, 厚 1.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAG区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。6603; 長 32.8 cm, 幅 6.1 cm, 厚 1.1 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年~794年。水漬。向日市教委保管。6604; 長 24.5 cm, 幅 4.3 cm, 厚 1.3 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

D 台 座 (6605~6613) だいざ

とくに根拠はないが、その形態から他の部材と組合せて台座につかったとおもわれるもの。

6605~6613 6609・6611は板の中央に相欠きの仕口があり、同形の板を十字に組合せてつかったものようである。6608 は左右にあけた円孔に棒状の材がのこっており、同形の板を左右におきその間を2本の棒材でつないで台座にしたものであろう。これと類似する形をとる6605・6612 もこの種の台座にあてる。6606 は偏平な角材の一面に削形をいれ、その両端に円孔を貫通させている。円孔に支柱をたてるのであろう。6613 は長方形の板の両端を斜めにおとし、長側辺から弧形の削形をいれる。両端と中央に釘孔がある。このことから類似の材で四辺を枠状に囲う台座にあてる。6607・6610 は柄孔などなく、他部材との結合法が不明であるが、形のうえから一応台座にあてておく。6605; 長 28.4 cm, 幅 5.7 cm, 厚 0.6 cm。スギ。平城宮6AAF区SD3410出土。8世紀。P.E.G. 処理済。6606; 長 19.2 cm, 幅 4.5 cm, 厚 2.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。6607; 長 28.5 cm, 幅 7.6 cm, 厚 2.2 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。6608; 現存長 15.2 cm, 幅 6.6 cm, 厚 0.7 cm。樹種未同定。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。奈文研保管。6609; 長 21.5 cm, 幅 4.8 cm, 厚 0.8 cm。ヒノキ。奈良県布留遺跡流路出土。8世紀後半~9世紀。P.E.G. 処理済。天理調査団保管。6610; 長 21.8 cm, 幅 3.5 cm, 厚 0.7 cm。スギ。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀。水漬。奈文研保管。6611; 長 16.0 cm, 幅 8.3 cm, 厚 0.9 cm。樹種未同定。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀~13世紀。P.E.G. 処理済。京都府教委保管。6612; 長 29.1 cm, 幅 15.0 cm, 厚 0.9 cm。スギ。平城宮6AAO区SK2102出土。729年頃。水漬。奈文研保管。6613; 長 38.6 cm, 幅 5.6 cm, 厚 1.1 cm。スギ。奈良県布留遺跡流路出土。8世紀後半~9世紀。P.E.G. 処理済。天理調査団保管。

E 台 脚 (6614~6620・6627) だいきゃく

唐櫃や箱など各種の台脚に比定しうるもの。

6614・6615 唐櫃の脚。同一個体の部材。断面台形の角材を用い、内面の上下2箇所から雲形の削形をいれ、外面の上端に面取りをほどこし、削込みのない上下3箇所に釘孔がある。



fig. 55 多足机と床几
1:『長谷雄卿草紙』
2・3:『北野天神縁起』

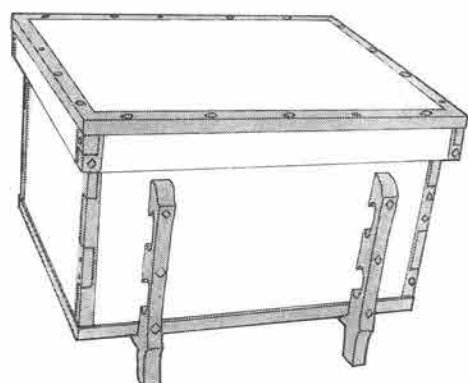


fig. 56 正倉院の赤漆小櫃
(前掲『正倉院の木工』
図版28)

正倉院の例によると、同形のを唐櫃の左右側板にそれぞれ2本ずつ鋸どめにして脚にしたことがわかる。6614；長 40.0 cm，幅 2.3 cm，厚 3.5 cm。ヒノキか。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。P. E. G. 処理済。向日市教委保管。

6616～6618 置台。細長い板材の両側あるいは片側に台形の刳形をいれたもの。6616 は長手の部材で，両側に1個と2個の刳形をいれ，中央に1孔左右端寄りにそれぞれ4孔を配する。両端の上下にならぶ2孔は支柱に釘どめするためであろうが，他の孔の性格は不明。6617・6618 は同形の部材である。片側に刳形をいれ，中央に1孔，両端寄りにそれぞれ5孔をあける。上下にならぶ両端の孔は支柱に釘どめするものでであろうが，他は不明。おそらく，これらの部材を組合せて内ころびを呈する枰状の台をつくり，その間に縦横に丸棒をわたしたものでであろう。6616；長 38.6 cm，幅 3.7 cm，厚 1.3 cm。6618；復原長 24.5 cm，幅 3.7 cm，厚 1.2 cm。以上，スギ。長岡京右京三条三坊今里車塚古墳周濠出土。8世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

6619 組合せ式高杯の軸。断面は方形を呈する。両端に方形の枘をつくりだす。長 22.2 cm，幅 5.4 cm。スギ。滋賀県湖西線遺跡ⅡH区出土。9世紀～12世紀。水漬。滋賀県教委保管。

6620 長方形板の中心に方形の枘孔をあける。ここに支柱をたて台座にしたのでであろう。長 35.2 cm，幅 18.8 cm，厚 3.7 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE20出土。9世紀後半。水漬。京都市埋文研保管。

6627 角材の下面に浅い刳形をいれ，中央部に相欠きの仕口をいれる。上面端部の角を面取りし，やや内寄りに貫通する長方形の枘孔をあける。枘孔には支柱をたてたらしき，それを固定するために両側面から釘孔をあけている。中央で十字形に別材をかみ合せ，左右ないしは四方に支柱をたてたのでであろう。現存長 57.5 cm，幅 6.9 cm，高 6.9 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

F 箱 (6621～6631) は こ

板を組合せてつくるものと，角材を刳りぬいてつくるものとがある。

6621～6623 1個体をなす箱の側板。6622・6623 は，短冊形の長辺を斜めに削るため断面形は平行四辺形を呈している。両端には出枘をつくり，各1孔の釘孔をあけ，木釘がのこる孔もある。長 12.8 cm，高 2.9 cm，厚 0.8 cm。6621 は，両端に出枘をうける切欠きをいれ，その内側に円孔をあける。長 12.0 cm，高 2.9 cm，厚 0.7 cm。以上，スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6624・6625 組合せ箱の側板。短冊形の板の両端に舌状の枘をつくり，枘に釘孔をあける。両端の木口面と底部に側板と底板を打つけた釘孔があり，1部に木釘をとどめる。6624；長 13.5 cm，高 5.9 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区整地層出土。710年頃。P. E. G. 処理済。6625；長 14.8 cm，幅 5.8 cm，厚 1.0 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。以上，奈良文研保管。

6626 組合せ箱。短冊形の板の両端にL字形の切欠きをいれ枘をつくりだす。同形の板を4枚組合せるのだが，内1枚を欠く。組合の部では枘の上面から木釘を打込んで固定する。底板を欠くが，底板を固定した木釘がのこる。一辺 9.5 cm，高 3.5 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区整地層出土。710年頃。真空凍結乾燥処理済。奈良文研保管。

6628～6630 刳りぬき箱。角材を刳りぬいて長細い箱の身をつくり (6629)，長細い板の片

面の周縁を削り箱の蓋にする(6628・6630・6631)。蓋内面の突出面は身の内径と一致させ、一種の合せ蓋とする。蓋の上面をやや甲高にするほかは、すべて平坦面をなす。この3点は同一遺構で発見されたが、同一個体ではない。6628; 現存長 24.6 cm, 幅 6.7 cm, 厚 1.1 cm。6629; 長 32.1 cm, 幅 4.7 cm, 厚 1.1 cm。6630; 長 33.8 cm, 幅 4.7 cm, 厚 1.1 cm。以上、ヒノキ。平城宮6AAA区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6631 箱板。長方形の板の1側縁を弧形にかたどり、その中央をはさむ左右に四弁形の透孔をいれたもの。片面を甲高につくり、四辺の各中央に釘孔があり、それぞれに側板なり底板を結合したことがうかがわれる。長 18.3 cm, 幅 8.7 cm, 厚 0.8 cm。スギか。長岡京左京三条二坊四町SD0251出土。784年~794年。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

G その他の部材 (6701~6724・6801~6830)

用途をきめられないが、他の部材と組合さって製品を構成するとおもわれるもの。以下1品ごとに説明をくわえる。

6701 両端を欠損する。断面橢円形で中太の唐墨状に加工し、その一面を一段低くし、両側に低い縁をつくっている。長 16.3 cm, 幅 2.8 cm, 厚 1.8 cm。ケヤキ。平城宮6ADC区SE6166出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6702 把手。板材の上寄りに半円形を削りぬき、その上縁を横位の棒状に削りだして鋤の把手のようにかたどる。下半分を両側から切欠き出納状とし、中央に長方形の柄孔を貫通さす。おそらく横材に柄を埋め、栓で固定したのであろう。長 17.0 cm, 幅 11.1 cm, 厚 2.8 cm。アカガシ垂属。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。713年頃。水漬。奈文研保管。

6703・6704 細板の両端を切先状に鋭くとがらせ、一側面の3個所にコ字形切欠きをいれたもの。2点は同じ井戸から出土したが、切欠きの間隔がことなるので、糸巻の枠のような道具にはならない。なお、6703には刃痕が無数はいっているが、製品に加工する前のもの。6703; 長 28.4 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.6 cm。6704; 長 29.0 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.5 cm。以上、ヒノキ。平城宮6ADF区SE1596出土。8世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6705 偏平な角材を利用し、両端に柄をつくりだし、ほぼ中央の一面に相欠きの仕口をほどこしたもの。長 36.3 cm, 幅 2.7 cm, 厚 1.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SK3137出土。770年頃。水漬。奈文研保管。

6706 断面が8角形の棒に、3個所で挟りをいれたもの。一端は周囲から削ってとがらし他端は丸く削る。全周をV字形にめぐる挟りは、切断するためか。長 43.0 cm, 径 2.5 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6707 組合せ部材。8角棒の一端寄りに帯状の溝をめぐらして丸棒とし、その下の八角部に柄孔を貫通させて角棒をとす。柄孔以下は各面から弧形に削込む。この細い部分は相対する二面から削平して板状を呈する。柄孔にとす角棒は扁平で、頭部を扇状にひろげている。現状では不明確だが、八角棒の偏平部が二次的に行われた加工とするならば、八角棒の細い部分を中心に左右対称形が想定でき、八角棒を横位にして、両側に軸棒を支える把手状の器ともがかんがえられる。八角棒の長 12.4 cm, 径 1.6 cm, 角棒現存長 9.5 cm, 同幅 1.1 cm, 同厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6ALR区SD8600出土。8世紀前葉。水漬。奈文研保管。

6708 偏平な角板を柄孔仕口で連結したもの。柄孔には柄を固定した楔がのこっている。現存長 11.9 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.8 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前

半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6709 木釘をとどめる部材片。断面楕円形の両端を削りすぼめ、一端に木釘がのこる。長 9.1 cm, 幅 1.8 cm, 厚 1.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6710 断面長楕円形の棒に杢孔をあける。木口面は鋸で切断。杢孔は一端を欠損している。この杢孔に直交して方形孔を貫通させるが、これは結合した杢を固定するためのもの。また、この面の木口寄りにも孔が貫通する。現存長 10.9 cm, 幅 3.5 cm, 厚 2.8 cm。マツ属（二葉松類）。平城京左京一条三坊SD650出土。9 世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6711 細板を一側面を両端方向に削って山形とし、その高いところに相欠きの仕口をいれ、両端の低いところに木釘を打込む。長 7.8 cm, 高 1.2 cm, 幅 0.9 cm。ヒノキ。平城宮6AAB 区SK820出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6712 断面が4分の1円に近い材の両端近くにそれぞれ2個の杢孔を接してあける。杢孔は直交する二側面に対してやや斜め方向をとる。内側の2孔は貫通し、その1孔に杢の断片をとどめる。外側の2孔は貫通していない。用途としては、机の天板と脚との間に配した脚座に想定されている。つまり、貫通する孔を用いて脚をはめて天板までつなぎ、貫通しない孔に雇杢をいれて天板とつないだとかんがえるのである。長 23.2 cm, 幅 5.1 cm, 高 3.1 cm。ヒノキ。長岡宮7AN5地区SD3100出土。784年～794年。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

6713 厚板を台形にかたどり、その両端に長方形の杢孔をあけたもの。両端は細板になってのび、そこにも杢孔をあけた模様。現存長 24.0 cm, 幅 8.9 cm, 厚 3.1 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735 年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6714 栓状の部材。板の上端を台形にかたどり、それ以下を細板とし、細板の中程に長方形の杢孔をあける。何らかの部材の杢孔にこの細板部分を挿入して、固定したものであろう。長 22.7 cm, 幅 6.7 cm, 厚 1.0 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6715 柄状木器。細板の上半に両側から弧形の切込みをいれ、柄状にかたどり、それ以下を3節にわけ、1本ないしは2本の突線と溝をめぐらす。現存長 22.8 cm, 幅 2.2 cm, 厚 0.9 cm。スギ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。アルコール・エーテル法処理済。向日市教委保管。

6716・6717 半截丸棒でつくり、両端寄りに釘孔をあけ、平坦面に2個の孔をつなぐ細い溝を刻込んだもの。6716は2次的な切断をうける。6716；長16.5 cm, 幅1.9 cm, 厚 0.9 cm。6717；長 23.8 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.9 cm。以上、ヒノキ。平城宮6AAF区SK3139出土。770 年頃。水漬。奈文研保管。

6718 杢孔と釘孔のある角棒。角棒の一端に斜めの杢孔をあけ、他端に木釘を打込んだもの。両端は二次的な切断を受ける。長 21.4 cm, 幅 1.2 cm, 厚 1.5 cm。樹種未同定。平城宮6AAC 区SD3825出土。8 世紀後半。水漬。奈文研保管。

6719 釘孔のある丸棒。割材でつくる丸棒の一端を片面から削込み、釘孔をあけたもの。長 19.7 cm, 径 2.0×1.4 cm。ヒノキか。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6720 脚状木器。細板を机などの脚状に粗く加工したもの。未完成品の可能性もある。長 11.2 cm, 幅 2.4 cm, 厚 1.9 cm。アカガシ垂属。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出

土。723 年頃。P. E. G. 処理済。

6721 飾り棒。八角棒の先端を山形にとがらし、刻線であらわした突帯を端部とその下部の 2 個所にめぐらす。一面からそれに対応する一面にかけて深い溝を切込んでいるが、本来のものか二次的なものか不明。現存長 5.5 cm, 径 2.15 cm。ヒノキか。平城京左京三条四坊七坪 SK1796 出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6722 燭台か。両端を細くする板に曲物の底板を綴じつける。円形の底板と台板は 2 個所で樺皮綴じする。底板の木口に木釘孔があり、本来は側板があったことが推定できる。底板の内面が焼け焦げており、灯明皿をのせた一種の手燭に想定する。現存長 15.0 cm, 底板径 11.1 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡 A 区溝 6 出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6723 溝を刻んだ板。板の片面の上下 2 個所に木理を横断する V 字形の溝を切込む。長 18.0 cm, 幅 2.9 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB 区 SK820 出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈良文研保管。

6724 把手か。裏面に切欠きをいれ、表面を舟底風にかたどり、両端の木余り部分に表面から木釘を打込む。箱の側板などに打ちつけて把手にしたのだろう。長 17.0 cm, 幅 2.8 cm, 厚 1.2 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB 区 SK820 出土。747 年頃。真空凍結乾燥処理済。奈良文研保管。

6801 漆塗板片。細長い薄板の表面に黒漆をかける。6807 と類似。現存長 7.2 cm, 幅 1.4 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。平城宮 6ALF 区 SB8466 出土。8 世紀後半。水漬。奈良文研保管。

6802 漆塗六角棒。断面六角形の棒材の折損する一端木口から溝を切込み、別木を埋め、それに対応する一面を深く削込んで平滑にととのえ、4 本の木釘を打込む。6801 と同じ遺構から発見されており、両者は同一品の部材であろう。現存長 12.1 cm, 径 1.2 cm。ヒノキ。平城宮 6ALF 区 SB8466 出土。8 世紀後半。水漬。奈良文研保管。

6803 溝孔を切込んだ板。一端には別材を受けるため溝と柄孔をあける。下の柄孔は貫通せず、上の溝は板を横断し、それぞれに固定した木釘がある。他端木口には板を横断する 1 個の溝があり、やはり木釘でとめている。長 12.9 cm, 幅 1.2 cm, 厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮 6ADF 区 SK1979 出土。8 世紀。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6804 孔のある棒。一方を細くし、頭部に近い部分に 2 個の孔を錐であける。本来はこれよりも長かったものが二次的に再加工されたもののよう。長 12.9 cm, 径 1.2 cm。ヒノキ。平城宮 6ADF 区 SK1979 出土。8 世紀。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6805 切欠きのある棒。角棒の一端の平坦面に相欠き状の溝を切欠き、それ以下を丸棒状に削る。現存長 12.7 cm, 幅 1.05 cm, 厚 0.9 cm。ヒノキ。平城宮 6ABE 区 SD3715 出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6806 相欠き溝のある板。細板の両端を斜めにたち落とし、一面の両端にほぼ木口の切断と平行する斜めの相欠き仕口をいれる。長 9.6 cm, 幅 1.1 cm, 厚 1.0 cm。ヒノキ。平城宮 6ABE 区 SD3715 出土。8 世紀後半。P. E. G. 処理済。奈良文研保管。

6807 目釘孔のある細板。薄板の表面に黒漆をかけ、3 孔の釘孔をあける。さきの 6801・6802 と同一品の破片か。現存長 17.3 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.25 cm。ヒノキ。平城宮 6ALF 区 SG5800B 出土。8 世紀後葉～9 世紀前半。水漬。奈良文研保管。

6808 釘孔のある細板。細板に 4 個の釘孔をあける。現存長 15.2 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.7 cm。樹種未同定。藤原宮 6AJE 区 SD105 出土。694 年～709 年。水漬。榎考研保管。

6809 釘孔のある細板。両端を一面から剣先状にとがらし、その内寄りで縦方向に 2 孔 1 対

の釘孔をあける。長 20.6 cm, 幅 2.1 cm。スギ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。奈文研保管。

6810 釘孔のある細板。一端を剣先状にとがらし、縦方向に釘孔2孔を斜めにあける。現存長24.6 cm, 幅3.5 cm, 厚0.6 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6811 有孔長方板。両端を弧形にかたどる長方板の一端寄りの両側にそれぞれ一孔をあける。付札の一種か。長 11.6 cm, 幅 3.9 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年～709年。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6812 釘孔のある細板。細板の一面を弧面に削り、両端寄りに3孔をあける。長 17.5 cm, 幅2.7 cm, 厚0.7 cm。スギ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。奈文研保管。

6813 釘孔のある板。一面に鋸をとおす長方形の板をつくり、その両端寄りに鋸をはさんで2孔1対の孔を鋸であける。長 16.1 cm, 現存幅 4.7 cm, 厚 0.5 cm。スギ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6814 偏平な角材に相欠き仕口をいれたもの。角材の一面の両端に相欠き仕口をほどこし、その木口寄りの両側から三角形の切欠きをいれる。相欠き部分の外面から6本の木釘を不規則に打込んでいる。長 41.6 cm, 幅 4.8 cm, 厚 2.0 cm。ヒノキ。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。

6815 綴じ孔のある板。板の一面では一端を厚くのこして削平し他端を一段低くし、その裏面では低くしたほうの一端を厚く削りのこす。この板の両端寄りに2孔1対の円孔を横位にあけ、1対の円孔を樺皮が3重にとおっている。長 36.8 cm, 幅 2.9 cm。ヒノキ。平城宮6AAF区SD3297出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

6816 両端に切欠きのある棒。表面を丸く仕上げ、裏面はおおむね平坦。両端木口に接して裏面から浅い切欠きをいれる。現存長 25.6 cm, 幅2.0 cm, 厚 1.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6817 両端に切欠きのある角棒。上面の1稜に面取りをほどこした角棒の両端、やや内寄りの側面から切欠きをいれる。上下の切欠きの中間よりも若干一方に偏する上面から木釘を打込んでいる。長 46.5 cm, 幅2.2 cm, 厚 1.2 cm。スギ。平城京左京八条三坊九坪SD1300出土。8世紀後半～9世紀前葉。水漬。奈文研保管。

6818 切欠きのある角材。角材の上面の一方を削込んで、端部を突出させ、その裏面に切欠きをいれる。現存長 35.2 cm, 幅 4.0 cm, 厚 3.0 cm。樹種未同定。平城宮6AAF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

6819 綴じ孔のある板。長細い板の両端を斜めにおとし、片面から両側縁を薄くする。この両端および中央よりやや一方に偏した3個所に4孔1組の孔をあける。4孔を十字形に紐をとおした押圧痕跡がのこる。長 39.8 cm, 幅 4.0 cm, 厚 0.5 cm。樹種未同定。平城宮6ALS区SD4951出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6820～6823 樺巻棒。薄板や細棒を樺皮紐でたばねて1本の棒にしたもの。6820は3本をたばねる。径0.6 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。6821は2本の半截丸棒の先斜めにそいでつなぎ、うえから樺皮紐をまく。幅 0.7 cm, 厚 0.3 cm。樹種未同定。平城宮6AAC区SE3049出土。756年頃。水漬。以上、奈文研保管。6822は

半截丸棒を2本たばねる。径 0.8 cm。6823は5本の細棒をたばねる。径 1.1 cm。以上、ヒノキ。長岡京左京二条二坊六町SD1301出土。784年～794年。水漬。向日市教委保管。

6824 孔をあけた角材。偏平な角材の両側から弧形の削形をいれ、中央部の幅を細くする。材の両端寄りに両面を貫通する柄孔をあけ、その1孔に切断された柄とそれに打込んだ柄と楔がのこる。上述した容器の梓木3816と同時に出土しており、この部材が横梓材になる可能性がある。長 31.2 cm, 幅 4.2 cm, 厚 2.5 cm。アカガシ亜属。三重県下郡遺跡井戸出土。9世紀前半。水漬。上野市教委保管。

6825 有孔角材。断面長方形の角材に円孔を貫通させる。側面では両端寄りに2孔1対の円孔をあけ、上下面では9孔を不規則にあける。部分的に孔に挿入した丸棒片をとどめている。長 16.0 cm, 幅 2.5 cm, 厚 3.2 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡 A 区溝 6 出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

6826 V字形の切欠きをいれた板。細板の1側縁にV字形の切欠きをいれる。部分的に糸を巻いた押圧痕がある。現存長 15.6 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.6 cm。樹種未同定。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。713年頃。水漬。奈文研保管。

6827 円孔をあけた板。細板のほぼ中央に刃物の先で円孔をあける。長33.0 cm, 幅3.3cm, 厚 0.45 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

6828 切欠きのある板。上面を弧形に削る板の一端を切先状にとがらし、両側縁にV字形ないしは台形の切欠きをいれる。現存長 32.0 cm, 幅 2.9 cm, 厚 1.2 cm。ヒノキ。平城京左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

6829・6830 柄孔のある角材。2点は同一個体とおもわれるが接合できない。心持角材に貫通する柄孔をあけたもの。一部に柄と楔の残片をとどめる。6829; 現存長 13.5 cm, 一辺 3.6 cm。アカガシ亜属。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

17 用途不明品 (P.L. 69～73)

他の部材と組合さることなく、単独の形態をととのえているものだが、いまのところその用途を決定しえないものをあつめる。

6901～6903 切欠きのある鯉節形木器。個々によって形をことにするが、縦長の不定形な形をとり、その1側面に斜めの深い切欠き溝をいれる点で共通する。切欠の溝に縄を結びつけて固定する一種の留め具になるのかもしれない。6901・6902は1木口面に刻線をいれる。6901; 長 9.2 cm, 幅 2.6 cm, 厚 1.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。6902; 長7.8 cm, 幅 3.1 cm, 厚 1.7 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SD5200出土。8世紀。水漬。6903; 長 7.9 cm, 幅 3.1 cm, 厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SD5780出土。8世紀。P. E. G. 処理済。以上、奈文研保管。

6904 刻目をいれた木器。年輪にそって割りとった材の一辺をまっすぐに削り半截楕円形の断面を呈する。この平坦面に横方向で8本の溝状の切込みをいれる。長 11.3 cm, 幅 3.3cm, 厚 2.4 cm。マツ属 (二葉松類)。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6905 笠形木器。平面形を楕円形にかたどり、その中央部を著しく肥厚させ、一短辺を薄く

し、円孔を貫通する。長5.9 cm, 幅 4.3 cm, 厚 2.2 cm。ヒノキ。平安京西市跡ND73-2-L-54 SE03B出土。9世紀後半。アルコール・エーテル法処理済。京都市埋文研保管。

6906 切込のある棒。面取りした棒に2箇所から切込みをいれる。立体人形に似る。長 7.3 cm, 幅 1.1 cm, 厚 1.6 cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD105出土。694年～709年。水漬。橿考古研保管。

6907 小鉢形木器。縦木取りの小円板の内面を轆轤で割りぬく。現状では底がぬけている。容器の形代かもしれない。径 2.9 cm, 高 0.9 cm。ツバキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6908 栓状木器。上部を円錐形、下部を円筒形にかたどり、境に段がつく。下部では相対する側面から切込みをいれ、笠形の上面でも相対する斜面に深い切込みをいれる。径 2.4 cm, 高 2.2 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区整地層出土。710年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6909 大豆状木器。平面形を楕円につくり、側周に刻線をいれ一周させ上面を浅く窪ませる。長 1.8 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.8 cm。広葉樹。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6910 彫刻木器。小木片に文様のようなものを切りぬくが、意味不明。部分的に墨痕がある。長 2.7 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後葉。水漬。奈文研保管。

6911 有孔丸棒。円筒形を呈し周囲をこまかく削り、両端小口面から円孔をあける。円孔は刃物の先であけたようで、一方が深い。長 5.5 cm, 径 2.5 cm。ウツギ。平城宮6ABX区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6912 有孔板。小さな方形板の一木口から漏斗状の孔をあけ貫通させる。長 2.3 cm, 幅 1.9 cm, 厚 1.0 cm。ヒノキ。平城宮6AAG区SD3410出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6913 栓状木器。上部は角柱形を呈し、木口面を方錐形にし、側面に横位の溝をめぐらす。下部は一段細い角柱状とし、下端寄りに孔が貫通する。高 3.2 cm, 径 2.0×1.6 cm。樹種未同定。平城宮6AAF区SB3322出土。8世紀中葉。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6914 撥形木器。小さな板の両側から削りこんで撥形にかたどる。琴柱の未完成品かもしれない。長 4.5 cm, 幅 2.4 cm, 厚 0.4 cm。スギ。平城宮6ABE区整地層出土。710年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6915 十字形木器。板材を十字形にかたどる。柃目板の木理に斜交する木取りで十字形に4枝を削りだしたもの。長 9.2 cm, 幅 9.1 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6916 切ぬき板。薄板から舟の側面形に似た形をつくる。両端が反りあがり、一方の外縁を弧形にかたどる。他方の外縁は左右から弧形を3段つないだ形に切込み、中心に向かって幅をひろげる。1種の垂飾か。長 8.2 cm, 現存幅 2.1 cm, 厚 0.35 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6917 琴柱形木器。薄板から琴柱形(PL. 45)の形をかたどる。ただし、一方の脚が切断されず横に長くのびる。未完成品か。長 11.8 cm, 幅 2.9 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

6918～6920 札形木器。3点はセットになるようである。6918・6919は両面を平滑に削り、2側面に接する四稜を面取りして断面を楕円形に近い形にする。両端木口は両側から斜にそ

いだ3角形。この場合一側面からの削りが深く、全幅の約3/4に達し、他側面からの削りは先端をそぐ程度で、平面形は台形に近い。6920は木口の両側面からほぼ等しく削り、両端は剣先状になる。他は前の2例と同じ。6918；長 10.0 cm，幅 2.8 cm，厚 1.1 cm。スギ。6919；長 9.7 cm，幅 2.7 cm，厚 1.0 cm。スギ。6920；長 8.9 cm，幅 1.9 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。以上、平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6921 鋤柄状木器。平面形を台形にかたどり、内を二等辺三角形に削りぬく。下辺を高くのこし、内側から斜めの刳込みをいれる。長 8.8 cm，幅 6.0 cm，厚 2.1 cm。ヒノキ。平城宮6ALR区SD8600出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6922 屋根形木器。長方形の板の一面中央を高くのこし、四辺に向かって斜めに刳込む。蓋の一種か。長 9.0 cm，幅 2.2 cm，厚 0.8 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

6923 切欠きのある板。細板の一側縁に三角形の切欠きならべる。現存長 8.6 cm，幅 0.9 cm，厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区整地層出土。710年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

6924 有孔小板。細長い板の中央に焼火箸のようなもので孔をあける。現在半分を欠損している。長 5.7 cm，現存幅 0.9 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

6925 円頭棒。偏平な丸棒の一端をコブ状につくりだし、下部を次第に薄くする。篋の一種か。長 21.2 cm，幅 1.8 cm，厚 1.5 cm。マツ属(二葉松類)。兵庫県八反長遺跡旧流路出土。9世紀前葉。水漬。兵庫県教委保管。

7001~7003・7006・7007・7014 板の両端あるいは両端と中央に貫通する孔をあけたもの。孔の周囲に擦痕があったり、紐の残片をのこすものがあることから、綱や縄をとおして、ゆるめたりしめたりするときに使う道具「自在」の可能性がつよい。7001は大型で、一方の側面にゆるい刳込みをいれて幅をせまくする。長 19.3 cm，幅 3.2 cm，厚 1.6 cm。ヒノキ。平城宮6ABY区SD1900出土。8世紀前葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。7002は3孔をあける。現存長 10.3 cm，幅 3.1 cm，厚 1.2 cm。アカガシ垂属。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。7003は中央部を細くし、1孔に紐の残片がのこる。長 9.5 cm，幅 2.8 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。真空凍結乾燥処理済。7006；現存長 12.1 cm，幅 2.2 cm，厚 1.2 cm。スギ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。真空凍結乾燥処理済。以上、奈文研保管。7007；現存長 7.6 cm，幅 1.5 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。7014；長 10.0 cm，幅 3.0 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。平城宮左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

7004・7005 両端を三角形にかたどる薄板の中央に孔をあけたもの。2点は一括品。7004；長 6.4 cm，幅 1.2 cm，厚 0.1 cm。ヒノキ。平城宮左京八条三坊十坪SD1155出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。

7008 楔か。断面五角形を呈し、一端に頭をつくり他端を楔状にとがらす。背面を平坦にし、頭部と先端部の境に断面V字形の溝をめぐらす。長 12.2 cm，幅 2.0 cm，厚 1.9 cm。モミ。平城宮左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

7009 断面半円形の棒材を用い、背面をまっすぐ通し、両端の上面に断面V字形の溝をめぐらす。長 11.5 cm，幅 2.1 cm，厚 1.1 cm。スギ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後半

* 富山県じよべのま遺跡からは、この種の木器の孔に棒を突通したものが出土している。山中敏史「木器」『富山県埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』1974年 p. 68

～9世紀前半。水漬。奈文研保管。

7010 背面をまっすぐ通し，上面がわずかに弧面をなす角材で，一端が太く一端が細い。背面では中央よりやや上寄りにコ字形切込みを横断させる。細いほうの端と中央部の上面から側面にかけて溝を刳込んでいる。現存長 21.2 cm，幅 3.0 cm，厚 3.3 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。

7011 長楕円形の板の中央に縦に小孔5孔をならべる。長 6.7 cm，幅 1.1 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

7012 両端を木葉形にかたどり，両側縁におのおの2個のV字形の切欠きをいれ，中央部分を鋸歯形の対称形にかたどる。上面中央に鑄をとおし，上下の刳形付近の鑄上から2個の円孔をあける。長 12.0 cm，幅 3.1 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。奈文研保管。

7013 心持丸木の一側面から削りぬいて，容器状に加工したもの。加工は粗い。長 11.2 cm，幅 4.2 cm，高 4.0 cm。ハコヤナギ属。藤原宮6AJF区SD1901A出土。7世紀後半（694年以前）。水漬。奈文研保管。

7015 小判形の板。両側縁にそって小孔列をそれぞれ1列あけている。ただし，小孔を木口の整形時にこわしているため，本来小孔列をあけていた板を小判形に再加工した可能性がつよい。長 12.9 cm，幅 4.4 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。滋賀県下寺観音堂遺跡SD01出土。7世紀後半～8世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

7016 木葉形の板。板を木葉形にかたどり，中央上寄りに2孔1対の円孔を横位であける。長 7.6 cm，幅 5.3 cm，厚 0.5 cm。樹種未同定。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。奈文研保管。

7017 短冊形の板の両端から大きくコ字形の切欠きをいれたもの。切欠きと切欠き間の両側縁にそれぞれ3個の小孔あける。表裏ともに菊花・渦巻・斜格子・円などの文様を墨で描く。現存長 15.9 cm，幅 4.2 cm，厚 0.25 cm。ヒノキ。平城宮6ALR区SB8580出土。740年頃。水漬。奈文研保管。

7018～7024 小円板ないしはそれに準じるもの。7018は両側縁に各1孔をあける。長 2.8 cm，幅 2.3 cm，厚 0.2 cm。ヒノキ。滋賀県湖西線遺跡VA区出土。13世紀。水漬。滋賀県教委保管。7019は円板の中心に孔をあけ，周縁に1本の突起をつくりだす。径 3.4 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。7020は円板の縁寄りに1円孔をあける。径 9.0 cm，厚 0.7 cm。樹種未同定。奈良県坂田寺跡SG100出土。7世紀中葉。水漬。7021；径 3.6 cm，厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD8161出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。7022；径 4.1 cm，厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。真空凍結乾燥処理済。以上，奈文研保管。7023は内面の周縁に段をめぐらし，円孔5個を不規則にあける。蓋の1種か。径 7.0×5.7 cm，厚 0.9 cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD145出土。694年～709年。水漬。榎考研保管。7024；径 7.2 cm，厚 0.9 cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

7101 板を嘴状にかたどる。基部に方形の柵をつくり，1孔をあける。先端寄りの側縁に1孔をあける。長 23.3 cm，幅 5.0 cm，厚 1.0 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

7102～7104・7112 割材からつくる丸棒の一端ないしは両端に刳込みをめぐらすもの。

- 7112 は木錘の1種か。7102；長 11.5 cm，径 1.5 cm。樹種未同定。滋賀県伊井永田遺跡遺物包含層出土。8世紀中葉。水漬。今津町教委保管。1703；長 16.0 cm，径 1.2 cm。ヒノキ。
- 7104；現存長 8.7 cm，径 1.1 cm。樹種未同定。以上，滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。P. E. G. 処理済。滋賀県教委保管。7112；長 8.6 cm，径 1.8 cm。モミ。難波宮橋脚M P-2区SK10043出土。7世紀前半。水漬。大阪市文化財協会保管。
- 7105 丸棒の先端を乳頭状に削りだし，その下部に孔をあける。現存長 17.0 cm，径 1.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。
- 7106 割材から先端が斧頭状を呈する楔形にかたどり，基端に柄をつくりだし1孔をあける。長 17.3 cm，幅 2.9 cm，厚 2.1 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。
- 7107 長方板の片側から大きく抉りこみ，一方の側縁を両端の位置で削込んで次第に幅を狭め側面から円孔をあける。抉りをはさんで両側に台座をつくる一種の把手か。現存長13.4cm，幅 1.4 cm，厚 2.1 cm。ヒノキ。長岡京左京四条三坊三町SD451出土。784年～794年。水漬。京都市埋文研保管。
- 7108 厚板を杓子形にかたどり，上面に浅い溝をとす。長 14.5 cm，現存幅 1.7 cm，厚 1.1 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年～709年。P. E. G. 処理済。奈文研保管。
- 7109 先細りの角材の上端近くに切欠きの溝をめぐらす。木釘の1種か。長 2.5 cm，径 2.9 cm。スギ。平城宮6ABE区SK3730出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。
- 7110 細板の両側を先端に向かって細め，幅広の部分に孔をあける。現存長 19.8 cm，幅1.7 cm，厚 0.45 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。
- 7111 細板の一方を幅広くのこし，そこから他端にかけて両側から細める。幅広の端では一面の木口から切欠きをいれ，円孔をあける。板のほぼ下半部に小円孔5個を縦にならべる。糸巻の横木を二次的に加工したものか。長 39.8 cm，幅 0.7 cm，厚 0.7 cm。ヒノキ。平城宮6ALR区SD9648出土。8世紀中葉。水漬。奈文研保管。
- 7113 丸棒の上端に切欠き溝をめぐらし，4段の突帯を削りだす。下端は若干細くするとどまる。長 43.6 cm，径 1.9 cm。ヒノキ。平城宮6ALR区SD3236出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。
- 7114 小枝を利用した丸棒の先端近くに切欠きをいれて，円頭形にかたどる。現存長 15.1 cm，径 2.0 cm。針葉樹。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。
- 7115 丸棒の一端を削り細めて円頭形にかたどる。現存長 23.9 cm，径 3.1 cm。樹種未同定。京都府仁和寺南院跡ND63-1-H-14池出土。11世紀。水漬。京都市埋文研保管。
- 7116 心持丸木の一端を削りのこして，栓状にかたどる。現存長 10.6 cm，径 4.8 cm。アカガシ亜属。平城京西隆寺跡SE130出土。8世紀中葉。P. E. G. 処理済。奈文研保管。
- 7117 割材からつくる丸棒の両端を円頭形に削りだす。祭祀遺構にともなうが，用途不明。長74.5 cm，径3.4 cm。ヒノキ。平安京西市跡 ND73-2-L-54 SX10出土。9世紀中葉。水漬。京都市埋文研保管。
- 7118 上部を細板の状態でのこし，下部を留針のように細くしている。両端は折損。現存長 15.5 cm，幅1.1 cm，厚0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAO区SK870出土。8世紀後半。真空凍結

乾燥処理済。奈文研保管。

7119 細板の基端を幅を広くし、先端に向かって幅を狭める。基端中央から出柄状の突起をつくりだす。現存長 10.2 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.15 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

7120 板材を一端を幅広にのこし、それ以下を扁平棒とし、匙に類する形につくる。長 16.5 cm, 幅 1.3 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

7121 板の下部に木釘状の突起を削りだし、短冊形の上部の木口付近に孔をあける。粗製品。長 14.9 cm, 幅 2.7 cm, 厚 0.4 cm。スギ。平城京左京一条三坊十五・十六坪SD485出土。723年頃。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

7122 長細い板の両端を円形にかたどる。長 7.6 cm, 幅 1.2 cm, 厚 0.67 cm。樹種未同定。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。

7123 棒の先端を太くのこし、先縁をU字状に抉って2本の歯をつくる。この部分は下面を先端に向けて斜めに削り、先を細く鋭く仕上げている。長 13.2 cm, 径 1.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

7124 厚板を半楕円形にかたどり、一面を平坦面とし、他面を弧面にする。未成品か。長 11.7 cm, 幅 8.7 cm, 厚 2.7 cm。ヒノキ。平城宮6ALG区SD5785出土。8世紀前半。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

7125 角材の一面に半円の球面剥形をいれたもの。長 9.8 cm, 幅 5.7 cm, 厚 4.5 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区出土。8世紀。水漬。奈文研保管。

7201・7202 木片を細い丸棒に削りだしたもの。箸の類か。7201; 長 19.7 cm, 径 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SK219出土。762年頃。P.E.G. 処理済。7202; 長 18.6 cm, 径 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。以上、奈文研保管。

7203~7205 板から割りとった角棒で、両端をとがらす。3点は一括品。7203; 長 21.2 cm, 径 0.6 cm。ヒノキ。藤原宮6AJF区SD105出土。694年~709年。P.E.G. 処理済。奈文研保管。

7206~7210 菱形棒。断面を菱形ないしは凸レンズ形にし、表裏を平坦にととのえる。7206; 長 6.9 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.8 cm。7207; 長 25.6 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.6 cm。7208; 長 27.2 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.4 cm。7209; 長 24.6 cm, 幅 1.4 cm, 厚 0.4 cm。7210; 長 25.0 cm, 幅 1.4 cm, 厚 0.45 cm。以上、ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。奈文研保管。

7211~7215 細板の表裏を平坦に削平したもの。隅をおとすものもある。7211; 長 31.3 cm, 幅 2.0 cm, 厚 0.4 cm。7212; 長 31.4 cm, 幅 2.4 cm, 厚 0.2 cm。以上、ヒノキ。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。7213; 長 24.1 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.4 cm。スギ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。7214; 長 21.3 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.2 cm。ヒノキ。藤原宮6AJE区SD105出土。694年~709年。P.E.G. 処理済。7215; 長 20.0 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.3 cm。ヒノキ。平城宮6ABF区SD3715出土。8世紀後半。水漬。以上、奈文研保管。

7216 細板の中央を幅広くのこし、両端に向けて両側から細く削りだす。長 32.3 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.4 cm。ヒノキ。平城宮6AAC区SD3035出土。756年頃。水漬。奈文研保管。

7217 細板を丁寧削り、半分を丸棒状につくり、のこりを断面杏仁形の扁平板につくる。篋の一種か。長 31.8 cm, 幅 2.7 cm, 厚 1.1 cm。ヒノキ。長岡宮7AN3A区SD8701出土。784

年～794年。水漬。向日市教委保管。

7218 平面を柳葉形にかたどり、一面を平滑にととのえ、他面は中央部を高くのこして断面は山形を呈する。長 14.5 cm, 幅 1.8 cm, 厚 0.8 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

7219～7228 割り棒の先端を鋭くとがらしたものの。串の一種か。加工は粗く一時的な使用に供したものであろう。7219; 長 21.6 cm, 幅 0.6 cm, 厚 0.55 cm。7220; 現存長 16.2 cm, 幅 0.4 cm, 厚 0.55 cm。以上, ヒノキ。大阪府大蔵司遺跡A区溝6出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。7221; 長 29.0 cm, 幅 1.1 cm, 厚 0.8 cm。7222; 長 30.2 cm, 幅 1.5 cm, 厚 0.8 cm。以上, スギ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。7223; 長 27.9 cm, 幅 1.7 cm, 厚 0.8 cm。樹種未同定。平城宮6AAO区SK870出土。8世紀後半。真空凍結乾燥処理済。7224; 長 28.2 cm, 幅 0.9 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6AAB区SK820出土。747年頃。P. E. G. 処理済。7225; 長 25.5 cm, 幅 1.2 cm, 厚 1.8 cm。ヒノキ。平城宮6ABO区SK219出土。762年頃。P. E. G. 処理済。7226; 長 18.3 cm, 幅 2.7 cm, 厚 1.8 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。7227; 長 16.1 cm, 幅 1.6 cm, 厚 0.7 cm。ヒノキ。平城京左京一条三坊SD650出土。9世紀前半。P. E. G. 処理済。7228; 長 12.8 cm, 幅 1.2 cm, 厚 0.5 cm。ヒノキ。平城宮6ABE区SD3715出土。8世紀後半。P. E. G. 処理済。以上, 奈文研保管。

7229～7240 刀剣の形をした材の側面に鋸歯を刻んだ木器。柄と身からなり、身の両側もしくは片側に歯を刻む。身の両側を薄くして両刃状につくるもの(7229～7237)と、側縁を薄くせず、片側だけに歯をつけるもの(7238～7240)とに区分できるようである。水野正好はこの鋸歯を竹を細く割ったものなどで摩擦してザラザラとかシュッシュツとか音を出す「ササラ」にあてているが、必ずしも従いがたい。^{*} 7229; 現存長 12.1 cm, 現存幅 2.0 cm, 厚 0.9 cm。ヤナギ属か。平城宮6ALG区SD5785出土。8世紀前半。真空凍結乾燥処理済。7230; 長 14.4 cm, 幅 1.9 cm, 厚 1.1 cm。ヒノキ。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。7231; 現存長 13.1 cm, 幅 3.4 cm, 厚 0.6 cm。ヒノキ。平城宮6AAI区SD3410出土。8世紀。水漬。7232; 現存長 17.8 cm, 幅 2.4 cm, 厚 0.8 cm。ウツギ。平城宮6AAI区SD4951出土。8世紀後半。水漬。7233; 現存長 3.9 cm, 幅 2.4 cm, 厚 0.6 cm。カエデ属。平城宮6ABR区SB7802出土。753年頃。P. E. G. 処理済。7234; 長 39.8 cm, 厚 2.1 cm。シキミ。平城宮6ACU区SD1250出土。8世紀。水漬。以上, 奈文研保管。7235; 長 47.5 cm, 幅 3.5 cm, 厚 1.2 cm。スギ。滋賀県鴨遺跡東地区遺物包含層出土。9世紀後葉～10世紀前葉。水漬。滋賀県教委保管。7236; 現存長 15.9 cm, 現存幅 1.4 cm。ヒノキ。平城京左京三条二坊六坪SD1525出土。713年頃。水漬。7237; 現存長 12.3 cm, 幅 1.9 cm, 厚 0.9 cm。アスナロか。平城宮6AAC区SD2700出土。8世紀。水漬。7238; 現存長 16.3 cm, 幅 1.4 cm, 厚 1.4 cm。ヒノキ。平城宮6ALF区SG5800B出土。8世紀後葉～9世紀前半。水漬。以上, 奈文研保管。7239; 現存長 40.5 cm, 幅 2.9 cm, 厚 2.9 cm。ヒノキ。大阪府上田部遺跡水田跡出土。735年頃。P. E. G. 処理済。高槻市埋文保管。7240; 長 43.5 cm, 幅 1.8 cm, 厚 2.1 cm。スギ。滋賀県久野部遺跡SD10出土。7世紀前葉。P. E. G. 処理済。滋賀県教委保管。

7301 角棒の両端を亀頭形に削りだし、その一面から台形の切欠きをいれる。長 140 cm, 幅 5.0 cm。スギ。京都府古殿遺跡遺物包含層出土。12世紀～13世紀。P. E. G. 処理済。京都府教委保管。

* 水野正好「中世—まじないの世界」『中世の呪術資料』草戸千軒遺跡調査研究所 1984年

中国のオロチョン族は歯を刻した同形の木器を皮の肉や脂肪をとる皮なめし用具として用いている。宋兆麟など『中国原始社会史』文物出版社 1983年 p. 161

7302 角材の両端に回転軸をつくりだし、その内寄りにそれぞれ柄孔をあける。端寄りに四辺から十文字に交叉する柄孔をあけ、これに接する内寄りに二辺を貫通する柄孔をあける。回転軸には磨滅痕跡がみとめられる。長 81.5 cm，一辺約 6 cm。樹種未同定。平城京西隆寺跡 SX035 出土。8 世紀後半。水漬。奈文研保管。

7303・7304 長手の自然木を柄とし、その本の方の一端に木片をとりつける。7303 は柄元を斜めにそぎ裂き目をいれて、ここに縦割りにした木片をはさみ、蔓をまきつけて固定する。柄現存長 92.8 cm，径 2.3 cm。広葉樹。7304 は柄の本のほうに、心持丸木の一端をとがらせたものを直交させ、蔓巻きで固定する。柄長 106.2 cm，径 3.1 cm。広葉樹。以上、平城宮 6AAO 区 SK2104 出土。8 世紀前半。自然乾燥消失。奈文研保管。

7305 丸棒。棒の一端を杓子状につくる。この部分は損傷をうけているため、原形を知りたいが、現状では「孫の手」を大型にしたようにみえる。現存長 77.8 cm，径 2.7 cm。ヒノキ。平城宮 6AAB 区 SK820 出土。747 年頃。P. E. G. 処理済。奈文研保管。

7306 「く」字形をした大型品。幹ないしは太い枝の曲折部を加工したもの。全面を鉋ではつり断面を長方形にととのえ、角稜に面取りをほどこす。軀の未成品か。現存長 70.6 cm，径 13.6 cm×8.1 cm。樹種未同定。平城宮 6ADF 区 SK1979 出土。8 世紀。P. E. G. 処理済。奈文研保管。